

## 日本国憲法

大嶽 浩

### 【授業の概要】

日本国憲法について、その成立の事情や明治憲法との比較を通じ、現行憲法の内容と主要な問題点を講義する。憲法問題における具体的事例にもふれる。

### 【授業計画】

1. 憲法と理想
2. 憲法と法律
3. 憲法と憲法典
4. 国民の司法参加
5. 憲法の最高法規性
6. 憲法の改正

### 【評価方法】

試験とレポートによる評価。

### 【テキスト】

使用せず。プリントを配布。

### 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

## 民主主義と人権

初谷良彦

### 【授業の概要】

民主主義の根本原則は人権（人間としての権利）の尊重にある。人権の理想と実現が民主主義のあり方と人間の生き方に大きく影響する。民主主義の制度と仕組みについて、人権を保障する法律やその実態にふれながら、現代の課題として講義する。

### 【授業計画】

- 第1～2回 近代民主主義の思想と制度
- 第3～4回 民主主義と選挙制度
- 第5～6回 民主主義の諸問題
- 第7～8回 民主主義と議会制
- 第9～10回 死刑制度の運用（罪、罰、人権、国家）
- 第11～12回 高齢者の人権と障害者の人権
- 第13回 障害者の国務請求権
- 第14回 21世紀の平和と民主主義をめざして

### 【評価方法】

主として単位認定試験の成績によって評価する。

### 【テキスト】

概説 デモクラシーと国家（初谷良彦他 成文堂）

### 【参考文献・資料】

講義の際、随時紹介する。

## 日本国憲法

初谷良彦

### 【授業の概要】

法と国家は人間のためにある。憲法は、このような法の目的と国家の責務を明らかにしようとするものである。なるべく具体的な現実の問題と関連させて説明したり、裁判例などにも触れ、憲法はわれわれの生活の中に入り込んでいる身近な、確かな存在であることを実感できるようにしたい。

### 【授業計画】

- 第1回 日本国憲法制定の経緯
- 第2回 プライバシー権
- 第3～4回 自己決定権
- 第5～6回 法の下での平等
- 第7～8回 信教の自由と政教分離
- 第9～10回 情報公開、言論・出版の自由、報道の自由
- 第11～12回 生存権、教育権、労働基本権
- 第13回 国会・内閣
- 第14回 裁判所
- 第15回 地方分権

### 【評価方法】

主として単位認定試験の成績によって評価する。

### 【テキスト】

憲法講義Ⅰ（第2版）（初谷良彦著 成文堂）

### 【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

## 民主主義と人権

本 秀紀

### 【授業の概要】

日本国憲法は民主主義と人権を保障しているが、その制度と仕組みについて、人権を守る法律やその実態にふれながら、現代の課題として講義する。

### 【授業計画】

新聞報道などから、できるかぎり身近で具体的な素材を取り上げつつ、まずは現実を知り、その上で諸問題への対応を考える力を養う。

基本的には講義形式で行うが、受講生の問題関心を高めるため、適宜質疑をしたり、ビデオを観る予定である。

授業内容は現在のところ、以下の項目から適宜選択する予定だが、そのときどきのトピックによって変更もありうる。

- 1 はじめに：「民主主義と人権」って？
- 2 企業社会と人権：過労死、育児休業、労働者差別
- 3 女性と人権：ドメスティック・ヴァイオレンス、労働と女性差別
- 4 マスメディアと人権：プライバシー侵害、メディア規制立法
- 5 子どもと人権：校則・体罰、少年法、いじめ・体罰・児童虐待
- 6 医療と人権：インフォームド・コンセント、安楽死・尊厳死、代理出産
- 7 外国人と人権：参政権、出入国管理、外国人差別、難民問題
- 8 ゴミ問題と民主主義：廃棄物処分場と環境、住民投票
- 9 政治の仕組みと民主主義：選挙制度、国会・内閣、憲法改正

### 【評価方法】

学期末の筆記試験（受講者数によってはレポート）を基本とし、ビデオへの感想などを加味する。

### 【参考文献・資料】

テキストブック現代の人権〔第3版〕（川人博編著 日本評論社 2004年刊行予定）  
人権ウォッチング（前田朗 凱風社 2000年）  
ハンドブック国際化のなかの人権問題〔第3版〕（上田正昭編 明石書店 2002年）  
それぞれの人権〔第2版〕（憲法教育研究会編 法律文化社 2002年）  
など。なお、必要に応じて、講義の際に資料・レジュメ等を配布する。



## 哲学的人間論

高畑祐人

### 【授業の概要】

東西の著名な哲学者の古典的な哲学論にふれながら、現代社会がかかえる諸課題についていかに対応し、対処すべきかについて講義をする。

### 【授業計画】

今日の環境問題や生命・医療をめぐる問題は、われわれの自然への関わり方の問題でもある。自然への関わり方（実践）は「自然」の捉え方（理論）によって規定されている。自然の捉え方から、自然を捉えている人間自身のあり方を照らし出すことが出来る。そこで、この講義では西洋哲学の歴史の中の主な哲学者の思想を「自然」の概念を手がかりにして通覧する。

1. 神話的自然観—ギリシャ神話におけるプロメテウス—
2. ソクラテス以前の自然哲学
3. ソフィストとソクラテス
4. プラトン
5. アリストテレス
6. デカルト
7. カント
8. 進化論的自然観
9. エコロジー的自然観

### 【評価方法】

学期末の筆記試験あるいはレポート、授業への参加態度などで総合的に評価する。

### 【テキスト】

特に指定しない。

### 【参考文献・資料】

西洋哲学史 上・下（シュベグラー 岩波文庫）  
野生の歌が聞こえる（レオポルド 講談社学術文庫）  
エマソン論文集 上（エマソン 岩波文庫）

## 宗教的人間論

梅村敏郎

### 【授業の概要】

世界には数多くの宗教があるが、現在、さまざまな問題を起こしている。宗教の持つ本来の役割と意味について、人間の生きざまという観点から講義する。

### 【授業計画】

- 1 神の「似姿」としての人間
- 2 人間と世界との関わり
- 3 礼拝と祈り—シナゴグ、教会、モスク
- 4 人類共同体
- 5 信仰と「倫理徳」
- 6 神による人間の「救済」

### 【評価方法】

評価方法は、履修者数がおおよそ判明した段階で決めるため、第1回目の授業で発表する。出席率は成績には反映させない。

### 【テキスト】

教科書は使用しない。

### 【参考文献・資料】

参考書・資料等は授業中に適宜紹介する。

## 生命倫理学

加藤太喜子

### 【授業の概要】

現代医学の進歩と発達によって、今や人間の生命の誕生と死は医学よりも倫理の問題になりつつある。「生命」を倫理や哲学の面から講義する。

### 【授業計画】

次の主な項目に従って授業を展開する。

1. 生命倫理学の成り立ち
2. インフォームド・コンセント
3. 脳死と移植医療
4. 生殖医療
5. 代理母
6. 人工妊娠中絶
7. 出生前診断
8. 優生思想とは
9. よりよい自己決定に向けて

### 【評価方法】

レポート及び期末に行う筆記試験により評価する。

### 【テキスト】

授業中に指示する

### 【参考文献・資料】

優生学と人間社会（米本昌平他著 講談社現代新書）  
クローン人間（粥川準二著 光文社新書）

## 現代社会と倫理

大野波矢登

### 【授業の概要】

民主主義社会と自由主義社会は人々に多くの権利を保障しているが、それは人々がモラルや義務を守ることを前提としている。現代社会の守るべき倫理と課題について講義する。

### 【授業計画】

授業はおもに講義形式で行なう。

1. 倫理的視点から見た現代の社会問題
2. 倫理学の概念と理論に関する若干の考察
3. 倫理学理論の応用（道徳的意思決定の方法）
4. 社会の安全性と科学技術者の責任
5. 環境倫理の主張
6. インターネット時代の倫理
7. 内部告発と社会の浄化

### 【評価方法】

期末試験と小レポート（3、4回授業時に書いてもらう予定）の成績によって評価する。

### 【テキスト】

特に指定しない

### 【参考文献・資料】

入門講義 倫理学の視座（新田孝彦著 世界思想社）  
先端技術と人間 21世紀の生命・情報・環境  
（加藤尚武著 NHKライブラリー）  
環境と倫理 自然と人間の共生を求めて（加藤尚武編 有斐閣アルマ）



## ジェンダーと社会Ⅰ

國信潤子 星山幸子 佐藤光 林かぐみ 生江明

### 【授業の概要】

この講義は、まずジェンダーとは何かについて解説し、それらが日本社会において、また開発途上国においてどのように現象化しているかを紹介するオムニバス講座である。4名の開発協力の現場で活躍する講師によって日本、フィリピン、トルコ、バングラデシュ、ネパールなどでの現場の開発協力活動を基礎にジェンダー関係の多様性を紹介する。

持続可能な開発、基本的な生活ニーズの確保、参加型開発、地域住民の意識化など、近年の開発論の理論的展開をもとにジェンダー関係の変容を考察する。

### 【授業計画】

まず、本講座のコーディネーターである國信（本学教授）がジェンダーとは何か、日本社会におけるジェンダー関係の実態、国際開発におけるジェンダー視点の展開について講じる。次に生江明（日本福祉大学教授）による国際統計にみるジェンダー格差の意味を参加型小グループ討議で読み取り、発表、討議する。第三番目の講師は星山幸子（金城学院大学講師）によってトルコ南東部アナトリア地方の縮こまり女性労働者の生活実態とイスラム農村社会にみるジェンダー規範を紹介する。第四番目の講師はアジア保健研修所（AHI）の佐藤光医師および、林かぐみ研究員によって愛知県日進市にある国際的なNGOであるAHIの活動、つまりアジア諸国で実施されている保健リーダーの参加型学習による医療・保健、ジェンダー平等化の促進活動を紹介する。

各講師が3・4回ずつ講義を行うリレー講義である。大半は講義形式である。必要に応じて、小グループ討議、ビデオ視聴なども取り入れる。

### 【評価方法】

期末レポート、出席状況、履修態度、感想カード内容などの総合評価による。

### 【テキスト】

資料配布

### 【参考文献・資料】

開発とジェンダー（田中他 国際開発事業団出版 刊 2001年）

## 女性学・男性学

井深淳子

### 【授業の概要】

男女についての定説化した知識、それによって生まれた役割、人格の内部に及ぶ性別化の影響とその結果生まれる病理などについて、事例や理論を紹介して講義する。

### 【授業計画】

- 第1回 はじめに
- 第2～5回 家族・結婚
- 第6～9回 子育て
- 第10～11回 現代の病巣
- 第12～13回 女性が働き続けること

### 【評価方法】

期末試験、講義時に行う課題や、受講態度等、総合的に評価する。

### 【テキスト】

女性学への招待（新版）（井上輝子著 有斐閣）  
テキストとともに、講義中に適宜配布する関連資料を用いてすすめる。

## ジェンダーと社会Ⅱ

中島美幸 山下智恵子

### 【授業の概要】

ジェンダーの観点から文学作品を分析することによって、〈女/男〉の規範かどのようテキストにおこまれているかを読み解き、さらにテキストがどれほど現実の女と男の生と性を規定してきたかを検証する。（オムニバス方式）

（中島美幸兼任講師）「女性の表現」の観点から日本文学を歴史的に眺める。特に近代以降の女性表現については外国の女性文学と比較しつつ読み解いていく。

（山下智恵子兼任講師）現代の文学作品を中心に、家族、母娘などの人間関係を、ジェンダーの視点から検証する。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
  - 第2回 〈ことば〉とジェンダー
  - 第3回 〈書く女〉の登場（1）
  - 第4回 〈書く女〉の登場（2）
  - 第5回 女性を描く男性作家のまなざし（1）
  - 第6回 女性を描く男性作家のまなざし（2）
  - 第7回 母と娘の物語（1）
  - 第8回 母と娘の物語（2）
  - 第9回 家族の物語
  - 第10回 文学の政治性
  - 第11回 文学と映像文化
  - 第12回 まとめ
- \*内2回は山下智恵子担当。他は中島美幸担当。

### 【評価方法】

出席状況、毎回の感想、学期末のレポートを総合して評価する。

### 【テキスト】

なし。随時、プリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

講義の中でその都度紹介する。

## 女性学・男性学

中村 正

### 【授業の概要】

男女についての定説化した知識、それによって生まれた役割、人格の内部に及ぶ性別化の影響とその結果生まれる病理などについて、事例や理論を紹介して講義する。

### 【授業計画】

一日3コマを4日間にわたりおこなう。担当者の専門が社会病理学・臨床社会学・男性研究なので、そうした領域での主題をとりあげることが多い。

- 第1日目 男性学研究の背景・現実・課題  
－日本社会の現実とかがわって－
- 第2日目 男性学研究の方法・内容・理論  
－国際的な研究動向とかがわって－
- 第3日目 男性学研究の応用・展開  
－ドメスティック・バイオレンス問題を素材に－
- 第4日目 ジェンダー研究と男性学研究の今後（最終コマにレポート）

### 【評価方法】

最終日のレポートで評価する。

### 【テキスト】

第1日目のテーマについては、「男らしさ」からの自由（中村 かもがわ出版）、第3日目のテーマについては、ドメスティック・バイオレンスと家族の病理（中村 作品社）。

### 【参考文献・資料】

講義で配布したり、具体的に紹介したりする。



## 女性学・男性学

竹信三恵子

### 【授業の概要】

男女についての定説化した知識やその内面化が日本の戦後の経済政策や働き方に及ぼした影響を、新聞記者としての体験やマスメディアの検証から明らかにし、これらが産んだ社会病理をどう克服するかを考える。

### 【授業計画】

下記テキスト、当日配布の記事の切り抜きなどの資料、ビデオを利用しつつ、グループ討議も交えて講義する。

1. 戦後経済政策を男女分業はどう支えたか（前半）～高度経済成長から男女雇用機会均等法
2. 戦後経済政策を男女分業はどう支えたか（後半）～バブル経済の崩壊から男女共同参画社会基本法
3. 男女分業主義の浸透とマスメディアの役割～戦後経済政策の背骨となった男女分業主義に新聞報道はどう関わったかを検証。
4. 戦後の男女分業の乗り越え～マスメディア報道からは見えにくい現実の男女関係の変化とこれに見合った新しい働き方の展望。

### 【評価方法】

出席状況と簡単なレポートなどによる。

### 【テキスト】

『家事』の値段とは何か  
(久場嬉子・竹信三恵子著 岩波ブックレット 1999年)

### 【参考文献・資料】

ジェンダーから見た新聞のうら・おもて～新聞女性学入門 (田中和子・諸橋泰樹著 現代書館 1996年)、ワークシェアリングの実像～雇用の分配か、分断か (竹信三恵子著 岩波書店 2003年)

## 暮らしの法律

辻田芳幸

### 【授業の概要】

日本は法治国家であり、したがって国家は法律によって運営され、身近な生活も法によって守られている。本講義では日常生活の中で法律がどのように働いているか、具体例をあげて講義する。

### 【授業計画】

- 第1回 導入
- 第2回 Web上の著作物利用と著作権
- 第3回 Webへの写真掲載と肖像権
- 第4回 インターネット上の名誉毀損(1)
- 第5回 インターネット上の名誉毀損(2)
- 第6回 オンラインショッピングと契約法(1)
- 第7回 オンラインショッピングと契約法(2)
- 第8回 インターネット犯罪(1)
- 第9回 インターネット犯罪(2)
- 第10～12回 その他の問題点

### 【評価方法】

出席状況、試験の結果などを総合的に考慮する

## 大衆文化論

鈴木 互

### 【授業の概要】

現在は大衆化社会と言われ、文化にもまた大衆に愛され、大衆に浸透したものが社会で高い地位を占めている。大衆化社会の中で流行しているさまざまな文化について考察し講義する。

### 【授業計画】

記号空間論に基づいて、自然・身体・言語・制度の観点から大衆文化についてアプローチしたい。

- 1 自然：野球、パチンコなど。
- 2 身体：舞踊、ライブ、ロックなど。
- 3 言語：コマーシャル、落語、漫才、小説、マンガ、メールなど。
- 4 制度：演劇、映画、ゲームなど。

なお、最初に記号分析に慣れるために、コマーシャルの分析から始めたい。

### 【評価方法】

出席、受講態度、提出物によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

未定

### 【参考文献・資料】

必要に応じて、授業中に指示する。

## 比較文化論

文 嬉眞

### 【授業の概要】

国際化が進み、世界の異文化が日本に入り、日本の文化も世界に伝わるようになった。世界の文化の特徴をあげ、日本の文化との比較を考察しながら、異文化交流についても講義する。

### 【授業計画】

本講義では、主に「日本の文化」に焦点を当て考えることにする。特に、外国人（見る側）が日本という異文化（見られる側の文化）と直接接触した際、どのように評価（表現方法）・認識したかを考察し、その考察からなぜそのような評価・認識があらわれるかを分析する。そして、得られた分析によって外国人（見る側）がもつ「文化」を再分析する。すなわち、外国人（見る側）が「異文化」（見られる側の文化）を見るまなざしに関して考察することによって、自文化（見る側の文化）を再認識するだろう。

1. 異文化との理解・誤解に関する一般的な概論
2. 異文化交流史における本講義の位置付け
3. 前近代の外国人（見る側）における「日本認識」および外国人（見る側）がもつ「文化」に関する考察
4. 近・現代の外国人（見る側）における「日本認識」および外国人（見る側）がもつ「文化」に関する考察
5. 異文化としての「日本文化論」

### 【評価方法】

1. 出席、受講態度、講義時の課題等で全体の50%を評価する。
2. 学期末レポートで残る50%を評価する。

### 【テキスト】

講義の中で随時、配布する。(必ず事前に読んでおくこと)

### 【参考文献・資料】

授業中に指示する。



## 比較文化論

星山幸子

### 【授業の概要】

国際化が進み、世界の異文化が日本に入り、日本の文化も世界に伝わるようになった。世界の文化の特徴をあげ、日本の文化との比較を考察しながら、異文化交流についても講義する。

とくに、イスラームの文化を事例として取り上げ、異文化に対する視座について検証する。この授業をとおして、多様な文化や価値観を学ぶことにより自分自身の社会や文化を見つめ直すことを目標とする。

### 【授業計画】

1. 文化と文明
2. 文化の理解
3. 民族と国家と文化
4. 南北問題と発展途上国の文化
5. 人の移動と異文化接触
6. イスラームの文化
7. イスラームとジェンダー
8. 文化摩擦と国際問題
9. 中央アジアの人びと
10. トルコの人びとの暮らしと文化
11. 日本社会における異文化交流

### 【評価方法】

出席・授業中の提出物、討論と質疑応答 30%  
期末レポート 70%

### 【テキスト】

テキストは使用しない。授業中にプリント等を配布する。

### 【参考文献・資料】

授業のなかで参考文献リストを配布する。また、ビデオなどの視聴覚資料を使用する。

## 国際政治論

瀬戸裕之

### 【授業の概要】

国際関係は冷戦時代の東西対決時代から、協力時代へと変化し、グローバル化が進んでいる。しかし、民族・宗教・地域などの対決と紛争は今も絶えない。国際政治の実情を具体的事象にふれながら講義する。

### 【授業計画】

1. 国際関係の基本概念
2. 国際関係理論
3. 冷戦構造の展開と終焉
4. 国際経済と地域統合
5. 核兵器と安全保障
6. 南北問題と開発
7. 地球環境問題
8. 地域紛争、テロリズム
9. 第二次世界大戦と日本
10. 戦後日本と安全保障
11. 日本の国際協力
12. アジア太平洋のなかの日本

### 【評価方法】

成績評価は、期末試験（筆記）により行う。出欠は考慮しないが、中間試験を受験しないものは、期末試験の受験資格を失う。

### 【テキスト】

テキストとしては使用しない。

### 【参考文献・資料】

国際関係学講義 新版（原彬久編 有斐閣）

## 国際政治論

草間秀三郎

### 【授業の概要】

前半では冷戦終結後の国際政治の特徴と課題を検討していく。唯一の超大国となったアメリカの新しい外交・経済・軍事政策を分析し、新世紀における役割を展望する。後半では国連の組織と活動、EUとASEANという地域国際協力機関を比較的に分析し、最後にグローバル化と「人間の安全保障」の諸問題も検討する。

### 【授業計画】

1. 21世紀初頭の国際政治―特徴と課題―
2. アメリカの新しい外交・経済・軍事政策
3. 冷戦終結と激動の世界
4. 同時多発テロと対アフガン・イラク戦争
5. ベトナム戦争後のアメリカ外交
6. 現代アメリカ政治外交の源流
7. 国連の組織と活動
8. 国連平和維持活動（PKO）
9. 欧州連合（EU）と東南アジア諸国連合（ASEAN）－（1）－
10. 欧州連合（EU）と東南アジア諸国連合（ASEAN）－（2）－
11. グローバル化の諸問題
12. ロシア型と中国型
13. 「人間の安全保障」－国連と日本の対応－

### 【評価方法】

期末試験により評価する。出席を重視する。

### 【テキスト】

世紀転換期の国際政治史（福田茂夫他 ミネルヴァ書房）

### 【参考文献・資料】

毎回、テキストの内容に関するレジュメと資料を配布する。

## 国際交流論

松本一子

### 【授業の概要】

国際化時代といわれる現代社会は、さまざまな形で国際交流や国際協力が行われている。最近ではNGOやNPOの活躍がめざましい。国際交流の歴史を概観しながら、主として日本に滞在する多くの外国人との異文化接触を通しての国際交流のあり方について講義する。

### 【授業計画】

1. 国際交流とは
2. 国際交流の歴史
3. 国際交流活動の現状
  - ・自治体と国際交流
  - ・地域の国際化と多文化共生
  - ・地球市民教育
4. 実践国際交流
  - ・国際文化交流と草の根交流
5. 国際交流活動の課題

### 【評価方法】

レポート及び平常点で評価する

### 【テキスト】

草の根の国際交流と国際協力（毛受敏浩編著 明石書店 2003年）

### 【参考文献・資料】

実践国際交流（国際交流基金・大阪国際交流センター編 1997年）



## 外国の言語と文化1 (朝鮮半島)

尹 大辰

### 【授業の概要】

韓国・朝鮮語の基礎を学び、初歩的な語学力を身につけ、ハングルの文字と発音への関心を高める。朝鮮半島の歴史・文化・風土についても学び、アジアの隣国としての共通性や異質性を理解し、違いを共に生きる認識を深める。

### 【授業計画】

- 第1回 訓民正音について
- 第2回 ハングルの文字と発音(1)
- 第3回 ハングルの文字と発音(2)
- 第4回 基本的な日常会話(1)
- 第5回 基本的な日常会話(2)
- 第6回 基本的な日常会話(3)
- 第7回 言語と文化(1) - 衣・食・住
- 第8回 言語と文化(2) - 社会的構造
- 第9回 言語と文化(3) - 漢字語比較
- 第10回 朝鮮半島の風土
- 第11回 朝鮮半島の歴史と文化
- 第12回 まとめ - 言語表現から見た文化比較

### 【評価方法】

期末試験とレポート、出席率を加味して評価する。

### 【テキスト】

プリント教材を使用する。

### 【参考文献・資料】

- 韓国(金岡基監修 新潮社)  
韓国と日本の比較文化論(金渙著 明石書店)

## 外国の言語と文化3 (フランス)

清水ベアトリックス

### 【授業の概要】

ヨーロッパの文化や近代精神の発祥の地ともいわれるフランスの歴史や文化を学び、地理的な位置付けや風土を理解し、違いを共に生きる認識を深める。

### 【授業計画】

毎回、担当教員が指定したテキストの章について議論し、テレビや新聞で報道されたフランスに関する時事問題の中で特に学生の関心を引くようなものを選んで、解説したい。

### 【評価方法】

定期試験を重視するが、宿題(テキストや映画についての感想文)、出席率、受講態度なども考慮に入れる。

### 【テキスト】

変貌するフランス(西永良成 日本放送出版協会)

## 外国の言語と文化2 (ドイツ)

藤井たぎる

### 【授業の概要】

ドイツ語の基礎を学び、初歩的な語学力を身につけ、ドイツ語への関心を高める。ヨーロッパの中でも独特なものを持つドイツの歴史・文化について学び、地理的な位置付けや風土を理解し、違いを共に生きる認識を深める。

### 【授業計画】

ドイツ・オーストリアの生活文化とその言語。現代のドイツ・オーストリア事情の一端を紹介しながら、ドイツ・オーストリアのいろいろな「顔」を発見してもらおう。具体的には下記のような日常的なテーマをもとに、ドイツ・オーストリアの事情を日本のそれと比較しながら、両者の類似性と差異をみてゆく。また初歩的なドイツ語会話の練習もあわせておこなう。

- 1) ドイツ・オーストリアの風土
- 2) ドイツ・オーストリアの近現代史
- 3) ドイツ・オーストリアのマス・メディア
- 4) ドイツ・オーストリアの衣食住
- 5) ドイツ・オーストリアの消費生活
- 6) ドイツ・オーストリアの芸術文化

講義形式ではあるが、授業中にいろいろ意見を求め、各自の考えるところを発言してもらおう。必要に応じてプリントを配布する。

### 【評価方法】

筆記試験。

### 【テキスト】

適宜、プリントを配布する。

## 外国の言語と文化4 (ロシア)

丹邊文彦

### 【授業の概要】

ロシア語の基礎を学び、初歩的な語学力を身につけ、ロシア語への関心を高める。ヨーロッパとアジアにまたがるロシアの風土と文化について学び、その歴史や日本とのかかわりなども理解し、違いを共に生きる認識を深める。

### 【授業計画】

第1回～3回 文字と発音

以下1限に2課の割合で下記教科書を一応通読することを目標に授業をすすめる。1期終了・完結の授業で時間が限定されていることを考慮したものである。したがって練習問題(解答付)は自習に任せ、最小限の文法解説に止めて、本文中心に音読と文字への習熟に重点を注ぐことによって、運用力の土台を養成するのが眼目である。その際付属のCDを活用した予・復習は欠かせない。発音教材の補助としてロシア民謡も紹介し、ロシアの風土・歴史・文化への理解を深める。

### 【評価方法】

a.朗読 b.聴取り c.ペーパーテスト の総合

### 【テキスト】

エクспレス ロシア語(桑野隆著 白水社)

### 【参考文献・資料】

ロシア語のすすめ(講談社現代新書)



## 外国の言語と文化4 (ロシア)

杉本一直

### 【授業の概要】

ロシア語の基礎を学び、初歩的な語学力を身につけ、ロシア語への関心を高める。ヨーロッパとアジアにまたがるロシアの風土と文化について学び、その歴史や日本とのかわりなども理解し、違いを共に生きる認識を深める。

### 【授業計画】

みなさん、知っていますか？日本の大学のなかでロシア語を学ぶことができるのは本当に少ないんですよ。ということは、「ロシア語がわかる人」は日本ではとても希少価値があるのです！「芸術の国ロシア」の言葉を今すぐ学んでみませんか？映画の鑑賞会もありますから、楽しみにしてくださいね。

初級のわかりやすい辞書を「テキスト」として授業を進めてきます。まず、例の不思議な形をしたキリル文字を覚え、発音を覚え、そのあとは辞書で遊び(?)ながら「使える単語」「使えるフレーズ」を集めていきます。たくさんたくさん集めたら、あれ、いつのまにかロシア語の達人！

辞書以外に補助教材として会話用プリントを配布します。学ぶ項目は以下のとおりです。

- キリル文字と発音
- 大きな声であいさつしよう
- 買い物に行ってみよう
- 乗り物に乗ろう
- おながすいたら…
- 自分について話してみよう

### 【評価方法】

定期試験の成績による。

### 【テキスト】

ロシア語ミニ辞典(白水社)

## 外国の言語と文化5 (スペイン)

木下まりあ

### 【授業の概要】

スペイン語の基礎を学び、初歩的な語学力を身につけ、スペイン語への関心を高める。世界でも屈指の言語圏を持つスペインの歴史と文化的影響について学び、独特の風土について理解し、違いを共に生きる認識を深める。

### 【授業計画】

講義方式による。授業中、適宜プリントを配布する。

- スペイン語とスペイン語圏の世界
- スペインの歴史と文化の特色
- スペイン語のアルファベット、音節、アクセント
- 挨拶、自己紹介の仕方
- 名詞の性数、定冠詞と不定冠詞
- 形容詞(性数の一致)
- 人称代名詞、serとestar動詞
- 数詞と時刻の表現
- スペイン語の手紙の書き方
- 旅行に役立つスペイン語会話
- まとめ

### 【評価方法】

筆記試験またはレポートに出席状況を加味して評価。

### 【テキスト】

授業中に指示。

## 日本と外国の歴史1 (日本)

岩口和正

### 【授業の概要】

アジア世界の東辺に位置する日本の歴史は、もっぱら中国や朝鮮半島諸国との交渉の中で展開してきました。にもかかわらず、現代にいたってなお、このような点についての基礎的史実ですら、よく知られていないどころか、しばしば誤解されているのが現実です。そこで、主として、日本国家自身の世界認識と中国や朝鮮半島諸国側からの日本認識とを対比させつつ、東アジア史の一部としての日本史の特徴を考えます。

### 【授業計画】

- 日本近代のアジア認識 <明治維新と征韓論>
- 朝鮮通信使と朝鮮出兵
- 日本中世における朝鮮半島の交渉
- 蒙古襲来と日本朝廷
- 日宋貿易と平氏政権
- 蕃国としての新羅・渤海
- 大唐皇帝と日本天皇
- 遣隋使と遣唐使
- 日本国家と列島内住民 <蝦夷・隼人>
- 日本古代の世界像

### 【評価方法】

成績評価は学期末の試験でおこないます。

### 【テキスト】

使用しません

### 【参考文献・資料】

授業の中で別途に紹介いたします

## 日本と外国の歴史2 (郷土)

秦 達之

### 【授業の概要】

東海地方が戦国統一の舞台になったのは周知の事実だが、その後の歴史については意外に知られていない。東西の文化を巧みに吸収した近世・近代について、一見地味だが、重要な事件や人物を取上げ、受験時の暗記的歴史から脱皮し、考え、楽しみ、哀しみつつ、生きるための歴史を目指したい。

### 【授業計画】

一回一話の読み切り、いや、語り切りで、さまざまなテーマ・内容を取上げる。通史ではないので、時代の前後を往き来する。その時代を生きた人びとの鼓動が聞こえてくるようなものにしたいが、果してうまくいきますか、どうか？

内容は、「元禄名古屋の世相」「伊勢湾の漂流民たち」「江戸時代の農民運動」「名古屋とその周辺の山車(だし)」「渡辺華山とその周辺」「お札降りと「ええじゃないか」」「高山における明治維新」「戦争と女性」「モルフィと魔娼運動」「新聞記者・市川房枝」「シーメンス事件と太田三次郎海軍大佐」その他。私自身の研究と共に、他の地道な研究成果も積極的に取上げたい。

こちらで一回毎の史料を用意し、それにもとづいて講義する。必要に応じてビデオ、スライドも使用。出席票に感想を書いて貰い、受講者の声を聞く工夫をしている(受講者もぜひご協力を)。

### 【評価方法】

出席状況(特に厳しいので注意!)と単位認定試験の成績などによるが、毎時間最後に感想を書いて貰い、参考にしている。

### 【参考文献・資料】

愛知県百年(塩沢君夫・斎藤勇・近藤哲生共著 山川出版社)  
愛知県の歴史(三鬼清一郎編 山川出版社)  
東海・近代へのまなざし(都築亨・大嶋光義編 中部日本教育文化会)



## 日本と外国の歴史3 (東洋)

土屋 洋

### 【授業の概要】

東洋、特に中国を中心とした東アジア地域やその歴史を概説し、通史を学ぶ。日本は中国や朝鮮半島と歴史的・文化的に関係が深く、相互に影響を強く受けていることについても認識を深めたい。

### 【授業計画】

1. 期間計画指示・授業内容の説明
2. 歴史学とは何か? : 歴史リテラシーを身につけよう
3. アジアを考えるということ : 日本においてアジアの歴史を学ぶとは?
4. 東アジアの伝統秩序 : 中華帝国という世界
5. 中国近現代史への眼差し : 歴史観の諸相
6. 中国の近代 : 「近代」という時代をどう考えるか?
7. 中国の近代と日本 : 東アジアの近代を日本との関係から考える
8. 日中戦争を考える : 南京事件をめぐる歴史認識の溝
9. 新中国の誕生 : 共産党の政権奪取は日本のおかげ? !
10. 「文革」、「改革開放」、「六四」 : 東西冷戦構造の狭間で
11. 「台湾」という問題
12. 現代中国と日本 : 特に歴史認識をめぐって
13. 21世紀の日本、中国、東アジア

### 【評価方法】

学期末に課すレポートの内容、ならびに授業で随時課す感想・意見等の提出状況によって評価する。

### 【テキスト】

基本的に毎回レジュメを配布する。

### 【参考文献・資料】

授業中に提示する。

## 地域コミュニティ論

安藤純子

### 【授業の概要】

現代社会は都市化が進み、地域社会と人々のかかわりが希薄になっている。人々の生活にとって地域社会の果す役割と問題点について具体例にふれて講義する。

### 【授業計画】

1. イントロダクション
2. 地域社会の歴史と構造 1
3. 地域社会の歴史と構造 2
4. コミュニティの概念
5. コミュニティの組織論
6. 地方分権とコミュニティ
7. コミュニティとネットワーク 1
8. コミュニティとネットワーク 2
9. コミュニティ活動と実践例
10. 環境・福祉とコミュニティ
12. 少子・高齢化とコミュニティ
13. まとめ

### 【評価方法】

定期試験と出席率など総合的に評価する。

### 【テキスト】

特になし。

### 【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

## 日本と外国の歴史4 (西洋)

北村陽子

### 【授業の概要】

ヨーロッパ、アメリカ合衆国を中心とした西洋の歴史を概説する。近代以降の日本にも影響を与えた「国民国家」が形成される過程を追い、「国民意識」とは何かについて理解を深める。

### 【授業計画】

1. はじめに—国民国家とは何か
2. 近代国民アイデンティティ形成の前段階
  - (1) 「個人」の覚醒 : ルネサンス
  - (2) 「他者」の認識 : 大航海時代
  - (3) 普遍性の否定 : 宗教改革
3. イギリスの国民国家
  - (1) イギリス国教会の成立と絶対主義国家
  - (2) 二つの市民革命—「イングランド」から「イギリス」へ
  - (3) バクス・プリタニカー・ジェントルマンが支える「大英帝国」の時代
4. アメリカ合衆国の国民国家
  - (1) 対イギリス独立革命
  - (2) フロンティア開拓時代の「他者」認識
  - (3) 奴隷制と南北戦争
5. フランスの国民国家
  - (1) ルイ14世治下における絶対主義の確立
  - (2) フランス革命とナポレオン
  - (3) 「国民」の創出—「単一にして不可分のフランス」成立
6. ドイツの国民国家
  - (1) 三十年戦争とプロイセン・オーストリアの絶対主義
  - (2) 対ナポレオン解放戦争と諸国民の春
  - (3) ビスマルクによる「ドイツ」統一
7. おわりに—20世紀のナショナリズムと国民国家

### 【評価方法】

成績評価は、出席と学期末テストにより総合的に行う。

### 【テキスト】

とくに定めない。

### 【参考文献・資料】

- 国民国家とナショナリズム (谷川稔 山川出版社)
- 国民国家を問う (歴史学研究会編 青木書店)
- その他講義中に指示する。

## 東アジアの生活と文化

楊 衛平

### 【授業の概要】

日本は東アジアに位置し、歴史的にも東アジアの影響を強く受けている。日本と関係の深い近隣の国を中心にその生活や文化について講義する。

### 【授業計画】

1. 中国の少数民族の構成
2. 儒教、仏教と道教の相異
3. 中国の年中行事
4. 南北食文化の比較
5. 中医学と西洋医学
6. 気の世界と気功術
7. 飲茶の文化と歴史
8. 伝統武術と映画
9. 少数民族の音楽
10. 少数民族の服装
11. 中国人の姓の色々
12. 中国の名勝物語
13. 中国人と日本人の考え方の相異

### 【評価方法】

出席状況とレポートによって総合的に評価する。

### 【テキスト】

プリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

- 中国人・文字・暮らし (李順然 東方書店)
- 中国仏・道・儒教史話 (劉克蘇 河北大学出版社)
- 中国伝統文化導論 (劉榮興 河北大学出版社)



## ビジネスの世界

伊藤義明

### 【授業の概要】

90年代の「バブルの崩壊」の後遺症である長期にわたる経済の低迷から脱するため日本の企業経営は政府の保護規制から離れ、市場競争をベースとするいわゆるFree, Fair, Globalな経営を構築する新たな時代に入った。

学生諸君が専門課程に進む前段階で理解しておくべき、「新しい市場環境」と「企業活動の実際」及び「社会から評価される企業経営」の基本的なスキームを講義する。

### 【授業計画】

- 第1講：Introduction；ビジネスモデルによる企業活動の概説
- 第2講：日本の国際競争力（IMDサーベイ他）
- 第3講：制度変革と企業活動  
Free, Fair, Global；規制緩和と市場競争；自己責任とリスク管理
- 第4講：企業をとりまく社会システムの変化——金融；IT；環境
- 第5講：企業の組織——会社とは何か？ビジネス（商行為）とは何か？（法的要件）
- 第6講：企業のマネジメント
- 第7講：主要産業の特色——どのように変化に対応してきたか。
- 第8講：マーケットの機能——金融、外国為替、株式の各市場について
- 第9講：経営品質について——社会に評価される企業経営とは？  
Malcolm Baldrige National Quality ProgramとISO及び日本経営品質賞
- 第10講：日本経営品質賞基準（その1）リーダーシップと社会的責任
- 第11講：日本経営品質賞基準（その2）市場と顧客の理解；戦略の構築と展開
- 第12講：日本経営品質賞基準（その3）人材；プロセス；情報
- 第13講：第9～12講の総括及びQ&A；テスト

### 【評価方法】

3回のテストの総合評価

### 【テキスト】

レジメ 使用

### 【参考文献・資料】

新聞の経済記事を読むこと

## 暮らしの経済

村上貴美子

### 【授業の概要】

生活に密着した経済学の基礎と入門を学ぶとともに、現在の経済社会はグローバル化しているため、国際経済の流れや経済用語についても講義する。

### 【授業計画】

1. 最近の経済状況と用語解説  
生活と経済の関わり
2. やさしい経済用語の説明
3. 消費者の権利と意思決定
4. 生活をとりまく環境変化
5. 本当の「豊かさ」とは何だろうか
6. 「労働」と「生活」
7. 余暇の為に働く「余暇とはなんだろう」
8. 国際化と生活  
毎回、最近の経済ニュースの紹介と解説を予定している。

### 【評価方法】

宿題のレポート・単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

テキストとしては使用しない。プリント配布

### 【参考文献・資料】

2004年版くらしの豆知識（国民生活センター 編集・発行）

## ビジネスの世界

小池弘道

### 【授業の概要】

現在、いわゆる日本型の雇用システムや商慣習は崩壊しつつあるが、ビジネスの世界には企業を維持・発展させるための企業の倫理や厳しい現実がある。企業の現実を具体例にふれて講義する。

### 【授業計画】

- ビジネス社会におけるビジネスの種類
- 会社組織について
- 仕事の遂行・・・リーダーシップ、創意と工夫、責任と権限、縦糸・横糸（指示命令系統、部署間の連携）
- 日本のビジネス社会が現在抱えている問題点  
企業の業績不振、終身雇用・年功序列の崩壊、グローバル化
- 世界経済が抱えている問題点
- ビジネス社会で役立つ個人の能力・知識

### 【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況を総合して評価する。

### 【テキスト】

使用しない（必要に応じ資料配布）

### 【参考文献・資料】

日本の常識は、どこまで通じるか  
（ジョリー佐々木幸子・小池弘道 風媒社）

## 健康と医学

渡邊一功

### 【授業の概要】

日本はますます高齢化社会に入っているが、長生きするための健康は自分で管理し、自立自助が必要である。健康を保ち、命を守るためにどうすればよいか、医学の立場から講義する。

### 【授業計画】

- 1) 性感染症  
感染症とは 性感染症の現状と予防 後天性免疫不全症候群
- 2) 免疫とアレルギー  
免疫のメカニズム、アレルギー反応の分類  
アレルギー疾患
- 3) 嗜好品と健康  
アルコール タバコ 薬物依存
- 4) 生活習慣病の予防  
糖尿病 がん 高脂血症 高血圧
- 5) 生殖の医学  
性機能 避妊 妊娠 分娩
- 6) 胎児からの子育て  
母子相互作用 母と子の絆 小児虐待
- 7) 子どもの成長と発達  
身体的発育 生理機能の発達 精神的発達  
しつけ
- 8) 乳幼児期の主な病気  
一般的症状 主な病気 障害児  
染色体と遺伝子異常

### 【評価方法】

主に筆記試験による。

### 【テキスト】

健康と保健の科学（坂口他著 日本小児医事出版社）



## 健康とくすり

永井慎一

### 【授業の概要】

現在の日本は飽食の時代といわれ、運動不足やストレス過多のため、薬品の助けがなければ健康の維持が難しい。病気と薬品について正しい知識を学び、薬品の効き方と副作用について理解を深める。

### 【授業計画】

- 第1回 受講生に「病気とくすりについて」アンケート調査後、創薬の歴史から新薬開発まで、動物実験や治験の評価法も含めて解説
- 第2～3回 くすりの基礎知識として、くすりの投与法と生体内運命、くすりの効くメカニズムと受容体、危険なくすりの飲み合わせと副作用など2回にわたり解説
- 第4回 くすりの正しい知識のすべてを、イラスト入りの質問形式でわかりやすく教える
- 第5～6回 近年発売されたビルなどの生活改善薬をはじめ、常用される一般用医薬品（OTC）500種と医者が処方する医療用医薬品200種を薬効別に解説
- 第7回 頭痛、生理痛の原因と治療薬のメカニズム
- 第8回 アトピー性皮膚炎や花粉症の発症メカニズムとくすりの効き方
- 第9回 病気の早期発見に役立つ成人病検査値の見かたと最新の画像診断法を解説
- 第10～13回 検診で見つかる生活習慣病を中心に、高血圧、ガン、糖尿病、エイズなどの発症原因と最先端治療薬の作用機作

### 【評価方法】

配布したプリントからテーマを出題し、レポートの内容で成績評価する。

### 【テキスト】

プリントを毎回配布し講義する。なお、何時でも「病気とくすりに関する質問」をメールで受けつけ、プライバシーを守って返答する。

## ライフサイクルと健康

松田秀子

### 【授業の概要】

人間は年齢に伴い体型も変化し、健康も害しやすくなる。ライフサイクルにあわせた運動と健康の維持について、身近な問題を取りあげて講義する。

### 【授業計画】

1. ライフサイクルと健康とは
2. 姿勢
3. プロポーション（理想と現実）
4. 肥満とやせ
5. 隠れ肥満
6. 骨密度・体脂肪測定
7. 自分のからだを判定しよう
8. 体脂肪を正しく落とす方法
9. 筋肉と運動神経
10. 健康づくりのための運動
11. Walking
12. 性への理解
13. 学生生活と健康

### 【評価方法】

出席状況・レポート・単位認定試験によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

使用しない。  
必要に応じて参考資料を配付する。

## メンタルヘルス

太田龍朗

### 【授業の概要】

今や子供から大人まで、多くの人々が心を病んでいるといわれている。心の病は少年期や青年期に特有のものから、時代や社会に要因のあるものもある。臨床的事例をふまえてメンタルヘルスを考える。

### 【授業計画】

- 概論：1. 心の病：その歴史  
2. 精神症状のとらえ方  
3. 精神障害の種類と分類  
4. ライフサイクルと心：性格、発達と加齢
- 各論：1. 青年期、思春期にはじまる統合失調症  
2. 感情の障害としての躁うつ病（気分障害）  
3. ストレスとその反応：神経症と心身症  
4. やまらない、止まらない：薬物依存  
5. 眠りと食と性の偏り：睡眠、摂食、性障害  
6. 大人とは異なる児童・小児の障害  
7. 老人と高齢者の病：器質性障害
- 総論：1. 病を前にして：治療、面接、カウンセリング  
2. 心の健康に向けて：地域社会、制度と活動
- 終講：単位認定試験

### 【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

大学生のための精神医学（高橋俊彦・近藤三男著 岩崎学術出版社）

### 【参考文献・資料】

精神を病むということ（秋元波留夫・上田敏著 医学書院）  
図解雑学 心の病と精神医学（景山任佐著 ナツメ社）

## スポーツ科学

杉山 和 山本啓子 松田秀子 寺田邦昭 門間 博

### 【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実践的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・原則として、半期間に2種目を行います。（天候によって種目を変更する場合があります。）
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。
- ・授業内容については、担当教官の欄を参照のこと。
- ・ゴルフについては、実習費（300円）を必要とします。

月曜日	2限	杉山	テニス・バドミントン
	3限	杉山	テニス・バドミントン
火曜日	2限	松田	テニス・ゴルフ
	3限	山本	卓球・バレーボール
	3限	松田	バドミントン・ゴルフ
	4限	山本	卓球・バレーボール
	4限	松田	バドミントン・ゴルフ
水曜日	1限	門間	テニス・バスケットボール
	2限	門間	テニス・バスケットボール
	3限	山本	バレーボール・卓球
	3限	門間	テニス・バドミントン
	4限	山本	バレーボール・卓球
	4限	門間	テニス・バドミントン
木曜日	1限	寺田	スキルトレーニング
	2限	寺田	スキルトレーニング
	3限	杉山	バドミントン・テニス
	3限	山本	卓球・バレーボール
	4限	山本	卓球・バレーボール
金曜日	2限	杉山	テニス・バドミントン
	3限	杉山	テニス・バレーボール
	4限	杉山	テニス・バレーボール

### 【評価方法】

70点＝（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点  
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等



## スポーツ科学

杉山 和

### 【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・天候によって種目を変更する場合があります。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔テニス〕

1. ガイダンス
2. ラケットとボールに慣れる
3. ボールをコントロールする
4. サービスを練習する
5. ルールとマナーを身につける
- 6～8. ミニゲーム・スキルテスト

〔バドミントン〕

1. ガイダンス
2. ラケットとシャトルに慣れる
3. シャトルをコントロールする
4. ルールとマナーを身につける
- 5～8. ミニゲーム・スキルテスト

〔バレーボール〕

1. ガイダンス、競技の概略
2. パスワーク（オーバーハンド・アンダーハンド）
3. サーブとレシーブ（サーブレシーブ・パスアタックレシーブ）
4. トス・アタック・ブロック（アタックカバー・ブロックフォロー）
- 5～7. ゲームと審判（ルール）、テスト（スキル）

### 【評価方法】

70点＝（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点  
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

## スポーツ科学

松田秀子

### 【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・天候によって種目を変更する場合があります。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。
- ・ゴルフについては、実習費（300円）を必要とします。

〔テニス〕

1. ガイダンス
2. ラケットとボールに慣れる
3. ボールをコントロールする
4. サービスを練習する
5. ルールとマナーを身につける
- 6～8. ミニゲーム・スキルテスト

〔ゴルフ〕

1. クラブに慣れる
2. フォーム作り（回転運動のイメージ作り）
- 3～6. スイングの基本を身につける
7. 学外の練習場にてスキルテスト

〔バドミントン〕

1. ガイダンス
2. ラケットとシャトルに慣れる
3. シャトルをコントロールする
4. ルールとマナーを身につける
- 5～8. ミニゲーム・スキルテスト

### 【評価方法】

70点＝（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点  
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

## スポーツ科学

山本啓子

### 【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔卓球〕

1. ガイダンス、競技の概略
2. ラケットのグリップと打法
3. フォアハンド・バックハンド  
（ロング・ショート・カット・スマッシュ）
4. サービスとレシーブ
5. シングルスゲーム（審判）
- 6～7. ダブルスゲーム（審判とスコア）、テスト（スキル）

〔バレーボール〕

1. ガイダンス、競技の概略
2. パスワーク（オーバーハンド・アンダーハンド）
3. サーブとレシーブ（サーブレシーブ・パスアタックレシーブ）
4. トス・アタック・ブロック  
（アタックカバー・ブロックフォロー）
- 5～7. ゲームと審判（ルール）、テスト（スキル）

### 【評価方法】

70点＝（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点  
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

## スポーツ科学

寺田邦昭

### 【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・天候によって種目を変更する場合があります。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

〔スキルトレーニング〕

オールラウンドプレーヤーを目指し、下記のスポーツスキルを週毎に種目を変えながら練習し、その基本的な動きのコツの獲得を目指す。

打つ技術の獲得

- バットイング（ソフトボールでの打つスキル）
- ショット（ゴルフ・バスケットボールでの打つスキル）
- ストローク（卓球・テニス・バドミントンでの打つスキル）
- スマッシュ（卓球・テニス・バドミントンでの打つスキル）
- アタック（バレーボールでの打つスキル）
- キック（サッカー・ラグビーでの蹴るスキル）

投げる・送る技術の獲得

- スローイング及びパス（ソフトボール・バレーボール・バスケットボール・フライングディスク・サッカー・ラグビーでの投げる・送るスキル）

捕る技術の獲得

- キャッチング（ソフトボール・バスケットボール・ラグビー・フライングディスクでの捕るスキル）

1. ガイダンス
- 2～7. 主にアウトドア種目を中心に実施する。
- 8～13. 主にインドア種目を中心に実施する。
- 14～15. テスト（各種スポーツにおけるスキルテスト）

### 【評価方法】

70点＝（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点  
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等



## スポーツ科学

門間 博

### 【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・天候によって種目を変更する場合があります。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

[テニス]

1. ガイダンス、競技の概略
2. ラケットとボールに慣れる
3. ボールをコントロールする
4. サービスを練習する
5. ルールとマナーを身につける
- 6～8. ミニゲーム・スキルテスト

[バスケットボール]

1. ガイダンス、競技の概略
2. ボールに慣れる
3. 基本的な個人技能の確認
4. チームでの基本的な練習
5. ルールとマナーを身につける
- 6～8. ゲーム・スキルテスト

[バドミントン]

1. ガイダンス、競技の概略
2. ラケットとシャトルに慣れる
3. シャトルをコントロールする
4. ルールとマナーを身につける
- 5～8. ミニゲーム

### 【評価方法】

70点－(欠席回数/授業実施回数×70点)＝出席点  
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

## 健康と運動

杉山 和 山本啓子 松田秀子 寺田邦昭 門間 博

### 【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・天候によって種目を変更する場合があります。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。
- ・授業内容については、担当教官の欄を参照のこと。
- ・ゴルフについては、実習費(600円)を必要とします。

月曜日	2限	杉山	ゴルフ
	3限	杉山	ゴルフ
火曜日	2限	松田	バドミントン
	3限	山本	バドミントン
	3限	松田	テニス
	4限	山本	バドミントン
	4限	松田	テニス
水曜日	1限	門間	バドミントン
	2限	門間	ソフトボール
	3限	山本	バドミントン
	3限	門間	サッカー
	4限	山本	バドミントン
	4限	門間	サッカー
木曜日	1限	寺田	ニュースポーツ
	2限	寺田	ニュースポーツ
	3限	杉山	ゴルフ
	3限	山本	バドミントン
	4限	山本	バドミントン
金曜日	2限	杉山	バレーボール
	3限	杉山	バドミントン
	4限	杉山	バドミントン

### 【評価方法】

70点－(欠席回数/授業実施回数×70点)＝出席点  
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

## 健康と運動

杉山 和

### 【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・天候によって種目を変更する場合があります。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。
- ・ゴルフについては、実習費(600円)を必要とします。

[ゴルフ]

1. ガイダンス
2. グリップ、スタンス、アドレス
- 3～6. アイアン練習(ショート・ミドルアイアン)
- 7～8. ウッド練習(1、3ウッド)
9. 学外のゴルフ練習場にて練習
- 10～14. 総合練習
15. 学外のゴルフ練習場にて練習

[バレーボール]

1. ガイダンス
2. ボールに慣れる、構え、動きの基本姿勢
3. サーブの種類と打ち方
- 4～6. パス、トス、レシーブ、スパイク、ブロック
- 7～15. ゲームの進め方、ルール説明、ゲーム

[バドミントン]

1. ガイダンス
- 2～3. ラケットワーク
4. ストローク練習(アンダーハンドを中心に)
5. ストローク練習(サイドハンドを中心に)
6. ストローク練習(オーバーヘッドを中心に)
- 7～15. ゲームの進め方、ルール説明、ダブルスゲーム

### 【評価方法】

70点－(欠席回数/授業実施回数×70点)＝出席点  
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

## 健康と運動

山本啓子

### 【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

[バドミントン]

1. ガイダンス
2. 歴史的ゲームの追体験(シングルスゲーム)
3. ラケットワーク
4. ストローク練習(アンダーハンドを中心に)
5. ストローク練習(サイドハンドを中心に)
6. ストローク練習(オーバーヘッドを中心に)
7. ゲームの進め方、ルール説明
8. ダブルスゲーム(フォーメーションを中心に)
- 9～15. ダブルスゲーム

### 【評価方法】

70点－(欠席回数/授業実施回数×70点)＝出席点  
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等



## 健康と運動

松田秀子

### 【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・天候によって種目を変更する場合があります。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

【バドミントン】

1. ガイダンス
2. バドミントンの特徴・歴史的ゲームの追体験
3. ラケットワーク・フットワーク
- 4～6. 各ストローク練習（軸回転運動を中心に）
7. ゲームの進め方、ルールとマナー
8. ハーフコートでのミニゲーム
- 9～最終授業. ダブルスゲーム、スキルテスト

【テニス】

1. ガイダンス
2. ラケットとボールに慣れる（グリップ、スタンス）
3. グランドストローク（フォアハンドを中心に）
4. グランドストローク（バックハンドを中心に）
5. サービス、レシーブ
6. ボレー、スマッシュ
7. ゲームの進め方、ルールとマナー
8. ダブルスゲーム（フォーメーションを中心に）
- 9～最終授業. ダブルスゲーム、スキルテスト

### 【評価方法】

70点－（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点  
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

## 健康と運動

門間 博

### 【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・天候によって種目を変更する場合があります。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

【バドミントン】

1. ガイダンス
- 2～3. ラケットワーク
4. ストローク練習（アンダーハンドを中心に）
5. ストローク練習（サイドハンドを中心に）
6. ストローク練習（オーバーヘッドを中心に）
- 7～15. ゲームの進め方、ルール説明、ダブルスゲーム

【ソフトボール】

1. ガイダンス
2. キャッチボールの基本、練習、ゲーム
- 3～5. バッティングの基本、練習、ゲーム
- 6～8. 守備の基本、練習、ゲーム
- 9～11. リーグ戦 1
- 12～15. リーグ戦 2、まとめ（記録整理・レポート）

【サッカー】

1. ガイダンス
2. 個人技能の確認
- 3～5. ボールコントロールの正確性、巧みに運ぶための基本技術、基本技術を生かしたミニゲーム
- 6～7. 個人技能をもとにチーム編成をし、ミニゲーム
- 8～10. ミニゲームのリーグ戦
- 11～15. リーグ戦、まとめ（記録整理・レポート）

### 【評価方法】

70点－（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点  
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

## 健康と運動

寺田邦昭

### 【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

### 【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行います。
- ・毎週、40名の受講生を2グループに分け、2種目を交代で履修する。
- ・2～8週までのうち、雨天の場合には、9～12週に予定しているインドア種目に変更して実施する。
- ・授業については、健康科学教育センターの掲示板を参照のこと。

【ニュースポーツ】

1. ガイダンス
- 2～6. フライングディスク
- 7～8. ベタンク、ターゲット・バード・ゴルフ
- 9～10. インディアカ、ミニテニス
- 11～12. ダーツ、ソフトバレー
- 13～15. グループによる遊びの創作と発表会

### 【評価方法】

70点－（欠席回数/授業実施回数×70点）＝出席点  
30点＝実技点・参加の態度・種目理解度等

## 現代社会と福祉

見平 隆

### 【授業の概要】

多くの人々が人間らしい生活を営むには、社会的な福祉は避けられない問題である。しかし、「福祉はいかにあるべきか」という課題と解決策は難しい問題でもある。現代社会の福祉について具体的事例にふれて講義する。

### 【授業計画】

1. 現在の生活から社会の現状を知る
2. 福祉とは何かを考える
3. ライフサイクルと福祉の関わりを考える
4. 日本と世界の福祉の現状を知る
5. 現代社会の福祉をめぐる問題を考える
6. これからの福祉の課題を考える

一つのテーマについて1回から数回講義するが、授業についての質問などを適宜書いてもらい、次の授業に反映したい。できるだけプリントを配布する。

### 【評価方法】

定期試験の結果および授業で指示した課題提出により評価する。出席率は受験資格にはしない。

### 【テキスト】

社会福祉キーワード 補訂版（平岡公一・平野隆之・副田あけみ著 有斐閣）

### 【参考文献・資料】

授業中に紹介する。



## ボランティア論

矢島洋子

### 【授業の概要】

ボランティアは今や新しい時代を生きて行くための行動様式のひとつになっている。ボランティア先進国アメリカの実例にふれながら、ボランティアの成り立ち、その存在意義や方法論などについて講義する。

### 【授業計画】

1. ボランティアの思想
2. アメリカのボランティア活動 (1)
3. アメリカのボランティア活動 (2)
4. アメリカのボランティア活動 (3)
5. ヨーロッパのボランティア活動
6. 日本のボランティアの変遷
7. 特定非営利活動促進法 (NPO法)
8. 日本のボランティア活動 (1) 災害とボランティア
9. 日本のボランティア活動 (2) 高齢者とボランティア
10. 日本のボランティア活動 (3) 障害者とボランティア
11. 日本のボランティア活動 (4) 開発とボランティア
12. 日本のボランティア活動 (5) 難民とボランティア
13. ボランティアの課題

ビデオの活用や当事者による講義も予定している。ボランティアを具体的に理解できる授業を心がけたい。

### 【評価方法】

おもに期末試験により評価する。期中にレポートなどを提出させた場合は、これを成績評価に反映させる。なお、出席率は受験資格にはしない。

### 【テキスト】

使用しない。適宜、資料などを配布する。

### 【参考文献・資料】

- ボランティア学を学ぶ人のために (内海成治他編 世界思想社)
- フィランソロピーの思想：NPOとボランティア (林雄二郎他 日本経済評論社) 他

## スポーツ文化論

勝部篤美

### 【授業の概要】

スポーツが文化であることを歴史的社会的事実から論証し、スポーツの生成、発展、衰退に関する諸要因について考え、現代社会における「人間性復権」について展望する。

### 【授業計画】

1. スポーツは遊びから出発し、技能を追求する。
2. スポーツは競争と協力の両面をもち、フェアプレイの精神によって成り立つ。
3. スポーツには富と閑暇が関係し、社会生活と関係が深い。
4. スポーツには教育、政治、科学が関係する。
5. スポーツは地理的環境に影響されることが大きい。
6. スポーツは「強いもの」から「弱いもの」へと対象を拡げつつある。
7. スポーツは「強いこと」から「美しいこと」へと対象を拡げつつある。
8. スポーツは今や人間性の復権へ向かって進む。

### 【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況によって評価する。

### 【テキスト】

使用せず。参考図書は授業のとき指示する。

## 手話・点字

堀 正和

### 【授業の概要】

手話・点字について聴覚障害者や視覚障害者のコミュニケーションや文化におけるその役割や歴史と実践の技術・方法論を講義する。

### 【授業計画】

1. 視覚障害概要
2. 視覚障害者のコミュニケーション方法
3. 点字の概要
4. 点字演習
5. 聴覚障害概要
6. 聴覚障害者のコミュニケーション方法
7. 手話の概要
8. 手話演習

### 【評価方法】

点字や手話の読み取りや表現のテストにより行う。

### 【テキスト】

点訳のしおり・点字器付き (日本点字図書館) 及び手話教室入門 (全日本ろうあ連盟出版局)

## スポーツ文化論

松田秀子

### 【授業の概要】

スポーツが文化であることを歴史的社会的事実から論証し、スポーツの生成、発展、衰退に関する諸要因について考え、現代社会における「人間性復権」について展望する。

### 【授業計画】

1. スポーツは遊びから出発する
2. スポーツは技能を追求する
3. スポーツは競争と協力の両面をもつ
4. スポーツはフェアプレーの精神によって成り立つ
5. スポーツは自己実現を志向させる
6. スポーツは舞踊とともに祭礼と結びついていた
7. スポーツには富と閑暇が関係する
8. スポーツは社会生活と関係が深い
9. スポーツには教育が関係する
10. スポーツには政治が関係する
11. スポーツには科学が関係する
12. スポーツには地理的環境に影響されることが大きい
13. スポーツには民族性が反映される
14. スポーツには商業主義がつきまとう
15. スポーツにはジャーナリズムがつきまとう
16. スポーツはガス抜き装置としての役割を果たす
17. スポーツのルールは法の体系に似た構造をもつ
18. スポーツは「強いもの」から「弱いもの」へと対象を拡げつつある
19. スポーツは「強いこと」から「美しいこと」へと対象を拡げつつある
20. スポーツは今や人間性の復権へ向かって進む
21. スポーツの生成・発展・衰退の過程は、文化の場面と同じである

### 【評価方法】

出席状況・レポート・単位認定試験によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

使用せず。  
必要に応じて参考資料を配付し、参考書籍を指示する。



## 生き物の世界

石崎宏矩

### 【授業の概要】

地球上には多種・多様な動物や植物が生きているが、それぞれ進化しながら今日の生態系を成している。動物や植物の分類、分布、食性などの基礎知識を学ぶとともに、自然環境保護の視点を視野に入れながら、生き物の世界について講義する。

### 【授業計画】

次のような項目について講義する。○カイコはどうしてクワしか食べないのか○モンシロチョウの雄はどのようにして雌を見分けるか○生物がもっている時計（生物時計）とはどういうものか、時差ボケはどうして起こるか○モンシロチョウの蛹はどのようにして寒い冬をのりこえるか○アヒルのひなは生まれて初めて見た生き物を親として認識し、終生変わらない（刷り込み）。刷り込みの起こる機構は？○生命が地球上に生まれてから40億年、さまざまな生物はどのようにして進化してきたのか、DNAの性質、遺伝子の突然変異、自然淘汰とは。

他に、NHKスペシャル「生命-40億年はるかな旅」他のVTRを放映し、解説を加える。

全体として、生物の進化、近未来における地球上の生命-人間を含めての危機について、正しく理解してもらえるようにつとめる。

### 【評価方法】

出欠、レポート、試験によって総合評価する。欠席した時は、友人のノートを見せてもらって、内容を理解しておくこと。試験問題が、たまたま欠席した日の授業内容だったからといって白紙であれば、特に区別はしない。

### 【テキスト】

進化とはなんだろうか（長谷川真理子著 岩波ジュニア新書）。これを読んで要約をレポートとして提出してもらうことを単位修得のための必須作業として課する。

### 【参考文献・資料】

随時、授業で指示する。図書館に備えつけてあるので、自主的に勉強してほしい。

## 人類と宇宙

安野志津子

### 【授業の概要】

宇宙観の始まり、星の生と死、地球の生成と進化など、日進月歩の宇宙の科学の課題をふまえつつ、人類にとっての宇宙についても考察する。

### 【授業計画】

一地球のまわり、太陽系、銀河系を知り、宇宙を身近に引き寄せるために-

1. 宇宙観の変遷
2. 宇宙を観測する手段
3. 太陽系を探る
4. 星の世界
5. 銀河から宇宙へ
6. 宇宙の始めと未来

毎回プリントを配布し、講義を主とするがその内容を中心としたOHP、ビデオ等も利用する。また、講義に関連した質問を出してもらい次回に解答する。なお、随時ホットな話題も取り入れたい。

### 【評価方法】

基本的には、期末テスト（配布プリント、ノート持ち込み可）によるが、出席状況も考慮して判定する。

### 【テキスト】

使用しない。

### 【参考文献・資料】

- (1) 宇宙論のすべて（池内了 新書館）
- (2) 星と宇宙の物理学読本（並木雅俊 丸善）
- (3) 見えてきた宇宙の神秘（野本陽代 草思社）
- (4) 太陽 -その素顔と地球環境との関わり-（ケネス.R.ラング著 渡辺 堯・桜井邦朋訳 シュプリンガー・フェアラク東京）

## 生き物の世界

服部一三

### 【授業の概要】

地球上には多種・多様な動物や植物が生きているが、それぞれ進化しながら今日の生態系を成している。動物や植物の分類、分布、食性などの基礎知識を学ぶとともに、自然環境保護の視点を視野に入れながら、生き物の世界について講義する。

### 【授業計画】

- 第1回 1. 生物界の分類
2. 生物の進化
- 第2-6回 3. 植物と人の関わり
  - 1) 農耕の始まり
  - 2) 世界の農耕文化
  - 3) 日本農耕文化の起源と発展
4. 人が手を加えた植物-作物
  - 1) 作物とは？
  - 2) 世界の作物の起源
- 第7-8回 5. 作物改良の原理と方法
  - 1) 作物改良の原理
    - (1) メンデルの法則-遺伝学
    - (2) 遺伝の物質的基礎
  - 2) 作物の改良方法
- 第9回 6. バイオテクノロジー
- 第10回 1) バイオテクノロジーとは？
- 第11-12回 2) 作物の改良とバイオテクノロジー
  - (1) 細胞・組織培養
  - (2) 遺伝子操作
  - (3) バイオテクノロジーで得られた作物をいかに考えるか？
    - (1) 倫理
    - (2) 安全性

### 【評価方法】

受講資格についてはあえて問わないが、成績評価には出席点を重視し、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

### 【参考文献・資料】

下記の書籍を参考書籍として使用するが、テキストなどを作成して講義を進めるので、特に買い求める必要はない。

生物的自然と人間（平田豊著 開成出版）

## 生命の科学

林博司

### 【授業の概要】

動物の生命の誕生、生体を構成する物質の生殖と遺伝の仕組み、生命の維持や変異するためのメカニズムと機能などについて講義する。

### 【授業計画】

1. 命の惑星地球
2. 命の理解に必要な物理と化学のエッセンス
3. 命を支える器官
4. 器官を作る細胞。
5. 細胞の仕組み
6. 分子機械としての生命
7. 分子機械の設計図：遺伝子
8. 遺伝子の働き
9. 遺伝子を操作する
10. 細胞を操作する
11. 器官を操作する
12. 遺伝子と環境のかかわり

以上12講を実験・映像資料も用いておこなう。

### 【評価方法】

出席点と小テストの得点で総合的に評価する

### 【テキスト】

指定しない

### 【参考文献・資料】

講義中に適宜触れる



## 環境保護論

田部一史

### 【授業の概要】

現代は地球規模で自然の環境破壊が進んでいる。自然を守り環境を保護する立場から、生物とそれをとりまく外的環境の問題点を、身近な例をあげて講義する。

### 【授業計画】

- 第1講 序論：自然に学ぶ
- 第2講 森林破壊：森はいのちの母である
- 第3講 砂漠化：世界は水を失いつつある
- 第4講 地球温暖化と異常気象：人為による地球の異常
- 第5講 大気汚染と酸性雨：自然も文明も溶かし去る
- 第6講 フロンとオゾンホール：降りそそぐ有害紫外線
- 第7講 いのちのしくみ1：細胞レベル
- 第8講 いのちのしくみ2：個体レベル
- 第9講 環境汚染とがん：人工化学物質の氾濫
- 第10講 環境ホルモン：いのちのつながりを絶つ
- 第11講 生態系のバランス：人の手で壊される自然
- 第12講 生命の多様性：大量絶滅
- 第13講 環境保護：いのちと自然を守る

### 【評価方法】

出席状況、レポートおよび単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

使用せず。必要に応じてプリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

授業中に指示する。

## 暮らしの化学

八代有

### 【授業の概要】

健康で豊かな生活を維持していくには、化学の知識と活用は必要不可欠からざるものである。身近な生活に拘わる化学的な要素について事例をあげて学ぶ。

### 【授業計画】

1. 栄養のバランスと健康増進を考える
2. 食品成分の化学と食品の安全性
3. ビタミンの化学的性質と疾病とのつながり
4. 生活習慣の改善と疾病予防
5. 薬についての正しい認識
6. 薬が生体に影響を与える因子
7. 尿・血液成分のしくみ
8. 暮らしのなかの酵素の働き
9. 話題となった環境公害
10. 生活のなかでの不思議

### 【評価方法】

テストおよび出席状況により総合的に判定する。

### 【テキスト】

テキスト使用せず、プリントを適宜配布する。

## 食品の科学

千葉善根

### 【授業の概要】

基礎的な科学と食品の科学とのかかわり、食品の持つ機能や性質、貯蔵などを学び、食品と酵素の関係や科学物質としての理解を深め、多様化した食生活や加工食品の氾濫の中で生活に役立つ講義をする。

### 【授業計画】

1. 現代食生活の問題点  
食生活の変化と食糧資源について。
2. 糖質と食品  
デンプンの機能と利用、食物せんい、最近の甘味料について。
3. たんぱく質と食品  
変性と加工・調理との関係、加工食品と食物性たんぱく質の利用。
4. 脂質と食品  
脂肪の性質と脂肪酸、油脂の劣化、乳化と乳食品。
5. 無機質と食品  
骨粗鬆症等。
6. ビタミン  
食品加工・調理との関係、生物学的触媒としての働き。
7. 発酵食品  
食品と酵素・微生物との関係。

### 【評価方法】

定期試験にて評価。

### 【テキスト】

使用しない（プリント配布）。

## 文学1（日本）

堀尾幸平

### 【授業の概要】

日本の文学史について概説し、日本文学の特徴や外国文学の影響などについてもふれる。古典から近・現代までの著名な作品や名作も鑑賞し、日本文学への興味と関心を高める。

### 【授業計画】

1. 文学とは何か
2. 明治期の文学
3. 坪内逍遙、二葉亭四迷
4. 三輪弘忠、巖谷小波
5. 大正期の文学
6. 小川未明、鈴木三重吉
7. 千葉省三、浜田廣介
8. 少年詩、童謡、金子みすゞ
9. 昭和期の文学
10. 佐藤紅緑、江戸川乱歩
11. 宮澤賢治
12. 新美南吉、坪田謙治
13. 平成期の文学
14. 創作方法理論
15. 試験

### 【評価方法】

定期試験、レポート、出席状況等によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

新日本児童文学論（堀尾幸平著 中日文化 2,200円）

### 【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。



## 文学2 (中国)

寺尾 剛

### 【授業の概要】

中国の歴史と文化は古く、その影響は世界に与えているが、特に日本文学が受けたものは大きい。中国の代表的な古典を中心に紹介し、鑑賞するとともに、中国文学への興味と関心を高めたい。

### 【授業計画】

毎回、一つのテーマを取り上げ、それにまつわる文学作品を鑑賞していく。

- 1、男装の麗人・木蘭の物語
- 2、和蕃公主・王昭君の物語
- 3、亡国の美女・西施の物語
- 4、万里の長城秘話・孟姜女物語
- 5、詩仙李白と酒の歌
- 6、詩聖杜甫とそのヒューマニズム
- 7、南宋の詩人・陸游～その愛の悲劇
- 8、中国の詩人とその妻～悼亡詩の系譜
- 9、『封神演義』～中国小説の世界
- 10、中国の笑い話～下ネタは下品か？
- 11、『論語』の世界～孔子、人生を語る

などを予定している。

### 【評価方法】

出席、平常点と試験。

### 【テキスト】

プリント

### 【参考文献・資料】

教場で指示する。

## 現代の芸術1 (書道)

森美恵子

### 【授業の概要】

現代の芸術としての書道の意味と意義について概説し、中国や日本の名筆についても鑑賞する。書写は楷書・行書・草書などを書き、技法の向上をはかり、書道への関心を高める。

### 【授業計画】

楷書・行書・草書の古法帖を拡大臨書コピーし、その手本に基づき書写した清書作品を提出する。

書写中心であるが、中国の書論に則り、古法帖の概略等も講ずる。

### 【評価方法】

授業内で提出する平素の成績物及び出席状況等にて総合的に評価する。

### 【テキスト】

書の鑑賞と学び方 (上田桑鳩 教育図書研究会)

## 文学3 (欧米)

小野迪雄

### 【授業の概要】

西洋の文学史や文学思潮を概説し、特にイギリス文学・アメリカ文学を中心に代表的な作品について紹介し、鑑賞して、外国の文学への興味と関心を高める。

### 【授業計画】

本年度はアメリカ文学を中心に講義をする。アメリカは移民の国として、先進国の中では非常に遅い出発をした国であるが、それだけに歴史の古い国にみられる伝統に欠ける面があるものの、他の先進国にみられない文学の活力や著しい特徴がある。アメリカの文学作品には、どんな特質や問題があるのか考えていく。時間の制約上、個々の作品を細かく扱うことが難しいので、中心は作品を生みだした社会的背景や文学思潮におく。話の展開の中でイギリス文学や日本文学にもふれる。

### 【評価方法】

レポートや受講態度を加味するが、評価の中心は定期試験による。

### 【テキスト】

未定。必要に応じてプリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

## 現代の芸術1 (書道)

小川晃治

### 【授業の概要】

現代の芸術としての書道の意味と意義について概説し、中国や日本の名筆についても鑑賞する。書写は楷書・行書・草書などを書き、技法の向上をはかり、書道への関心を高める。

### 【授業計画】

講義、実技を一日の時間内に進める。前後期共通の為、各時代の書美、他の美術、文学の対比についての講義は概論とする。現代社会に於ける書美と、日本人の美意識を探求することを基準として進める。

### 【評価方法】

レポート三種、実技作品、学習態度、出欠状況などによる。

### 【テキスト】

担当者の小文、古典法帖。



## 現代の芸術 2 (音楽)

志水博子

### 【授業の概要】

現代芸術としての音楽の意味と意義について概説し、洋楽・邦楽の名曲についても鑑賞する。音楽に関する基礎や知識を学び、歌唱力や鑑賞力の向上をはかり、音楽への関心を高める。

### 【授業計画】

- 第1回 名演奏家によるオペラのビデオ鑑賞
- 第2回 声の出るしくみを知る
- 第3回 腹式呼吸と身体のつかい方の練習
- 第4回 ビデオ鑑賞
- 第5回 発声練習と歌唱
- 第6回 ビデオ鑑賞
- 第7・8回 ピクニックや集会でのやさしいハーモニーの楽しみ方練習
- 第9～12回 各自の課題による実技発表とアドバイス

### 【評価方法】

授業内での実技演奏（各自の得意とする歌唱又は楽器の演奏、アンサンブル可）と出席状況

### 【テキスト】

楽譜プリントは配布

## 現代の芸術 2 (音楽)

浅田まり子

### 【授業の概要】

現代芸術としての音楽の意味と意義について概説し、洋楽・邦楽の名曲についても鑑賞する。音楽に関する基礎や知識を学び、歌唱力や鑑賞力の向上をはかり、音楽への関心を高める。

### 【授業計画】

- 第1講 音楽について
- 第2講 発声のしくみ
- 第3講 ヴォイストレーニング1（自然体）
- 第4講 音楽療法 1（歴史と機能）
- 第5講 ヴォイストレーニング2（呼吸法）
- 第6講 サウンドスケープ（音の風景）
- 第7講 音楽療法 2（受容性）
- 第8講 音のしくみ1（メロディーとリズム）
- 第9講 ヴォイストレーニング（楽器の確保）
- 第10講 音のしくみ2（コードなど）
- 第11講 音楽と旅
- 第12講～発表

\*音楽の機能を健康的に活かし、自己満足的な音楽ではなく、人とコミュニケーションができる音楽を目指します。

\*発表は、個人・またはグループでジャンルを問わない演奏の発表。（歌・ギター・ピアノ・コンピューターミュージックなど）

### 【評価方法】

実技・感想・出席状況・授業態度

### 【テキスト】

授業中に指示

## 現代の芸術 3 (美術)

横山萬里

### 【授業の概要】

現代芸術としての美術の意味と意義や東西の流派を概説し、西洋や日本の名画についても鑑賞する。美術や絵画への興味と関心を高める。

### 【授業計画】

国宝に指定されている古い絵画あるいは日本の伝統的な絵巻のなかから鳥獣人物戯画を取りあげて日本画の表現、色彩方法を講義する。他、筆ペンにて墨線の模写をしてみる。

また、授業の中で名古屋市内の美術館を訪問し、古画現代画にふれる。

- ・日本画の特徴
- ・鳥獣人物戯画の説明
- ・鳥獣人物戯画における線の強弱と動き
- ・日本画の模写について
- ・日本画の鑑賞

美術館入場料 500円程

筆ペン 500円

費用 計 1,000円

### 【評価方法】

出席状況と感想文レポート（2回提出）線描の模写10種を総合的に評価。

### 【テキスト】

日本の絵巻6「鳥獣人物戯画」  
コピーした図を見る。

### 【参考文献・資料】

無料、用意有

## 現代の芸術 4 (映画)

吉村英夫

### 【授業の概要】

現代芸術としての映画の意味と意義を概説し、映画の歴史についてもふれ、名作を鑑賞する。ヨーロッパやアメリカ映画などとの比較の視点から日本映画の特徴などを講義し、映画への興味と関心を高める。

### 【授業計画】

映画の楽しさを知ろう！ セミ・クラシック映画の魅力を考える。モノクロ映画は見えない学生もいる。黒澤明は誰もが知っているが、彼のダイナミックな映像を見えない学生が意外に多い。欧米、日本を通じて、かつて素晴らしい映画がつけられ、その伝統の上に現代映画が出来上がったことを知りたい。現在の大学生が生まれる以前の映画をセミ・クラシックと考え、優れた映画を参考上映し、その魅力を満喫しながら、映画芸術への理解を深める。古い映画がすばらしいことを知る入門講座としての役割を果たしたい。

参考上映する作品として検討中のもの（予定）

- \* 世界最初の映画、無声映画とチャップリン映画
- \* 『用心棒』（『七人の侍』）黒澤明監督作品
- \* 『砂の器』野村芳太郎
- \* 『幸福の黄色いハンカチ』（『男はつらいよ』）山田洋次
- \* 『生れてはみたけれど』小津安二郎
- \* 『十二人の怒れる男』シドニー・ルメット
- \* 『シェーン』ジョージ・スティーヴンス
- \* 『OK牧場の決闘』ジョン・スタージェス
- \* 『北北西に進路を取れ』アルフレッド・ヒッチコック
- \* 『ウエスト・サイド物語』ロバート・ワイズ
- \* 『ダーティ・ハリー』ドン・シーゲル
- \* 『ロッキー』ジョン・G・アビルドセン
- \* その他

### 【評価方法】

\* 学期末のテスト \* 随時提出のレポート \* 出席 \* テキストは使用しない



## 現代の芸術 4 (映画)

HIGH, Peter B.

### 【授業の概要】

映画の意味と意義を概説し、映画の歴史についてもふれ、名作を鑑賞する。アメリカ映画を題材として使って、映画芸術とは何かを考察

### 【授業計画】

授業のやり方としては、映画(全体又は部分)を見終わってから教室で、ディスカッションを行った後、各自、次の授業までに自分の分析を短い文章(原稿用紙2・3枚程度)にまとめて提出する。

課題:「古典ハリウッド映画」の表現手法

今学期、四つの映画を分析対象とする:

- 1) 「駅馬車」(STAGECOACH, 1939年作品、監督: John Ford)
- 2) 「マルタの鷹」(MALTESE FALCON, 1941年作品、監督: John Huston)
- 3) 「市民ケーン」(CITIZEN KANE, 1941年作品、監督: Orson Welles)
- 4) 「第三の男」(THE THIRD MAN, 1949年作品、監督: Carol Reed)

現代の芸術 4 (映画) の学期末評価は3つの宿題に基づく(学期末試験はない):

- 宿題1: 「マルタの鷹」の対極的分析の図(文章化する必要はない)
- 宿題2: 「市民ケーン」の対極的分析(原稿用紙3-4枚の文章)
- 宿題3: 「第三の男」の対極的分析(原稿用紙3-4枚の文章): この三つの宿題は学期末試験として扱われる

\*今学期学ぶこと:

- 1) 映画分析のための技術:
  - a. セグメンテーション(SEGMENTATION=映画を見ながら、ノーツの取り方)
  - b. 対極的分析法(映画ドラマにおける対立、競争、衝突などに焦点を絞って、ドラマの構造を分析すること)
- 2) 典型的なハリウッド映画(1930年代から現在の「スター・ウォーズ」や「ターミネーターIII」等)にいたるまでのスタイルとストーリーの語り方:
  - a. 「因果的關係」とドラマの盛り上げ方
  - b. FABULA (ファビュラ) = 観客が頭の中で作る「映画のストーリーの世界」対SUZHET (シュージェット、つまり「プロット」) = 画面から与えられた「映画のストーリーの世界」を作るための「材料」や「セント」
  - c. ハリウッド映画はどうやって「リアリズム」の感覚を作り上げるのか
  - d. ハリウッド映画を見ている時に、どうして観客は「自分が映画を見てるんだ」ということを忘れるのか
- 3) ハリウッド映画におけるGENRE (ジャンル) の役割

### 【評価方法】

出席と宿題によって、評価される

### 【テキスト】

テキストはありません。教材は適時配布します。

## 伝統芸能

林 和利

### 【授業の概要】

国際化が進み、さまざまな異文化にふれる機会も多くなったが、日本の伝統文化にも目を向けることが大切だ。伝統文化の中でも芸能・演劇を中心に講義する。舞楽・能・狂言・歌舞伎・文楽など、実際の舞台をビデオ等で確認しつつ、その歴史や演技・作品などについて講じる。

### 【授業計画】

1. 授業の目的と方針を提示。
2. 日本芸能演劇史概説
3. 芸能の発生について
4. 神楽について
5. 伎楽・舞楽・散楽について
6. 田楽について
7. 猿楽について
8. 能について
9. 狂言について
10. 歌舞伎について
11. 文楽について

また、学外の舞台芸術を有料で鑑賞することもありうる。

### 【評価方法】

出席状況と単位認定試験により総合的に評価する。

### 【テキスト】

日本文化論序説(林和利著 青山社)

## 現代の芸術 5 (演劇)

海上宏美

### 【授業の概要】

現代芸術としての演劇の意味と意義について概説し、ヨーロッパや日本の演劇の歴史についてもふれる。内外の代表的な演劇について解説し、演劇への興味と関心を高める。

### 【授業計画】

1. 現代芸術としての演劇は多様であるため、演劇を軸としながら国内外のダンス、パフォーマンス、アートを重要な参照項として見ていく。
2. 身体を用いる表現であるため現代の思想やジェンダーとも切り離して考えることはできないので、その関わりを探っていく。
3. 戯曲=テキストの存在が演劇にとって大きな要素なので、演劇における戯曲=テキストの位置の変遷を概説する。
4. 演劇が行われる「劇場」というものがどのような時代思潮を具現しているものなのかを、ヨーロッパと日本の劇場を比較しつつ検討する。
5. 演技というものを身体と言語の関係から見直し、演技というものの在り方を歴史的視点から批評的に見ていく。

授業は上演ビデオや参考スライドを鑑賞しながら進めていく。

### 【評価方法】

レポートの提出と出席状況で評価する。また、実際に劇場等で上演される現代の上演芸術(演劇に限定しない)を見ることを求める。

### 【テキスト】

テキストは使用しない。

### 【参考文献・資料】

授業内で適宜指示する。

## 現代マナー論

近藤乃美子

### 【授業の概要】

人間関係の円滑な親和を保つために必要な基本的マナーを学ぶ。身近な実例をとりあげて講義する。

### 【授業計画】

講義方式による。授業中、適宜プリントを配布する。

1. マナーの基本
2. 会話と傾聴
3. 身だしなみとおしゃれ
4. 服装 フォーマルとカジュアル
5. 訪問と応接 和風
6. " " 洋風
7. 茶菓のマナー
8. 贈答のマナー
9. 冠婚のマナー
10. 葬祭のマナー
11. 食事のマナー
12. パブリックマナー

### 【評価方法】

出席状況、授業態度、期末試験等により総合的に評価する。

### 【テキスト】

テキストとしては使用しない。

### 【参考文献・資料】

参考文献・資料はなし。



## 文章表現

青木 健

### 【授業の概要】

マルチメディアの発達で文章を書く機会が少なくなっているため、自らの意思を文章で表現することが苦手な人も増えている。文章を作り、書くために必要な基礎知識や構成について具体例を示しながら講義する。

### 【授業計画】

第1回 人は言葉の織物である。(伝達と表現1)

第2回 現代の口語表現について。(伝達と表現2)

第3回～9回

例文をテキストに、文章の構成、語法、リズム、形容修辭法など具体的に講義。

第10回～12回

課題を3回提出し、短文(2～5枚、400字語)を書かせ、そこから文章表現についての共通の問題点を抽出する。

### 【評価方法】

出席状況、3回の提出原稿などを基準として評価する。

### 【テキスト】

当方にて用意します。参考書籍は授業中に数冊指示します。

## メディア表現

鎌田基子

### 【授業の概要】

情報化社会の発達と技術の進歩で、さまざまなメディアが新しい表現を生み、文化を形成している。現在あるメディアの構造と伝達の仕組みやかかわりについて、講義と実践をまじえながら考察する。

### 【授業計画】

1. どこからどこまでがメディアなのか
2. 「編集」がもつ創造力
3. 「伝える」と変化する
4. 人を動かす力
5. 自分との対話
6. 「コンセプト」の功罪
7. 共感する/させる
8. 心を開かなければならないとき

ほぼ毎回WORK SHOPを行なう。一項目に関する講義が複数回にわたる場合もあるので、極力遅刻、欠席のないよう注意してもらいたい。

状況により、可能であればゲストを招いての授業も計画する。

### 【評価方法】

レポートによる。

### 【テキスト】

テキストは使用せず、資料を配布する。

## 言語表現

三久保角男

### 【授業の概要】

マルチメディアの発達で人と人が直接的な会話をするのが少なくなり、話すことが苦手な人が増えている。人前で話すことや自分の意志を言葉で伝えるための基礎的な技術を身につける講義をする。

### 【授業計画】

1. 話し言葉概論  
ことばの機能 話し言葉の特徴 共通語と方言
2. 日本語の音声 1 (発声)  
呼吸法 音声器官 発声法
3. 日本語の音声 2 (発音)  
音素 子音 母音 アクセント
4. 話し言葉の表現  
スピード ポーズ イントネーション プロミネンス
5. 話し言葉の実践  
敬語 スピーチ ディベート
6. 朗読

講義が中心になるが、可能な限りの実践を伴う授業にする。

### 【評価方法】

レポート。

### 【テキスト】

必要に応じてプリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

授業中に紹介する。

## 職業と人生

伊藤義明 江原昭善 中村 薫 都築久義 山脇正雄 伊藤義尚  
渡邊一正 高平ゆかり 神谷利徳 石田好江 伊藤健治

### 【授業の概要】

将来の職業選択に当たっての必要事項や現代の企業社会の実態、企業へ就職するための基礎知識などをガイダンスする。

### 【授業計画】

5年～10年先の社会発展を展望したとき、学生に求められる資質、即ち「職業人としての心構え」「学識」「専門的スキル」などを社会の第一線で活躍中の学識経験者とプロフェッショナルによるオムニバス形式の連続講演により、具体的に語ってもらいます。

- |   |       |
|---|-------|
| 第1講：動物の社会と人間の社会   | 4月14日 |
| 講師：江原昭善 京都大学名誉教授 日本福祉大学コミュニティースクール校長                            |       |
| 第2講：仕事をすること(勤労の意味を考える)  | 21日   |
| 講師：中村 薫 文学博士 同朋大学大学院教授  |       |
| 第3講：趣味と仕事   | 28日   |
| 講師：都築久義 愛知淑徳大学教授  |       |
| 第4講：この道一筋(職人の生き方—ものづくりのための人づくり)                                 | 5月12日 |
| 講師：山脇正雄 岐阜大学客員教授 前デンソー工業技術研修センター 所長 (技能オリンピック金メダル選手の指導者)        |       |
| 第5講：自己発見の試み<br>(自分の思考傾向を知り、他者とのコミュニケーション技法を学ぶ)                  | 19日   |
| 講師：伊藤義尚 ブランディングコンサルタント G-Tech.Resource代表                        |       |
| 第6講：多様な働き方(リクルートの専門家が語る)  | 26日   |
| 講師：渡邊一正 リクルート メディアプロデューサー 編集長                                   |       |
| 第7講：専門性を身に付ける(文科系のスキル—女性プロが専門性を身につけるための経験や社会で活躍する人の行動パターンを熟く語る) | 6月2日  |
| 講師：高平ゆかり 株式会社メイツホールディング事業本部副本部長                                 |       |
| 第8講：専門性を身に付ける(その2—プロフェッショナルの世界)                                 | 9日    |
| 講師：神谷利徳 住空間デザイナー 有限会社神谷デザイン事務所 所長 (全国的に著名なフードサービスデザイナーに聞く)      |       |
| 第9講：生涯教育と働く環境   | 16日   |
| 講師：渡邊一正 リクルート メディアプロデューサー 編集長                                   |       |
| 第10講：男女共同参画社会の展望  |       |
| 講師：石田好江 本学現代社会学部教授 本学ジェンダー・女性学研究所 所長                            | 23日   |
| 第11講：国際化と職業選択(外資系企業の特性)   | 30日   |
| 講師：伊藤義明 ACCJ 在日米国商工会議所中部支部ディレクター                                |       |
| 第12講：インターンシップ   | 7月7日  |
| 講師：伊藤健治 日本碍子株式会社 人事部採用研修マネージャー                                  |       |
| 第13講：総括(学生との対話)   | 14日   |

### 【評価方法】

最後に簡単なレポートを提出

### 【テキスト】

原則使用しない—人によりレジメまたはパワーポイント使用



## 生涯学習論

五島敦子

### 【授業の概要】

現代は生涯学習の必要性和重要性が強く説かれている。社会の構造が複雑になるとともに高齢化社会も進む中で、生涯学習の意義と学び方について、身近な事例をふまえて講義する。

### 【授業計画】

1. 生涯学習とは何か
  - (1) 生涯学習の提唱
  - (2) 生涯学習の理念
2. 生涯学習の機会
  - (1) ライフサイクルと生涯学習
  - (2) 社会教育施設の意義
  - (3) 高等教育機関の役割
  - (4) 地域づくりへの参加
  - (5) 子どもの生活と生涯学習
  - (6) 高齢者の学習機会
  - (7) 職場における学習機会
  - (8) 情報化社会における学習情報
3. 現代生涯学習の課題
  - (1) 生涯学習政策の動向
  - (2) 教育改革と生涯学習体系化への移行

### 【評価方法】

レポート、授業内小テスト、出席状況による総合評価

### 【テキスト】

テキストとしては使用しない

### 【参考文献・資料】

生涯学習と社会参加—おとなが学ぶことの意味  
(佐藤一子 東京大学出版会 1998年)  
社会教育と学校シリーズ・生涯学習社会における社会教育  
(鈴木真理・佐々木英和 学文社 2003年)

## 一般心理学

加藤智宏

### 【授業の概要】

心理学の研究対象と研究方法を明らかにし、行動科学としての心理学を展望する。心理学の一般的方法論や心理学の各領域における基礎的知識を概説する。

### 【授業計画】

- a. 知覚と感覚
- b. ノンバーバルコミュニケーション
- c. 愛着
- d. アイデンティティ
- e. 学習と記憶
- f. 忘却と変容
- g. 防衛機制と無意識
- h. 心理療法
- i. 心理テスト
- j. 個人・社会・環境

以上について、それぞれ1～2回の講義を予定しています。

また応用分野として、環境心理学や犯罪心理学についても紹介していく予定です。

### 【評価方法】

出席状況と試験の成績によって総合的に評価します。

### 【テキスト】

使用しません。授業中に資料を配付します。

## 一般心理学

青柳真紀子

### 【授業の概要】

心理学の研究対象と研究方法を明らかにし、行動科学としての心理学を展望する。心理学の一般的方法論や心理学の各領域における基礎的知識を概説する。

### 【授業計画】

1. 無意識の世界
2. 動機づけ
3. ストレスとタイプA性格
4. 錯視の不思議
5. 学習
6. 記憶
7. パーソナリティ
8. 対人関係
9. 態度変容
10. 集団の心理

### 【評価方法】

試験の成績、レポート、出席状況などから総合的に評価する。

### 【テキスト】

随時資料を配布する。

## 一般社会学

長濱一夫

### 【授業の概要】

社会学は人間同士の関係に視座を置いて、個人・社会集団、社会事象について研究する学問である。社会学の領域と一般的研究方法や基礎的知識について概説する。

### 【授業計画】

以下のそれぞれのテーマを主たる切り口とし（順序は入れ替わることがあります）、私たちの社会生活について考えを深めていきたい。

- (1) 社会学とはどんな学問か—個人と社会—
- (2) 都市と農村—地域社会の変容—
- (3) 都市化の進展—その光と陰—
- (4) 人々の暮らし—「出稼ぎ」という暮らし方—
- (5) 現代社会における「豊かさ」と「貧困」  
—国際社会を視野に—
- (6) 高齢化社会と家族

授業は講義形式で行いますが、VTRなども随時、利用していきます。また、人数によっては、意見・感想を求めたり、ディスカッションしてもらうこともあります。

### 【評価方法】

試験（レポートor筆記）および出席状況、平常点によって評価します。

### 【テキスト】

使用しません。



## 法律学

大嶽 浩

### 【授業の概要】

社会生活は「法」という社会規範の中で営まれている。「法」は憲法をはじめ、各種さまざまな領域にわたって制定している。法とは何かという問題を中心に各種の法について概説し、日常生活に関連する法についてもふれる。

### 【授業計画】

1. 法学の入門書と文学作品
2. 法學学習と文学作品
3. 法學学習の方法
4. 法学と政治と文学
5. 法学と活字
6. 法学と批評

### 【評価方法】

試験とレポートによる評価。

### 【テキスト】

使用せず。プリントを配布。

### 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

## 政治学

西尾林太郎

### 【授業の概要】

政治体制や政治制度について概括的に学びながら、現実の政治の動態を日本と諸外国と比較しながら学習する。時事問題や日常的话题にもふれつつ講義を進める。

### 【授業計画】

1. 国内政治と国際政治
  - a 国際社会とは?
  - b 国民国家、ナショナリズム、外国為替
  - c トランス・ナショナル現象、相互依存性の増大
  - d イスラム原理主義とグローバルスタンダード
2. 古典的デモクラシーとマス・デモクラシー
  - a 市民社会と大衆社会
  - b 立憲国家と行政国家
3. 現代の政治過程
  - a 政治と利益団体、NPO
  - b 選挙、官僚、議会
  - c マスメディアとマスコミュニケーション
4. 政治権力とは何か
  - a 人間はどうして支配を受けられるか?
  - b リーダー・シップ、エリート
  - c 支配、被支配の心理
5. 戦後国際社会と日本の政治
  - a 冷戦構造と55年体制
  - b 利権の構造

### 【評価方法】

試験（配布資料と自筆ノートのみ持込可）と出席状況による。

### 【テキスト】

暮らしから考える政治（姜尚中著 岩波ブックレットNo.564）

## 経済学

細野義晴

### 【授業の概要】

経済の仕組みと役割について、マクロ経済とミクロ経済の双方の視点から基礎的知識を学ぶ。日常生活や時事問題としての経済的事象についてもふれ、経済学を身近なものにする。

### 【授業計画】

1. 経済のしくみの全体像  
マクロの経済とミクロの経済、GDP統計のしくみ、など。
2. 日本の経済と景気  
日本経済の発展と構造変化、日本の景気変動、など。
3. 個人の暮らしと経済  
個人の消費行動、消費と貯蓄、など。
4. 企業の経済活動  
企業の投資活動、モノの値段とインフレ・デフレ、など。
5. 政府の経済活動  
財政のしくみと役割、財政事情の悪化と財政再建、など。
6. 金融のしくみと経済  
お金と金融機関の役割、中央銀行の役割と金融政策、金融のビッグバン、など。
7. 日本と世界の経済  
経済のグローバル化と国際収支、外国為替市場と外国為替相場の変動、国際機関の役割、欧州の通貨統合、など。

### 【評価方法】

単位認定試験の成績に出席状況を加味して評価する。

### 【テキスト】

使用しない

### 【参考文献・資料】

- (1) 入門の入門 経済のしくみ（大和総研著 日本実業出版社）
- (2) 図解雑学 マクロ経済学（井堀利宏著 ナツメ社）

## 数学

岡田克彦

### 【授業の概要】

数学は膨大な体系を持つ学問体系であるが、主要な分野の入門的、基礎的な事項を解説する。日常生活はさまざまな数学の恩恵を受けて成り立っているので、暮らしの中の数学といったことにもふれてみたい。

### 【授業計画】

- 以下の各項目について説明し、演習を行う。
- 1 確率
  - 2 統計、偏差値
  - 3 ベクトル
  - 4 微分
  - 5 積分
  - 6 物理学への応用

### 【評価方法】

課題及び試験で評価する。

### 【テキスト】

特に使用しない。随時プリントを配布する。



## 【授業の概要】

人間の生命に関する分野を除く、自然現象を、数量的、法則的に把握し、普遍的法則や原理を見つけ出すという物理学の基礎を学ぶ。身近な現象の中から物理学的な観察や視野を持てる力を涵養する。

## 【授業計画】

講義方式による。実験は行わない。テキスト及び授業中に配布するプリントの記述のうち基本的なものを説明し、物理学への関心を高める。

- 1 はじめに
- 2 運動と力
- 3 振動と波動
- 4 光と電磁波
- 5 かたちと流れ
- 6 熱とエネルギー
- 7 電気と磁気
- 8 相対性理論
- 9 量子力学
- 10 素粒子

## 【評価方法】

おもに期末試験（筆記）による。（毎回出欠席を調査する。欠席回数が多い場合は受験資格を失う。）期中にレポートを提出させた場合は、成績評価に反映させる。

## 【テキスト】

入門ビジュアルサイエンス・物理のしくみ（小暮陽三 日本実業出版社）

## 【授業の概要】

さまざまな情報が氾濫している現代社会は、情報処理の手段として統計学は不可欠である。統計学の基本的な概念と手法を講義し、社会統計が現代社会にどのようにかかわっているか、いかに必要かを講義する。

1. 変数の性質
2. 度数分布
3. 基礎統計量－代表値・散布度・尖度・歪度
4. 正規分布
5. 2変量の関係－相関・回帰・連関
6. 母集団と標本
7. 統計的推定－点推定・区間推定
8. 統計的検定－母平均検定・母分散検定
9. 平均値の差の検定－t検定・分散分析
10. ノンパラメトリック検定

## 【授業計画】

講義の内容については、基本的上記の順に進めるが、受講者の理解・興味に応じて構成していく予定である。また、講義で学んだことについて理解を深めるための課題を随時設ける。

## 【評価方法】

課題の提出とその結果、および定期試験の結果をあわせて評価する。

## 【テキスト】

本当にわかりやすいごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本（吉田寿夫著 北大路書房）

## 【参考文献・資料】

授業中に紹介する。



下記の科目は、本年度開講しません。

## 生物学

### 【授業の概要】

生物の発生、生命、形態、生態、生理、分類など、生物学の各分野の基礎を概説する。身近な生物学的諸問題についてもふれ、生活に役立つ生物学を講義する。



## 英語コミュニケーション1 (TOEIC I)

山田久美子 NORRIS, Harry T. 他

### 【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い国際コミュニケーション英語能力テストTOEICに向けての基礎的な能力を、文法や語彙など基本事項に重点を置いて身につける。

### 【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、文法や語彙などの基本事項の整理を行うのがこの授業の目標である。この目標を達成するために、この授業では、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy (アルクネットアカデミー) の「初級・中級コース」を活用して、文法や語彙などの基本事項を再確認し、その定着を図る。具体的には、以下のよう

- に授業を進める。
1. 受講生による演習問題への解答
  2. 授業担当者による問題解説
  3. 演習問題を利用したディクテーション、シャドーイング、ペア・プラクティスなど
  4. Speed ListeningとSpeed Reading機能を活用した速聴・速読練習
  5. 確認テストの実施
- 「初級・中級コース」のうち、「TOEICテスト演習コース」(10ユニット)と「TOEICテストパート演習コースpart V」(20ユニット)の合計30ユニットを修了させることが目標である。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

### 【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

### 【テキスト】

(長久手キャンパス)

- 13 Grammatical Keys to the TOEIC Test: TOEICテスト頻出文法13ポイント  
(西谷敦子著 朝日出版社)  
TOEIC Test: Grammatical Trainer (大学生のためのTOEICテスト英文法)  
(高山芳樹著 南雲堂)  
以下未定

(星が丘キャンパス)

掲示・配布物にて指示する。

## 英語コミュニケーション3 (Listening II)

石橋千鶴子 NORRIS, Harry T. 他

### 【授業の概要】

英語をより正確に聞き取り、パラグラフや会話文の要点を把握できるようになるための発展的な能力を、LL教材等を用いて演習形式で身につける。

### 【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、会話文・説明文などの内容を正確に把握できるリスニング力を養成することがこの授業の目標である。

この目標を達成するために、さまざまな音声教材、CALLシステムなどを活用し、以下の内容で授業を進める。

1. 英語のリズムとイントネーションの習得
2. 連結・脱落・同化などの聞き取り
3. 数字・地名の聞き取りと、日本人英語学習者が発音・聞き取りを不得手としている音の練習
4. ディクテーション
5. シャドーイング
6. 短文・長文の暗唱
7. ペア・プラクティス

授業で取り上げた教材を、何度も繰り返し声に出して発音する練習を通じて、英語らしいリズムとイントネーションの習得とともに、語彙力と表現力も身につける。英語を頭の中で日本語に置き換えるのではなく、英語を英語として聞き理解できるようにするために、大量・高速の英語を聞く。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

### 【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

### 【テキスト】

掲示・配布物にて指示する。

## 英語コミュニケーション2 (Listening I)

山田久美子 NORRIS, Harry T. 他

### 【授業の概要】

短いフレーズを中心とした英語を正確に聞き取れるようになるための基礎的な能力を、LL教材を用いて演習形式で身につける。

### 【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、基礎的なリスニング力を養成することがこの授業の目標である。この目標を達成するために、音声教材、CALLシステムなどを活用し、以下の内容で授業を進める。

1. 英語のリズムとイントネーションの習得
2. 連結・脱落・同化などの聞き取り
3. ディクテーション
4. シャドーイング
5. 短文・長文の暗唱
6. ペア・プラクティス

様々な場面における対話や応答、状況説明などの聞き取りを通じて、語彙の増強と基本的な英語表現の習得も図る。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

### 【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

### 【テキスト】

(長久手キャンパス)

- A New Approach to Natural English:  
ShadowingによるTOEIC, TOEFL制覇 (矢作三蔵著 開文社出版)  
リスニング・トレーナー: TOEIC対応レベル別練習  
(千田潤一著 朝日出版社)  
Work Sheets for Compact English Listening:  
ワークシート方式リスニングの基本演習 (船田秀佳著 北星堂書店)  
以下未定

(星が丘キャンパス)

掲示・配布物にて指示する。

## 英語コミュニケーション4 (Reading I)

横関美津紀 DYCUS, David C. 他

### 【授業の概要】

英文の内容を早く、正確に読みとれる能力を身につけるために、さまざまなタイプの英文を多読・速読する。

### 【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、英文の内容を早く、正確に読みとれるようになることがこの授業の目標である。具体的には、1分あたり150語以上のスピードで英文を読み、英語を日本語に訳すのではなく、英語を英語として読み、分からない単語があっても前後の文脈から意味を推測し、パラグラフごとの要点を把握するための訓練を行う。速読の訓練には、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy (アルクネットアカデミー) のSpeed Reading機能も活用する。授業は以下の内容で進める。

1. 社会・経済、世界の情報、自然科学、文化、広告文などの実用的な英文などさまざまな分野の英文の読解
2. 語彙力の増強
3. 文法事項の整理
4. 練習問題・確認テストなど

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

### 【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

### 【テキスト】

(長久手キャンパス)

- Exploring Cultural Issues: Practice in the TOEIC Test Format  
(異文化で学ぶTOEICテスト総合演習) (清水義和他著 成美堂)  
5 Minute Quizzes for TOEIC: Reading (TOEICのリーディング対策)  
(木村恒夫他著 マクミラン ランゲージハウス)  
以下未定

(星が丘キャンパス)

掲示・配布物にて指示する。



## 英語コミュニケーション5 (TOEIC II)

松本一喜 DYCUS, David C. 他

### 【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い国際コミュニケーション英語能力テストTOEICに向けての発展的な能力を身につけ、英語の総合力を高めることを目標とする。

### 【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、リスニング力とリーディング力を総合的に向上させることがこの授業の目標である。この目標を達成するために、この授業では、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システム ALC NetAcademy (アルクネットアカデミー) の「スタンダードコース」を活用して、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。具体的には、以下のように授業を進める。

1. 「スタンダードコース」の「レベル診断テスト」の受験 (学生の習熟度にきめ細かく対応するため)
2. 受講生による演習問題への解答
3. 授業担当者による問題解説
4. 演習問題を利用したディクテーション、シャドーイング、ペア・プラクティスなど
5. 確認テストの実施

「スタンダードコース」のうち、「リスニング力強化コース」(50ユニット)と「リーディング力強化コース」(50ユニット)の全100ユニットを修了させることが目標である。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

### 【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

### 【テキスト】

掲示・配布物にて指示する。

## 英語コミュニケーション7 (Oral Communicaton II)

LONG, Jonathan E.B. 他

### 【Course Content】

ネイティブ・スピーカーの教員によって、実用英会話の応用的な力を身に付ける。

This pre-intermediate course, aims to further develop students' English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas. Topics commonly included in TOEIC tests will be used as themes for these oral encounters.

Reading, Writing and Listening tasks will be used only as preparation for oral activities. For example, dialogues and roll plays may be used to set the scene for further discussion. The dialogues may be text based or student designed (i.e. homework).

### 【Schedule】

Topics will include such things as: Leisure and Recreation, The Weather, Advertising, Commuting and Transportation, Banking and Shopping.

### 【Assessment】

25% Attendance  
25% Homework  
50% Class-work/Participation/Tests

### 【Textbooks】

To be announced

## 英語コミュニケーション6 (Oral Communicaton I)

WILLIAMS, Allen D. 他

### 【Course Content】

ネイティブ・スピーカーの教員によって、実用英会話の基礎的な力を身に付ける。

This course aims to develop students' basic English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas. Topics commonly included in TOEIC tests will be used as themes for these oral encounters.

Reading, Writing and Listening tasks will be used only as preparation for oral activities. For example, dialogues and roll plays may be used to set the scene for further discussion. The dialogues may be text based or student designed (i.e. homework).

### 【Schedule】

Topics will include such things as: Office Conversations, Travel Situations, Talking about Occupations, On the Telephone, Eating out and other TOEIC type situational conversations.

### 【Assessment】

25% Attendance  
25% Homework  
50% Class-work/Participation/Tests

### 【Textbooks】

To be announced

## 英語コミュニケーション8 (Reading II)

石橋千鶴子 DYCUS, David C. 他

### 【授業の概要】

さまざまなタイプの英文の内容を正しく把握できるように、英文精読のトレーニングを行う。

### 【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、目的に応じた英文の読み方があることを知り、ある程度のまとまった長さの英文を読みとれるようになることがこの授業の目標である。長い文章は、全体のテーマに行き着くまでに、いくつかのパラグラフが組み合わされてできている。このため、英文の内容を正しく把握するためには、パラグラフごとの要点を把握し、異なるパラグラフが論理的にどのような関係にあるのか、筆者の主張・論点・メッセージは何かを理解する必要がある。授業は以下の内容で進める。

1. 長文の大意把握
2. 語彙力の増強
3. 文法事項の整理
4. 練習問題・確認テストなど

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

### 【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

### 【テキスト】

掲示・配布物にて指示する。



## ASU TOEIC I E

天野純子 太田晶子

### 【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。最高期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

### 【授業計画】

第1回 オリエンテーションおよび模擬演習

第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト

- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
- ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
- ・演習（文法問題・Reading・リスニング）（30分）
- ・問題解説（25分）

第15回 模擬テスト

- \*宿題 読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分  
（合計 7時間×13回＝91時間）
- リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分  
（合計 7時間×13回＝91時間）

### 【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

## ASU TOEIC II E

STEPHENSON, Brett DUNKLEY, Daniel

### 【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。半期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

### 【授業計画】

第1回 オリエンテーションおよび模擬演習

第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト

- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
- ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
- ・演習（リスニング・Reading）（30分）
- ・問題解説（25分）

第15回 模擬テスト

- \*宿題 読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分  
（合計 7時間×13回＝91時間）
- リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分  
（合計 7時間×13回＝91時間）

### 【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

## ASU TOEIC I F

天野純子 太田晶子

### 【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。最高期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

### 【授業計画】

第1回 オリエンテーションおよび模擬演習

第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト

- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
- ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
- ・演習（文法問題・Reading・リスニング）（30分）
- ・問題解説（25分）

第15回 模擬テスト

- \*宿題 読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分  
（合計 7時間×13回＝91時間）
- リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分  
（合計 7時間×13回＝91時間）

### 【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

## ASU TOEIC II F

STEPHENSON, Brett DUNKLEY, Daniel

### 【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。半期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

### 【授業計画】

第1回 オリエンテーションおよび模擬演習

第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト

- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
- ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
- ・演習（リスニング・Reading）（30分）
- ・問題解説（25分）

第15回 模擬テスト

- \*宿題 読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分  
（合計 7時間×13回＝91時間）
- リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分  
（合計 7時間×13回＝91時間）

### 【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。



## 上級英語セミナー 2004A

WRINGER, Paul

### 【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

### 【Schedule】

Topics will be covered over a two to three week period and will include a variety of interesting and motivating themes selected mostly by the teacher.

First semester (AESa)  
Personal information  
Travel & vacations  
Strange phenomena  
Entertainment  
Crime & capital punishment  
Controversy

### 【Assessment】

Assessment will be continual and based on the following criteria:

ATTENDANCE  
CLASS PARTICIPATION / EFFORT  
HOMEWORK AND ASSIGNMENTS  
END OF SEMESTER REPORTS  
TOEIC SCORES

### 【Textbooks】

To be announced.

「上級英語セミナー2004A」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。WRINGER, Paul先生(木曜日1限)、CURRAN, Beverley先生(金曜日5限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

## 上級英語セミナー 2004B

WRINGER, Paul

### 【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

### 【Schedule】

Topics will be covered over a two to three week period and will include a variety of interesting and motivating themes selected mostly by the teacher.

Second semester (AESb)  
The past  
Current events in the news  
Relationships  
Food & Health  
Fashion  
The world of work

### 【Assessment】

Assessment will be continual and based on the following criteria:

ATTENDANCE  
CLASS PARTICIPATION / EFFORT  
HOMEWORK AND ASSIGNMENTS  
END OF SEMESTER REPORTS  
TOEIC SCORES

### 【Textbooks】

To be announced.

「上級英語セミナー2004B」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。WRINGER, Paul先生(木曜日1限)、CURRAN, Beverley先生(金曜日5限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

## 上級英語セミナー 2004A

CURRAN, Beverley

### 【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

### 【Schedule】

Each week, in my class, a different student will be responsible for selecting a topic and introducing a discussion about it in English. The other students will listen with attention and then continue the discussion through their own questions and comments. The goal in each class is to engage in animated discussion for 90 minutes, giving each student an opportunity to grow more comfortable and confident in initiating and continuing a conversation or discussion in English. Special guests will also be invited to the class to talk about themselves with the students in a relaxed and supportive atmosphere.

### 【Assessment】

Assessment will be based on participation and effort.

### 【Textbooks】

No text required.

「上級英語セミナー2004A」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。WRINGER, Paul先生(木曜日1限)、CURRAN, Beverley先生(金曜日5限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

## 上級英語セミナー 2004B

CURRAN, Beverley

### 【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

### 【Schedule】

In the second semester, discussions will continue, and students will be encouraged to take more responsibility for engaging in discussion and offering support to the speaker through a thoughtful consideration of the topic. Each week will be a chance to grow closer as a group of engaged language learners whose communal energy will motivate individual student growth in English ability and self-confidence. Special guests will also be invited to the class to talk to the students in English in a relaxed but lively atmosphere.

### 【Assessment】

Assessment will be based on participation and effort.

### 【Textbooks】

No text required.

「上級英語セミナー2004B」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。WRINGER, Paul先生(木曜日1限)、CURRAN, Beverley先生(金曜日5限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。



## 上級英語セミナー 2004C

横山綾子

### 【授業の概要】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

習得した英語を使い、さらに通訳になるための訓練に進むと、今までの学習内容とは異なったものも要求される事に気がつくでしょう。それは言語の知識、訳出技術に加え論理的思考や外国人と心のcommunicationをしたいと思うか、未知の事柄や社会の問題を知りたいと思う好奇心があるか…等です。

さらに人に頼らず判断し、自分の考えを表現する自主性も大切です。このクラスではニュース記事とテープを使い、時事英語の知識と通訳に欠かせぬFIFO(First in First out)の技術を体得します。さらに自然で美しい日本語への訳し方、学習した時事問題を分かりやすい英語で話す練習もします。

Memoを取りspeedyな訳出も出来るようになって欲しいと思います。最終的には国際的な場面で社会の問題を話し合える知識と技術を身に付ける、そして国際交流に貢献して欲しいと希望します。

### 【授業計画】

第一回

通訳一般概論 Sight translation

第二～十回

The Student Timesからの記事使用(テープ)

Shadowing Sight translationメモ取り

逐次通訳演習

同時通訳入門

### 【評価方法】

出席状況 平常の実技評価 Translation test

### 【テキスト】

The Student Times その他

「上級英語セミナー2004C」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。横山先生(水曜日3限)、Long, Jonathan E.B.先生(木曜日3限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

## 上級英語セミナー 2004D

横山綾子

### 【授業の概要】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

習得した英語を使い、さらに通訳になるための訓練に進むと、今までの学習内容とは異なったものも要求される事に気がつくでしょう。それは言語の知識、訳出技術に加え論理的思考や外国人と心のcommunicationをしたいと思うか、未知の事柄や社会の問題を知りたいと思う好奇心があるか…等です。

さらに人に頼らず判断し、自分の考えを表現する自主性も大切です。このクラスではニュース記事とテープを使い、時事英語の知識と通訳に欠かせぬFIFO(First in First out)の技術を体得します。さらに自然で美しい日本語への訳し方、学習した時事問題を分かりやすい英語で話す練習もします。

Memoを取りspeedyな訳出も出来るようになって欲しいと思います。最終的には国際的な場面で社会の問題を話し合える知識と技術を身に付ける、そして国際交流に貢献して欲しいと希望します。

### 【授業計画】

第一回

通訳一般概論 Sight translation

第二～十回

The Student Timesからの記事使用(テープ)

Shadowing Sight translation メモ取り

逐次通訳演習

同時通訳入門

### 【評価方法】

出席状況 平常の実技評価 Translation test

### 【テキスト】

The Student Times その他

「上級英語セミナー2004D」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。横山先生(水曜日3限)、Long, Jonathan E.B.先生(木曜日3限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

## 上級英語セミナー 2004C

LONG, Jonathan E.B.

### 【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

In this course the students will use all four language skills to explore the similarities and differences between Japanese and North American cultures. The class activities will include some TOEFL test preparation.

### 【Schedule】

Not yet determined.

### 【Assessment】

This will be a combination of attendance, class participation and homework.

### 【Textbooks】

To be announced.

### 【Reference】

To be announced.

「上級英語セミナー2004C」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。横山先生(水曜日3限)、Long, Jonathan E.B.先生(木曜日3限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

## 上級英語セミナー 2004D

LONG, Jonathan E.B.

### 【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

In this course the students will use all four language skills to explore the similarities and differences between Japanese and North American cultures. The class activities will include some TOEFL test preparation.

### 【Schedule】

Not yet determined.

### 【Assessment】

This will be a combination of attendance, class participation and homework.

### 【Textbooks】

To be announced.

### 【Reference】

To be announced.

「上級英語セミナー2004D」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。横山先生(水曜日3限)、Long, Jonathan E.B.先生(木曜日3限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。



## 上級英語セミナー 2004E

WOODMAN, Jo-Anne

### 【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。  
4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

Good translation / interpretation / communication requires, among other things, an extensive knowledge of vocabulary, so this course will require students to demonstrate a vast improvement in their vocabulary - in both written and spoken forms.

Vocabulary lists / tests will be generated from:  
a) teacher presented materials - (ie. CNN and BBC news broadcasts, as well as a wide gamut of newspaper articles)  
b) student research - (students will be required to prepare one newspaper article for class discussion each week - this will include preparing an extensive vocabulary list as well as brief background and contextual information about the article) .  
c) TOEIC vocabulary text / materials

The course will deal with contemporary issues throughout the world, so emphasis will be placed on encouraging the students to improve their general knowledge of world affairs.

Inherent in this course will be the need for the students to "think on their feet", that is to say they will have to glean as much information as they can from class presentations and then ask questions and participate in discussions.

### 【Schedule】

The aim of this course is to discuss up-to-date issues, so the schedule will be determined by the current events of the week. However, students should expect to address social, economic, political, religious, environmental, medical and other such issues.

### 【Assessment】

- Assessment will include the following components:
- 1) Vocabulary tests - 3 types
  - 2) Preparation for (and participation in) class discussions
  - 3) Listening comprehension activities
  - 4) Attendance

「上級英語セミナー2004E」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。WOODMAN, Jo-Anne先生(水曜日4限)、横山先生(火曜日3限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

## 上級英語セミナー 2004F

WOODMAN, Jo-Anne

### 【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。  
4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

Good translation / interpretation / communication requires, among other things, an extensive knowledge of vocabulary, so this course will require students to demonstrate a vast improvement in their vocabulary - in both written and spoken forms.

Vocabulary lists / tests will be generated from:  
a) teacher presented materials - (ie. CNN and BBC news broadcasts, as well as a wide gamut of newspaper articles)  
b) student research - (students will be required to prepare one newspaper article for class discussion each week - this will include preparing an extensive vocabulary list as well as brief background and contextual information about the article) .  
c) TOEIC vocabulary text / materials

The course will deal with contemporary issues throughout the world, so emphasis will be placed on encouraging the students to improve their general knowledge of world affairs.

Inherent in this course will be the need for the students to "think on their feet", that is to say they will have to glean as much information as they can from class presentations and then ask questions and participate in discussions.

### 【Schedule】

The aim of this course is to discuss up-to-date issues, so the schedule will be determined by the current events of the week. However, students should expect to address social, economic, political, religious, environmental, medical and other such issues.

### 【Assessment】

- Assessment will include the following components:
- 1) Vocabulary tests - 3 types
  - 2) Preparation for (and participation in) class discussions
  - 3) Listening comprehension activities
  - 4) Attendance

「上級英語セミナー2004F」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。WOODMAN, Jo-Anne先生(水曜日4限)、横山先生(火曜日3限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

## 上級英語セミナー 2004E

横山綾子

### 【授業の概要】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。  
4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

習得した英語を使い、さらに通訳になるための訓練に進むと、今までの学習内容とは異なったものも要求される事に気がつくでしょう。それは言語の知識、訳出技術に加え論理的思考や外国人と心のcommunicationをしたいと思うか、未知の事柄や社会の問題を知りたいと思う好奇心があるか...等です。

さらに人に頼らず判断し、自分の考えを表現する自主性も大切です。このクラスではニュース記事とテープを使い、時事英語の知識と通訳に欠かせぬFIFO (First in First out) の技術を体得します。さらに自然で美しい日本語への訳し方、学習した時事問題を分かりやすい英語で話す練習もします。

Memoを取りspeedyな訳出も出来るようになって欲しいと思います。最終的には国際的な場面で社会の問題を話し合える知識と技術を身に付ける、そして国際交流に貢献をして欲しいと希望します。

### 【授業計画】

- 第一回  
通訳一般概論 Sight translation  
第二～十回  
The Student Timesからの記事使用(テープ)  
Shadowing Sight translation メモ取り  
逐次通訳演習  
同時通訳入門

### 【評価方法】

出席状況 平常の実技評価 Translation test

### 【テキスト】

The Student Times その他

「上級英語セミナー2004E」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。横山先生(火曜日3限)、WOODMAN, Jo-Anne先生(水曜日4限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

## 上級英語セミナー 2004F

横山綾子

### 【授業の概要】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。  
4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

習得した英語を使い、さらに通訳になるための訓練に進むと、今までの学習内容とは異なったものも要求される事に気がつくでしょう。それは言語の知識、訳出技術に加え論理的思考や外国人と心のcommunicationをしたいと思うか、未知の事柄や社会の問題を知りたいと思う好奇心があるか...等です。

さらに人に頼らず判断し、自分の考えを表現する自主性も大切です。このクラスではニュース記事とテープを使い、時事英語の知識と通訳に欠かせぬFIFO (First in First out) の技術を体得します。さらに自然で美しい日本語への訳し方、学習した時事問題を分かりやすい英語で話す練習もします。

Memoを取りspeedyな訳出も出来るようになって欲しいと思います。最終的には国際的な場面で社会の問題を話し合える知識と技術を身に付ける、そして国際交流に貢献をして欲しいと希望します。

### 【授業計画】

- 第一回  
通訳一般概論 Sight translation  
第二～十回  
The Student Timesからの記事使用(テープ)  
Shadowing Sight translation メモ取り  
逐次通訳演習  
同時通訳入門

### 【評価方法】

出席状況 平常の実技評価 Translation test

### 【テキスト】

The Student Times その他

「上級英語セミナー2004F」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。横山先生(火曜日3限)、WOODMAN, Jo-Anne先生(水曜日4限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。



## 中国語読解 1 A

大森信徳 河井昭乃 曹志偉

### 【授業の概要】

身近な実用読解文を多くとりあげた教材を通じて中国語の初級段階を総合的に学習し、中国語の文法面・表現面における全体像がつかめるような基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の2級に受かることを目標に定め、〈中国漢語水平考試大綱〉に規定された400～900前後の語彙力と70項目の文法力を身につける。このことで、中国語の平易な文面の読解が可能になると同時に、履修翌学期からHSK試験対策コースである〈HSK基礎コースA〉〈HSK基礎コースB〉の履修が可能になる。

### 【授業計画】

- 1、オリエンテーション
- 2、母音、数字、挨拶
- 3、疑問文、形容詞述語文
- 4、子音、声調、曜日表現、
- 5、省略疑問文、疑問詞疑問文
- 6、音節、勧誘表現
- 7、動詞述語文、指示代名詞
- 8、我姓松本。自己紹介
- 9、介詞“和”、副詞“也”“都”
- 10、我的家庭。所有・存在の“有”、名詞述語文
- 11、部分否定文、感嘆表現、変調と軽声
- 12、我們的大学。介詞“給”“在”
- 13、名詞の修飾表現
- 14、我的一天。時の表現、方向補語
- 15、まとめ

### 【評価方法】

出席、平常点、期末試験。

## 中国語会話 1 A

大森信徳 河井昭乃 曹志偉

### 【授業の概要】

分かりやすい実用会話文を多くとりあげた教材を通じて中国語の初級段階を総合的に学習し、中国語の音声面・表現面における全体像がつかめるような基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の2級に受かることを目標に定め、HSK試験センターより出された〈中国漢語水平考試大綱〉に規定された400～900前後の語彙力と70項目の文法力を身につける。このことで、一般的な挨拶・自己紹介などが可能になると同時に、履修翌学期からHSK試験対策コースである〈HSK基礎コースA〉〈HSK基礎コースB〉の履修が可能になる。

### 【授業計画】

初めて中国語を学ぶ学生を対象に日常会話表現の習得を目指す。

- |      |          |
|------|----------|
| 第一課  | 発音 (1)   |
| 第二課  | 発音 (2)   |
| 第三課  | 発音 (3)   |
| 第四課  | 発音 (4)   |
| 第五課  | あいさつ表現   |
| 第六課  | 時間の表し方   |
| 第七課  | 年齢を言う    |
| 第八課  | 家庭を語る    |
| 第九課  | 自分の家を語る  |
| 第十課  | 学校について語る |
| 第十一課 | 趣味について語る |
| 第十二課 | 中国へ行く    |

### 【評価方法】

出席、平常点、期末試験。

### 【テキスト】

愛知淑徳大学生のための中国語会話 1 A・2 (中国語教育委員会編)

### 【参考文献・資料】

教場で指示する。

## 中国語読解 1 B

大森信徳 河井昭乃 曹志偉

### 【授業の概要】

講義の内容等とカリキュラム上の位置づけは〈中国語読解 1 A〉と大同小異であるが、中国語学習に対して特別に関心を示す学生に対して週2回の受講を可能にするため設定された講義である。ただし、文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が〈中国語読解 1 A〉と異なっている教材を使用する。このことで、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広げること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにするを図る。

### 【授業計画】

読解に必要な、基礎的な表現や文法事項を、特に日本人の苦手な部分に重点を置いて、半期にわたって講義する。

- |      |              |
|------|--------------|
| 第一課  | 発音 (1)       |
| 第二課  | 発音 (2)       |
| 第三課  | 発音 (3)       |
| 第四課  | 発音 (4)       |
| 第五課  | 人称代名詞・“是”    |
| 第六課  | 指示代名詞・数詞・量詞  |
| 第七課  | 形容詞と形容詞述語文   |
| 第八課  | 動詞述語文        |
| 第九課  | “有”・年月日      |
| 第十課  | 場所・時間・数量     |
| 第十一課 | 前置詞 (介詞)・“了” |
| 第十二課 | 能願動詞         |

### 【評価方法】

出席、平常点、期末試験。

### 【テキスト】

愛知淑徳大学生のための中国語読解 1 B (中国語教育委員会編)

### 【参考文献・資料】

教場で指示する。

## 中国語会話 1 B

大森信徳 河井昭乃 曹志偉

### 【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは〈中国語会話 1 A〉と大同小異であるが、中国語学習に対して特別に関心を示す学生に対して週2回の受講を可能にするため設定された講義である。ただし、文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定などが〈中国語会話 1 A〉と異なっている教材を使用する。このことで、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広げること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにするを図る。

### 【授業計画】

- 1、オリエンテーション
- 2、今天星期幾？ 曜日と疑問詞利用の疑問文
- 3、我很高興。省略疑問文、形容詞述語文
- 4、我學習中文專業。能願動詞“能”
- 5、現在幾點？ 時間表現、語氣助詞“了”
- 6、我的家庭。介詞“在”
- 7、談天氣。天氣表現、選擇疑問文、感嘆文、
- 8、邀請。假定文、反復疑問文、部分否定文
- 9、中間テスト
- 10、我的大学。伝聞の表現
- 11、找手機。目的語位置換えの“把”、結果補語“到”
- 12、喜歡甚麼？ 過去の経験表現「V+“過”」  
結果や程度表現「V+“得”」
- 13、幫我。能願動詞“會”
- 14、假期做甚麼？ 結果補語“好”
- 15、まとめ

### 【評価方法】

出席、平常点、期末試験。



## 中国語読解 2

大森信徳 河井昭乃 曹志偉

### 【授業の概要】

読解学習を通じて中国語の全体像がつかめる基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の3級に受かることを目標に定め、〈中国漢語水平考試大綱〉に規定された900～1500前後の語彙力と140項目の文法力を身につける。HSK試験対策のためには〈HSK基礎コースA〉か、〈HSK基礎コースB〉と並行した履修が望ましく、基礎能力の深度を深めるためには〈中国語会話2〉と並行した履修が望ましい。

### 【授業計画】

- 1、就要放暑假了。語気助詞“了”、介詞“和”
- 2、伝聞の表現、能願動詞“想”“要”
- 3、暑假回家的一天。完了の表現、結果補語“到”
- 4、使役の表現“讓”
- 5、鈴木一家。能願動詞“会”“能”
- 6、過去の経験表現「V+“過”」
- 7、我家的照片。動作の進行・状態の持続などの表現「V+“着”」
- 8、介詞“離”、連動文
- 9、終於習慣了。感嘆表現2
- 10、自己の意見表示
- 11、我做了一個夢。動作の進行表現の「“在”+V」、程度補語と可能補語
- 12、副詞用法の“地”
- 13、我太幸福了。目的語位置換えの“把”、比較の表現、受身文
- 14、春暇の計画。未完了の表現、許諾の表現
- 15、まとめ

### 【評価方法】

出席、平常点、期末試験。

## HSK 基礎コースA ※聴解中心

大森信徳 河井昭乃 曹志偉

### 【授業の概要】

履修後、HSK基礎試験の2級か3級に受かることを目標に定めた授業である。ねらいの試験で要求される400～1500前後の語彙量とその語彙量に相応する文法力を身につける。

### 【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。各課の文法のポイントは下記の通りである。

- 1.“了”や“过”の使い方など
- 2.“时点”の言い方や“时段”の言い方など
- 3.“小时”や“钟头”の使い方など
- 4.“方位词表”について
- 5.“多会儿”や“哪会儿”の使い方など
- 6.“该”や“应该”の使い方など
- 7.介詞の“朝”、“向”と“往”の使い方
- 8.比較表現について
- 9.“是字句”について
- 10.“愿意”や“想”の使い方など
- 11.“趋向补语”について
- 12.“复合趋向补语”である“下来”や“下去”などの意味について  
授業の予習としてホームページを利用することができる。

### 【評価方法】

出席、平常点、期末試験。

### 【テキスト】

HSK基礎A

## 中国語会話 2

大森信徳 河井昭乃 曹志偉

### 【授業の概要】

主として、身近で分かりやすい実用例文を多くとりあげた会話学習を通じて、中国語の音声面・文法面・表現面における全体像がつかめるような基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の3級に受かることを目標に定め、HSK試験センターより出された〈中国漢語水平考試大綱〉に規定された900～1500前後の語彙力と140項目の文法力を身につける。履修後は、旅先での中国語による買い物などが可能になる。

### 【授業計画】

中国語会話1をクリアした学生が、さらに深く生きた中国語を話せるようになることを目指す。学生が、中国に留学している気分で学習できるように配慮した。

- |      |            |
|------|------------|
| 第一課  | 部屋を借りる     |
| 第二課  | 換金する       |
| 第三課  | 道を尋ねる      |
| 第四課  | 交通機関を利用する  |
| 第五課  | 市場での買い物の仕方 |
| 第六課  | デパート       |
| 第七課  | ホテル        |
| 第八課  | 郵便局        |
| 第九課  | 電話         |
| 第十課  | 中国人宅に訪問する  |
| 第十一課 | レストラン      |
| 第十二課 | スピーチの仕方    |

### 【評価方法】

出席、平常点、期末試験。

### 【テキスト】

愛知淑徳大学生のための中国語会話1A・2（中国語教育委員会編）

### 【参考文献・資料】

教場で指示する

## HSK 基礎コースB ※読解中心

大森信徳 河井昭乃 曹志偉

### 【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは〈HSK基礎コースA〉と大同小異であるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が〈HSK基礎コースA〉で用いる教材と異なっている教材を使用し、習得した文法事項が確実に身につくこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

### 【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。各課の文法のポイントは下記の通りである。

- 1.“我”と“你”；“左右”と“前后”など
- 2.“是”；“语气助词”の“吗”と“呢”など
- 3.“了”；“形容词谓语句”など
- 4.“动词+过”と“形容词+过”；“在”など
- 5.“数量补语”；“头”と“面”など
- 6.“有字句”；结构助詞“地”など
- 7.“量词的重叠”；“把字句”など
- 8.“从”と“离”；“一边～一边～”など
- 9.“都”と“一共”；“程度补语”など
- 10.“被字句”；“在・正・正在”など
- 11.“趋向补语”；“多么”など
- 12.“复合趋向补语”；“是～还是～”など  
授業の予習としてホームページを利用することができる。

### 【評価方法】

出席、平常点、期末試験。

### 【テキスト】

HSK基礎B



下記の科目は、本年度開講しません。

## 中国語読解 3

### 【授業の概要】

読解中心のテキストを用い、更なる意欲で中国語の表現の学習に励み中国語文の読解力と理解力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初等試験の4級に受かることにねらいを定め、1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。HSK試験対策のためには<HSK初等コースA>か、<HSK初等コースB>と並行した履修が、中国語コミュニケーションの深度を深めるためには<中国語会話3>と並行した履修が望ましい。

## HSK 初等コースA ※聴解中心

### 【授業の概要】

履修後、HSK初等試験の4級に受かることを目標に定めた授業である。ねらいの試験で要求される1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法力をマスターしていく。

## 中国語読解 4

### 【授業の概要】

読解中心のテキストを用い、更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語の読解力と理解力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初・中等試験の5級に受かることにねらいを定め、2000～2500前後の語彙量とそれに相応する文法力を身につける。HSK試験対策のためには<HSK中等上級コースA>か、<HSK中等上級コースB>と並行した履修が、中国語コミュニケーションの深度を深めるためには<中国語会話4>と並行した履修が望ましい。

## HSK 中等上級コースA ※聴解中心

### 【授業の概要】

履修後、HSK初・中等試験の5級に受かることを目標に定めた授業である。ねらいの試験で要求される2000～2500前後の語彙量とそれに相応する文法力をマスターしていく。

## 中国語会話 3

### 【授業の概要】

第二外国語として一年間ほど中国語を学んできた学習者が、生活において日常的に取りあげられる話題を中心に構成された会話のテキストを用い更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語によるコミュニケーション能力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初等試験の4級に受かることにねらいを定め、1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。履修後は家族生活・大学生活などについて語る事ができる。

## HSK 初等コースB ※読解中心

### 【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは<HSK初等コースA>と大同小異であるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK初等コースA>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

## 中国語会話 4

### 【授業の概要】

1. 5年間ほど中国語を学んできた学習者が、生活において日常的に取りあげられる話題を中心に構成された会話のテキストを用い更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語によるコミュニケーション能力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初・中等試験の5級に受かることにねらいを定め、2000～2500前後の語彙量とそれに相応する文法力を身につける。履修後は趣味生活・地域社会などについて語る事ができる。

## HSK 中等上級コースB ※読解中心

### 【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは<HSK中等上級コースA>と大同小異であるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK初等コースA>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。



## 中国語作文1

### 【授業の概要】

第二外国語として2年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心に習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、みずから平易な中国語文章が書けることにねらいをさだめる。さらに、HSK中等試験の6級または7級に受かることを目標にし、2500~3500前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。

## HSK 中等高級コース1 B ※読解中心

### 【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは< HSK 中等高級コース1 A >と大同小異であるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が< HSK 中等高級コース1 A >で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

## 中国語作文2

### 【授業の概要】

2. 5年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心に習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、中国語の一般的な文章が書けることにねらいを定める。さらに、HSK中等試験の7級または8級に受かることを目標にし、3500~4000前後の語彙量とそれに相応する文法項目を身につける。履修後は、友人・知人への略式手紙、中国官公署向けの書類作成、中国語による日記・メモの作成などが可能になる。

## HSK 中等高級コース2 B ※読解中心

### 【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは< HSK 中等高級コース2 A >と大同小異であるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が< HSK 中等高級コース2 A >で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

## HSK 中等高級コース1 A ※聴解中心

### 【授業の概要】

履修後、HSK中等試験の6級または7級に受かることを目標に定めた授業である。ねらいの試験で要求される2500~3500前後の語彙量とそれに相応する文法力をマスターしていく。

## 同時通訳入門1

### 【授業の概要】

第二外国語として2年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心に習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、初歩的な同時通訳ができる実力を養成する。ねらいは、高度な中国語の運用能力を身につけ、実社会で中国語を使った仕事ができることに定める。さらに、HSK中等試験の6級または7級に受かることを目標にし、2500~3500前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。

## HSK 中等高級コース2 A ※聴解中心

### 【授業の概要】

履修後、HSK中等試験の7級または8級に受かることを目標に定めた授業である。ねらいの試験で要求される3500~4000前後の語彙量とそれに相応する文法力をマスターしていく。

## 同時通訳入門2

### 【授業の概要】

2. 5年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心に習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、平易な同時通訳ができる実力を養成する。ねらいは、高度な中国語の運用能力を身につけ、実社会で中国語を使った仕事ができることに定める。さらに、HSK中等試験の7級または8級に受かることを目標にし、3500~4000前後の語彙量とそれに相応する文法項目を身につける。HSK試験対策のためには< HSK 中等高級コース2 A >か、< HSK 中等高級コース2 B >と並行した履修が、中国語表現の深度を深めるためには< 中国語作文2 >と並行した履修が望ましい。



## 情報技術基礎Ⅰ

西荒井学 他

### 【授業の概要】

情報技術に関する基礎的かつ実践的な知識ならびに技法を習得する。このため、基本的なハードウェア構成および各周辺機器の機能や特徴をはじめ、ソフトウェアの役割、情報社会の特質や問題点にも触れながら、一般的な情報関連知識ならびに情報倫理観を育てる。特に、情報技術の基礎として不可欠なネットワーク利用技術ならびにデータ処理操作技術について、コンピュータ実習を通じて学習する。

### 【授業計画】

1. コンピュータの歴史、原理
2. 情報の表現（2進数、16進数）
3. ハードウェアの仕組みとソフトウェアの役割
4. 情報社会と情報倫理1（ネットワーク犯罪）
5. 情報社会と情報倫理2（情報セキュリティ、知的所有権）
6. 情報収集と分析
7. 情報ツールとマナー
8. インターネット基本操作1（電子メール）実習
9. インターネット基本操作2（WWW）実習
10. EXCEL基本操作1 実習
11. EXCEL基本操作2 実習
12. EXCEL基本操作3 実習
13. EXCEL基本操作4 実習

当該科目については、科目履修前に情報技術に関するテストを実施し、受講者を初級クラスと上級クラスに分け、授業を実施していく。また、講義とコンピュータ実習とを約半々の割合で授業を進行していく。コンピュータ実習を伴うため、授業への出席は不可欠な要素である。また、実習の際にはフロッピー・ディスク（またはMO）を必ず持参すること。

### 【評価方法】

出席状況、学期末試験ならびに各コンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

### 【テキスト】

未定

## 情報技術基礎Ⅲ

梅田敏文 他

### 【授業の概要】

情報技術基礎Ⅰ、情報技術基礎Ⅱを踏まえ、Windowsの高度操作、WORD、EXCELの高度操作、ACCESSの基本操作を学び、より高度で広範囲な情報技術の知識とスキルを習得する。当授業では、レポートや論文作成、ビジネス文書や表作成などを想定して、実践的なノウハウをコンピュータ実習によって学習する。

### 【授業計画】

1. デスクトップの高度操作
2. ファイルの高度操作
3. ネットワークの操作
4. 学術文書、ビジネス文書の操作（WORD）
5. ビジネス情報処理（EXCEL）
6. マクロ操作（1）
7. マクロ操作（2）
8. ACCESSの概要
9. ACCESSの基本操作（1）
10. ACCESSの基本操作（2）
11. ACCESS総合演習（1）
12. ACCESS総合演習（2）
13. まとめ

### 【評価方法】

コンピュータ実習を中心に授業を進行する。授業を欠席すると実習内容が理解できなくなるので出席が不可欠である。出席状況、学期末試験、課題内容によって評価する。

### 【テキスト】

未定

## 情報技術基礎Ⅱ

西荒井学 他

### 【授業の概要】

情報技術の基礎となる基本ソフトウェアならびに応用ソフトに関する知識ならびに技法を習得する。また、情報の処理能力や創造力を培うだけではなく、情報の表現方法や表現手段について、コンピュータ実習授業を通して学習していく。このため、基本的な文書書式、文書表現の方法や特徴をはじめ、実際にプレゼンテーション・ツールを利用した発表の手段や方法についても学習する。情報技術基礎Ⅰと同様、今後のより専門的な情報技術に関する知識ならびに技能習得に向けての礎を築く、基盤となる授業科目である。

### 【授業計画】

1. Windows基本操作1（キー・タイピングを含む）実習
2. Windows基本操作2 実習
3. WORD基本操作1 実習
4. WORD基本操作2 実習
5. WORD基本操作3 実習
6. WORD基本操作4 実習
7. プレゼンテーションの概要
8. POWERPOINT基本操作1 実習
9. POWERPOINT基本操作2 実習
10. POWERPOINT基本操作3 実習
11. 総合課題（プレゼンテーション資料作成1）実習
12. 総合課題（プレゼンテーション資料作成2）実習
13. 情報発信の管理と運用

当該科目については、情報技術基礎Ⅰと同じく、受講者を初級クラスと上級クラスに分け、授業を実施していく。また講義とコンピュータ実習とを約半々の割合で授業を進行していく。コンピュータ実習を伴うため、授業への出席は不可欠な要素である。また、実習の際にはフロッピー・ディスク（またはMO）を必ず持参すること。

### 【評価方法】

出席状況、学期末試験ならびに各コンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

### 【テキスト】

未定

## ネットワーク技術入門

三和義秀 他

### 【授業の概要】

ネットワーク（network）という言葉は、人間を中心とする情報交換の仕組みとして使われたり、コンピュータを中心とする情報通信の仕組みにおいて使われたりしているが、両者には「情報のやり取り」という義的な目的が存在し、ネットワークを流れるデータは人間の行動を左右する必要不可欠な情報となっている。本授業では、コンピュータネットワークに関する理論と技術の両側面における基礎知識を習得し、ホームページの作成、およびCGIプログラミングの実習によって、ネットワークの基本的な考え方、意義、活用方法、有効性を体得する。

### 【授業計画】

1. ネットワーク理論の基礎知識（1）：ネットワークの仕組みとその意義
2. ネットワーク理論の基礎知識（2）：情報量と通信速度、プロトコル
3. ネットワーク技術の基礎知識（1）：LANの仕組み
4. ネットワーク技術の基礎知識（2）：サーバの種類と仕組み
5. ネットワーク技術の基礎知識（3）：IPアドレスとファイアウォール
6. HTMLとホームページ（1）：HTMLの仕組み
7. HTMLとホームページ（2）：基本タグの設定、ハイパーリンクの設定、画像の表示
8. HTMLとホームページ（3）：サウンドの再生と動画の再生、ファイルの管理方法
9. CGIプログラミング（1）：CGIの仕組みとPerlプログラミングの基礎知識
10. CGIプログラミング（2）：エディタとFTP、パーミッションの設定
11. CGIプログラミング（3）：formタグによるデータ入力フォームの作成
12. CGIプログラミング（4）：環境変数、関数、文字列変換
13. セキュリティと情報倫理：セキュリティ対策と情報倫理の意味と必要性

### 【評価方法】

出席回数、課題提出、期末試験によって総合評価を行う。

### 【テキスト】

ネットワークリテラシー ユビキタス社会におけるネットワーク活用のテクニック（三和義秀著 共立出版）



## 情報処理技術特殊 I

中野雅晴

### 【授業の概要】

基本情報技術者試験合格のための教育科目である。

情報技術全般の基礎知識を活用し、情報システム開発においてプログラムの設計・開発を行うとともに、将来高度な技術者をを目指す者として、以下の知識・能力を身につける。

- 1) 情報技術全般に関する基本的な用語・内容の知識
- 2) 上位技術者の指導のもとにプログラム設計書を作成する能力
- 3) プログラミングに必要な論理的思考能力
- 4) プログラムのテスト手法を理解し実施する能力

### 【授業計画】

- ステップ1 コンピュータ科学基礎
- ステップ2 データベース技術
- ステップ3 コンピュータシステムの開発と運用
- ステップ4 ネットワーク技術
- ステップ5 情報と経営
- ステップ6 セキュリティと標準化

### 【評価方法】

出席状況・小テストなどで評価する。

### 【テキスト】

授業中に指示する。

## 情報処理技術特殊 II

中野雅晴

### 【授業の概要】

ソフトウェア開発技術者試験合格のための教育科目である。

情報システム開発のソフトウェア開発技術者として、外部仕様に基づいて内部設計・プログラム設計・プログラム開発を行い、高品質なソフトウェアを開発するための、以下の知識・能力を身につける。

- 1) ネットワーク、データベース、システム構成などの情報技術に関する一般的な知識と、上位技術者の指導のもとに情報システムの設計ができる能力
- 2) 内部設計書・プログラム設計書の作成能力
- 3) プログラミングに必要な高度の論理的思考能力
- 4) ネットワーク、データベースなどに関する実装技術と知識
- 5) プログラムのテスト手法を熟知し、単体テスト・結合テストの計画と管理が行え、テストの実施についてはプログラム開発要員を指導できる能力

### 【授業計画】

- ステップ1 コンピュータ科学基礎上級
- ステップ2 コンピュータシステム上級
- ステップ3 システムの開発と運用
- ステップ4 ネットワーク技術
- ステップ5 データベース技術
- ステップ6 セキュリティと標準化

### 【評価方法】

出席状況・小テストなどで評価する。

### 【テキスト】

授業中に指示する。

## 情報処理技術特殊 III

黒部晃一

### 【授業の概要】

「画像情報技能検定試験 CG 部門 (CG 検定)」の 2 級合格を目標として、その対策を会得する。2 級問題は、3 級レベルの CG に関する総合的な知識の他に、厳密な理論的知識をも要求されるので、VC による CG プログラミングのサンプルを解読することでそれを理解する。

### 【授業計画】

- 配布するサブテキストに基づいて、講義方式で行う。
1. CG 概論、CG 検定試験 2 級対策
  2. 各種 CG ツールの紹介、そのデモンストレーションと作例紹介
  3. VisualC++ による GUI プログラミング
  4. VisualC++ によるインターフェースの設計
  5. 平成15年度前期 CG 検定 2 級試験問題の検証と分析
  6. 平成15年度前期 CG 検定 2 級試験問題の検証と分析
  7. 平成15年度後期 CG 検定 2 級試験問題の検証と分析
  8. 平成15年度後期 CG 検定 2 級試験問題の検証と分析
  9. 平成14年度前期 CG 検定 2 級試験問題の検証と分析
  10. 平成14年度後期 CG 検定 2 級試験問題の検証と分析
  11. 演習
  12. まとめ

### 【評価方法】

出席状況で評価

### 【テキスト】

技術編 CG 標準テキストブック (画像情報教育振興協会)  
平成16年度版 CG 検定 2 級問題集 (画像情報教育振興協会)

### 【参考文献・資料】

- 入門コンピュータグラフィックス (画像情報教育振興協会)
- 基礎から学ぶ VisualC++ プログラミング (山岡祥 CQ 出版社)

## 情報処理技術特殊 IV

黒部晃一

### 【授業の概要】

「画像情報技能検定試験 CG 部門 (CG 検定)」の 1 級合格を目標として、その対策を会得する。1 級問題は、CG プログラミングのスキルを要求されるので、自ら発案するテーマに基づいたプログラミングの実習を行う。

### 【授業計画】

- 前半は講義方式で、後半は主に実習形式で行う。
1. CG 検定試験 1 級の概要と対策
  2. VisualC++ による GUI プログラミング
  3. 平成15年度 CG 検定 1 級試験問題 (マークシート) の検証と分析
  4. 平成15年度 CG 検定 1 級試験問題 (記述式) の検証と分析
  5. 平成15年度 CG 検定 1 級試験問題 (二次試験) の検証と分析
  6. 平成15年度 CG 検定 1 級試験問題 (二次試験) の検証と分析
  7. 平成15年度 CG 検定 1 級試験問題 (三次試験) の検証と分析
  8. 平成15年度 CG 検定 1 級試験問題 (三次試験) の検証と分析
  9. 自ら提議したテーマに基づいたプログラミング実習
  10. 自ら提議したテーマに基づいたプログラミング実習
  11. 自ら提議したテーマに基づいたプログラミング実習
  12. 自ら提議したテーマに基づいたプログラミング実習、まとめ

### 【評価方法】

出席状況で評価

### 【テキスト】

技術編 CG 標準テキストブック (画像情報教育振興協会)  
平成16年度版 CG 検定 1 級問題集 (画像情報教育振興協会)

### 【参考文献・資料】

- コンピュータグラフィックス理論と実践  
(J.D.Foley, A.v.Dam, S.K.Feiner F.Hughes オーム社)
- 基礎から学ぶ VisualC++ プログラミング (山岡祥 CQ 出版社)



下記の科目は、本年度開講しません。

## プログラミング入門

### 【授業の概要】

システム開発における基本技術であるプログラミング技術について、その基礎知識を習得する。このため、プログラミング言語が持つ特徴ならびに機能の学習からはじめ、データ処理におけるアルゴリズムについての考え方、ならびに最終的なコーディング作業に至るまでの一連のプログラミング工程について学習する。なお、プログラミングに関する理解は、実際のプログラミング作業を経験していくことが不可欠であることから、コンピュータ実習を並行して行う。

## 情報数学入門

### 【授業の概要】

情報の整理、分析、加工といった処理には、基本的な数学的技術の習得が不可欠である。この講義では、高等学校での数学の復習から始めて、情報処理プログラミングに必要な論理数学、情報量と計算量評価、グラフィック処理で必要となる代数幾何の基礎を学ぶ。

## CG 入門

### 【授業の概要】

コンピュータグラフィックス (CG) に関する基礎知識と基礎技術を習得する。CGを効果的に使用した画像・映像は、産業、科学、映画、ゲーム、芸術、教育など多くの分野にみられる。各分野での応用例を紹介した上で、画像・映像についての知識を身につけ、モデリング・レンダリングについての技術を学び、最後にCG作成に必要なハード/ソフトについて概説する。

## 人工知能入門

### 【授業の概要】

人工知能とは何か、その基本的な考え方ならびに基本技術および情報処理について、その基礎知識を習得する。知識工学という言葉から類推されるように、工学的色彩が高い分野であることから、最も基礎的な内容に範囲を絞り、出来る限り理解しやすい形で授業を進行していく。そのため、システム事例や技術応用例に触れていくと共に、今後の技術展開や今後の応用分野についても触れていくこととする。



## 英語コミュニケーション1 (TOEIC I)

山田久美子 横関美津紀 間瀬欣英 村上洋子 天野純子  
中村栄造 鈴木哲至 安田千恵 野口朋香 寺本史子

### 【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い国際コミュニケーション英語能力テストTOEICに向けての基礎的な能力を、文法や語彙など基本事項に重点を置いて身につける。

### 【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、文法や語彙などの基本事項の整理を行うのがこの授業の目標である。この目標を達成するために、この授業では、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy (アルクネットアカデミー) の「初級・中級コース」を活用して、文法や語彙などの基本事項を再確認し、その定着を図る。具体的には、以下のよう

1. 受講生による演習問題への解答
2. 授業担当者による問題解説
3. 演習問題を利用したディクテーション、シャドーイング、ペア・プラクティスなど
4. Speed ListeningとSpeed Reading機能を活用した速聴・速読練習
5. 確認テストの実施

「初級・中級コース」のうち、「TOEICテスト演習コース」(10ユニット)と「TOEICテストパート演習コースpart V」(20ユニット)の合計30ユニットを修了させることが目標である。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

### 【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

### 【テキスト】

〈長久手キャンパス〉

13 Grammatical Keys to the TOEIC Test: TOEICテスト頻出文法13ポイント (西谷敦子著 朝日出版社)

TOEIC Test: Grammatical Trainer (大学生のためのTOEICテスト英文法) (高山芳樹著 南雲堂)  
以下未定

〈星が丘キャンパス〉

掲示・配布物にて指示する。

## 英語コミュニケーション3 (Listening II)

NORRIS, Harry T. DYCUS, David C. 石橋千鶴子 SUTHONS, Philip  
DAVIES, Alun HARRIS, Richard S. MILLER, Samuel  
REINTSMA, Sharell WILLIAMS, Allen D. SMITH, September  
LACEY, Charles F. 野口朋香 寺本史子 福本明子

### 【授業の概要】

英語をより正確に聞き取り、パラグラフや会話文の要点を把握できるようになるための発展的な能力を、LL教材等を用いて演習形式で身につける。

### 【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、会話文・説明文などの内容を正確に把握できるリスニング力を養成することがこの授業の目標である。

この目標を達成するために、さまざまな音声教材、CALLシステムなどを活用し、以下の内容で授業を進める。

1. 英語のリズムとイントネーションの習得
2. 連結・脱落・同化などの聞き取り
3. 数字・地名の聞き取りと、日本人英語学習者が発音・聞き取りを不得手としている音の練習
4. ディクテーション
5. シャドーイング
6. 短文・長文の暗唱
7. ペア・プラクティス

授業で取り上げた教材を、何度も繰り返し声に出して発音する練習を通じて、英語らしいリズムとイントネーションの習得とともに、語彙力と表現力も身につける。英語を頭の中で日本語に置き換えるのではなく、英語を英語として聞き理解できるようになるために、大量・高速の英語を聞く。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

### 【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

### 【テキスト】

掲示・配布物にて指示する。

## 英語コミュニケーション2 (Listening I)

NORRIS, Harry T. JOLLY, James A. 山田久美子 福本明子  
LONG, Jonathan E.B. SUTHONS, Philip DAVIES, Alun HARRIS, Richard S.  
MILLER, Samuel PUDWILL, Larry A. REINTSMA, Sharell WILLIAMS, Allen D.  
中村栄造 鈴木哲至 松本一喜 磯村香里

### 【授業の概要】

短いフレーズを中心とした英語を正確に聞き取れるようになるための基礎的な能力を、LL教材を用いて演習形式で身につける。

### 【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、基礎的なリスニング力を養成することがこの授業の目標である。この目標を達成するために、音声教材、CALLシステムなどを活用し、以下の内容で授業を進める。

1. 英語のリズムとイントネーションの習得
2. 連結・脱落・同化などの聞き取り
3. ディクテーション
4. シャドーイング
5. 短文・長文の暗唱
6. ペア・プラクティス

様々な場面における対話や応答、状況説明などの聞き取りを通じて、語彙の増強と基本的な英語表現の習得も図る。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

### 【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

### 【テキスト】

〈長久手キャンパス〉

A New Approach to Natural English:

ShadowingによるTOEIC、TOEFL制覇 (矢作三蔵著 開文社出版)

リスニング・トレーナー: TOEIC対応レベル別練習

(千田潤一著 朝日出版社)

Work Sheets for Compact English Listening:

ワークシート方式リスニングの基本演習 (船田秀佳著 北星堂書店)

以下未定

〈星が丘キャンパス〉

掲示・配布物にて指示する。

## 英語コミュニケーション4 (Reading I)

NORRIS, Harry T. LONG, Jonathan E.B. DYCUS, David C. 山田久美子  
横関美津紀 SUTHONS, Philip GREENE, Scott R. DAVIES, Alun  
MILLER, Samuel PUDWILL, Larry A. WILLIAMS, Allen D.  
STEPHENSON, Brett 安田千恵 野口朋香 寺本史子

### 【授業の概要】

英文の内容を早く、正確に読みとれる能力を身につけるために、さまざまなタイプの英文を多読・速読する。

### 【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、英文の内容を早く、正確に読みとれるようになることがこの授業の目標である。具体的には、1分あたり150語以上のスピードで英文を読み、英語を日本語に訳すのではなく、英語を英語として読み、分からない単語があっても前後の文脈から意味を推測し、パラグラフごとの要点を把握するための訓練を行う。速読の訓練には、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy (アルクネットアカデミー) のSpeed Reading機能も活用する。授業は以下の内容で進める。

1. 社会・経済、世界の情報、自然科学、文化、広告文などの実用的な英文などさまざまな分野の英文の読解
2. 語彙力の増強
3. 文法事項の整理
4. 練習問題・確認テストなど

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

### 【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

### 【テキスト】

〈長久手キャンパス〉

Exploring Cultural Issues: Practice in the TOEIC Test Format

(異文化で学ぶTOEICテスト総合演習) (清水義和他著 成美堂)

5・Minute Quizzes for TOEIC: Reading (TOEICのリーディング対策)

(木村恒夫他著 マクミラン ランゲージハウス)

以下未定

〈星が丘キャンパス〉

掲示・配布物にて指示する。



## 英語コミュニケーション5 (TOEIC II)

DYCUS, David C. JOLLY, James A. SUTHONS, Philip GREENE, Scott R. DAVIES, Alun HARRIS, Richard S. MILLER, Samuel REINTSMA, Sharell WILLIAMS, Allen D. SMITH, September 鈴木哲至 松本一喜 磯村香里

### 【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い国際コミュニケーション英語能力テストTOEICに向けての発展的な能力を身につけ、英語の総合力を高めることを目標とする。

### 【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、リスニング力とリーディング力を総合的に向上させることがこの授業の目標である。この目標を達成するために、この授業では、本学を導入しているコンピュータを利用した英語学習システム ALC NetAcademy (アルクネットアカデミー) の「スタンダードコース」を活用して、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。具体的には、以下のように授業を進める。

1. 「スタンダードコース」の「レベル診断テスト」の受験 (学生の習熟度にきめ細かく対応するため)
2. 受講生による演習問題への解答
3. 授業担当者による問題解説
4. 演習問題を利用したディクテーション、シャドーイング、ペア・プラクティスなど
5. 確認テストの実施

「スタンダードコース」のうち、「リスニング力強化コース」(50ユニット)と「リーディング力強化コース」(50ユニット)の全100ユニットを修了させることが目標である。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

### 【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

### 【テキスト】

掲示・配布物にて指示する。

## 英語コミュニケーション7 (Oral Communicaton II)

NORRIS, Harry T. LONG, Jonathan E.B. JOLLY, James A. SUTHONS, Philip DAVIES, Alun CAMERON, Leona R. HARRIS, Richard S. MILLER, Samuel REINTSMA, Sharell WILLIAMS, Allen D. SMITH, September

### 【Course Content】

ネイティブ・スピーカーの教員によって、実用英会話の応用的な力を身に付ける。

This pre-intermediate course, aims to further develop students' English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas. Topics commonly included in TOEIC tests will be used as themes for these oral encounters.

Reading, Writing and Listening tasks will be used only as preparation for oral activities. For example, dialogues and roll plays may be used to set the scene for further discussion. The dialogues may be text based or student designed (i.e. homework).

### 【Schedule】

Topics will include such things as: Leisure and Recreation, The Weather, Advertising, Commuting and Transportation, Banking and Shopping.

### 【Assessment】

- 25% Attendance
- 25% Homework
- 50% Class-work/Participation/Tests

### 【Textbooks】

To be announced

## 英語コミュニケーション6 (Oral Communicaton I)

DYCUS, David C. SUTHONS, Philip GREENE, Scott R. DAVIES, Alun HARRIS, Richard S. MILLER, Samuel PUDWILL, Larry A. REINTSMA, Sharell WILLIAMS, Allen D. SMITH, September LACEY, Charles F. DUNKLEY, Daniel GAFFNEY, Sean D.

### 【Course Content】

ネイティブ・スピーカーの教員によって、実用英会話の基礎的な力を身に付ける。

This course aims to develop students' basic English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas. Topics commonly included in TOEIC tests will be used as themes for these oral encounters.

Reading, Writing and Listening tasks will be used only as preparation for oral activities. For example, dialogues and roll plays may be used to set the scene for further discussion. The dialogues may be text based or student designed (i.e. homework).

### 【Schedule】

Topics will include such things as: Office Conversations, Travel Situations, Talking about Occupations, On the Telephone, Eating out and other TOEIC type situational conversations.

### 【Assessment】

- 25% Attendance
- 25% Homework
- 50% Class-work/Participation/Tests

### 【Textbooks】

To be announced

## 英語コミュニケーション8 (Reading II)

DYCUS, David C. 石橋千鶴子 横関美津紀 SUTHONS, Philip CAMERON, Leona R. WILLIAMS, Allen D. 間瀬欣英 村上洋子 天野純子 中村栄造 鈴木哲至 山田久美子

### 【授業の概要】

さまざまなタイプの英文の内容を正しく把握できるように、英文精読のトレーニングを行う。

### 【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、目的に応じた英文の読み方があることを知り、ある程度のまとまった長さの英文を読みとれるようになることがこの授業の目標である。長い文章は、全体のテーマに行き着くまでに、いくつかのパラグラフが組み合わせられてきている。このため、英文の内容を正しく把握するためには、パラグラフごとの要点を把握し、異なるパラグラフが論理的にどのような関係にあるのか、筆者の主張・論点・メッセージは何かを理解する必要がある。授業は以下の内容で進める。

1. 長文の大意把握
2. 語彙力の増強
3. 文法事項の整理
4. 練習問題・確認テストなど

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

### 【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

### 【テキスト】

掲示・配布物にて指示する。



## 英語活用1 (Writing I)

石橋千鶴子

### 【授業の概要】

パラグラフ・ライティングの指導を中心とした英語総合演習。

英文の基本であるパラグラフの構成と、その中でいかにしてトピックを展開させるかを学ぶ。パラグラフの構成とフォームを理解した後、サマリー・ライティングやレター・ライティングの実践を通して、ライティング運用能力を身につける。

### 【授業計画】

パラグラフ構成について指導を行った後、英語ビデオ教材を使い、内容把握のための活動を英語で行っていく。最後にサマリー・ライティングで仕上げ、パラグラフ構成の定着を目指す。また、与えられたトピックで英文を書く機会も多くする。

語い・表現の増強と読解力養成のため、英字新聞記事の講読も行う。

### 【評価方法】

ライティングの課題、平常の勉学状況および期末試験により評価を行う。

### 【テキスト】

英字新聞記事のコピーなどを配布。

## 英語活用2 (Writing II)

DYCUS, David C.

### 【Course Content】

The purpose of this course is to help students move from paragraph writing (which they should already have studied) to the writing of short essays. Students taking this course will use themes presented and discussed in class as the starting point for their own informative and persuasive short essays. (The narrative essay, however, will not be a focus.) They will practice writing effectively using different text types in different genres of text. Techniques for logical argumentation and text development will be an ongoing focus.

### 【Schedule】

Early lessons will review the basics of paragraph writing and the common text types which are often practiced at the paragraph level. The following lessons will exploit the basic notions gained through paragraph writing as they apply (in a general way) to short essay writing.

### 【Assessment】

Assessment will be based on 1) attendance and participation in classroom activities, 2) homework assignments done in preparation for longer writing assignments, and 3) a mid-term and end-of-term essay on a topic agreed upon by the instructor.

### 【Textbooks】

To be announced.

## 英語活用3 (Speech&Presentation)

LEWIS, Paul

### 【Course Content】

This course will teach students how to make presentations and speeches of various kinds, including for business purposes. We will learn and practice how to make the most of our voice, gesture, and body language. We also learn how to integrate this with audio-visual aids, particularly presentation software. The course will be given mostly in English.

### 【Schedule】

- 1-9: Presentation techniques (including PowerPoint)
- 10-12: Project work; preparing & developing own presentation

### 【Assessment】

Assessment will be according to: attendance, class participation, project work, practice presentations, and final presentation.

### 【Textbooks】

TBA

## 英語活用4 (Business English)

大鐘洋司郎

### 【授業の概要】

商社、外資系会社、製造業者、外国為替銀行、海運会社、航空貨物会社、国際運送会社や保険会社などに就職しようとする学生に役に立つ体験から帰納した内容をやさしく解説。

海外からの商品の物流、代金決済方法の理解は一般企業就職希望者にも役に立つ。

授業担当者は全米最大の小売業者シアーズ社などとの取引経験から、教科書の事例を解説し、英語ビジネスコミュニケーションの手法を学ぶ。

TOEICにも役立つ体験的英語上達法。

### 【授業計画】

- 第1回 何を学習するか。レター・フォーマットの解説。その他。
- 第2回 海外取引先紹介依頼及び取引先紹介者への礼状
- 第3回 信用照会及びその返信
- 第4回 取引開始申し込み
- 第5回 ビデオ視聴 (内容は下記参照)
- 第6回 一般取引条件協定書の交換
- 第7回 基本貿易価格 FOB 及び CIF
- 第8回 オファー、価格表及びカウンターオファー
- 第9回 発注及びその確認
- 第10回 注文書、売約書の送付
- 第11回 信用状修正依頼及び受領確認
- 第12回 船積みに関して
- 第13回 ビジネス英会話 (時間と受講生数次第で実行)

### 【評価方法】

出席状況・定期試験・その他による。  
授業に取り組む積極性も評価する。

### 【テキスト】

ケーススタディで学ぶ英文ビジネス文書のライティングとプレゼンテーション再増補版 (大鐘洋司郎他 嵯峨野書院 税込 2,625円)  
ビデオ「貿易実務の基礎知識」又は「外国為替について」  
授業担当者作成資料 (プリント教材その他)



## 情報技術基礎Ⅰ

西荒井学 佐藤篤司 小林久恵 奥村和則 加藤浩樹

### 【授業の概要】

情報技術に関する基礎的かつ実践的な知識ならびに技法を習得する。このため、基本的なハードウェア構成および各周辺機器の機能や特徴をはじめ、ソフトウェアの役割、情報社会の特質や問題点にも触れながら、一般的な情報関連知識ならびに情報倫理観を育てる。特に、情報技術の基礎として不可欠なネットワーク利用技術ならびにデータ処理操作技術について、コンピュータ実習を通じて学習する。

### 【授業計画】

1. コンピュータの歴史、原理
2. 情報の表現（2進数、16進数）
3. ハードウェアの仕組みとソフトウェアの役割
4. 情報社会と情報倫理1（ネットワーク犯罪）
5. 情報社会と情報倫理2（情報セキュリティ、知的所有権）
6. 情報収集と分析
7. 情報ツールとマナー
8. インターネット基本操作1（電子メール）実習
9. インターネット基本操作2（WWW）実習
10. EXCEL基本操作1 実習
11. EXCEL基本操作2 実習
12. EXCEL基本操作3 実習
13. EXCEL基本操作4 実習

当該科目については、科目履修前に情報技術に関するテストを実施し、受講者を初級クラスと上級クラスに分け、授業を実施していく。また、講義とコンピュータ実習とを約半々の割合で授業を進行していく。コンピュータ実習を伴うため、授業への出席は不可欠な要素である。また、実習の際にはフロッピー・ディスク（またはMO）を必ず持参すること。

### 【評価方法】

出席状況、学期末試験ならびに各コンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

### 【テキスト】

未定

## 情報技術基礎Ⅱ

三和義秀 佐藤篤司 小林久恵 奥村和則 岡川卓詩

### 【授業の概要】

情報技術の基礎となる基本ソフトウェアならびに応用ソフトに関する知識ならびに技法を習得する。また、情報の処理能力や創造力を培うだけではなく、情報の表現方法や表現手段について、コンピュータ実習授業を通して学習していく。このため、基本的な文書書式、文書表現の方法や特徴をはじめ、実際にプレゼンテーション・ツールを利用した発表の手段や方法についても学習する。情報技術基礎Ⅰと同様、今後のより専門的な情報技術に関する知識ならびに技能習得に向けての礎を築く、基盤となる授業科目である。

### 【授業計画】

1. Windows基本操作1（キー・タイピングを含む）実習
2. Windows基本操作2 実習
3. WORD基本操作1 実習
4. WORD基本操作2 実習
5. WORD基本操作3 実習
6. WORD基本操作4 実習
7. プレゼンテーションの概要
8. POWERPOINT基本操作1 実習
9. POWERPOINT基本操作2 実習
10. POWERPOINT基本操作3 実習
11. 総合課題（プレゼンテーション資料作成1）実習
12. 総合課題（プレゼンテーション資料作成2）実習
13. 情報発信の管理と運用

当該科目については、情報技術基礎Ⅰと同じく、受講者を初級クラスと上級クラスに分け、授業を実施していく。また講義とコンピュータ実習とを約半々の割合で授業を進行していく。コンピュータ実習を伴うため、授業への出席は不可欠な要素である。また、実習の際にはフロッピー・ディスク（またはMO）を必ず持参すること。

### 【評価方法】

出席状況、学期末試験ならびに各コンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

### 【テキスト】

未定

## 情報技術基礎Ⅲ

梅田敏文 三浦信宏 奥村文徳

### 【授業の概要】

情報技術基礎Ⅰ、情報技術基礎Ⅱを踏まえ、Windowsの高度操作、WORD、EXCELの高度操作、ACCESSの基本操作を学び、より高度で広範囲な情報技術の知識とスキルを習得する。当授業では、レポートや論文作成、ビジネス文書や表作成などを想定して、実践的なノウハウをコンピュータ実習によって学習する。

### 【授業計画】

1. デスクトップの高度操作
2. ファイルの高度操作
3. ネットワークの操作
4. 学術文書、ビジネス文書の操作（WORD）
5. ビジネス情報処理（EXCEL）
6. マクロ操作（1）
7. マクロ操作（2）
8. ACCESSの概要
9. ACCESSの基本操作（1）
10. ACCESSの基本操作（2）
11. ACCESS総合演習（1）
12. ACCESS総合演習（2）
13. まとめ

### 【評価方法】

コンピュータ実習を中心に授業を進行する。授業を欠席すると実習内容が理解できなくなるので出席が不可欠である。出席状況、学期末試験、課題内容によって評価する。

### 【テキスト】

未定

## ネットワーク技術入門

原 伸之 小林久恵

### 【授業の概要】

ネットワーク（network）という言葉は、人間を中心とする情報交換の仕組みとして使われたり、コンピュータを中心とする情報通信の仕組みにおいて使われたりしているが、両者には「情報のやり取り」という一義的な目的が存在し、ネットワークを流れるデータは人間の行動を左右する必要不可欠な情報となっている。本授業では、コンピュータネットワークに関する理論と技術の両側面における基礎知識を習得し、ホームページの作成、およびCGIプログラミングの実習によって、ネットワークの基本的な考え方、意義、活用方法、有効性を体得する。

### 【授業計画】

1. ネットワーク理論の基礎知識（1）：ネットワークの仕組みとその意義
2. ネットワーク理論の基礎知識（2）：情報量と通信速度、プロトコル
3. ネットワーク技術の基礎知識（1）：LANの仕組み
4. ネットワーク技術の基礎知識（2）：サーバの種類と仕組み
5. ネットワーク技術の基礎知識（3）：IPアドレスとファイアウォール
6. HTMLとホームページ（1）：HTMLの仕組み
7. HTMLとホームページ（2）：基本タグの設定、ハイパーリンクの設定、画像の表示
8. HTMLとホームページ（3）：サウンドの再生と動画の再生、ファイルの管理方法
9. CGIプログラミング（1）：CGIの仕組みとPerlプログラミングの基礎知識
10. CGIプログラミング（2）：エディタとFTP、パーミッションの設定
11. CGIプログラミング（3）：formタグによるデータ入力フォームの作成
12. CGIプログラミング（4）：環境変数、関数、文字列変換
13. セキュリティと情報倫理：セキュリティ対策と情報倫理の意味と必要性

### 【評価方法】

出席回数、課題提出、期末試験によって総合評価を行う。

### 【テキスト】

ネットワークリテラシー ユビキタス社会におけるネットワーク活用のテクニック（三和義秀著 共立出版）



## 情報活用1 (プログラム応用)

長谷川達也

### 【授業の概要】

インターネットは世界中の誰でもが情報を収集、発信できる画期的な道具です。この授業ではWWWで情報発信するためのホームページ作成の基本的知識と技術を身につけることを目的としています。初めてホームページを作る人を対象にして、インターネットの歴史やしくみ、スキャナによる画像作成、ホームページ記述言語 (HTML、JAVA) について実習を交えながら学び、最後にホームページ作成を行います。

### 【授業計画】

1. インターネットとは何か
2. デジタル画像情報の作成
3. ホームページ記述言語入門 (HTML)
4. ホームページ記述言語入門 (JAVA)
5. ホームページの作成

### 【評価方法】

出席、レポートおよび提出されたホームページで評価します。

### 【テキスト】

なし

### 【参考文献・資料】

授業時にお知らせします。

## 情報活用3 (シミュレーション)

辻 紘良

### 【授業の概要】

コンピュータシミュレーションによりいろいろな社会・経済システムの分析が可能である。最近では、情報技術の進展によりパソコンでもシミュレーションが容易にできるようになっている。

ここではシミュレーションの基礎を学習するとともに、パソコンソフトを用いて社会・経済システムのモデル化とシミュレーション分析手法を体験的に学習する。これによりシミュレーションのモデル作成から実行・分析までの一連のプロセスを習得する。

### 【授業計画】

講義の前半はシミュレーションの理論と基本的な言語の説明、後半は簡単なシミュレーションモデルの作成と実行・分析を行う。

1. シミュレーション概論
2. シミュレーションの体験
3. ネットワークによるモデル化
4. 窓口と待ち行列の表現
5. 要素の流れの選択や統合・分解
6. 待ちファイルの操作、外部データとのI/F
7. 事象処理ロジックと制御文
8. 外部ソフトを取り入れた離散型シミュレーション
9. シミュレーション例  
生産管理システム  
救急介護システム  
臓器移植システム

### 【評価方法】

授業中の課題や期末の課題提出の結果を総合し成績を評価する。

### 【テキスト】

テキスト使用せず。

### 【参考文献・資料】

Visual SLAMによるシステムシミュレーション改訂版  
(森戸晋他著 共立出版 2001)

## 情報活用2 (統計分析応用)

神田幸治

### 【授業の概要】

統計処理ソフトSPSSを使用して、実際の実験や調査により得られる各種データ分析や統計処理に関する実習を行なう。本授業はSPSSの入門(初歩)コースとして位置づけられるので、SPSS経験者は受講する必要はない。受講にあたっては、統計法(統計学)の基本的知識及び表計算ソフト(Microsoft Excel)の基本操作を修得済みであることが必須条件である。受け身の授業参加ではまったく意味がないので、やる気十分な受講生の参加に期待する。

### 【授業計画】

以下の計画に従って進める予定であるが、受講生の理解や進度、必要性等にあわせて変更する。

1. ガイダンス、復習：記述統計と推測統計(座学)
2. 復習：統計的検定(座学)
3. 復習：Excel基本操作
4. SPSS：基本的使い方、基本統計量
5. SPSS：度数分布とヒストグラム
6. SPSS：平均値の比較
7. SPSS：比率(独立性)の検定
8. SPSS：相関係数・回帰分析
9. SPSS：重回帰分析
10. SPSS：多次元尺度法
11. SPSS：因子分析
12. SPSS：主成分分析
13. SPSS：クラスター分析・判別分析
14. 総合課題

### 【評価方法】

出席、受講態度並びに課題レポート、試験により総合的に評価する。

### 【テキスト】

SPSSによる統計処理の手順 第3版(石村貞夫著 東京書籍)

## 情報活用4 (CG画像制作)

親松和浩

### 【授業の概要】

コンピュータによる画像・図形処理の基礎を学習する。

2次元画像の作成・加工のプロセスを体得し、作品制作までを行う。

またCGの応用としてプレゼンテーションでの画像や映像効果の効果的な利用について学習する。

### 【授業計画】

1. ガイダンス(画像処理)Photoshopの基本操作
2. 画像合成演習-選択範囲、マスクの作成
3. 画像合成演習-レイヤー作成
4. 画像合成演習-ペイント、レタッチ
5. 画像合成の実践-カラーニュ作品制作
6. Illustratorの基本操作
7. パスによるオブジェクトの作成(Illustrator)
8. テキストのデザイン(Illustrator)
9. グリーティングカードの作成(Illustrator)
10. IllustratorとPhotoshopの連携
11. プレゼンテーションでのCGの効果的利用1
12. プレゼンテーションでのCGの効果的利用2(実習)

### 【評価方法】

出席状況と提出課題の評価。

### 【テキスト】

未定(開講時に指示する)



## 情報活用4 (CG 画像制作)

石丸 緑

### 【授業の概要】

コンピュータによる画像・図形処理の基礎を学習する。  
2次元画像の作成・加工のプロセスを体得し、作品制作までを行う。  
さらにCGの応用としてプレゼンテーションでの画像や映像効果の利用について学習する。

### 【授業計画】

- 1 ガイダンス (画像処理) Photoshopの基本操作
- 2 画像合成演習－選択範囲、マスクの作成
- 3 画像合成演習－レイヤー作成
- 4 画像合成演習－ペイント、レタッチ
- 5 画像合成の実践－コラージュ作品制作
- 6 Illustratorの基本操作
- 7 パスによるオブジェクトの作成 (Illustrator)
- 8 テキストのデザイン (Illustrator)
- 9 グリーティングカードの作成 (Illustrator)
- 10 IllustratorとPhotoshopの連携
- 11 プレゼンテーションでのCGの効果的利用 1
- 12 プレゼンテーションでのCGの効果的利用 2

### 【評価方法】

出席状況と提出課題  
(3課題)の評価採点。

### 【テキスト】

未定

## 情報活用6 (電子音楽制作)

渡邊 康

### 【授業の概要】

コンピュータによるサウンド処理技術の基礎を学習する。音データの編集・処理・音楽ファイル作成の実習を通して、サウンド処理の基本原則とプロセスを体得する。さらにオリジナル作曲への導入部分にも触れる。Cubase SXを使用する。

### 【授業計画】

- (1) 授業概要、メディアランドの利用法、Mac Osの基本操作
- (2) Cubase SXチュートリアル
- (3) Audio処理によるムービーサントラ制作
- (4) Audio処理によるムービーサントラ制作
- (5) 発表
- (6) Midiによる課題曲の打ち込み
- (7) Midiによる課題曲の打ち込み
- (8) オリジナル楽曲制作
- (9) オリジナル楽曲制作
- (10) 発表
- (11) Audio処理とMidi処理によるムービーサントラ制作 (楽曲制作を中心に)
- (12) Audio処理とMidi処理によるムービーサントラ制作 (楽曲制作を中心に)
- (13) 発表

### 【評価方法】

提出課題、出席状況、授業態度の総合評価。

### 【テキスト】

毎回プリント配布

## 情報活用5 (デジタル映像制作)

辻 紘良

### 【授業の概要】

最近では高度な映像処理がパソコンを用いて誰にでも簡単にできるようになっている。ここではデジタル映像処理技術の基礎を学習するとともに、ビデオ素材の処理・編集操作を体験的に学習する。ビデオ素材の作成からムービー作成まで行うことにより一連のデジタル映像処理プロセスを習得する。

毎回、講義の前半は映像処理理論と操作法の説明、後半はパソコンを用いた映像処理の実習を行う。

### 【授業計画】

1. デジタル映像制作概論
2. デジタルムービー作成のプロセス (シナリオ、カット表)
3. 8m/mビデオカメラの使い方と撮り方
4. 映像とサウンドの取り込み
5. 効果 (画面転換) の使用
6. 文字と画像に特殊効果 (フィルタ) を付ける
7. 映像のモーション設定 (回転、移動、変形)
8. 文字と画像の合成処理 (重ね合わせ)
9. タイトル画面の作成と文字アニメーション
10. ムービーのコンパイルとビデオテープへの録画

期末には各自小規模なムービーを作成する。それを授業内で発表しかつ期末の課題として提出する。

ビデオカセット、MOは各自用意すること。8 m/mビデオ・カメラは貸し出しする。

### 【評価方法】

課題の提出状況や期末作品の出来映えを総合し成績を評価する。

### 【テキスト】

テキスト使用せず。

## 情報活用7 (インターネット応用)

山田雅之 遠藤 守

### 【授業の概要】

情報技術の発達によりコンピュータは我々の生活に欠かせないものとなってきている。中でも近年のインターネット技術の発達は目覚しく、その基礎知識や活用方法、さらに必要な情報倫理について理解・習得しておくことが、ネットワーク社会に生活する我々にとって重要なリテラシーの一つと考えられる。

本講義ではインターネットの歴史や仕組みなど基礎的な学習から、最近のインターネットの活用事例など演習を通して理解を深める。

### 【授業計画】

- 講義前半に解説を行い、後半を演習に充てる。
1. インターネットの歴史と仕組み
  2. インターネットサービス
    - ・サーバとクライアント
    - ・音声・映像配信
  3. インターネットによるコミュニケーション
    - ・チャット
    - ・電子メール
  4. 個人情報発信とマスメディア
    - ・ホームページの活用
    - ・掲示板システム
  5. インターネットとデータベース
    - ・Webアプリケーションシステム
  6. まとめ

### 【評価方法】

講義の出席状況、レポートおよび提出課題により評価を行う。

### 【テキスト】

ホームページ上に準備したものをを用いる。

### 【参考文献・資料】

講義中に適宜紹介する。



## 情報活用8 (システム設計)

吉川和男

### 【授業の概要】

文字、数字、音声、映像などをコンピュータで編集・加工等したりするコンピュータシステムは情報システムと呼ばれる。学習目標である情報システムの設計・開発では、まず、システムが果たす要件について、ソフトウェアの目的・機能の面から概要を分析する。その結果に基づいてユーザの視点から見たインターフェース等の設計、さらに、プログラム構成やハード構成などの設計、ソースプログラムの作成等を行う。授業では、C言語 (Visual C++) あるいはJavaを使い、Windows上で稼働する基本的なシステムを作成する。

### 【授業計画】

1. 情報処理システムとは
2. アルゴリズムの記述方法・構造化プログラミング
3. ソフトウェア開発工程・要求仕様・システムの検討
4. 外部仕様設計
5. 内部設計
6. プログラム設計
7. テスト仕様設計
8. コーディング
9. テスト・デバッグ
10. システムの管理・運用

### 【評価方法】

各工程実習で作成するレポート (開発ドキュメント他) と開発したシステムの成果 (品質) により評価を行う。

### 【テキスト】

使用しない (資料配布)

### 【参考文献・資料】

C言語プログラミング (山本雅基他著 デンソークリエイト)

## 情報活用9 (情報活用)

親松和浩

### 【授業の概要】

調査や研究などにおいて必要となる情報の総合的な取り扱いと活用方法について、基本的な考え方と実践的な技法を学習する。

### 【授業計画】

次のトピックスを実習を通じて学ぶ。

1. 画像データの活用
2. Webを利用した情報検索の活用
3. 数値情報の活用
4. データベースの活用
5. 報告書作成の方法
6. 情報表示の方法

### 【評価方法】

提出課題の評価。

### 【テキスト】

未定

## 情報活用9 (情報活用)

川澄未来子

### 【授業の概要】

調査や研究などにおいて必要となる情報の総合的な取り扱いと活用方法について、基本的な考え方と実践的な技法を学習する。

### 【授業計画】

次のトピックスを実習を通じて学ぶ。

1. 画像データの活用
2. Webを利用した情報検索の活用
3. 数値情報の活用
4. データベースの活用
5. 報告書作成の方法
6. 情報表示の方法

### 【評価方法】

提出課題の評価。

### 【テキスト】

未定



## 言語文化論

小野迪雄

### 【授業の概要】

＜多言語・多民族の複合社会＞といわれるアメリカの社会について、考えてみる。植民国家としてスタートしたアメリカには、後に労働力の必要などもあって大量の移民を受容するが、同時に他国にはみられない奴隷制度の後遺症をかかえた、複雑な社会事情がある。講義ではそのうち、主にアメリカの文化地理（人口移動と文化的多様性）、宗教、言語、文学の面から考察する。

上記の四つのテーマを手掛かりとしてアメリカの社会をみていくが、当然、他の諸分野にもふれなければならないが、それはテーマの理解を掘りさげるためのきっかけとしたい。

### 【授業計画】

講義形式で授業を進めるが、進度に合わせてレポートの提出もある。

### 【評価方法】

試験を中心とし、レポートの内容や受講の意欲を加味して総合的に評価する。

### 【テキスト】

プリントを随時配布。

### 【参考文献・資料】

授業中に紹介する。

## フィールドワーク論

谷沢 明

### 【授業の概要】

フィールドワークとは、現地調査・野外研究のことである。社会の事象を把握し、実証的に解明する手法として、このフィールドワークはきわめて有効な手段となりえる。フィールドワークの三要素は、「あるく・みる・きく」という行為であろう。まずは資料を採訪するために自らの足で歩く。そして物事を自分の目で深く見つめる。さらに地域で暮らす人々の話に謙虚に耳を傾ける。それがフィールドワークの基本である。このようにモノに対峙し、人間の営為と意志を読み取る作業をととし、本物を見きわめる目と洞察力を養ってほしいと願っている。

### 【授業計画】

1. フィールドワークとは何か～あるく・みる・きく～
2. 景観を読む～ムラの風景から人間の営みをみる～
3. 風土と地方色を探る～日本の民家から～
4. 日本文化を探る～住まいをとおして～
5. 生活文化を探る～居住形式から～
6. 伝統美観を守る民芸のまち～倉敷～
7. 演出された古きまち～高山～
8. 水の恵みを活かした地域づくり～郡上八幡～
9. 八幡堀再生への思い～近江八幡～
10. 掘割を活かした地域づくり～柳川市～
11. 民俗芸能の見方～奥三河の田峯田楽～
12. 民俗芸能の見方～奥三河の花～
13. 宮本常一のフィールドワーク論

～師から学んだもの～

学外教育としてフィールドワークを行う。

### 【評価方法】

中間レポート及び授業内小テスト・試験による

### 【テキスト】

フィールドワークで探る民俗と地域文化

## 社会学概論

谷口 茂

### 【授業の概要】

社会学は、人間同士の関係に視座を据えて、個人・社会集団・社会事象を研究する学問である。授業では、現代日本社会の変化・動態に着目し、その課題について研究することによって、わが国現代社会の全貌を明らかにしたい。

1. 経済システムの転換
2. 少子高齢化
3. 国際化
4. 情報化
5. 環境悪化

### 【授業計画】

講義形式で授業を進めていくが、適宜、学生に質問を投げかけ、回答を求め、学生の思考能力を高めることに努めている。さらに、期末試験以外にレポートを提出させる。

### 【評価方法】

期末試験の成績とレポートの成績とを総合して評価する。

### 【テキスト】

使用しない。講義に必要なデータを収集し、プリントして毎回、配布する。

## 統計学概論

元吉忠寛

### 【授業の概要】

行動科学の研究を行うのに必要な統計解析法とその理論について講義します。統計学的な考え方や統計的手法は、実社会においてますますその必要性が大きくなっています。特に、大量の情報があふれる現代社会では、情報処理のツールとして統計学を欠くことはできません。この講義では、必要に応じて、データの分析や図表の作成も行います。

### 【授業計画】

1. 統計データとその分布
2. 分布の特徴をあらわす指標
3. 確率分布と標本抽出
4. 推定と検定
5. 2群間の平均の比較
6. 相関関係の分析
7. データ解析実習(1)
8. データ解析実習(2)
9. 回帰分析
10. 分散分析
11. データ解析実習(3)
12. カテゴリー変数の関連分析
13. まとめ

### 【評価方法】

課題レポート、期末試験、出席状況から評価します。

### 【テキスト】

なし。

### 【参考文献・資料】

講義中に紹介します。



## 経済学概論 I

秦 忠夫

### 【授業の概要】

大学生もすでに経済社会の一員で、「経済」はみなさんの身近なところで動いています。しかし、漠然としていて奥行きが深いため、どういう仕組みで動いているのか大いに興味はあるが理解を深めるてかかりがつかみにくい。そう思っている人が多いのではないのでしょうか。経済の動きがわかるようになるためには、まず経済学の基本を一通り勉強し、現実の動きを興味をもってフォローしていくことが大切です。この講義は、経済全体の動きを分析対象とするマクロ経済学の基礎を習得してもらうことを主たるねらいとしていますが、単に理論の説明に終わらず、できるだけ現実の日本経済の動きと関連づけて解説する方針です。

解説がいてねいで入門書として最適と思われる下記のテキストを使用して、マクロ経済学の基礎を一通り幅広く勉強します。必要に応じ補足資料を配付します。

### 【授業計画】

講義形式。理解を確かめるため時々小テストを実施します。

### 【評価方法】

期末試験と小テストの結果を総合して評価します。

### 【テキスト】

マクロ経済学・入門（第2版）  
（福田慎一・照山博司著 有斐閣 2,100円）

### 【参考文献・資料】

授業の際、適宜紹介します。

## 社会心理学

石田米和

### 【授業の概要】

大きく変容する社会経済環境への“適応・不適応”をキーワードにして、人と人、人と社会の間に生ずる様々な現象を解明し、人間や社会の在り方についての洞察力、問題解決能力等を養っていくことを主な目的とする。

### 【授業計画】

テキストの解説を中心とし、適宜、参考資料、ビデオ等を使用する。

### 【評価方法】

- ・真剣に学ぶ意欲のある学生のみが履習すること。
- ・評価はレポート提出、定期試験、受講態度により行う。

### 【テキスト】

未定。

## 経済学概論 II

荒山裕行

### 【授業の概要】

社会は家計と企業によって構成されている。それらを結びつけているのが市場（しじょう）である。ミクロ経済学は、家計、企業、そして市場の働きを理解するための理論、すなわち道具である。この道具を身につけることで、私たちの身の回り経済活動の多くがいくとも簡単に理解可能になる。

### 【授業計画】

- 1 ミクロ経済学の考え方
- 2 市場の均衡
- 3 家計の行動
- 4 消費の理論
- 5 需要曲線
- 6 さまざまな財：代替財と補完財
- 7 企業の理論
- 8 供給曲線
- 9 完全競争
- 10 独占と寡占
- 12 不完全な市場：公共財
- 13 不完全な市場：外部性
- 14 所得分配：賃金と利子率
- 15 何が明らかになったのか

### 【評価方法】

中間レポート（30%）と期末試験（70%）の合計得点で評価する。

### 【テキスト】

基礎からわかるミクロ経済学（家森信善・小川光著 中央経済社）

### 【参考文献・資料】

経済に関連する図書館の本、インターネット情報、テレビ・ラジオ番組、毎日配達される新聞などの全てが生きた「参考文献」になる。これらを大学生生活の一部に取り入れること。

## コミュニケーション論

太田浩司

### 【授業の概要】

本講義では人間コミュニケーションのプロセスについてさまざまな理論的視点から検討する。言語や非言語を通しての対人コミュニケーションから、近年目覚ましい発達をしているメディアテクノロジーを媒介してのコミュニケーションまで様々な形態のコミュニケーションを考察する。自らのコミュニケーション活動を省み、より円滑なコミュニケーション生活をするために必要な技術や資質に関しての知識を深めることを目標とする。

講義の内容については初回の講義で詳しく説明するが、以下の内容を扱う予定である。

### 【授業計画】

1. コミュニケーションとは
2. 言語とコミュニケーション
3. 非言語とコミュニケーション
4. 組織、グループとコミュニケーション
5. テレビの影響
6. メディアテクノロジーとコミュニケーション

### 【評価方法】

出席、複数のレポート、期末試験

### 【テキスト】

未定

### 【参考文献・資料】

授業にて紹介・配布する。



## 政治学概論

西尾林太郎

### 【授業の概要】

政治体制や政治制度との関わりで政治の動態を概括的に捉える能力を涵養すると共に、戦後日本の政治・外交を国際的視野で考察することを、講義の目的とする。

また、政治との絡みではあるが、時事的な問題についても積極的に取り上げていく。特に、立法過程や外国為替の政治・経済のメカニズム、イスラム原理主義および政治指導者について重点的に取り上げたい。

### 【授業計画】

1. 国内政治と国際政治
  - a. 戦後世界における国際関係
  - b. トランスナショナル現象と国家間の相互依存性の増大
  - c. 政党、官僚、利益団体、議会とその相互関係
2. 市民社会と大衆社会
  - a. 市民社会と古典的デモクラシー
  - b. 大衆社会とマス・デモクラシー
  - c. 立法国家と行政国家
3. 「55年体制」の成立とその崩壊
  - a. 冷戦構造と55年体制との関連
  - b. 日本の政治風土—田中角栄の場合—
4. 政治権力
  - a. 権力とは何か
  - b. 王権神授説→社会契約論→“人民”の支配
  - c. リーダーシップ
  - d. マス・メディア、シンボル

### 【評価方法】

評価は出席状況と試験による。試験の際、自筆ノートと講義資料の持込を許可する。

### 【テキスト】

使用しない。但し、適宜、講義資料を配布する。

## 教育学概論

渡辺かよ子

### 【授業の概要】

現代世界は多くの問題を抱えている。教育問題はこれらの問題の一つであると同時に、これらの社会問題の解決方法でもある。あるべき教育とは何か。これほどあるべき教育が語られるのになぜ教育問題は解決しないのか。本講義はこれらの問いへの答えを教育と社会の連関から考察していく。

### 【授業計画】

1. オリエンテーション：教育と教育学
2. 教育の歴史：近代以前と近代以後
3. 教育制度：各国の教育行政と学校制度
4. 教育内容と教育課程
5. 教育方法
6. 家庭教育としつけ：教育の比較文化
7. 社会教育と生涯学習
8. 総括：人権としての教育

### 【評価方法】

レポートと試験

### 【テキスト】

教育への問い（天野郁夫編 東京大学出版会）

## 法学概論

大嶽 浩

### 【授業の概要】

社会生活は「法」という社会規範が綱の目ようにはりめぐらされており、数多くの「法」が日常生活に関わっているが、この授業では、その日常生活を「民法」の観点からみつめることで、「法」とは何か、を考える。

### 【授業計画】

1. 日常生活と法、法律と法
2. 公法と私法、民法と法
3. 商法と民法、民法典と民法
4. 行為能力と法、代理と法
5. 法律行為と法、時効制度と法
6. 占有と法、所有と法
7. 担保物権と法
8. 契約と法、保証と法
9. 不当利得と法、不法行為と法
10. 家族と法
11. 相続と法、法と人生

### 【評価方法】

試験による評価。

### 【テキスト】

使用せず。

### 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

## ジェンダー論

國信潤子

### 【授業の概要】

近年、公的文書などにもジェンダー（gender）ということばが頻繁に使われるようになってきた。それは社会・文化的性別という意味である。つまり、社会的に期待される役割、意識、行動様式などの性別区分を指す。従来の固定的性別分業とは異なり、個性的な新たな社会的役割行動様式をとる青年たちが増加してきている。このような社会変容の背景、法制度の改革などを紹介する。統計データから変化を実証する。また固定的な男らしさや女らしさをこえて個性の発揮があり、独創性にあふれている。男女ともに家事、育児責任遂行、労働、地域活動を行える社会を展望する。

### 【授業計画】

この講座では現代社会におけるジェンダー関係を社会学的な統計データなどで紹介し、現代日本における女性・男性の社会的位置付けを国際比較しつつ考察する。また各種法制の変革、国際条約・規約などにみるジェンダー関係変容を考察し、日本におけるジェンダー関係の将来を展望する。大半は講義形式である。必要に応じて、小グループ討議、ビデオ視聴なども取り入れる。

### 【評価方法】

期末のレポート、出席状況、履修態度、授業後の感想カードなどの総合評価による。

### 【テキスト】

女性学・男性学へジェンダー論入門—  
（伊藤國信他著 2002年刊 有斐閣）

### 【参考文献・資料】

- ・法律にみる女性（ミネルバ書房）
- ・女性のデータブック 第3版（有斐閣）



## 文化人類学

三木 誠

### 【授業の概要】

人間は無意識のうちに自然に生れ育った文化からさまざまな影響を受けている。世界中の社会に見られるさまざまな文化的事象を、できるだけ多くの事例をあげて講義する。

### 【授業計画】

以下のようなテーマで講義を行う。それぞれのテーマを総合的に理解するのに不可欠な概念や用語の解説と、テキスト、プリント等を利用した事例研究が主になる。異文化に対する興味や好奇心を喚起するためにVTR資料なども活用する。

1. 文化
2. 性別と社会
3. 婚姻と家族
4. 交換と人間関係
5. 宗教と信仰
6. 民族と国家

### 【評価方法】

定期試験により評価する。ノートは持ち込み可とする。

### 【テキスト】

指定せず。

### 【参考文献・資料】

興味を持った学生にはそのつど指示する。

## 都市環境デザイン概論

吉田邦彦 河辺泰宏 垂井洋蔵 日色真帆  
太田 裕 清水裕二 齋藤基之 高橋敏郎

### 【授業の概要】

都市環境デザインコースにおける教育課程の編成と学習方法を説明する。この講義を通して都市環境デザインの全体像とそのひろがりを理解するとともに、建築と都市に関する今日のテーマについてその一端を紹介する。

一級建築士受験資格の取得を目指している人には、本科目は必修科目であるので、必ず受講すること。

### 【授業計画】

8名の教員で担当し、それぞれが専門とする分野から、基本的で、興味深い話題を提供する。

街づくり、オフィスデザイン、インテリアデザイン、室内環境、現代都市建築、都市の防災、歴史的建造物の維持・再生、立体的に複雑な都市空間等のトピックスを取り上げる予定である。

講義を中心とするが、テーマによっては、学生からの発表をもとに議論する。

### 【評価方法】

各担当教員による授業期間中の小レポートと、期末に課題に従って提出するレポート、および出席状況を総合して評価する。

### 【テキスト】

なし。随時、プリント教材を配布する。

## 文化人類学

水口千里

### 【授業の概要】

人間の生活や行動様式は、帰属する社会の固有の文化から多くの影響を受けている。本講義では、さまざまな分野にわたる国内外の事例を取り上げ、その文化的背景を学ぶ。

### 【授業計画】

講義形式による。デジタル画像、VTRなど視聴覚教材を併用する。時間中に適宜プリントを配布する。

1. 概論 文化人類学の調査、研究方法
2. 精神文化をひも解く  
(異界からのメッセージ/願い・占い・おまじない/幽霊と妖怪)
3. 食文化を読む  
(飲酒の意味/宴会の型/外食の発展/行事食のあり方)
4. 贈答文化を探る  
(ギフトとプレゼント/贈与交換)
5. 海外の日本文化を知る  
(外国人が見たニッポン/ヨーロッパの博物館の日本コレクション)
6. 総論 異文化理解と自文化理解

### 【評価方法】

おもに単位認定試験(論述形式)で評価する。講義時間中に小レポートを提出させた場合は、これを成績評価に反映する。

### 【テキスト】

テキストとしては使用しない

### 【参考文献・資料】

参考文献リストを講義時間中に配布する

## 特別セミナー

石田米和 太田浩司 大嶽 浩 榊原國城 竹村 弘 千葉善根  
西尾林太郎 秦 忠夫 日色真帆 山本啓子 渡辺かよ子

### 【授業の概要】

(1) 趣旨：高等学校教育から大学教育への円滑な移行を図り、入学後の基礎教育の推進を目的に、各種研修的行事への参加によるレポート作成指導を中心とした、「特別セミナー」を実施する。

(2) 目的：学生が担当教員(アドバイザー)とのコミュニケーションを深め、入学後の大学生活における勉学の目的意識を育むとともに、学生の課題発見・探求能力の向上を目指す。

(3) 指導方法：担当教員がクラス単位で指導する。

(4) 注意事項：担当教員からの連絡・課題図書等の指示、及び現代社会学会研修行事開催の案内は掲示で行うため、掲示に注意すること。また、学生は積極的に担当教員を訪ね、指導を仰ぐこと。

### 【授業計画】

以下に指定するものの中から学生が選択をし、レポートを年に2回以上提出し、担当教員が指導・評価する。

<必須>

- (1) エンカウンターキャンプの観察レポート  
(病気等の理由でキャンプ不参加の学生は、博物館・美術館等の見学レポートをこれに代える)

<選択>

- (1) 担当教員の指定する課題図書の読書感想文
- (2) 現代社会学会主催の研修旅行への参加と観察レポート
- (3) 現代社会学会主催の講演会への参加と感想レポート
- (4) 学内で行われる各種研修行事への参加と感想レポート
- (5) 学外で行われるボランティア等体験学習への参加と感想レポート
- (6) その他担当教員が認めるもの

### 【評価方法】

レポート(2回以上提出)による

### 【テキスト】

課題図書は、担当教員が指示する



## 基礎演習

石田好江

### 【授業の概要】

現代社会の特質は、消費社会、管理社会、脱産業化社会、情報化社会など様々にとらえられている。前半は、そうした現代社会についての理解や問題意識を深めることを目的に、関連する文献、論文、新聞記事を読みあい、ディスカッションを行う。

後半は、前半で学んだことを基礎に、各自テーマを設定し、そのテーマについて調べたことを報告する。成果は、そこでの討論やコメントをふまえ、レポートとして提出する。

あわせて、プレゼンテーションの方法、レジュメ（ハンドアウト）やレポートの作成方法、文献・情報検索の方法等を学ぶ。

### 【授業計画】

前・後期とも学生の発表とディスカッションを中心に進める。発表者とコメントーターは予め決めておく。また、発表者は事前にレジュメ（ハンドアウト）を提出する。

### 【評価方法】

前期は発表内容及び演習への自発的な取り組みの姿勢で成績評価を行う。後期は発表、レポート、演習への自発的な取り組みの姿勢で成績評価を行う。

### 【テキスト】

授業の中で指示する。

## 基礎演習

石田米和

### 【授業の概要】

人間関係、社会文化の在り方とコミュニケーション、メディア等との関連について、広範囲に学習し議論します。グループに分かれてのテーマ研究（サブ・ゼミ）も行います。

### 【授業計画】

大別して、以下のような内容を計画しています。

- ・社会科学やコミュニケーション、メディアに関する基礎理論、方法論について
- ・メディアの特徴と社会文化的機能
- ・メディアの影響（生活、産業、文化、心理等）

### 【評価方法】

受講態度、レポート提出、課題発表、試験、グループ研究（サブ・ゼミ）

### 【テキスト】

現代メディアを学ぶ人のために（有山・津金著 世界思想社）その他のテキストは未定

### 【参考文献・資料】

未定。

## 基礎演習

石橋千鶴子

### 【授業の概要】

<多文化・多言語社会を考察する>

英字新聞・日本語資料の講読、ビデオ視聴、ゲストスピーカーとの意見交換などを通して世界の動きを学ぶ。さらに、多文化・多言語社会に焦点を当て、いくつかの地域と問題を考察する。

文化の多様性を尊重し共存の道を目指す多文化社会への流れは、世界各地で増々大きなものになってきている。この考察から、これからの日本および世界について、大きな示唆を得られるだろう。

### 【授業計画】

オーストラリア、カナダ、その他の多文化・多言語社会に焦点を当て、その歴史、政治、経済、宗教、教育、人口構成、言語政策、言語教育、日本との関係などの視点から考察する。

また、異文化に対する理解を促すため、各学期2回程度ゲストスピーカーを招き、自国の状況を語ってもらう。共通語としての英語を使って、異なる文化の人と直接コミュニケーションを持つことの重要性和面白さを実感してもらいたい。

前後期とも、各自興味を持った地域や問題を選び、レポートする。また、英語語彙力および読解力の強化を念頭に授業を進める。

### 【評価方法】

レポートおよび平常の勉強状況により評価を行う。

### 【テキスト】

テキストは未定。英字新聞記事のコピーなどは配布する。

## 基礎演習

太田浩司

### 【授業の概要】

Introduction to Research

人間はだれもが“naive scientist”だと言われています。人々は毎日の生活の中で、様々な場所から刺激、つまり情報を集め、即時に分類・反応をしています。このすばらしい能力はすべての人間に生まれつき備わっているものですが、複雑化、多様化、そして情報にあふれた現代社会では、さらに高度な情報収集・分類・分析テクニックが必要になっています。そこでこの基礎演習では様々な形式の情報を発見、収集、分類、分析、提示をする知識と技術の基礎を身につけることを目標としたいと思います。春学期には文献調査やコンピューターを使用した情報収集の方法などを勉強し、秋学期には調査によって集めた情報を効果的に整理し、口頭発表にまとめあげることが特に強調したいと考えています。

詳しい授業内容については春・秋学期の最初の授業でお知らせしますが、一応以下の内容を扱うつもりです。

1. 文献調査の仕方とデータベース
2. アンケート調査
3. コンピューターによる情報整理と分析
4. インターネットによるコミュニケーション
5. プレゼンテーション技術
6. 画像加工
7. 認知と情報プロセス

### 【評価方法】

実習、発表、論文

### 【テキスト】

サブミナル・マインド 潜在的人間観のゆくえ（下條信輔著 中公新書）

### 【参考文献・資料】

授業中に配布します。



## 基礎演習

大嶽 浩

### 【授業の概要】

新聞記事（報道）にみられる法概念（制度）の学習を通して、現代社会の諸現象の理解（説明・解釈・批判）に努める。

### 【授業計画】

授業日以前、1週間の報道の中から、興味のある事件をとりあげ検討する。その際、種々の辞書、書籍などを参考にして、報道で使用された「用語」の正確な理解に努める。

なお、演習参加者には意見発表を求めるが、レポートの提出も随時要求する。

### 【評価方法】

出席状況（演習に対する姿勢）とレポート（内容）による総合的な評価。

### 【テキスト】

使用せず。

### 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

## 基礎演習

大西 誠

### 【授業の概要】

現代社会における課題発見と問題解決のための基礎知識と技法を学ぶ。文献や資料の調査・収集・整理の仕方、各種メディアの活用法、レポート・論文の作成法の基礎を身につける。

### 【授業計画】

指導は、下記のようなもので構成される。

1. オリエンテーション（基礎演習の目的）
2. 資料調査の基本
3. 情報・テキストの読み取り
4. 映像のレトリックを発見する
5. 「地域」と「世界」の関係
6. 「国際」問題と複数の視点
7. 論文作成の基礎
8. 口頭発表と討論

など

自分のテーマ・課題を発見し、本格的な演習に取り組む姿勢を身につける。

### 【評価方法】

授業への参加度、課題レポート、口頭発表や討論参加とワークショップなどで総合評価する。

### 【テキスト】

なし。

## 基礎演習

小川明子

### 【授業の概要】

文献購読、調査、レポート、発表、議論など、大学で必要とされる基本的なスキルを一通り学ぶことを目標にする。

題材としては、地域とメディア、メディア表現と市民社会などを考えているが、時事問題や参加者の希望を取り入れつつ、柔軟に考えていきたい。

基本的には、各自が設定するテーマについて自ら調べ発表するという形式で行う。

### 【授業計画】

- I. 年間計画提示、調査法、文献探索法概説
- II. 文献購読（メディア研究）
- III. 調査、発表・プレゼンテーション
- IV. まとめ

### 【評価方法】

授業態度、発表などから総合的に評価する

### 【参考文献・資料】

社会情報学への50の扉（東大出版会）

## 基礎演習

親松和浩

### 【授業の概要】

調査研究を行う上で必要な、文献検索・資料収集・レポート作成等の基本的技能の習得を目指す。

### 【授業計画】

環境、現代史、情報メディアに関する以下の3つの課題に取り組み、調査、分析、報告までの一連のプロセスを実践的に学ぶ。

1. 自然環境を考える ～道ばたの草花の野外観察～
2. 自分史を書く～世の中の移り変わりを考える～
3. メディアとしてのコンピュータ入門  
～コンピュータ言語Squeak入門～

### 【評価方法】

出席状況と報告レポート等で評価する。



## 基礎演習

五島幸一

### 【授業の概要】

タームペーパーや卒業論文を書くことを目標にして、実際の書き方や資料の検索の仕方を学ぶ。論文のテーマの決め方、アウトラインの書き方、注の付け方、および章または節のたて方などを考える。

また、各自で自分の興味にあったテーマを探しだし、それに沿って、資料の収集を行う。そして、その資料をもとにしてプレゼンテーションをする。

### 【授業計画】

論文の書き方では、テキストを中心に学ぶ。資料収集とは図書館にて作業をする。

### 【評価方法】

授業への参加度および2回のタームペーパーにて評価する。

### 【テキスト】

論文の書き方（澤田昭夫著 講談社学術文庫）

## 基礎演習

清水 洋

### 【授業の概要】

この演習は、「アジアと日本」をメインテーマとし、アジア社会の発展要因や日本との関わりなどについて多角的に考察する。アジアには様々な国がある。たとえば、膨大な国土と人口をもち、石油などの天然資源に恵まれたインドネシアは、1998年に崩壊したスハルト政権の長期化の弊害などにより経済発展が遅れており、政権も不安定である。その一方で、淡路島と同じぐらいの狭い国土をもち、人口が僅か400万人（外国人居住者を含む）のシンガポールは、天然資源も殆どなく、水でさえ隣国のマレーシアに大きく依存している。それにも拘らず、この小国は、1965年の独立以降、日本や米国などの多国籍企業を積極的に誘致して急速な工業化を遂げ、今日ではアジアNIES（新興工業経済群）の一つとして世界の注目を集めている。

### 【授業計画】

毎回、テキスト、新聞・雑誌記事などを使って、アジアに関する基礎知識（政治、経済、文化、社会など）を身に付ける。また、文献の集め方・使い方・レポート作成の方法なども適宜教示する。

### 【評価方法】

授業への参加度、発表内容、レポートなどにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

第1回目の授業で指示する。

### 【参考文献・資料】

授業中に随時指示する。

## 基礎演習

榎原國城

### 【授業の概要】

この演習の主題は、学生自身が、自らの主体的な態度に基づく勉学や研究の基礎となる原則的方法や態度を身につけることである。また、現在の心理学研究法を概括的に紹介し、その一部を体験させる。

基礎演習の内容は、レポートの書き方、文献の紹介の仕方などから始まって、観察法・実験法・面接法・調査法・検査法などの心理学研究法概観である。講義、実習、討議などの方法を用いて授業を進める。

### 【授業計画】

前期 科学的研究の進め方等。

後期 観察法、実験法、面接法等。

### 【評価方法】

前期末および後期末にそれぞれレポート提出を課し、その内容によって評価する。なお、演習への参加態度の逐次評価も行う。

### 【テキスト】

授業時に指示する。

## 基礎演習

竹村 弘

### 【授業の概要】

大勢の人の前で自分の意見を述べたり、相手と意見交換をして一致点や妥協点を見出したり、オピニオン・リーダーとしてグループの総意をまとめたりするためのトレーニングを行います。広い知識や良いアイデアを持っていても、相手にうまく伝わらなかったり、相手の同意を得ることができなくては、何にもなりません。それには周到な準備と十分な実施訓練が必要です。

### 【授業計画】

1. 「グループ討論」：少人数のグループに分かれて、最初は身近なテーマから、後半には地域や日本の経済社会問題、地球規模の環境問題まで、広範なテーマについてグループ討論を行い、ディベート能力の向上を図る。
2. 「5分スピーチ」：自ら選択したテーマの論文について、自分のコメントを発表する。テキスト『日本の論点』文芸春秋社（プリント配布）
3. バーチャル株式投資：バーチャル株式取引所で株式投資を体験することにより、株式投資の仕組みを理解し、その時々々の株価の動きを通じて日本経済への関心を高める。
4. 『21世紀いろはカルタ』：100年前の福沢諭吉の「世紀歓送迎会」に倣って、20世紀と共に葬むべき悪弊、21世紀に実現したい理想等を読み込んだ『いろはカルタ』を共同製作し、『淑楓祭』で展示発表する。
5. 文献講読：G. スペンスの『議論に絶対負けない方法』をテキストに、文献講読を行う。各章毎に、コーディネーター1人、レポーター4人のチームで、ポイントを報告し、全員で討論する。コーディネーターの役割は、一人ひとりに自分の考えを発言させ、討論を盛り上げることです。

### 【評価方法】

討議、発表などを総合的に評価。

### 【テキスト】

プリントおよび、議論に絶対負けない方法（G. スペンス）（貸与）



## 基礎演習

谷沢 明

### 【授業の概要】

テーマは「フィールドワークで地域文化を探る」。

「歩く・見る・聞く」の三つの行動をとおして、歴史的文化遺産を活用した地域文化の振興などを考える。基礎演習の目的・内容は、次のとおり。

#### 1. 物事の本質を見極める目を養う

フィールドワーク（野外調査）を通して、地域社会の文化や民俗を探求する。学生が街や村を歩き、人々の生き方や暮らしを学び、体験する。それら観察した事象を通して、人々の営みと意思を読み取る訓練を重ねていく。そして、これらの作業を通して物事の本質を見極める目を養う。

#### 2. 歴史・風土・文化を生かした地域づくりを考える

21世紀の日本は、自然や文化を重視した誇りの持てる地域づくりが課題となっている。そのためには、歴史や風土・地域特性・文化的蓄積を生かした自立的な地域づくりが必要である。また、それぞれ個性を持った地域間の連携と交流による地域づくりが求められている。これらを踏まえて、新しい文化と生活様式を創造する多様性のある地域づくりの在り方を考えていく。

#### 3. 地域社会の文化・民俗を調べる

地域社会の文化については、歴史的文化遺産の継承とまちづくり・地域文化の振興・地域特性などを中心に調査・研究を行う。また、地域社会の民俗では、有形・無形の文化伝承をとおして生活文化を調査・研究する。

### 【授業計画】

前期：フィールドワークの基礎を学ぶ

（学外教育を5回程度実施する）

後期：歴史的文化遺産を活用した「まちづくり」の研究

### 【評価方法】

フィールドワークへの参加、発表、レポートによる

### 【テキスト】

まちづくりの実践（田村明 岩波新書）

その他、適宜参考資料を提示する

## 基礎演習

辻 紘良

### 【授業の概要】

マルチメディアを題材に取り上げ、調査・研究を進めていくために不可欠な問題の設定とそのアプローチの方法、そして論理的な思考の方法や表現・発表の方法を実際に体験することにより修得する。

実施にさいしては、マルチメディアの最先端のトピックスを取り上げ調査・研究するための各種技法を学習するとともに、マルチメディアの社会的な意味について調査検討を併せて行う。

### 【授業計画】

1. マルチメディアの基礎—学問の行為論
2. マルチメディア社会論
3. IT技術の利用や普及に関する調査と発表、討議
4. 次世代マルチメディアの動向に関する調査と発表、討議
5. 調査・研究の位置づけや論文の構成の理解
6. 問題の設定とアプローチの方法
7. ホームページの作成と公開
8. 表現の技術—論文の作法

OHPやプロジェクトを用いた発表、ホームページによる公開等、プレゼンテーション各手法の活用を試みる。

### 【評価方法】

課題の提出や発表ならびに期末試験の結果を総合し成績を評価する。

### 【テキスト】

使用せず

### 【参考文献・資料】

知の技法（小林・船曳他編 岩波書店、p322、1995）

マルチメディア標準テキストブッカー—社会論編

（編集委員会編 画像情報教育振興協会、p143、平成9年）

## 基礎演習

千葉善根

### 【授業の概要】

戦後、日本の食生活が大きく変わり生活習慣病などが増加している。それに伴い平成のはじめ、厚生省等から日本型食生活を奨める指針が出され、昔の食生活に戻ることが提案されている。また、最近では「粗食」に関する出版物が目につく。

これらのことから、昭和二十年代以前の日常の食生活は勿論、冠婚葬祭、年中行事等と食との関係およびその背景を探り、現代人の「生活」や「食」との違いを比較してみたいと考えている。

### 【授業計画】

各自が「食」に関わる故事、名言、川柳、雑俳、歳時記、新聞記事などから自由にテーマを選び話題提供をし、それをもとにディスカッションをする。

### 【評価方法】

発表、ディスカッションへの参加状況、レポートの内容、出席状況などを総合して評価。

### 【テキスト】

未定

## 基礎演習

西尾林太郎

### 【授業の概要】

戦後日本の社会の変化について総合的に考察する。原則としてゼミ方式によるが、最初の数回は映像資料を用いて講義をする。

### 【授業計画】

1. 現代日本社会をどう捉えるか？
2. 古典的著作から見た現代社会  
（M.ウェーバー、丸山真男、大塚久雄の視点）
3. 新聞、雑誌、テレビ等メディア情報による現代社会像
4. 両親や祖父母の視点で捉えた現代日本社会
5. ヒヤリングの実施、博物館の見学

### 【評価方法】

出席状況と授業での活動およびレポートによる。

### 【テキスト】

未定。

### 【参考文献・資料】

適宜指示する。



## 基礎演習

秦 忠夫

### 【授業の概要】

国際化の進展とインターネットの普及が目ざましい現代社会において、学生時代に力を入れて取り組むべき課題のひとつは英語の読解力の訓練ではないでしょうか。そこで私の基礎演習では内外経済の動きを英語の資料（新聞記事、雑誌の解説記事、研究機関の論文など）でフォローする訓練を授業の柱にしたいと思います。もっとも英語の授業ではなく、内容を理解することが重要ですので、経済の動きを理解するための基礎的知識の勉強を並行的に進めていきます。

### 【授業計画】

興味深いテーマを扱っている英文資料のコピーを全員で読み、私の解説や意見交換を通じて内容の理解を深めます。

### 【評価方法】

授業への参加態度と期末レポートで評価。

### 【テキスト】

使用せず。

### 【参考文献・資料】

授業の際適宜紹介。

## 基礎演習

渡辺かよ子

### 【授業の概要】

「近現代社会と教育」をテーマとし、(1)現代教育の基礎となっている人間観の理解と、(2)自らの経験してきた教育の相対化、を通じ、現代教育の諸問題にアプローチする研究手法を学ぶ。それ自身が重大な社会問題であると同時に、多様な社会問題の有力な解決策でもある「教育」という社会現象に関する意見や考えを、確かな学問的知見に転換していく基本的技能の習得と、それを通じた思考の鍛錬を目指す。

### 【授業計画】

毎回、事前に配布する共通資料を中心に「近現代社会と教育」に関する基礎知識を習得すると共に、各人の関心に基づく発表、討論を行う。

### 【評価方法】

授業への参加貢献度（レポート、発表内容、発言等）。

### 【テキスト】

使用せず。

### 【参考文献・資料】

教育を問う（日本経済新聞社編 日本経済新聞社）  
比較・国際教育学（石附実編著 東信堂）  
世界の学校（二宮皓編著 福村出版）  
世界の教育改革（佐藤三郎 東信堂）



## 民俗学

谷沢 明

### 【授業の概要】

なにげなくくりかえしている日々の暮らしの中に、古い生活の投影がある。現代人の物の見方、考え方の中にも、伝統的な生活文化が反映している。民俗学においては、日本人はいかなる文化をつくりあげて今日にいたったかを、民衆の立場にたち、民衆の生活の中から、社会・経済・儀礼・信仰などの伝承をととして具体的にみつめていきたい。また、古いものが今日の暮らしの中にどのように残存しているか、新しく変わった部分はどこで、何が新しくさせていく力になったかも考えてみたい。

### 【授業計画】

1. 民俗学を学ぶ～方法論と調査研究法～
2. 稲作と日本文化～伝統的文化のとらえかた～
3. 農耕儀礼～田遊びを中心に～
4. 年中行事～正月行事を中心に～
5. 年中行事～盆行事を中心に～
6. 人生儀礼～人生の折り返しにあたって～
7. 暮らしの中の習俗～海に生きる人々～
8. 暮らしの中の習俗～山に生きる人々～
9. 庶民信仰を探る～絵馬に託された願い～
10. 庶民信仰を探る～庚申信仰～
11. 日本民俗学のあゆみ～柳田國男の役割～
12. 日本民俗学のあゆみ～宮本常一のまなざし～  
学外教育としてフィールドワークを行う。

### 【評価方法】

中間レポート及び授業内小テスト・試験による

### 【テキスト】

フィールドワークで探る民俗と地域文化

## 地域文化論

谷沢 明

### 【授業の概要】

人間が自然に対峙し、共存しながら築いてきた暮らしの様式と内容を、地域特性をふまえて考察する。内容は、物質文化と精神文化の両面を対象とし、フィールドワークの成果をもとにビデオ等の映像を用いて、具体的かつ分析的にとらえる。とりわけ、歴史的遺産の継承とまちづくりの観点から、地域文化の振興について重点的に扱い、将来、文化行政などの仕事に携わろうとする者に役立つ内容を目指す。

### 【授業計画】

1. 地域文化とは～地域文化の概念～
2. 地域文化と地域振興～文化財保護行政～
3. 街道の文化～妻籠宿の町並み保存～
4. 街道の文化～宿場景観を活かす橘川村～
5. 旅の文化史～お伊勢まいり～
6. 名古屋の文化～熱田神宮の特殊神事～
7. 奥三河の郷土芸能～鳳来寺田楽～
8. 高度経済成長を振り返って～量的拡大から質的充実の時代へ～
9. 政策と地域文化～全国総合開発計画と地域文化～
10. ワインによる地域づくり～北海道池田町～
11. 村おこしの元祖～大分県大山町～
12. 地域文化を活かす～歴史・文化・風土を活かした地域づくり～
13. 宮本常一の地域文化論～師から学んだもの～  
学外教育としてフィールドワークを行う。

### 【評価方法】

中間レポート及び授業内小テスト・試験による

### 【テキスト】

フィールドワークで探る民俗と地域文化

## 都市社会論

安藤純子

### 【授業の概要】

私たちは複雑な現代社会の潮流の中で日々の生活を送っている。そのような社会がどのような構造をもち、私たちとどのような関連があるかについてさまざまな分野で研究されてきている。都市社会論では、特に都市に焦点を当て、社会学的視点から、都市社会特有の構造や人間関係などについて、これまでの主要な理論をふまえ、今日主として扱われている研究テーマ等について学習していく。

### 【授業計画】

1. イントロダクション
2. 都市社会学の歴史1
3. 都市社会学の歴史2
4. シカゴ学派の都市社会学1
5. シカゴ学派の都市社会学2
6. 新都市社会学
7. 日本の都市社会学1
8. 日本の都市社会学2
9. ネットワーク研究1
10. ネットワーク研究2
11. 今日の都市問題1
12. 今日の都市問題2
13. まとめ

### 【評価方法】

定期試験および出席状況による評価を行う。

### 【テキスト】

特になし。参考文献は授業中に適宜紹介する。

## 産業社会論

谷口 茂

### 【授業の概要】

わが国産業社会の現状を把握し、その課題を抽出し、改革案を探求する。そのさい、「個人・集団・社会」という社会学的視点に基づき、分析の特徴を打ち出したい。

1. 東海地域の産業  
地域産業の特徴、製造業(自動車)、商業、サービス業(情報産業)、  
地域産業の活性化を目指して
2. わが国産業社会の分析  
独占・寡占(談合)、企業グループ(系列)、二重構造(中小企業)、産  
業構造(サービス化・情報化)

### 【授業計画】

講義方式で授業を進めていくが、小テストを数回実施し、レポートの書き方を指導する。

### 【評価方法】

期末試験の成績を中心に、これに小テストの結果を加味し、総合的に評価する。

### 【テキスト】

使用しない。講義に必要なデータを収集し、プリントして毎回、配布する。



## 食文化論

千葉善根

### 【授業の概要】

人間が生活している所には食物があり、その地域、その国において長い歴史を経た独特の食品を作り出した。これらは人間と人間との交わりをとおして生活に結びつき、農耕文化や牧畜文化をつくり、交易・信仰・戦争などのかかわりをもって広がり定着したものである。わが国の食文化としてどのようにして受け入れられ、変化をしてきたか歴史・生活・文化をとおして考えるとともに多様な食文化に対する理解の道を探る。

1. 日本の食文化形成要因と食生活の変化について
2. 米食文化について
3. 麦食文化について
4. 乳食文化について
5. 肉食文化について
6. その他

### 【授業計画】

講義形式 VTRを数回使用する。

### 【評価方法】

レポートおよび授業内小テスト。

### 【テキスト】

使用しない。

## 人口動態論

坂井貞彦

### 【授業の概要】

日本人口の動向、人口問題と人口政策、人口動態（結婚、出生、死亡など）、人口構造（年齢別、産業別など）、世界人口、将来人口の推計などを学ぶ。

### 【授業計画】

講義方式による。おもな統計資料などをプリントとして配布する。

- 1 日本人口の推移と今後の見通し
- 2 少子化と高齢化〔I〕
- 3 人口問題と人口政策（明治以降）
- 4 人口に関する統計調査
- 5 人口の男女別、年齢別構造
- 6 結婚と出生
- 7 死亡統計、生命表、平均寿命
- 8 労働力、就業者、産業と職業
- 9 少子化と高齢化〔II〕
- 10 世界の人口
- 11 将来人口の推計（日本）

### 【評価方法】

おもに期末試験（筆記）による。（毎回出席欠席を調査する。欠席回数が多い場合は受験資格を失う。）期中にレポートを提出させた場合は、成績評価に反映させる。

### 【テキスト】

使用しない。

### 【参考文献・資料】

人口統計学（増補改訂版）（岡崎陽一 古今書院）

## 消費経済論

石田好江

### 【授業の概要】

「必要」の限界を超えることができた経済は、いま資源や環境など新しい限界に直面している。経済学の理論が資源・環境制約を理論に組み込まなければならぬだけでなく、企業にとっても生き残るために、いまや企業利益と消費者利益の両立が重要な課題になっている。本講では、「消費行動・消費者行動」という視座から、社会経済の変化と方向性をさぐってみたい。

### 【授業計画】

1. いまなぜ、コンシューマー・サイド・エコノミーが必要なのか
2. 消費行動決定に関わる経済的要因  
価格と消費行動  
所得と消費行動
3. 消費行動決定に関わる内的要因と外部環境要因  
消費行動と知覚・動機付け、態度変容、関与、パーソナリティ  
消費行動と準拠集団、状況要因  
消費行動とマーケティング

一つのテーマが終了した授業の最後にフィードバック・シートを配布し、授業についての感想、質問、要望などを自由に書いてもらう。次の授業の最初に、その中からいくつかを選んで回答することによって、一方的な授業にならないようコミュニケーションをはかりたい。

### 【評価方法】

成績評価は定期試験の結果で行う。なお、出席率は受験資格にはしない。

### 【テキスト】

使用しない

## 日本経済論

竹村 弘

### 【授業の概要】

わが国は、「バブル経済」崩壊以降、平成の「10年代不況」から「2000年デフレ」へとかつてない長期不況が継続し、相次ぐ大型企業倒産、金融再編、リストラ・失業など、深刻な社会問題が生じています。「超氷河期」と言われて久しい就職難は、改善の兆しも見られません。「ついていない」「運が悪い」ということではなく、「なぜだ」「なにが悪かったか」「これからどうなるか」を考えましょう。

### 【授業計画】

1. 経済の原点：経済政策の基本課題を、経済の原点に立ち戻って考える。
2. 日本の見当識：わが国の経済社会指標を欧米先進5か国と比較することにより、「経済大国・日本」「生活小国・日本」の実態を認識し、次いで日本の百年を回顧することにより、現在大きな転換期にあること理解する。
3. 経済指標の見方：わが国経済を正しく理解するためには、経済指標の理解が必要である。国内総生産、国際収支、為替、物価、雇用指標など、主要な経済指標について解説する。
4. バブル経済と平成の「10年大不況」：「バブル経済」の形成は、対外バランスに気をとられた極端な金融緩和政策および目いっぱい財政出動に起因し、その崩壊は慎重さを欠く金融引き締め政策・地価規制政策によるものである。その後も不適切な経済運営が繰り返され、「2000年デフレ」へと未曾有の長期不況が継続している。

### 【評価方法】

毎回提出する「TEN MINUTES PAPER」および期末試験。

### 【テキスト】

配付プリント。



## 産業・組織心理学

榊原國城

### 【授業の概要】

この講義では、会社や役所、あるいはその他の団体などの組織における人間の職務遂行行動や対人関係に影響を及ぼす心理学的要因を明らかにしていくことを目指す。その際、人間（集団を含む）の行動を、行動主体とそれを取りまく組織的環境との相互依存関係としてとらえる。したがって、この講義では、組織で働く人間の能力や意識・行動が、人間の置かれた外的環境（仕事、他者、集団、組織構造など）との相互作用過程において、主たるテーマになる。以上の視点に基づいて、最近の研究動向を踏まえて、新たな産業社会を展望する。

### 【授業計画】

1. 産業心理学の発展
2. 科学的管理法とホーソン研究
3. 職業選択と職業適応
4. 適性とパーソナリティ・アセスメント
5. 動機づけと職務満足
6. 組織の機能
7. 組織における職務と組織成員の役割

### 【評価方法】

期末定期試験の成績によって評価する。出席率も成績評価の際に勘案する。また、総授業回数の3分の1以上欠席した場合は定期試験受験資格を喪失したものとみなす。

### 【テキスト】

人と組織の心理学（榊原國城著 1999 文教資料協会 定価 2,048円）

## 組織コミュニケーション論

榊原國城

### 【授業の概要】

組織コミュニケーションをコミュニケーションの構成要素の観点から整理すれば、組織あるいは組織の成員が、自己に関する情報を、受け手（組織の成員および組織外の人々）のニーズに応える形で体系化し、様々なメディアを通じて伝達する過程であると考えられる。したがって、この講義では、組織コミュニケーションを巡る種々の問題、すなわち、現代社会における組織の機能とコミュニケーションとの関わりの中で生ずる問題を、行動科学をはじめとする隣接諸科学における基礎的な理論に基づいて分析し、考察する。

### 【授業計画】

1. コミュニケーションの基本過程
2. 組織コミュニケーションのタイプと特色
3. 職場のコミュニケーションと人間関係
4. 組織成員の役割とコミュニケーション
5. 職場におけるストレスとコミュニケーション
6. リーダーシップとコミュニケーション
7. 女性のキャリア形成と組織コミュニケーション

### 【評価方法】

期末定期試験の成績によって評価する。出席率も成績評価の際に勘案する。また、総授業回数の3分の1以上欠席した場合は定期試験受験資格を喪失したものとみなす。

### 【テキスト】

人と組織の心理学（榊原國城著 1999 文教資料協会 定価 2,048円）

## 地方自治体論

坂井貞彦

### 【授業の概要】

前半：地方自治の意義、日本における地方自治制度の変遷、地方自治体に関する法令制度について学ぶ。

後半：愛知県内の最大の市である名古屋市の歴史、現状、将来計画などを概観し、地方自治体への理解を深める。

### 【授業計画】

講義方式による。授業中、適宜プリントを配布する。

1. 地方自治の意義と法体系、憲法と地方自治法
2. 明治以降の地方自治制度の変遷と現行制度
3. 地方公共団体の種類、区域及び住民
4. 地方公共団体の事務
5. 地方公共団体の議会と法規
6. 地方公共団体の執行機関、議会との関係
7. 地方公共団体の財務（予算、会計、公の施設）
8. 地方公務員
9. 名古屋市の歴史（明治以降）
10. 名古屋市及び区の組織
11. 名古屋市の経済産業
12. 名古屋市の暮らしと文化
13. 名古屋市の将来計画

### 【評価方法】

おもに期末試験（筆記）により評価する。（毎回、出欠席を調査する。欠席回数が多い場合は受験資格を失う。）

期中にレポートを提出させた場合は、これを成績評価に反映させる。

### 【テキスト】

テキストとしては使用しない。

### 【参考文献・資料】

- 地方自治制度 第5次改訂版（久世公堯 学陽書房）
- 21世紀への名古屋（愛知淑徳大学地域産業研究会 中部日本教育文化会）

## 地域開発論

竹村 弘

### 【授業の概要】

従来の「地方開発」は、中央と地方の経済格差の是正を目的として、主として地方への産業開発・企業誘致により実施されてきたが、今日の新しい「地域開発」は、各地域それぞれが、知恵・金・人を自分たちで出し、誰にも頼らず、自律的に発展するような、自立した「地域づくり」を目的としている。

### 【授業計画】

1. 地域開発概論：従来の「地方開発」が果たした歴史的役割を評価し、次いで、現在の新しい「地域開発」の課題が何であるかを述べる。
2. 地方開発の光と影：地方開発が成功し、大きく発展した地域がある一方で、産業公害の被災地、衰退産業と共に疲弊した地域、農山漁村の過疎化などは、高度経済成長期の地方開発の影であった。今日のゴミやダイオキシン、自動車排ガス等の環境問題および東海地震の懸念などは、暮しやすい豊かな地域を築く上で暗い影を落す。
3. 首都機能移転：首都機能移転は、東京の過大・過密、大規模災害対策、東京一極集中の是正、および、わが国経済社会の閉塞状態打破、人心一新の契機などの観点から、国会・行政を中心にその構想が推進されている。中部地域は移転先の有力候補地のひとつである。
4. 中部圏のビッグ・プロジェクト及び21世紀ビジョン：「愛知国際博覧会」「中部新国際空港」「リニア中央新幹線」などのビッグ・プロジェクトは、中部地域の重点的な開発整備の大きなチャンスであるが、一方で自然破壊などの批判もある。

### 【評価方法】

毎回提出する『TEN MINUTES PAPER』および期末試験。

### 【テキスト】

配付プリント。



## 地域分析論

坂井貞彦

### 【授業の概要】

愛知県は他の府県にくらべてどのような特徴があるか。また、全国47都道府県のうちでどのような位置をしめているか。このようなことを、統計的データなどを利用して計量的（数量的）に分析する場合の考え方や手法について学習する。「地域」としては、都道府県市町村の他、大都市圏といった社会経済的指標を利用して設定した区域もとりあげる。

### 【授業計画】

講義方程による。次のようなことがらについて、テキストの記述のうちの基本的なものを説明し、また自主的学習を促す。

- 1 地域人口分析
- 2 地域、地域の特性
- 3 地域分析に用いる人口統計データ、統計地域
- 4 地域分布 全域を考慮しての部分地域の分析
- 5 地域の特性（人口、年齢構成、産業構成）
- 6 地域の経済的機能（中心地的機能、中心性）
- 7 地域間交流
- 8 人口移動圏、通勤通学圏

### 【評価方法】

おもに期末試験（筆記）による。（毎回、出欠席を調査する。欠席回数が多い場合は受験資格を失う。） 期中にレポートを提出させた場合は、これを成績評価に反映させる。

### 【テキスト】

地域人口分析の方法（大友篤 日本統計協会）

### 【参考文献・資料】

地域分析論 改訂版（大友篤 東洋経済新報社）

## マーケティング論

村松幸廣

### 【授業の概要】

マーケティングの基本的概念と仕組みについて理解を深めるとともに、企業・組織におけるマーケティング活動の重要性やマーケティング・マインドについて考える能力を身につけてほしいと考えている。

### 【授業計画】

1. マーケティングとは
2. 企業・組織の諸活動
3. マーケティングの考え方
4. マーケティングの基本フレーム
5. マーケティング調査
6. プロダクト・プランニング
7. セールスプロモーション
8. マーケティング・チャンネル
9. 消費者行動とマーケティング
10. マーケティング・ミックス
11. マーケティング戦略とプロダクトライフサイクル
12. グローバル化とマーケティング
13. Eコマースの発展

### 【評価方法】

レポート、発表、定期試験の成績によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

現代マーケティング論（松江宏編 創成社）

## 交通システム論

辻 紘良

### 【授業の概要】

交通は地域が活動し発展していくためには不可欠な動脈であると同時に、一人ひとりの住民として快適な日常生活を享受していくのに不可欠な手段であることを理解する。このため、地域交通が置かれた現状と課題を事例を通して学習するとともに、交通施設、道路等インフラ整備の現状と課題、ならびに自動車交通に関する安全・環境の諸施設の整備状況と問題点を理解し、それらの諸方策について考察する。

### 【授業計画】

身近な交通の問題から始め、次第に総合的な交通体系の問題へと論旨を展開する。講義とともにビデオ機器を用いて交通システムの実例や実験例を提示し理解を深める。

1. 地域交通体系の現状と課題
2. 地区交通計画
3. 地区交通の社会実験
4. 短距離交通システム
5. 交通と環境
6. 交通運用計画

この他、交通結節点、交通網の計画、自動車交通需要の推定、交通流制御などから適宜テーマを選択し解説する。

### 【評価方法】

数回の小テストと期末試験の結果を総合し成績を評価する。

### 【テキスト】

使用せず。プリント配布。

### 【参考文献・資料】

交通計画学第2版（樺木・井上共著 共立出版）2002年

## 労働社会論

石田好江

### 【授業の概要】

労働市場や労働者の就業行動が、人口構成の変化、産業構造、技術革新、国際情勢といった要因からどのような影響を受け、どう変化してきているかを理解する。また、今日大きな課題である「日本的雇用慣行」の問題や「ジェンダーと労働」の問題についても考える

### 【授業計画】

1. 「労働」の系譜
2. 労働市場
3. 賃金・人事制度
4. 労働時間
5. ジェンダーと労働
6. 雇用構造の多様化
7. 日本的雇用慣行の変化
8. 高齢社会の労働・労働市場

一つのテーマが終了した授業の最後にフィードバック・シートを配布し、授業についての感想、質問、要望などを書いてもらう。次の授業の最初に、その中からいくつか選んで回答することによって、一方的な授業にならないようコミュニケーションをはかりたい。

### 【評価方法】

成績評価は定期試験の結果で行う。なお、出席率は受験資格にはしない。

### 【テキスト】

新版 労働経済（永山武夫編著 ミネルヴァ書房）



## 地域福祉論

野田秀孝

### 【授業の概要】

日本の社会福祉は、介護保険制度の導入、社会福祉基礎構造改革の動きからなる社会福祉法成立、医療法の改定などの医療政策の変動など、大きな変革期を迎えている。また、地方分権、福祉ニーズの多様化と福祉サービス供給主体の多様化、保健・医療・福祉の更なる連携又は統合などを背景に、各自自治体における介護保険事業計画から地域福祉計画の策定、苦情処理・解決、第3者評価システムの構築などさまざまな課題はある。また、それらに対応する地域ケアシステムの構築が求められている。

本講義では、上記のような今日の課題を整理しながら、多様で複雑な社会情勢に対応する地域福祉の理念と新たな手法、諸外国の動きなども紹介し、地域福祉の魅力を具体的に論じたい。

### 【授業計画】

講義方式による。授業中、毎回プリントを配布する。

- 1 講義の概要 地域福祉の理念
- 2 現代社会における家族とコミュニティ
- 3 地域福祉の歴史
- 4 地域福祉の国際的動向
- 5 地域福祉の概念と厚生
- 6 地域福祉の公私関係と共同の開発
- 7 在宅福祉のサービス供給と展開
- 8 居住福祉と福祉環境作り
- 9 地域福祉の運営と主体形成
- 10 地域福祉の実践実態形成
- 11 住民参加による地域福祉計画づくり
- 12 地域福祉の人材養成
- 13 まとめ

### 【評価方法】

筆記試験  
毎回出席を調査する。欠席回数が多い場合は受験資格を失う  
出席調査時に質問・感想などを提出させる。これを成績評価に反映する

### 【テキスト】

新時代の地域福祉を学ぶ（野口定久編集（株）みらい）

### 【参考文献・資料】

厚生労働白書

## 地域社会演習 I a・b

石田好江

### 【授業の概要】

前半は、マーケティング消費・流通経済、生活経済（社会・経済政策を含む）に関わる理解や問題意識を深めることを目的に、関連する文献や論文を読みあい、ディスカッションを行う。

後半は、前半で学んだことを基礎に各自テーマを設定し、研究する。その成果は順番に発表し、そこでの討議やコメントをふまえ、最終的にレポートとして提出する。

### 【授業計画】

1. オリエンテーション  
演習の目的、プレゼンテーションの方法、レジュメ（ハンドアウト）の作成方法など
2. 文献講読  
文献は、基礎的でありながら、新しい問題提起、パラダイム（理論の枠組み）の問い直し、通説の批判などを含んだものを選びたい。したがって文献講読を通じて基本的な知識を身につけるとともに、消費経済をめぐる新しい動きの理解をめざしたい。
3. 個人研究・発表  
研究方法について  
個人研究・発表

### 【評価方法】

前期は発表内容及び演習への自発的な取り組みの姿勢で成績評価を行う。後期は個人研究の発表、レポート、演習への自発的な取り組みの姿勢で成績評価を行う。

### 【テキスト】

未定。

## 地域社会演習 I a・b

大嶽 浩

### 【授業の概要】

「住宅」（土地、建物）に関する法（法律）を、特に民法の観点から学習する。

### 【授業計画】

「住宅」に関する法制度を「総論」的に考察する。具体的には、

- 1 契約（意思表示）
- 2 代理（専門家）
- 3 売買契約
- 4 請負契約
- 5 賃貸借契約
- 6 消費貸借契約

などについて考察する。なお、当演習では、「条文」をこまめに引きますが、その際の態度としては、辞書（法学辞典、六法全書）は「引く」のではなく、辞書と「相談する」という姿勢であってほしい。六法は必ず、持参すること。

### 【評価方法】

出席状況（演習に対する姿勢）とレポート（内容）による総合的な評価。

### 【テキスト】

使用せず。

### 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

## 地域社会演習 I a・b

榊原國城

### 【授業の概要】

この演習の主題は、現代社会における様々な問題に対して、科学的な視点に基づいて対処できる基本的な態度を身につけることである。具体的には、科学的資料の収集法としての質問紙調査法とデータ解析手法の習得である。多人数を対象として同一質問に対する回答を求め、それらを分類し、分析して人間理解を進める手法が質問紙調査法である。

演習 I a では、統計パッケージ・プログラム「SPSS」に基づいて、調査資料の統計的データ解析の概念の理解とデータ解析手法の体得を目指す。演習 I b は、受講生の設定したテーマに基づく調査票の作成・調査実施・回収・集計・分析・報告書作成までの全過程の演習である。

前期（演習 I a）：データ解析演習

1. オリエンテーション
2. データの分類
3. データ・ファイルの作成
4. 質的データの分析
5. 量的データの分析

後期（演習 I b）：質問紙調査法演習

1. オリエンテーション
2. 調査計画立案
3. 調査票作成と調査実施
4. 調査結果の分析
5. 報告書の作成

### 【授業計画】

前期（演習 I a）は統計解析パッケージ活用法をマスターするためのコンピュータ実習。

後期（演習 I b）は質問紙調査法の実際を体験するグループ作業による実習。

### 【評価方法】

前期末および後期末にそれぞれレポート提出を課し、その内容によって評価する。なお、演習への参加態度の逐次評価も行う。

### 【テキスト】

授業中に指示する



## 地域社会演習 I a・b

竹村 弘

### 【授業の概要】

「日本経済と地域開発」の研究を通じ、将来、企業・地方公共団体などにおいて、主体的に事業計画を企画、立案、遂行する能力を養成し、また、一人の市民として地域づくりに発言し、参加し、行動できる実力を身につけることを目的とする。

### 【授業計画】

1. 「文献講読」： 広く「日本経済と地域開発」に関する文献を講読することにより、基礎知識から詳細な専門知識まで広範な知識および方法論を習得する。輪読、討論、専門家等との意見交換などにより、一層の理解を深めるとともに、自発的思考能力を養い、問題意識の喚起を図る。  
最初の段階で、ディベート・EQトレーニングを行う。これは、論理的かつ効果的に組み立て、好感の持てる話術で、穏やかに、辛抱強く、時にユーモアを交えて、自己主張するためのトレーニングである。
2. 「サブゼミ」： 少人数のグループで、自らの問題意識に基づき選択したテーマについて、自主的に調査研究を行い、「レポート」を作成する。夏合宿で「中間報告」を行い、『淑楓祭』展示、他大学合同研究会など、外部との討論で一層の充実を図り、かつ、説得力のある説明、質疑・批判に対する明快な応答など、ディベート能力の向上を図る。

### 【評価方法】

討議、グループ研究など総合的に評価。

### 【テキスト】

EQ・心の知能指数 (D.ゴールマン)、日経大予測 (日本経済新聞社) (各貸与)

## 地域社会演習 I a・b

千葉善根

### 【授業の概要】

食べものと文化  
「禽獣は喰らい、人間は食べる。教養ある人にしてはじめて食べ方を知る」『美味礼讃』より  
即ち、人間が「食べること」には精神的・社会的な意味が加味されている。こうした動物とは異なる人間独特の食のあり方が食文化である。  
各地に数多くある食品 (または素材) および話題について、食文化形成要因や他の地域の食とのつながり、食と人間とのかかわりなどを視野に入れて討議し、今後の食文化や食生活について考察する。

### 【授業計画】

1. 各自、種々の資料をもとに各地の「特色のある食、伝統的な食、地域特有の食、美味しいもの」などからテーマを自主的に選択し要約・発表する。
2. 前半はできるだけおおくのテーマ (食) について幅広い知識を身につける。
3. 各発表に全員が参加し討議する。
4. 必要に応じて見学、調査、試食などを考える。

### 【評価方法】

発表・討議、レポート、出席など総合して評価。

### 【テキスト】

使用しない。

## 地域社会演習 I a・b

谷沢 明

### 【授業の概要】

地域文化や地域の民俗をフィールドワークをとおして学ぶ。フィールドワークとは、実地調査・野外研究のことである。各自が関心を持ったテーマを、「あるく・みる・きく」という行動をとおして追求することを演習の中心とする。データ収集には、理屈をぬぎにして「足」をつかう。また、好奇心を持ってなんでも観察し、小さな発見を積み重ねていく。さらに、謙虚な気持ちで土地の人々に接し、そこから学んでいく。この三つを根気よく続け、レポートにまとめ、ゼミ発表をおこなう。

### 【授業計画】

- 前期：グループごとにテーマを設定し、フィールドワークをおこない、成果を発表する (パワーポイント使用)。後期の個人研究のテーマ選定を念頭において調査地を選択すること。以下の学外教育を実施する。
- 3月：ゼミ合宿  
4～6月：フィールドワークに基づくグループ研究  
7月：調査研究計画書の作成、及び個別研究指導  
8月：ゼミ合宿
- 後期：各自がテーマを設定し、その関心に基づいてフィールドワークをおこない、成果を発表する (レジュメ使用)。そして、調査研究論文作成の基礎固めをおこなう。
- 10月～：各自がテーマに基づいてフィールドワークを実施する。  
1月：調査研究論文作成に向けての個別研究指導。

### 【評価方法】

フィールドワークへの参加、観察レポート、発表、プレゼンテーション等でおこなう

### 【テキスト】

テキストは使用せず

## 地域社会演習 II a・b

石田好江

### 【授業の概要】

演習 I において深めた問題意識の上に立ち、各自があたためてきたテーマを、さらに「研究」にふさわしいものにしていく。前半では、そのために必要な方法論を中心に学び、後半では、その成果を発表する。  
前期は、演習 I の基礎的な理解の上にならって、消費経済をめぐる周辺領域 (社会学心理学など) の文献、あるいは近年の消費行動や購買行動を分析した論文を取りあげ、より消費経済の理解を深めることをめざす。  
後期は、個人研究の発表を中心に進める。各自が3年後期から進めてきた個人研究を発表するとともに、2年間の演習の集大成としてレポート (あるいはゼミ論文) の形でまとめる。

### 【授業計画】

前・後期とも学生の発表とディスカッションを中心に進める。発表者とコメンテーターは予め決めておく。また発表者は事前にレジュメ (ハンドアウト) を提出する。

### 【評価方法】

前期は発表内容及び演習への自発的な取り組みの姿勢で成績評価を行う。後期は個人研究の発表、レポート、演習への自発的な取り組みの姿勢で成績評価を行う。

### 【テキスト】

未定。



## 地域社会演習Ⅱ a・b

大嶽 浩

### 【授業の概要】

演習Ⅰにひきつづき、「住宅」（土地、建物）に関する法（法律）を、特に民法の観点から学習する。

### 【授業計画】

「住宅」に関する法制度を「各論」的に考察する。具体的には、

- 1 所有～賃貸
- 2 維持～管理
- 3 贈与～相続

などについて考察する。以上のほかに、「『住まう』とはどういうことか」や「文学作品から見た『住まい』」についても考える。なお、当演習では、「条文」をこまめに引きますが、その際の態度としては、辞書（法学辞典、六法全書）は「引く」のではなく、辞書と「相談する」という姿勢であってほしい。六法は必ず、持参すること。

### 【評価方法】

出席状況（演習に対する姿勢）とレポート（内容）による総合的な評価。

### 【テキスト】

使用せず。

### 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

## 地域社会演習Ⅱ a・b

坂井貞彦

### 【授業の概要】

各人が日本または世界の人口に関する領域において、演習Ⅰの学習をふまえ、自分に関心をもつ研究テーマを自主的に設定する。研究テーマに関する調査、文献資料の収集、演習における討論などを通じてテーマについての理解を深め、レポート（あるいはゼミ論文）にまとめる。

後期は、レポート作成とあわせてテキストを講読する。

### 【授業計画】

〈前期〉

研究テーマの設定、テーマの明確化、方法の検討などの各段階で、各人が発表し全員が討議に参加する。発表者はあらかじめレジュメを作成し、全員に配布する。

〈後期〉

レポート案を推敲し、レポートを完成させるとともに、テキストの講読を演習Ⅰ授業計画（2）と同様の方法により行う。

### 【評価方法】

発表と討議への参加、レポートの内容を総合して行う。

### 【テキスト】

日本人口論（岡崎陽一 古今書院）

### 【参考文献・資料】

1. 人口分析入門（山口喜一編 古今書院）
2. 人口推計入門（山口喜一編 古今書院）
3. 日本の人口移動（大友篤 大蔵省印刷局）
4. 女性のライフスタイルと就業行動（大淵寛編 大蔵省印刷局）
5. 人口高齢化と高齢者（嵯峨座晴夫 大蔵省印刷局）
6. 少子化時代の日本経済（大淵寛 日本放送出版協会）
7. 人口成長と経済発展（山口三十四 有斐閣）

## 地域社会演習Ⅱ a・b

榎原國城

### 【授業の概要】

この演習の目的は、学生自身の個人研究活動を通じて、判断力・理解力・総合能力を涵養し、問題に対する客観的、科学的態度を身につけることにある。

・原則として、産業・組織心理学および組織コミュニケーション論の領域において、自らの学問的興味や関心によって研究テーマを設定する。

・担当者の指導を受けながら、自己のテーマについて積極的に学び、問題を発見し、問題の解決に向け、これまでに身につけた科学的方法を適用していく。

・演習を通して行った研究の成果を研究論文としてまとめる。

・演習は、学生の研究活動の各段階ごとに、個人発表および討議によって進められる。

#### 1. 講読演習

参考文献（E.F. ストーン著 鎌田伸一・野中郁次郎訳 1980 組織行動の調査方法 白桃書房）に基づく、問題・仮説、変数、研究デザインなどのテーマについての講読演習。

#### 2. 発表・討議

・問題の設定 ・文献研究 ・研究目的の明確化 ・方法の検討 ・データの収集 ・結果の集計・分析・考察

### 【授業計画】

毎回数名の発表者が、予め用意したレジュメに基づいて発表し、それらに対して他の参加者がコメントするという方式。

### 【評価方法】

演習への参加態度および期末に提出される研究論文の内容によって評価する。

### 【テキスト】

組織行動の調査方法

（E.F. ストーン著 鎌田伸一・野中郁次郎 1980 白桃書房 定価2,400円）

## 地域社会演習Ⅱ a・b

竹村 弘

### 【授業の概要】

目的は、「演習Ⅰ」で述べたように、実社会においてプロジェクトを主体的に立案、遂行する能力を養成し、また、一人の市民として地域づくりに発言し、行動できる実力を身につけることである。

「演習Ⅱ」においては、日本経済および地域開発に関わるあらゆるテーマについて、一人ひとりの問題意識に基づき、「調査研究」「企画提案」「論文作成」を実施する。今、何が問題で、何をすべきかを自分で考え、自分で決断し、実際に行動し、課題を達成し、そのプロセスと成果を人にきちんと説明し、理解と賛同を得る能力を修得することを最終目標とする。

### 【授業計画】

1. 「調査研究」：文献調査により先行研究を十分理解・整理した上で、現地調査、アンケート調査、ヒアリングなどにより、独自の観点からの研究を深める。
2. 「企画提案」「論文作成」：事例調査・企画提案を統合して論文を作成する。中間報告で全体討論、意見交換を行い、論旨展開、実証資料、理論構成等の一層の充実を図る。

### 【評価方法】

討論、「論文」など総合的に評価。



## 地域社会演習Ⅱ a・b

谷沢 明

### 【授業の概要】

地域文化や地域の民俗をフィールドワークをとおして学ぶ。3年次後期に各自がテーマを設定し、その関心にもとづいておこなった「地域社会演習Ⅰ a・b」のフィールドワークの成果を基礎に、そのまとめをおこなう。ゼミでは、学生の発表にもとづき、調査研究論文の作成の指導をおこなう。後期は、文献の講読をおこなう。

### 【授業計画】

前期：各自が設定したテーマに基づき、それぞれが、発表とそのまとめをおこなう。

4～7月：発表とまとめ

8月：個別研究指導

10月1日：調査研究論文の提出（これを卒論の基礎とする）

後期：宮本常一『家郷の訓』（岩波文庫）をテキストとして講読をおこなう。

10～12月：『家郷の訓』講読

1月：卒業論文発表会

### 【評価方法】

発表、調査研究論文の内容等でおこなう

### 【テキスト】

前期はテキストは使用せず。後期は、家郷の訓（宮本常一 岩波文庫）をテキストとする

## 地域社会演習Ⅱ a・b

千葉善根

### 【授業の概要】

演習Ⅰにおいて身につけた知識の上に立ってテーマを大きく設定し、多岐にわたる地域特性（例えば気候風土、地形、交通路、都市形成の歴史と背景など）を考慮し、地域間の食文化の比較などさまざまな食と人間とのかかわりについて深く調査・研究するとともに将来の望ましい食文化を考える。

### 【授業計画】

○各自がテーマを自主的に設定、計画的に調査・研究し逐次発表する。

○各発表に全員が参加し討議する。

○随時、個々に指導助言する。

○必要に応じて見学、試食などを考える。

### 【評価方法】

発表・討議、レポート、出席など総合して評価。

### 【テキスト】

使用しない。



## 経済交流史

清水 洋

### 【授業の概要】

本講義では、19世紀末から今日に至るまでの日本とアジア（とりわけ東南アジア）の経済交流を、移民・通商・金融・直接投資・政府開発援助などの側面から体系的に考察し、アジアに関する理解を深めることを意図する。明治以降、我が国は「脱亜入欧」を重視し、欧米の工業諸国を手本としてきたため、アジアにあまり目を向けてこなかった。しかし、1960年代以降、一部のアジア諸国が積極的な外資の導入によって新興工業国として台頭する一方、中国は78年以降大胆な経済改革と対外開放政策によって急速な経済発展を達成しており、日本でも近年アジアへの関心がとくに高まっている。このような時期に、日本とアジアの経済交流史を学ぶことはとりわけ意義があると思われる。

### 【授業計画】

講義を主体とするが、ビデオ・OHCなどの視聴覚設備も適宜使用する。

- 1) 国際経済交流の歴史的意義
- 2) 東南アジアにおける初期日本人移民の経済活動
- 3) シンガポールとマレーシアにおける日本人移民の経済活動—からゆきさん先導型経済進出
- 4) アジア内貿易ネットワーク：神戸・横浜の華僑商人とインド人商人
- 5) 戦前期シンガポールにおける日本人漁業
- 6) 太平洋戦争期の東南アジアにおける日本の経済活動
- 7) 戦争賠償問題と日本の対東南アジア経済回帰
- 8～12) 東南アジアの経済発展における日本の役割 — 直接投資、観光、自由貿易協定、ODAなど
- 13) その他

### 【評価方法】

定期試験が主体となるが、レポート等も考慮に入れる。

### 【テキスト】

からゆきさんと経済進出—世界経済のなかのシンガポール・日本関係史  
(清水洋・平川均共著 コモンズ)

### 【参考文献・資料】

授業中に随時指示する。

## 日本政治外交史

西尾林太郎

### 【授業の概要】

「19世紀後半から1920年代にかけての日本の政治外交」

日本における近代国家の成立とその展開過程について、政治・外交を中心に理解すると共に、現代日本の政治・外交や社会を考察する視点を形成することを目的とする。なお、高等学校で「日本史」を履習している必要はない。

### 【授業計画】

1. 徳川幕藩体制と幕末維新の政治と外交
  - a 近世の徳川幕藩体制下の政治システムや社会のルール。
  - b 鎖国下における最大の友好国は李氏朝鮮であった。
  - c 政治的・経済的統合を目指して、天皇政府はどのような施策を打ち出したか。
  - d 沖縄の廃藩置県は明治12年=1879年であった。
2. 明治憲法体制の成立とその外交
  - a 憲法制定に向けての動きが明治1ケタ代にすでに始まっていた。
  - b 大日本帝国憲法と教育勅語。
  - c 朝鮮半島をめぐる日清、日露間の対立。
  - d 政友会の成立。
  - e 日露戦争が、明治憲法体制における「民主化」を促進したか？
  - f 欧米列強の了解のもとで韓国併合がなされた。
3. ワシントン体制と大正デモクラシーの時代
  - a 「満蒙」の権益の確保と拡大。
  - b 第1次大戦後、アメリカは日本を明確に仮想敵国として考えていた。
  - c 原敬の政治的リアリズム。
  - d 関東軍は沸とうしつつある中国ナショナリズムへの恐怖と満蒙問題の「抜本的解決」を目指した。

### 【評価方法】

評価は出席状況と試験による。試験は自筆ノートと教科書の持込を許可する。コピーは持込不可。

### 【テキスト】

新詳日本史図説（浜島書店 800円）（P114～209ページを主に使用する）。

## 国際金融論

秦 忠夫

### 【授業の概要】

国際間の経済取引は經常取引（商品・サービスの輸出入）と資本取引に大別されますが、いずれの面でも取引の自由化が進んで世界経済は相互依存関係を深めています。こうした動きのなかで、世界の共通通貨が存在しない今日、国際経済取引の決済にあたっては異種通貨の交換（例えば円とドル）が必要となり、その交換比率（為替相場）が変動すると個々の取引が影響を受けるのみならず、一国あるいは世界の経済活動全体にも影響が及びます。実際、変動相場制と呼ばれる現在の国際通貨制度のもとでは、為替相場の変動が激しく、世界経済の成長が時として攪乱されています。この授業は、世界経済の結びつきを通貨・金融面から理解するための基礎知識の習得をねらいとしています。

大まかな構成としては、(1) 外国為替取引のしくみと実態（外国為替のしくみと形態、外国為替相場、外国為替市場、為替リスクヘッジの手法）、(2) マクロ経済分析の視点から通貨問題を理解するための基礎知識（国際収支のしくみ、為替相場と国際収支、為替相場の決定理論）、(3) 国際通貨制度の歴史と現状（国際通貨制度のしくみ、国際通貨制度の変遷、ヨーロッパの通貨統合、国際通貨制度改革、円の国際化）という順序でテーマを展開します。

### 【授業計画】

講義。節目で小テスト実施。

### 【評価方法】

期末試験と小テストを総合して評価。

### 【テキスト】

国際金融のしくみ（新版）（秦忠夫・本田敬吉著 有斐閣 1,900円）

### 【参考文献・資料】

授業の際、適宜紹介。

## 国際情勢論

青島 宏

### 【授業の概要】

第二次大戦後の国際政治の在り方は冷戦終結により激変し、新しい国際秩序はまだ見えてこない。日本人が今後国際的に活躍するためには、現代の国際社会の流れをできるだけつかんでおく必要がある。半世紀続いた冷戦構造の変化をたどりながら、国際連合など国際機関・組織についての基本的知識を身につけさせるとともに、混迷を続ける冷戦後の国際情勢の読み方を考える。

【ガイダンス】国際情勢を動かす力は経済、政治、その背後にある文化、民族性などがある。地理、風土や歴史などを含めた地政学視点の重要性を述べる。

【国民国家とは】現代の国際情勢を動かす原動力となった国民国家を理解させるために、古代国家から近代の国民国家への成立の歴史でのフランス革命などの意義。

【冷戦構造の始まり】現在の国際関係の基本的構造の源は第二次世界大戦にある。いわゆる冷戦構造とは何か、大戦末期のヤルタでの米、英、ソ連の首脳会談など。

【冷戦構造の変遷】いわゆるヤルタ体制として冷戦構造が定着する国際情勢の変化を「プラハの春」やハンガリー動乱などとソ連、米国、西欧政治との関わりを解明する。冷戦構造は不変ではなく、デタントなど様々なバリエーションが現れた。ゴルバチョフソ連共産党書記長の登場で冷戦構造の消滅が始まる。東欧の激動に続くベルリンの壁崩壊で冷戦構造消滅は決定的になり、バルト三国独立、ソ連消滅へとつながる。

【冷戦後の世界】冷戦構造消滅により、地域紛争が世界各地で多発している。紛争の性格は地域の歴史的背景によって異なる。湾岸戦争、中東和平への動き、ベルリンの壁崩壊についで発生した東欧の変化や、9・11米中核テロ以後のアフガン問題、イラク戦争などを手掛かりに、新しい国際秩序への動きを考察する。

### 【授業計画】

理解を助けるために地図、スライド、写真などを多用する。

### 【評価方法】

随時実施の小テストによる。

### 【テキスト】

使用せず。



## 欧米教育文化史

渡辺かよ子

### 【授業の概要】

欧米教育文化史における「近代化」とは具体的に何を意味するのか、という点に焦点をあて、欧米教育・文化の全体的・構造的な変遷過程に着目しつつ、比較教育的なアプローチを試みる。

### 【授業計画】

1. 欧米教育文化史の視点と課題
2. 中世後期の欧米教育文化とルネサンス、宗教改革
3. 近代教育文化の生誕と展開（啓蒙思想と市民革命、産業革命）
4. 大学の誕生と展開
5. 西洋的教養と学校制度の確立

### 【評価方法】

レポート。

### 【テキスト】

教養の復権（沼田裕之他 東信堂）

### 【参考文献・資料】

その都度指示する。

## 比較憲法

初谷良彦

### 【授業の概要】

憲法の問題についての確かな理解をもつためには、どうしても比較憲法の知識が必要である。欧米諸国の憲法について概観し、人権保障や裁判制度等重要な論点について比較検討を行う。とりわけEU司法裁判所による興味ある実例ないし判例についても詳しく紹介、分析する。

### 【授業計画】

- |           |  |
|-----------|--|
| 第1～第2回    | 議院内閣制と大統領制                                       |
| 第3回       | 議会制民主主義と直接民主主義                                   |
| 第4回       | EU（欧州連合）の立法過程                                    |
| 第5回～第6回   | EUの司法制度  |
| 第7回～第9回   | EU委員会の男女同一賃金指令、男女均等待遇指令、母性保護指令、育児休業指令とEU司法裁判所の判決 |
| 第10回～第11回 | フランスの憲法院、ドイツの憲法裁判所                               |
| 第12回～第13回 | 米、英、中国等の司法制度                                     |
| 第14回      | 国際協調と平和主義  |
| 第15回      | 世界人権宣言、国際人権規約の国際化                                |

### 【評価方法】

主として単位認定試験の成績により評価する。

### 【テキスト】

使用しない。随時資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

## NGO・NPO論

ブイ トルン

### 【授業の概要】

現代社会において、自主的に社会へ参画・行動する市民が増えている。NPO活動は地域社会変革を、さらにNGO活動は世界平和・繁栄をもたらす手段として評価されている。今の若い学生にこれらの活動に関する情報、知識、実践例を多く伝え、また開発教育手法を用い社会行動できる人材に育成する。

### 【授業計画】

1. NPO総論：
  - 1) NPOとは？ ボランティアとNPOとの相違
  - 2) 世界・日本のNPO活動の潮流
2. NPO各論：
  - 1) NPO法の成立とその内容
  - 2) 企業とNPO
  - 3) 政府・地方自治体とNPO
  - 4) NPOの中間支援組織
  - 5) NPOで働く人々
  - 6) 日本社会におけるNPOの役割、現状、課題、展望
3. NGO総論：
  - 1) NGOとは？ 国際交流と国際協力
  - 2) 世界・日本のNGO活動の潮流
4. NGO各論：
  - 1) \*国連とNGO \*環境とNGO \*女性とNGO \*教育とNGO \*開発とNGO \*在在外国人とNGO \*その他
  - 2) 政府・自治体とNGO
  - 3) 各地のNGO推進支援センター
  - 4) NGOで働く人々
  - 5) 日本のNGOの役割、課題とその展望

### 【評価方法】

出席率、レポートおよび授業中の発表にて評価する。

### 【テキスト】

授業中適宜に指示する。

### 【参考文献・資料】

授業初回に指示する。

## 国際コミュニケーションズ

石橋千鶴子

### 【授業の概要】

<多文化・多言語社会のコミュニケーション>

文化の多様性を尊重し共存の道を目指す多文化社会への流れは、世界各地で増々大きなものになってきている。その中で意思の疎通をはかるためには、まず、それぞれの文化に根ざした異なる価値観・発想があることを知らなければならない。この授業では、世界共通のコミュニケーション手段となっている英語の強化を念頭に置きながら、英文の教材を用い、異なる文化におけるいくつかの具体的な事象を比較・考察し、多様な考え方があることを学ぶ。

### 【授業計画】

異文化間コミュニケーションに関する英文テキストおよび英字新聞記事の講読を行い、理解を促すため解説を加える。ビデオ視聴も行う。

### 【評価方法】

期末試験および平常の勉学状況により評価を行う。

### 【テキスト】

テキスト未定。英字新聞記事のコピーは、授業で配布する。



## 国際経済論

秦 忠夫

### 【授業の概要】

グローバリゼーションの進展とともに世界経済の相互依存関係が深まるなかで「国際経済論」のテーマも広がりつつありますが、本講義では国際貿易の問題に焦点を絞って世界経済の結びつきと問題点を勉強したいと考えます。講義の内容は次の3部構成となります。

1. 国際貿易のしくみ：「自由貿易のメリット」「自由貿易を阻む保護主義」など国際貿易をめぐる基礎理論。
2. 国際貿易システム：GATT・WTO体制のもとで進められてきた戦後の貿易自由化の動きをフォローし現在の問題点を明らかにする。
3. 地域経済統合：とりわけ1990年代後半以降世界各地で盛んとなっている自由貿易地域形成の動きの実情とその問題点。

### 【授業計画】

講義方式による。テーマの展開順序はおおむね上記のとおり。

### 【評価方法】

期末テストおよび小テストを総合して評価。

### 【テキスト】

未定。適宜補足資料を配布する予定。

## 欧米経済史

藤瀬浩司

### 【授業の概要】

20世紀の世界経済の発展を、企業と国家の関連を踏えて考察する。

### 【授業計画】

テキストを中心に進めます。

### 【評価方法】

授業への参加状況と期末のテストによって評価します。

### 【テキスト】

改訂新版 欧米経済史－資本主義と世界経済の発展  
(藤瀬浩司著 放送大学教育振興会 2004)  
講義と平行してテキストをよく読むこと。

## アジア経済論

清水 洋

### 【授業の概要】

1960年代以降、韓国・台湾・香港・シンガポールが外資を梃子に輸出志向型工業化政策を実施し、70年代に新興工業国として世界の注目を集めるようになった。80年代半ば以降は、マレーシアやタイ等のアセアン諸国もやはり外資と海外市場に大きく依存して急激な工業化に成功している。さらに、90年代には中国が同様に輸出主導型政策を導入して急成長を遂げ、今日では「世界の工場」と呼ばれるようになった。一方、日本経済は90年のバブル崩壊後、十数年にわたって低迷を続けており、これまでアジア経済を牽引してきた日本の影響力が低下している。

本講義では、アジア諸国の経済発展の内的・外的要因を分析し、一部の国が急激な経済発展を遂げる一方、天然資源に恵まれ、広大な国土を有するインドネシア等の経済が停滞を続けている背景を明らかにする。なお、政治的・民族的・文化的要因などは非経済的要因だが、同地域の経済発展と密接な関係があるため併せて検討する。

### 【授業計画】

講義を主体とするが、ビデオなどの視聴覚機器も適宜使用する。

- 1) アジア経済の現状
- 2) 日本型発展モデルとアジア経済
- 3) ～4) 中国のIT産業と外資系企業
- 5) ～6) マレーシアの経済発展と民族問題
- 7) ～8) 多民族国家シンガポールの経済発展
- 9) ～10) 世界最大のイスラム国家、インドネシアの経済発展
- 11) アジアの経済発展における日本の役割
- 12) ～13) アジアにおける進出日系企業の事例

### 【評価方法】

定期試験が主体となるが、授業への参加度、レポートなども考慮に入れる。

### 【テキスト】

第1回目の講義で指示する。

### 【参考文献・資料】

授業中に随時指示する。

## 比較政治論

西尾林太郎

### 【授業の概要】

政治的近代化および議会政治の導入とその展開を主軸とした日本、中国、韓国、イギリス等の比較研究と比較政治文化論。

### 【授業計画】

1. 〈比較〉の意義と手法  
ボリアーキー、政治的近代化、国民国家
2. 中国、韓国、日本の近代化と議会政治
  - a. 科挙官僚体制、国民党、中国共産党
  - b. 李氏朝鮮、両班、党争
  - c. 古代律令体制、太政官制、内閣制度
3. 西欧諸国の近代化と日本
4. イギリスの議会政治
  - a. 名誉革命
  - b. ウォルポールの貢献
  - c. W. バジヨットの議院内閣制論
5. 日本の議会政治とイギリス

### 【評価方法】

試験と出席状況による。

試験は教科書と自筆ノートおよび授業中に配布した資料の持込を許可する。

### 【テキスト】

現代政治学の基礎 (西尾林太郎 早稲田経営出版 2,000円) (テーマ1、11、12、19、21、23)。

### 【参考文献・資料】

*Asian Power and Politics* (Lucian W.Pye Harvard Univ.Press)  
漢字文化圏の歴史と未来 (溝口雄三他編 大修館)  
他はその都度指示する。



## 国際法

初谷良彦

### 【授業の概要】

国際法は、国と国との関係を定める法である。数百年に及ぶ歴史の展開の中で、現代の国際法は地球社会の大変動を反映して、重大な転換期に入っている。地球環境の保全、難民の保護、人権保障、安全保障などこれまでに見られなかった新しい問題をできるだけ取り上げ、できるだけ身近なものとして国際法を理解してもらうようにしたい。

### 【授業計画】

- 第1回 国際法の概念
- 第2回 条約（条約の締結、条約の適用、条約の無効と終了）
- 第3回 国家（国家の種類、国家の承認、国家の基本権）
- 第4回 国際組織（国際連合、その他の国際組織）
- 第5回 国家領域（南極、宇宙、日本の領土問題）
- 第6回 外交（外交関係、外交特権、領事関係）
- 第7～8回 個人・外国人（国籍、難民の保護、犯罪人の引渡し）
- 第9回～第10回 国際社会における人権保障（1）（人権法の国際的実施措置、実施のための法と機構）
- 第11回～第12回 国際社会における人権保障（2）（女性の人権、子どもの人権）
- 第13回 国際協力（環境の国際規制、経済的国際協力）
- 第14回 紛争の平和的解決（国際裁判）
- 第15回 国際安全保障（国連軍、軍縮）

### 【評価方法】

主として単位認定試験の成績によって評価する。

### 【テキスト】

授業中に指示する。

### 【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

## 国際理解教育論

担当者未定

### 【授業の概要】

日本の近代化の過程において、どのような教育経路により先進諸国の文明が導入されたかを考察する。中学校、高等学校の日常的な教科指導、特別教育活動等において、どのように国際理解教育を展開すべきかを考えてみたい。

### 【授業計画】

1. 日本の近代化の過程における外国文明の摂取について、次の視点から考察する。
  - (1) 海外留学生の派遣と帰国後の活躍
  - (2) 外国人教員の雇用とその教育への影響
  - (3) 技術伝習による日本の産業の近代化
2. 現代の学校教育における国際化について次の視点から考察する。
  - (1) 教科教育における国際理解教育
  - (2) 特別活動、学校教育における国際理解教育
  - (3) 海外留学生の派遣と海外からの留学生の受け入れ
  - (4) 外国人英語教員の雇用とその役割
3. 現在の日本の国際化の現状を分析し、真の意味での日本の国際化について、教育の視点から考察する。  
(授業において、皆さんの体験を踏まえて具体的な事例について、ともに考えて行きたい)

### 【評価方法】

授業中に課す「感想、意見」の提出及びレポートにより総合評価を行なう。

### 【テキスト】

国際理解教育論講義概要（300円）

### 【参考文献・資料】

授業中にその都度紹介する。

## 比較教育論

渡辺かよ子

### 【授業の概要】

進展する国際化・情報化の中にあつて、人間は次世代にどのような夢や願いを託すことができるのか。教育は、自らが社会問題であると共に、貧困や不平等など現代の社会問題に対する有力な解決方策でもある。本講では、日本を含む各国の教育と全世界的教育の状況の比較研究を通じて、日本の教育の特徴と現代教育の課題を明らかにしていく。

### 【授業計画】

1. 比較教育学の基礎理論
2. 社会発展論と教育
3. 近代化と各国の教育制度（識字と就学）
4. 「発展途上」国と「先進」国の教育の実態
5. 近現代日本の教育制度の成立と特徴
6. 文化と教育、異文化交流としての教育
7. 人権としての教育
8. 比較教育と教育改革

### 【評価方法】

試験とレポート。

### 【テキスト】

使用せず。（資料配布）

### 【参考文献・資料】

比較国際教育学（石附実編著 東信堂）  
世界の学校（二宮皓編著 福村出版）  
多文化教育（中島智子編著 明石書店）  
学歴社会 新しい文明病（ドーア著 岩波書店）  
外国の教科書と日本（吉沢柳子著 丸善ブックス）  
比較高等教育論（アルトバック著 玉川大学出版部）  
被抑圧者の教育学（フレイレ著 亜紀書房）  
情報消費型社会と知の構造（中西新太郎 旬報社）  
国際歴史教科書対話（近藤孝弘著 中公新書）  
教育の比較文化誌（石附実著 玉川大学出版部）  
比較教育学の理論と方法（シュリーバー編著 東信堂）

## 国際社会演習 I a・b

青島 宏

### 【授業の概要】

ベルリンの壁崩壊で始まった冷戦構造の消失で国際情勢は激変し、新しい民族問題が姿を現した。民族とはなにか、国民国家をどのように形成しているのか、現在の文明とどのように関わっているのかなどの理解なしには、西欧、東欧、ロシア、中東、アジアなど至る所で起きている国際情勢の変化をとらえることは出来ない。中東などの地域研究や英文資料講読を手掛かりに国際情勢を読み取る手法を学ぶ。

【民族とは】民族についてはさまざまな定義が試みられている。古典的な民族観、近代や現代の民族についての考え方を身につけさせるとともに、日本人の思考様式の特異性を考える。

【宗教と国際情勢】宗教は民族のアイデンティティと密接なつながりを持ち、しばしば国際情勢を読み解くキーワードになる。レバノン内戦でのマロン派キリスト教徒、パレスチナ紛争でのユダヤ教徒、イラン革命でのイスラムなどの分析を通じて、国際情勢の中での宗教を考える。

【地域研究】シオニズムとはなにか、パレスチナ紛争、イラン革命などの歴史的要因、冷戦終結後の欧州連合の東方拡大などの国際情勢とのかかわりなどを掘り下げて、中東、欧州などでの国際関係の読み解きを行う。

### 【授業計画】

理解を助けるために、できるだけスライド、写真、地図などを多用する。

### 【評価方法】

日常の出席状況などの授業への取り組みとレポート提出による。

### 【テキスト】

国際関係論（中嶋嶺雄著 中公新書）  
文明の生態史観（梅棹忠夫著 中公文庫）

英字紙の記事など英文資料を読むための意欲が望まれる。  
国際情勢論を受講すること。



## 国際社会演習 I a・b

石橋千鶴子

### 【授業の概要】

テーマ

- 1) 地域研究：多文化・多言語社会の考察

言語政策・言語教育の考察を含む。英字新聞・日本語資料の講読、ビデオ視聴、ゲストスピーカーのセミナーなどを通して世界の動きを学ぶ。さらに、多文化・多言語社会に焦点を当て、いくつかの地域と問題を考察する。文化の多様性を尊重し共存の道を目指す多文化社会への流れは、世界各地で増々大きなものになってきている。この考察から、これからの日本および世界について、示唆を得られるだろう。

- 2) 日本語を母語としない人を対象とした日本語教育：日本語の特徴を文法の面から英語を使って考察する。(希望者のため追加授業で行う。)

### 【授業計画】

オーストラリア、カナダ、その他の多文化・多言語社会に焦点を当て、その歴史、政治、経済、宗教、教育、人口構成、言語政策、言語教育、日本との関係などの視点から考察する。

また、異文化に対する理解を促すため、各学期2回程度ゲストスピーカーを招き、自国の状況を語ってもらう。共通語としての英語を使って、異なる文化の人と直接コミュニケーションを持つことの重要さと面白さを実感してもらいたい。

日本語教育については、テキストおよびビデオ教材を使い、初級授業で扱う文型・文法事項の英語による具体的指導法を考察する。

受講生は、各自興味を持った地域や問題を選び、調査・発表する。また、英語語彙力および読解力の強化を念頭に授業を進める。

### 【評価方法】

レポート、発表および平常の勉強状況により評価を行う。

### 【テキスト】

テキストは未定。英字新聞記事のコピーなどは配布する。

## 国際社会演習 I a・b

西尾林太郎

### 【授業の概要】

「近・現代における日本人の対外観と外国人の日本観」

特に近・現代における日本人の対外観および外国人の日本観について、古代から現代に至るまで幅広く調査・研究し、〈国際化〉のまっただ中にある今日の日本および日本人について考えてみたい。

### 【授業計画】

例えばルース・ベネディクト『菊と刀』など外国人の日本人論(日本論)や日本人の対外観に関する文献を逐一検討したり、新聞や雑誌あるいは各種テレビ番組で報じられた外国人の日本観、ないしは日本人の対外観をできる限り収集し、検討したい。また、こうした作業を通じて、調査・研究や発表のやり方あるいは討論(ディベート)の方法を修得する。

また日本近・現代政治史、外交史、社会史の文献講読をし、近・現代日本の姿を歴史的に把握することにも努めたい。

そして、琉球(沖縄)・韓国・台湾・中国等の大学の歴史系や社会科学系のゼミとも交流をしたい。日本とは異質な文化を持つ琉球(沖縄)やこうしたアジア各国の人々との真摯な交流を通じて、日本の歴史や現実に対する理解を深めていきたい。

a 前期：上記のテーマに関して各自の発表、調査研修旅行(国内か東アジア地域又はその両方)

b 後期：日本政治・外交史、日本社会論、日本社会史に関する各自のテーマについて調査・研究と発表

### 【評価方法】

評価は演習およびそれに付随する行事での活動状況と随時に課すレポートの内容による。

### 【テキスト】

特に定めない。

### 【参考文献・資料】

その都度指示する。

## 国際社会演習 I a・b

清水 洋

### 【授業の概要】

この演習は、「アジアの社会経済発展と日本の役割」をテーマとして、アジア社会の諸問題を政治・経済・文化・宗教・民族などの側面から多面的に考察し、アジアに関する知識と関心を深める。また、アジア諸国に対する日本の影響を大衆文化(映画、音楽、和食、ファッションなど)、政府開発援助、直接投資、技術移転などを取り上げて検討する。

### 【授業計画】

テキスト、新聞・雑誌記事、ビデオなどを使ってアジア社会の諸問題を考察し、討議を通じて知識を深める。また、文献の集め方・使い方、レポート作成の方法などを適宜指示する。

- 1) ~2) アジアの現代史
- 3) ~4) 民族、宗教、言語
- 5) ~6) 教育
- 7) ~8) 政治と経済
- 9) ~12) アジア諸国の社会経済発展における日本の役割
- 13) その他

### 【評価方法】

討議への参加度、発表内容、レポートなどにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

第1回目の授業で指示する。

### 【参考文献・資料】

授業中に随時指示する。

## 国際社会演習 I a・b

秦 忠夫

### 【授業の概要】

日本経済と世界経済の結びつきを重点に、経済をみる眼を養うことを目標とします。スタート時点では参加者の経済学履修状況にはバラツキがあると思われまので、次のような段階的アプローチをとる方針です。第1段階では、講義形式で経済学の基礎を勉強します。第2段階では、『世界経済白書』などをテキストに世界経済の現状ならびに日本経済の実情と課題を勉強します。この段階では、各自が割り当てられた部分の要旨を報告し、質疑応答する形を基本とします。第3段階では、内外経済の注目されているテーマに関する論文・解説記事を多読し、実践的な理解力を鍛錬したいと思います。

### 【授業計画】

第1段階：最初の1カ月。経済学の基礎の勉強。

第2段階：5月以降前期末月まで。内外経済の実情がテーマ。

テキスト：追って連絡

第3段階：残りの期間。実践的な理解力の鍛練。

テキスト：内外の論文・解説記事のコピー

なお、前期末には共通テーマにつき、後期末には各自が選んだテーマにつきレポートの提出を求めます。

### 【評価方法】

レポートと授業への参加態度で評価。

### 【テキスト】

上記の通り。

### 【参考文献・資料】

授業の際、適宜紹介。



## 国際社会演習 I a・b

藤瀬浩司

### 【授業の概要】

日本経済がいまどのような状況におかれているかを検討します。

### 【授業計画】

ゼミ参加者の報告に従って進めます。

### 【評価方法】

ゼミへの参加状況によって評価します。

### 【テキスト】

平成15年度経済財政白書  
(その他についてはゼミの中で指示します)

## 国際社会演習 I a・b

渡辺かよ子

### 【授業の概要】

「現代社会における教育：生涯発達支援の視点から」を全体テーマとし、(1)共通プロジェクト(「生涯発達支援としての教育」)、(2)個別プロジェクト(参加者各自の関心に基づく)から構成する。生涯発達という視点から教育学の基本理論を踏まえた上で、探求に必要な基礎知識や基礎理論を、参加者の異なる経験と相互に関連させながら学び、それぞれのテーマや関心を深化させていく。それ自身が重大な社会問題であると同時に、多様な社会問題の有力な解決策でもある「教育」という社会現象に関する研究法を上記プロジェクトを進める中で実践的に学び、現代社会における教育のあり方を探求する。

### 【授業計画】

各自の問題関心に基づくレポート発表と討論を行う。

### 【評価方法】

授業への参加貢献度(レポート、発表内容、発言等)。

### 【テキスト】

使用せず(資料配布)。

### 【参考文献・資料】

近代日本の学校文化誌(石附実編著 思文閣出版)  
世界の教育改革(佐藤三郎 東信堂)  
世界の開発教育(オスラー 明石書店)  
人間発達の生態学(ブロンフェン布伦ナー 川島書店)

## 国際社会演習 II a・b

青島 宏

### 【授業の概要】

演習 I での学習を踏まえて、冷戦構造消失後に新しい変化が起きつつある国際情勢のなかなどから、各自の興味あるテーマ追究に取り組む。拡大する欧州連合(EU)や北大西洋条約機構(NATO)などの国際機構の新しい機能や、中東紛争や北アイルランド紛争、バルシャ湾とエネルギー安保、米中核テロとアフガニスタンなど視野にいれたい。

演習 I の学習内容と関連させながら計画する。

### 【授業計画】

ゼミ生各自が演習 I の学習を通じて国際問題への関心を広げ、興味のあるテーマを選んで、各自で調査発表する。

### 【評価方法】

日常の出席状況など授業への取り組みとレポート提出による。

### 【テキスト】

未定。

## 国際社会演習 II a・b

石橋千鶴子

### 【授業の概要】

演習 I に引き続き、1)地域研究：多文化・多言語社会の考察、2)日本語教育に関する考察を深めるとともに、各自が設定したテーマで論文作成を進めていく。

### 【授業計画】

各自が、自分のテーマについて調査・研究を進め、中間発表を行う。クラス討議と個人指導を通して、卒論を仕上げていく。

### 【評価方法】

発表、レポートおよび平常の勉学状況により評価を行う。

### 【テキスト】

テキストは未定。英字新聞記事のコピーなどは配布する。



## 国際社会演習Ⅱ a・b

清水 洋

### 【授業の概要】

演習Ⅰからの継続。この演習は、「アジアの社会経済発展と日本の役割」をテーマとして、アジア社会の諸問題を政治・経済・文化・宗教・民族などの側面から多面的に考察し、アジアに関する知識と関心を深める。また、アジア諸国に対する日本の影響を大衆文化（映画、音楽、和食、ファッションなど）、政府開発援助、直接投資、技術移転などを取り上げて検討する。

### 【授業計画】

テキスト、新聞・雑誌記事、ビデオなどを使ってアジア社会の諸問題を考察し、討議を通じて知識を深める。また、文献の集め方・使い方、レポート作成の方法などを適宜教示する。

- 1) ～2) アジアの現代史
- 3) ～4) 民族、宗教、言語
- 5) ～6) 教育
- 7) ～8) 政治と経済
- 9) ～12) アジア諸国の社会経済発展における日本の役割
- 13) その他

### 【評価方法】

討議への参加度、発表内容、レポートなどにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

第1回目の授業で指示する。

### 【参考文献・資料】

授業中に随時指示する。

## 国際社会演習Ⅱ a・b

秦 忠夫

### 【授業の概要】

演習Ⅰでは世界および日本の実体経済の動きを主たるテーマとしましたが、演習Ⅱでは国際通貨・金融問題にテーマを広げていきます。「国際金融論」で基礎的な勉強は終わっている筈ですから、「ヨーロッパの通貨統合」、「国際資本移動の功罪」、「わが国の金融制度改革」など注目されている動きに関する論文や記事を教材にして、討議形式で通貨・金融問題への関心と理解を深めて行きたいと思えます。「卒論」は選択科目ですが、学生生活の仕上げに全員卒論に取り組んでもらいたいと考えています。前期の内に卒論につながる各自の研究テーマを定めてもらい、後期はそれぞれの研究の報告（中間報告）につき意見交換する形にしたいと思います。

教材とする論文や記事は原則として私が用意しますが、参加者から提案があればそれ以外の資料も取り入れていきます。前期末には各自の研究テーマの趣旨と研究の進め方につきレポートを提出してもらいます。

### 【授業計画】

上記の通り。

### 【評価方法】

レポートと授業への参加態度で評価。

### 【テキスト】

テキストの使用予定なし。

### 【参考文献・資料】

授業の際、適宜紹介。

## 国際社会演習Ⅱ a・b

西尾林太郎

### 【授業の概要】

「日本人と日本社会に関する総合的研究」

戦前および戦後の日本の政治・外交・経済・社会・文化を国際的視点に立ちつつ歴史的に捉え、研究を進める。

### 【授業計画】

たとえ短くても、演習生全員が卒業論文（ワープロ打ちA4 12枚以上。変更されることもある）作成を目指す。前半は演習生と相談の上で、いくつかの文献を読み、後半は各自の関心やテーマに応じて調査・研究を進め、その成果を演習で発表してもらうこととする。そうした積重ねの上に卒業論文が可能となる。なお、ゼミでは卒論作成の過程で見つけた問題点や卒論の一部について発表してもらう。

また、適宜、学外から講師をお呼びし、御指導いただきたいと思っている。

### 【評価方法】

評価は演習での活動状況と発表、および「卒論」提出の有無による。

### 【テキスト】

なし。

### 【参考文献・資料】

随時、指示する。

## 国際社会演習Ⅱ a・b

藤瀬浩司

### 【授業の概要】

現在の世界経済の状況と日本がおかれている状況について勉強します。

### 【授業計画】

ゼミ参加者の報告に従って進めます。

### 【評価方法】

ゼミへの参加状況によって評価します。

### 【テキスト】

平成15年度通商白書



### 【授業の概要】

演習Ⅰからの継続。「現代社会における教育：生涯発達支援の視点から」を全体テーマとし、個別プロジェクト（参加者各自の関心に基づく）について卒業論文作成を目指す。現代社会における教育をより広い歴史的社会的視点から考察し、今後の教育のあり方に関する確かな知見を養いたい。

### 【授業計画】

各自の問題関心に基づくレポート発表と討論を行う。

### 【評価方法】

授業への参加貢献度（レポート、発表内容、発言等）。

### 【テキスト】

使用せず（資料配布）。

### 【参考文献・資料】

近代日本の学校文化誌（石附実編著 思文閣出版）  
世界の教育改革（佐藤三郎 東信堂）  
世界の開発教育（オスラー 明石書店）  
人間発達の生態学（ブロンフェン布伦ナー 川島書店）



## マス・コミュニケーション論

小塚哲司

### 【授業の概要】

新聞、テレビなど、マスコミによって伝えられるニュースは、社会の日々の動きを映す鏡である。事件、事故の報道及び、政府など国家の動きを監視する役目など幅広い。すべて国民の知る権利に答えるためである。

学生たちがマスコミの役割とニュースに関心を深め、時代を考える一コマとして、新聞記者、海外特派員の体験を交え、分かりやすく解説したい。

### 【授業計画】

1. マス・コミュニケーションの役割と機能  
その歴史と日本、世界の新聞事情、デジタル時代を迎えたメディア事情。
2. マスコミの倫理と功罪  
一度に大事件などを多数に伝えられる点で、マスコミは有効だが、一つ誤ると大混乱する。また公平な視点を欠くと、偏った見方を伝えてしまう。報道される側のプライバシー保護も重要だ。報道の実態と、厳しく問われる報道倫理。イラク戦争や北朝鮮拉致問題など、具体的なニュース報道で検証したい。
3. 授業を面白くするために、毎週、その週の大きなニュースを解説。

### 【評価方法】

教室での応答、小レポートと期末レポートで総合評価する。

### 【テキスト】

未定。

### 【参考文献・資料】

授業の中で、随時紹介する。

## メディア社会論

石田米和

### 【授業の概要】

人々の考え方や行動の総体としての文化を創り出し、普及させていく手段としての各種メディア（衛星テレビ、携帯電話、インターネット等）を取り上げ、メディアそのものの発展状況、メディアの諸機能、メディアに日常的に接している我々が留意すべき点等について考えていく。

概ね以下のようなテーマに沿って進めていく。

1. メディア（衛星テレビ、携帯電話、インターネット等）の進捗状況と特徴
2. メディア環境の変化と影響—企業活動、組織、生活、地域社会、グローバル化とローカル化
3. メディア社会の特質と将来

### 【授業計画】

テキストの解説を中心とし、適宜、参考資料、ビデオ等を使用する。テキストの十分な理解と関連学習が必須である。

### 【評価方法】

真剣に学ぶ意欲のある学生のみが履習すること。

評価はレポート提出、定期試験、受講態度により行う。

### 【テキスト】

未定。

## マス・カルチャー論

山田登世子

### 【授業の概要】

ファッションという日常文化の分析をとおして「現代社会」を考える。

◇ファッションとは何か — その1（身体論的アプローチ）

「見せる」ことと「隠す」こと

◇モードとは何か — その2（時間論的アプローチ）

「流行」とは何か、わたしたちはなぜトレンドに敏感なのか？

◇ブランドって何？

ルイ・ヴィトン、シャネルなどを例に、ブランドの文化史を学ぶ

◇誘惑論 — ひとはなぜおしゃれをするのか？

◇モードと性 — シャネルなどをめぐって

上記のようなプランにそって、「おしゃれ、何のために？」を考える。

### 【授業計画】

講義ではありますが、授業に「参加」してもらうため、ぬきうちショート・テストを毎回のようにやります。

（このテストをとおして届いた受講生の意見を収録した新書を授業のテキストに使用します）

### 【評価方法】

ショート・テストに代表される平常点を評価しますが、学期末のレポートが成績のわかれ目です。

### 【テキスト】

ETUDE SUR LA MODE（山田登世子）

ブランドの世紀（山田登世子 マガジンハウス1,800円）

※2冊セット販売

## ニューメディア論

高橋 徹

### 【授業の概要】

本授業では、情報化社会の進展に極めて大きな関わりを持っている「ニューメディア」の概念を、単に技術的な解説とせず、情報の送り手、受け手、情報内容等の利用上の特徴をとらえて解説し、ニューメディアに関する知識の習得を目的とする。

はじめに本講義を進めていく基本的視点を提示し、ニューメディアが様々な側面と密接な関係にあることを学ぶ。さらに技術的背景、社会・経済・文化的背景が情報通信技術やコミュニケーション活動に与えている様々な現象について知識を深めていく。その上で、情報社会における生活様式や産業活動等がどのように変化してきたかを習得する。

1. ニューメディアの歴史
2. 生活とニューメディア
3. 教育とニューメディア
4. ビジネス社会とニューメディア
5. 行政とニューメディア
6. 地域開発とニューメディア
7. 電気通信産業概説
8. メディア産業とニューメディア
9. デジタルデバイド
10. 情報リテラシー
11. 情報社会の作法・マナー
12. テレコミュニケーションの制度
13. 海外の動き

### 【授業計画】

テキストを中心に、随時プリント教材、VTRも使用する。

### 【評価方法】

定期試験、小テスト、出席率等により総合的に評価する。

### 【テキスト】

未定。



## 放送メディア論

大西 誠

### 【授業の概要】

マスメディアの中でもデジタル化の波で、厳しい対応を迫られているのが、放送メディアである。現代社会に欠かせない基幹メディアとしての放送の成立から放送現場の実態までをたどりながら、その機能や問題点を探り、現代社会との関わりを展望する。

### 【授業計画】

講義形式。

1. 放送のなりたちと歴史（電波メディアの発達）
  2. 放送の公共性と制作体制（NHKと民放）
  3. 放送とビジネス（広告媒体としての放送）
  4. 放送と人権
  5. 放送と災害
  6. 放送と政治
  7. 制作現場（1） ニュース/ワイドショー
  8. 制作現場（2） ドラマ/ドキュメンタリー
  9. 制作現場（3） パラエティ/教養
  10. デジタル放送と放送のグローバル化 など
- （内容については、変更になる場合がある）

日常のテレビ番組から何かを発見してほしい。授業中は私語厳禁。

### 【評価方法】

出席状況、小テストと学期末レポートなどによる。

### 【テキスト】

なし。

### 【参考文献・資料】

テレビの教科書（PHP新書）

## メディアリテラシー論

小川明子

### 【授業の概要】

日常生活において、私たちは、テレビ、新聞などのマスメディアや電話、e-mailなど様々なメディアに囲まれている。しかし、こうしたメディアが私達のコミュニケーションのあり方にどのような影響をもたらしているのか、またどのように活用できるかなどについて、普段、私たちはあまり意識的ではない。

本講義では、最近様々な場で提唱されるメディアリテラシーの概念について、ワークショップなどを通じて体験的に習得することを目標とする。単なるメディア批判に終わることなく、市民社会におけるメディアとの関わり方や情報モラルについても考えていく。

### 【授業計画】

1. メディアとは
2. 映像メディアの特性を知る
3. マスメディアの特長と限界
4. メディアとコミュニケーション
5. 戦争とメディア
6. 市民社会とメディア

資料を提示しながら進める。取材、メディア表現等の実践も取り入れる。

### 【評価方法】

授業後に提出するコメントと期末レポートによる。

### 【テキスト】

なし

### 【参考文献・資料】

メディアリテラシー—メディアと市民をつなぐ回路—（NIPPORO文庫）  
メディア・リテラシー—マス・メディアを読み解く（リベラ出版）

## 放送制作論 I（制作基礎）

小川明子

### 【授業の概要】

取材方法、映像表現、番組が必要とされるナレーション・リポート等の音声表現など映像表現の基礎を、実際に2分の映像を制作することで体験的に学ぶ。

また、番組がどのような経緯で企画、制作され、放送に至るかについて、学習する。

### 【授業計画】

1. 放送とは
2. 映像・音声表現基礎
3. 実習
4. 発表

### 【評価方法】

出席、授業態度と課題の提出、最終発表を総合的に評価する。

### 【テキスト】

なし

### 【参考文献・資料】

メディア・リテラシーの道具箱（東京大学出版会）

## 放送制作論 I（制作基礎）

宮原美佳

### 【授業の概要】

ビデオカメラやコンピュータの個人所有が一般的になった現在、映像はテレビや映画関係者などプロだけが制作するものではなくなった。趣味の撮影、会社での記録や、プレゼンのため、webでの映像配信など、だれでもが映像（情報）の発信者になれるようになった。しかし、人に何かを伝えるためにはただ撮影すればいいというものではない。ビデオカメラで撮影するだけでは記録にすぎない。人に見せる、伝えるという意志を持って、撮影、編集することによりメッセージが生まれる。

この授業ではテレビ番組の制作方法をベースに、企画、撮影、編集の基礎を行ない、映像で他者に何かを伝えるということに取り組んでもらう。実際に自分で番組制作をすることにより、現実には放送されている映像、情報の虚実を読み取る力をつける。

### 【授業計画】

最終課題として、8mmビデオカメラ（Hi8テープ対応）を使用して、2分間の自己PR番組を制作する。それに向け番組制作の基礎理論と演習を行なう。

メディアプロデュースコース希望または専攻者が望ましい。

### 【評価方法】

出席回数、授業態度、課題で総合的に評価する。

### 【テキスト】

なし



## 放送制作論Ⅱ（スタジオ制作）

大西 誠

### 【授業の概要】

スタジオ機器を使用して、ニュース番組とトーク・情報番組を制作する。演出などの理論と機器の使用方法を学習し、放送が個人プレイによるものではなく、集団で作りに上げるものであることを学ぶ。またカメラ、音声、照明など技術面とディレクターやフロア・ディレクター、出演者など演出面を実地に経験することにより、制作における問題点や番組制作の裏面からメディアリテラシーを身につける。

### 【授業計画】

理論と実習を組み合わせる。

1. スタジオカメラ等制作技術の操作
2. 出演者とスタッフの関係
3. 企画の立て方、台本の書き方
4. 放送素材/ロケーションと編集
5. スタジオ収録と試写

以上を目標にグループによる番組の制作を通じて、メディア・リテラシー能力を高める。

メディアプロデュース・コース希望または専攻者が望ましい。実習の積み重ねが大切なのでチームワークを大切にしてほしい。

### 【評価方法】

実習の態度（チームワーク）と作品及びレポートで評価する。

### 【テキスト】

なし。

## マルチメディア情報論

辻 紘良

### 【授業の概要】

マルチメディア情報を構成する要素は画像、映像、音、通信であり、また一方、認識と創作という両面を持ち合わせている。ここでは、これらの種々の特徴を示すとともに、技術、システム、応用の面から全体の体系と相互の関連性をわかりやすく提示する。あわせて、技術的な内容について基本となる原理を中心に説明し理解を進める。

### 【授業計画】

1. マルチメディア情報学の基礎
2. 情報を用いた問題解決
3. 情報の計測と制御
4. 情報の伝達
5. 情報の収集と発信
6. 情報の表現
7. 文字と音の情報処理
8. 表現の技術
9. 情報化社会

CD-ROMやビデオ機器を用いて最先端のマルチメディア活用の実例や実験例を提示し理解を深める

### 【評価方法】

課題の提出や期末試験の結果を総合し成績を評価する。

### 【テキスト】

使用せず

### 【参考文献・資料】

基礎・要素技術/システム編—マルチメディア標準テキストブック  
(標準テキストブック編集委員会編 CG-ARTS協会 p387 平成11年)  
マルチメディア情報学の基礎  
(長尾・安西他編著 岩波書店 p240 1999他)

## サブカルチャー論

太田浩司

### 【授業の概要】

この授業では現代日本社会における様々なグループ間でのコミュニケーションの現状と特徴について知識を深めることを目標とする。特に社会アイデンティティー理論という理論的立場から異文化、サブカルチャー、共文化などと呼ばれるグループに属する人々の間で繰り広げられるコミュニケーションについて吟味をする。詳しい授業の計画は初回の講義で説明するが、以下の内容を授業で扱う予定である。

### 【授業計画】

- (1) 社会アイデンティティー理論
- (2) 偏見と差別
- (3) ステレオタイプ
- (4) コミュニケーション調節理論
- (5) 文化と価値観
- (6) 異文化間コミュニケーション
- (7) スティグマ (Stigma) と対人プロセス
- (8) 異文化と教育

### 【評価方法】

テスト1回(期末)、短いペーパー3回の予定。出席

### 【テキスト】

多文化社会と異文化コミュニケーション(伊佐雅子監修 三修社)

## 放送制作論Ⅲ（ドキュメンタリー）

大西 誠

### 【授業の概要】

現代社会をビデオカメラの目を通して見つめることを実習と理論で養成する。カメラによって切り取った現実を編集という作業によって、再構成していく「現実世界」のとらえ方を認識する。また作品を通じて、新たな現実を映像で作り上げ、伝えていくというドキュメンタリー番組のあり方や問題点について考察する。

(放送制作論Ⅰ受講済が条件)

### 【授業計画】

実習と理論を組み合わせる。

講義の中で、ドキュメンタリーの意味、方法論を知るとともに企画(テーマの選び方)から制作まで手法を学ぶ。課題テーマをもとに、インタビューとレポートを基本としたドキュメンタリー番組を制作する。

1. ドキュメンタリー番組の歴史
2. ドキュメンタリー番組の企画
3. ドキュメンタリー番組の演出
4. ドキュメンタリー番組の編集
5. ドキュメンタリー番組の評価

以上を目標に2~3人のチームワークによる実習を中心に番組制作をする。自ら取材する意欲、問題意識が求められる。新聞の企画記事やドキュメンタリー番組を見てほしい。

### 【評価方法】

出席・実習の態度と作品内容で評価する。

### 【テキスト】

なし。



## 放送制作論IV (ドラマ)

大久保晋作

### 【授業の概要】

ドラマ (TVドラマ番組) 制作を試みることによって、自然や人間を見つける目を育てるとともに、現代社会を把握する一つの方法を身につける。

また、ドラマがいかに多くの人を経て制作されるかを知ることによって、その中に現れる芸術性や文化の創造性について考える。

### 【授業計画】

講義は、下記のようなもので構成される。

1. TVドラマの条件
2. TVドラマの企画
3. 台本の決定と演出
4. TVドラマの美術
5. TVドラマの技術 (カメラ、音声、照明)
6. 演技者
7. 編集
8. 完成/試写

など

多くのドラマ番組を視聴しながら、理論と実習を組みあわせる。また制作現場を見学し、理解の一助とする。

### 【評価方法】

授業への参加度、課題レポートで総合評価する。

### 【テキスト】

なし。

## 映像制作論

坂元 多

### 【授業の概要】

ビデオや映画の中の表現テクニックを抽出して映像制作方法として一般化、法則化を試みる。

映像制作は高い独創性が要求される。これは説明や講義で学べるものではない。数多くの優れた作品に接しながら、これを理解し、消化する中で制作の手がかりを得る。

### 【授業計画】

映像作品の試写と解析。

### 【評価方法】

授業時間内のテストで評価。

### 【テキスト】

特になし。

## 情報文化論

小川明子

### 【授業の概要】

現代社会において、私達の文化はメディア産業と深い関わりを持っている。本講義では以下の内容に焦点を当てて具体的に身近な事例を参照しながら、情報文化について多面的な考察を加えたい。

1. 産業と文化の接点—コマーシャルを手がかりに—  
現代は高度消費社会でもある。産業の歴史でもあり、大衆文化の記録でもあるコマーシャルを手がかりに高度消費社会と情報、意味生成について考える。
2. 情報の東京—極集中—テレビ産業から考える—  
情報の東京—極集中—が叫ばれて久しい。行政による地域情報化政策も成功しているとは言いがたい。そこで、私達の生活、文化と密接なテレビを産業として分析することで、情報—産業—文化について考察する。
3. 情報化と社会—課題と可能性—  
情報化は私たちの文化にどのように関わるのか。デジタルデバインド、著作権等の知的所有権の問題など、現在話題のトピックについても考えていく。

### 【授業計画】

上記の内容について、ビデオ、プリント資料をもとに講義形式で進める。

### 【評価方法】

テスト。授業後のコメントを補助的に用いる。

### 【テキスト】

なし

### 【参考文献・資料】

適宜指定する。

## ヴィジュアル・コミュニケーション論

石田米和

### 【授業の概要】

マルチメディアの進展が契機となり、コミュニケーションの場における映像化・ビジュアル化の傾向が顕著になりつつある。このような状況を踏まえ、映像化・ビジュアル化の歴史の変遷を概要しつつ、そのことの社会的影響や認知、理解への影響、文字によるコミュニケーションとの関係、さらにトータル・コミュニケーションの再検討について考えていく予定である。

主として以下のような内容を取り上げる予定である。

- 映像化・ビジュアル化とは—歴史の変遷、社会的要請
- 映像化・ビジュアル化の影響—社会経済的、心理的 (認知、理解等) 等
- 映像化・ビジュアル化と文字によるコミュニケーションとの関係
- 映像化・ビジュアル化と文化
- 映像化・ビジュアル化の問題点

### 【授業計画】

テキストの解説を中心とし、適宜、参考資料、ビデオ等の映像資料を使用する。テキストの十分な理解と関連学習が必須である。

### 【評価方法】

真剣に学ぶ意欲のある学生のみが履習すること。  
評価はレポート提出、定期試験、受講態度により決める。

### 【テキスト】

ビジュアルコミュニケーション  
(藤沢・瀧本・中村・西川共著 ダヴィッド社)



## 映像演出論

大西 誠

### 【授業の概要】

これまでの国内の名作映画の中で、記憶に残るシーンを抽出し、映像技法という角度から分析し、制作者の意図と演出の意味について学ぶ。

### 【授業計画】

すぐれた映像は、一定の技術を使って作品を作り上げる職人的要素と独自の語り方を表現する作家的要素によって成り立っているといえる。本講では、日本人監督の作品を中心に映像が生み出す感動や驚きに焦点をあてて、数々の映像技術を取り上げ解説を試みる。あわせて映画が作り上げてきた映像文法を考察する。

具体的には、下記のような技術を用いた映像場面を取り上げて検討する。

- ・クローズ・アップとロング・ショット
- ・アクション・カットとダイアログ・カット
- ・オーバー・ラップとフェード・アウト
- ・マルチ・カメラ
- ・スローモーション
- ・パンフォーカス
- ・ワンシーン・ワンカット

### 【評価方法】

授業への参加度、小テスト、期末の試験などで総合評価する。

### 【参考文献・資料】

一人ででもできる映画の撮り方（洋泉社）

## メディアプロデュース演習 I a・b

石田米和

### 【授業の概要】

人々の意識や行動の総体としての文化に与える各種メディアの影響は、近年日増しに強くなってきている。このような状況のなかで、本演習では、先ずさまざまな基本的な方法論を修得し、メディアと文化に関わる広範な知識を蓄積し、議論し、理解力・洞察力を深めていくことに主眼を置く。なお、演習Ⅱや卒業論文作成への連携を念頭に置いて進めていく。

理解力・洞察力の涵養に必要な方法論の知識を獲得しつつ、メディアや文化の理解を深めていく。概ね、以下のようなテーマを考えている。

1. 社会科学における方法論・手法論
2. 理解力・洞察力・表現力等
3. メディア（環境）の変容とその影響
4. メディア文化の考え方
5. 文化の再検討
6. 関心テーマ（卒業論文）の模索

### 【授業計画】

徹底的な議論と学生諸君の発表とをベースに進めていく。主体的かつ積極的な態度、十分な学習時間、海外文献のための英語力等が必要である。

### 【評価方法】

受講資格は特にない。

評価はレポート提出、定期試験、受講態度、出欠・活動状況により行う。

### 【テキスト】

未定。

## メディアプロデュース演習 I a・b

太田浩司

### 【授業の概要】

現代の生活に欠かせない言葉に文化とテクノロジーがあります。さまざまな文化・社会グループの人たちが混在し、またコンピューター、ケータイなどのテクノロジーの凄まじい速さでの発展がするなかで、自分を理解し、多様な価値観を持つ人々と生活をしていくのは非常にチャレンジングなことです。自分たちの日常の行動を振り返り、いったい何を考え、どのような行動をしているのかについてのメカニズムを知るということは自分という人間を見失わないためには非常に大切なことだと思います。そこで、このゼミでは私たちはいったいどのように周りの人に自分たちを提示し、またどのように周りの人を理解、区別しているかへの理解を深めていくことを目標としています。特に今年度は社会心理学・コミュニケーションという視点から人間の身体に焦点を当てて、私たちが生活の中でどのように人を認識しているか、またどのようにメッセージを相手に伝えているかをグループでのプロジェクトを通して勉強していきたいと思っています。

授業の方法は教科書や英語のReaderを分担して読み、発表すること、プロジェクトとして実験・調査をして発表、そして論文に仕上げていくことを中心に行います。

### 【授業計画】

各学期の最初の授業に詳しい予定を提示します。以下の内容を含む予定です。

1. 自己提示としての服装・化粧
2. 服装・化粧と異文化
3. 服装・化粧と印象形成
4. 服装・化粧と対人コミュニケーション
5. コミュニケーションにおける声の役割
6. 研究方法
7. データ分析
8. 論文作成

### 【評価方法】

出席、口頭発表、タムペーパー

### 【テキスト】

被服と化粧の社会心理学（高木修監修 北王子書房）

## メディアプロデュース演習 I a・b

大西 誠

### 【授業の概要】

現代の情報化社会では、メディアの存在そのものが当然のものとして受けとめられている。この演習では、各種メディアの誕生の歴史に立ち返りながら、多様化する現代のメディアの意義や問題点を探る。具体的には、リアリティを構成する映像等の素材をもとにメディアの送り手の意図を解読するとともに主体的な発信者となることを目指す。

### 【授業計画】

テキスト、映像などの素材をもとに発表および討論。

<前期>

写真、映画、テレビ、ビデオなど様々なメディアの映像を読み解くとともに、現代社会のメディアの動向に目を向けて、ジャーナルな感覚を身につける。

- 1) テキストの解説・要約と意見の発表
- 2) メディア表現の分析と討論

<後期>

グループワークとしてメディア企画のシミュレーションとともに具体的な成果物の作成に取り組む。また前期に引き続き、メディア表現について、各自テーマを設定しを分析に取り組む。

### 【評価方法】

口頭発表、小レポート、討論への参加、課題レポートなど。

### 【テキスト】

映像論（NHK出版）



## メディアプロデュース演習 I a・b

小川明子

### 【授業の概要】

メディアと地域社会について考える。

前期には、文献講読（英語を含む）。消費社会と都市、地域の関わりや地域メディア、市民のメディアに関する文献を手がかりに議論を進める。

後期には、地域とメディアに関して、各自が調査を行い、発表する形式を取る。

さらに次年度は、実際に自らの作品等が発表できたり、自由に発言できるメディア、あるいはシステムを構築することを目標にしている。

他地域の大学との交流授業なども積極的に行いたい。

また、夏休みに地域メディアの調査旅行を考えている。費用は5万円以内。

### 【授業計画】

1. 年間計画提示
- 2-10. 文献講読
- 11-23. 地域メディア調査・発表
24. まとめ

### 【評価方法】

授業態度、発表等から総合的に評価する

### 【テキスト】

適宜指定する。

### 【参考文献・資料】

メディア・プラクティス（せりか書房）

## メディアプロデュース演習 I a・b

親松和浩

### 【授業の概要】

科学技術が私たちの暮らしをどのように豊かにできるかを考えていく。主たるテーマを情報メディア技術と自然環境とし、負の側面についても注意して考察する。

### 【授業計画】

以下のトピックスの実習を中心にして学習する。

1. 自然環境を考える ～道ばたの草花～
2. 自分史を書く～世の中の移り変わりを考える～
3. メディアとしてのコンピュータ入門  
～コンピュータ言語 Squeak 入門～
4. 旧暦とピラミッドからGPSの科学まで～精密科学の発展と暮らし～

### 【評価方法】

出席状況と報告レポート等で評価する。

## メディアプロデュース演習 I a・b

五島幸一

### 【授業の概要】

高度情報化社会と称される今日において、メディアが果たす役割がますます重要になってくる。新聞やテレビなどを示すオールドメディアからコンピュータネットワークなどを意味するニューメディアを概観し、その特徴を考えていく。

### 【授業計画】

テキストを中心に行うが、副教材としてプリント、ビデオなどを使用する。とくに、学生主体の発表とするので、学生はプレゼンテーションを考えること。

### 【評価方法】

授業への参加度、与えられた課題についてのプレゼンテーション、および学期末に提出するタームペーパーをもって評価の対象とする。

ゼミでは学期末試験を行わないかわりに、タームペーパーを課す。

### 【テキスト】

メディア・コミュニケーション論（竹内・児島・橋元編 北樹出版）

## メディアプロデュース演習 I a・b

坂元 多

### 【授業の概要】

－映像表現のテクニックをさぐる－

テレビ制作の技術を学びとるには、数多くの番組視聴試写がかかせない。映画を含む既成の映像番組の中から具体的にすぐれた表現テクニックを抽出し、整理分析し体系化することでトータルな映像表現の理解を構築する。組織化された教材映像のスクリーニングを媒介として映像表現の知識、技能を習得する。

- 一枚の絵ハガキ、絵画、写真などスタイルの解析
- TV、映画、コマーシャルなど動く映像の解析
- ディスプレイ、インスタレーションの解析
- ビデオ制作による表現技術の実践と評価

### 【授業計画】

映像の提示、報告、解析の演習。

### 【評価方法】

試料となる映像から何をどう読みとるか、各回のとり組み方や自主的研究の深め方を見て常時評価する。

### 【テキスト】

特になし。



## メディアプロデュース演習Ⅰa・b

辻 紘良

### 【授業の概要】

マルチメディアの要素技術であるCG画像作成、デジタル映像ならびにMIDI音楽について作成方法や編集技術を学び、これらを総合的に活用してデジタル映像作品等を作成する。さらに、研究室内LANを介してこれらの映像作品の対話型送受信を試みる。これらにより、マルチメディア技術諸相の現在を体得するとともに、マルチメディアの可能性と問題点を具体的に把握する。

### 【授業計画】

前期はパソコンで行うマルチメディアに関する基礎技術を学ぶ。後期は、修得した技術を総合的に活用して映像作品を作成し、ネットワークに載せ対話型送受信を試みる。

- 前期：マルチメディアに関する基礎技術の修得
- ・2・3次元画像作成（イラスト、3次元CG）
  - ・デジタル映像作成・編集（対話型2・3次元動画）
  - ・サウンド作成・編集（MIDI音楽）
  - ・ホームページ作成（対話型ネットワーク通信）
  - ・プログラミング（ネット対応言語）

後期：作品作成

- ・各自作品（一つのソフトを利用して作成）
  - ・グループ作品（複数のソフトを活用して作成）
- 7号棟Media Landの設備を使用する。

受講にさいしては「情報活用4,5,6」の履修が望ましい。また、授業に電子メールを利用するので、学内のネットワーク利用資格を取得しておくこと。

### 【評価方法】

課題の提出状況や期末試験の結果、ならびに作品の出来映えを総合し成績を評価する。

### 【テキスト】

テキスト使用せず。

### 【参考文献・資料】

マルチメディア情報学の基礎（長尾真他著 岩波書店 p.240）

## メディアプロデュース演習Ⅰa・b

古賀暁子

### 【授業の概要】

—映像の面白さを“ことば”で語る—

現代は映像の時代だといわれている。生活の中で映像の読解や映像による表現の必要性は日々増している。

古今の映像、それが1枚の絵や写真、映画の1シーン、テレビCMの1場面であれ、自分に訴えてくるものを、ことばによって追い求め、知の枠組みとして構築してみることは楽しい。一人で楽しむのもいいが、授業では、この楽しみを仲間と共有してみよう。

### 【授業計画】

各学生が自分のこだわりの映像を提示し解説し、全員でこれを解析してゆくことを中心とする。自作の映像作品を題材とすることも奨励する。

### 【評価方法】

授業への参加態度や貢献度、期末レポートなどによって常時評価する。

### 【テキスト】

なし。

## メディアプロデュース演習Ⅱa・b

石田米和

### 【授業の概要】

演習Ⅰでのテーマをより深化させて、関心テーマの絞り込みから卒業論文作成の計画と指導へと繋げていく。

概ね以下の項目についての指導を行っていく。

- メディア文化に関する議論、個別研究
- 関心テーマの絞り込み
- 卒業論文の作成計画
- 卒業論文の執筆

### 【授業計画】

徹底的な議論と学生諸君の発表とをベースに進めていく。主体的かつ積極的な態度、十分な学習時間、海外文献のための英語力等が必要である。

### 【評価方法】

受講資格は特にない。

評価はレポート提出、定期試験、受講態度、出欠・活動状況により行う。

### 【テキスト】

未定。

## メディアプロデュース演習Ⅱa・b

太田浩司

### 【授業の概要】

演習Ⅰa・bに引き続き個人が社会生活の中でどのように自己を提示し、他の人々を認識しているのかを調査・研究をする。前期は、特に調査を行った結果を社会の中にどのようにフィードバックをしていくかという応用に焦点を当てる。後期は研究した内容について報告書を作成することを目標とする。

前期はグループプロジェクト方式、後期は卒論に向けての個人プロジェクトという形式を採用する予定である。

### 【授業計画】

学期の最初に提示する。

### 【評価方法】

個人の口頭発表とプロジェクト

### 【テキスト】

被服と化粧の社会心理学（高木修監修 北王子書房）

### 【参考文献・資料】

随時配布をする。



## メディアプロデュース演習Ⅱ a・b

大西 誠

### 【授業の概要】

演習Ⅰa・bをさらに発展させる。

メディアプロデュースの実際について、計画から実施まで制作を試みる。それぞれの感覚や独自性の伸長をはかるため、個別課題にとりくむ。

### 【授業計画】

研究発表と討論、一部フィールドワーク。課題の深化のため、個別指導を求めることが望ましい。

<前期>

各自の課題を明確にし、メディア・プロデュースについて理解を深める。

- 1) メディア表現分析
- 2) テキスト解説と応用

<後期>

グループワークとしてメディア企画のシミュレーションを行うとともに具体的な成果物（卒業制作など）の作成にとりくむ。

研究課題の柱は以下の二つ。

- 1) 映像企画／展示企画
- 2) 広告概論

### 【評価方法】

口頭発表、レポートの提出。作品制作により総合的に評価。

### 【テキスト】

情報デザイン入門（平凡社新書）

## メディアプロデュース演習Ⅱ a・b

小川明子

### 【授業の概要】

前期はそれぞれの卒業論文の構想発表、討論等を中心に進める。

後期はこれまでの学習内容を踏まえ、ゼミ全体としては、東海地方における地域メディアの詳細なマップをウェブ上に制作・展開することを目標にしている。

### 【授業計画】

1. 全体計画提示
2. 卒業論文構想発表・討論
3. 地域メディア調査
4. 地域メディア・ウェブ構築

### 【評価方法】

授業態度、発表、出席などから総合的に評価する。

### 【参考文献・資料】

メディア・プラクティス（せりか書房）

## メディアプロデュース演習Ⅱ a・b

五島幸一

### 【授業の概要】

演習Ⅰを発展させて、様々なメディアの特徴を理解するとともに、メディアを通じて流されてくるメッセージの内容を分析する。具体的には、ニュース報道、広告、またはテレビドラマなど様々なものを対象にして、コミュニケーション（とくにレトリック批評）の観点からその内容を考察する。

授業はテキストを輪読するとともに、学生は自分たちの興味あるトピックをみつけ、それを発表することが課せられる。

### 【授業計画】

テキストを中心に、随時プリント教材も配付する。学生の発表を主体とする。

### 【評価方法】

与えられた課題についてのプレゼンテーション、および学期末に提出するターム・ペーパーをもって評価の対象とする。

### 【テキスト】

未定

## メディアプロデュース演習Ⅱ a・b

坂元 多

### 【授業の概要】

演習Ⅰをふまえて、映像試写、映像制作をとおして映像への一層の理解を深める。

課外での自主的映像制作を前提とし、互いに制作者と観賞者の立場から、作品の試写、質疑、討議、評価を行う。

### 【授業計画】

試写と討議を中心とする演習。

### 【評価方法】

発表、討議、レポートなどで総合的に評価する。

### 【テキスト】

特になし。



## メディアプロデュース演習Ⅱ a・b

辻 紘良

### 【授業の概要】

演習Ⅰで体得した現実のマルチメディア技術諸相の認識を基盤とし、次の研究1～4を並行して進めていく。

(研究1) マルチメディア社会や技術に関し、今日的なテーマを設定し、調査分析を試みる。例えば、ブロードバンドやi-modeなど具体例を取り上げ、それらの現状と将来を調査し、地域社会や産業の活性化にどのような影響を及ぼすかを考察する。

(研究2) 演習Ⅰの延長でマルチメディアを総合的に駆使してデジタル映像等の作品作成を行う。

(研究3) マルチメディアに関する要素技術をより深める実験・研究を行い、応用面を開拓する。

(研究4) 新しいシステムの望ましい姿を思い描き、プログラム言語を用いてパソコン上に構築し、実現可能性を確認する。

### 【授業計画】

(研究1) は前期は調査が主、後期は具対例を対象に分析・考察し、論文にまとめる。調査対象は一人一つを選び、前期に専念して調査する。後期は各自がその結果を用いて現状や将来を考察するとともに、論文を作成する。これらを随時、各自が発表するとともに全員で討議し問題の認識を深める。講義や、クラス討議を通して各技術の位置づけや、関連性を理解する。これらを通して、マルチメディアに関して具体的で幅広い認識を得る。

(研究2)～(研究4) に関しても上記と同様に前期、後期の階段を追って研究を深める。

受講にさいしては「情報活用4,5,6」の履修が望ましい。学内ネットワーク利用資格は取得しておくこと。

### 【評価方法】

中間報告やクラス討議、ならびに論文の出来映えを総合し成績を評価する。

### 【テキスト】

テキスト使用せず。

### 【参考文献・資料】

マルチメディア情報学の基礎 (長尾真他著 岩波書店 p.240)

## メディアプロデュース演習Ⅱ a・b

古賀 暁子

### 【授業の概要】

演習Ⅰでの経験をもとに、映像の世界を更に深く遠く旅することになろう。その過程では、先達の遺したすぐれた作品に感動したり、その時代としての新しい挑戦の意義に気付いたりすることも必要だ。映像の面白さをあえて言葉で分析し、整理し、表現することを学ぶことによって、注意深く“見る”眼が養われ、映像表現のテクニックも身につくことであろう。

### 【授業計画】

演習Ⅰとの相異点は、学生主体の発表に課題を与え、方向性を加味する。話し合うだけでなく、論理的な文章としてまとめる訓練も行う。演習Ⅰと同様、自作の映像作品をもちよって全員で検討することも奨励する。

### 【評価方法】

授業への参加態度や貢献度、レポート、自主研究の深まりなどにより常時評価する。

### 【テキスト】

なし。



## 住生活論

渥美正子

### 【授業の概要】

住まいは、私たちにとって欠かすことのできない家庭生活の「器」である。現代社会の住まいは様々であるが、住まいやそこで展開される住生活様式は、風土・時代・社会の中で形成され、変化してきた。こうしたことを学習するなかで、住まいは人間生活の大切な基地であることの理解を深め、快適な「住まい方」を創造していくことの重要性を認識する。

### 【授業計画】

- 1) 住生活とは
- 2) 風土と住まい：風土特性と住様式、民家が語るもの
- 3) 日本住宅の原型：寝殿造・書院造の住様式
- 4) 戦前の住宅と住様式：「家」制度と住まい
- 5) 西山卯三の研究：住生活の秩序化
- 6) モダンリビングの住生活：民主的住生活、n LDK型プラン
- 7) 住生活におけるポスト・モダンリビング：家族の多様化と住要求の変化
- 8) これからの住生活：新しい住まい方の展望
- 9) 住生活の洋風化：住生活の洋風化過程
- 10) 起居様式：イス座・ユカ座、畳の行方
- 11) マンションと住居管理：集住、マンションの管理問題
- 12) 家庭生活を映し出す住まい：住み手が主人公の住まい

### 【評価方法】

試験とレポートによって行う。

### 【テキスト】

図解住居学 1 住まいと生活（岸本幸臣他編著 彰国社）  
プリント配布

## インテリアデザイン論

高橋敏郎

### 【授業の概要】

近世から現代に至るインテリアデザインの思潮と様式を概観し、これを基盤として、空間を構成する各種エレメント（要素）や素材、造形のそれぞれの機能と意味について学習する。さらに、近未来に向けての、健康や安全を含むインテリアアメニティー・高き空間創造について考察する。

### 【授業計画】

以下の項目につき講義形式で授業を行う。

1. インテリアの意義と資格  
授業のオリエンテーション。インテリアの意義と資格。
2. インテリア空間の意味（1）  
実際の作品に見るデザインの意味と意図。
3. インテリア空間の意味（2）  
実際の作品に見るデザインの意味と意図。
4. デザインするために必要な読解の手がかり
5. 人体寸法と動作空間。
6. 人間工学とその応用。
7. インテリアの安全。建築基準法と消防法など。
8. インテリアの健康。シックハウスほか。
9. 加齢と障害。ユニバーサルデザインに向けて。
10. 知覚による認識。人の集合と行動。
11. 建築の工法。インテリアの材料。
12. インテリアの納まり。

テキストを中心に、OHCなどで学習する。随時プリント教材も配布する。

### 【評価方法】

学習した各単元ごとに小テスト、レポート課題などを実施、定期試験と合わせて評価する。

### 【テキスト】

インテリアデザイン教科書（インテリアデザイン教科書研究会編著 彰国社）

## 現代デザイン史

高橋敏郎

### 【授業の概要】

19世紀から現在に至る欧米を中心としたデザインの思潮の流れを概観し、社会状況、生活様式、技術と生産様式などの背景の変化との関わりの中で近代デザインが成立し、現代デザインへと引き継がれてゆく過程を学習しながら、デザインの分析を通じて近代社会の歩みを理解しデザインの在り方を考える。

### 【授業計画】

- 1) 近代の曙  
産業革命がデザインに及ぼした影響
- 2) デザインによる革命  
アーツ・アンド・クラフト運動の歴史的意義
- 3) 世紀末の華燭  
社会現象としてのアール・ヌーヴォー
- 4) アール・ヌーヴォーの伝播  
新しい時代の予感
- 5) 新世紀の光芒  
ウィーン分離派の新デザイン原理
- 6) 工業技術と芸術  
ドイツ工作連盟が意味するもの
- 7) ポスターの時代  
商業化社会におけるポスターの歴史
- 8) 炎の1910年代  
工業化の曙・デザインの革命
- 9) 摩天楼の夢  
機械文明の成熟と1925年様式
- 10) 産業化される美意識  
大量生産システムを前提とした機能主義的デザイン
- 11) 白の時代  
バウハウス以降のモダンデザインの特徴
- 12) 世紀末の回航  
多様化した現代のデザイン傾向

### 【評価方法】

授業時間中の小レポートと、課題に対する期末のレポートとを総合して評価する。

### 【テキスト】

世界デザイン史（阿部公正監修 美術出版社）

## 生活環境学

渥美正子

### 【授業の概要】

住まいを取り巻く社会環境の変化は、住宅・住環境面に対して様々な問題を提起し、従来の住み方を見直す要因となっている。高齢社会の進行、高度情報化社会の到来、人工的室内環境、家族・ライフスタイルの多様化、地域コミュニティへの無関心など、住生活に関わる今日の問題を客観的に把握し、健康で文化的な住まいの実現に向けての問題解決の視点を考察していく。

### 【授業計画】

1. 家族・ライフスタイルの多様化と住まい  
家族の形態・機能・関係・役割が変容するなかで、住宅・居住地に対して、新たにどのような機能が求められているのかを考える。
2. 高齢社会と住まい  
急速な高齢化が進むなかで、高齢者が人間としての尊厳を守ることのできる住宅・居住地のあり方を考える。在宅福祉の基盤となる住まいをどのように改善するのかを理解し、ついで住みかとしての新しい住まいのかたちについても論じる。
3. 子どもと住まい  
子どもは自らの意思で住環境を選択できないため、健全な発達を保障する住環境を、子どもの視点にたって整えることは親や大人の責任である。子ども部屋のあり方、高層居住と子ども等について考える。
4. 健康と住まい  
住宅建材が健康に及ぼす影響が社会問題となっている。今なぜ、住まいと健康をめぐる議論が活発化してきたのかを、主に住み手の生活スタイルから考える。
5. 住まいとモノ  
限られた住空間がモノに占領され、住み手の生活が制約されている現状がある。生活者として、住まいとモノとの関わりをいかに考えていくかについて考える。

### 【評価方法】

試験とレポートによって行う。

### 【テキスト】

図解住居学 1 住まいと生活（岸本幸臣他編 彰国社）  
プリント配布。



## 建築計画論Ⅰ（住宅）

垂井洋蔵

### 【授業の概要】

建築のデザインを学ぶためにはまず建築で扱う空間がどのような概念であるかを知らなければならない。また建築空間をデザインするということは具体的にどのようなプロセスなのであるかを理解しなければならない。建築を学ぶ第一歩として、住宅という最も人間にとって基本的な建築空間を題材にしながら上記のテーマについてまず解説する。それをふまえて、住まうことに関わる建築を設計するために必要な住要求、建築意図や設計条件の把握、分析の方法、また住宅設計の基本となる構造、設備、材料に関する知識を設計者の立場から総合的に修得することを目的とする。

### 【授業計画】

- 1 建築とは、建築家とは、建築で扱う空間とは
- 2 住みやすい住宅を作るために 建築計画学
- 3 安全な住宅を作るために 建築構造学
- 4 快適な住宅を作るために 建築環境工学
- 5 美しい住宅と町並みを作るために 建築デザイン
- 6 住宅の設計に関わる法律 建築関連法規
- 7 各室の計画1 招き入れる空間
- 8 各室の計画2 集まる空間
- 9 各室の計画3 私的空間とサービス空間
- 10 近年の住宅作品の実例 計画上の試みとデザイン
- 11 住宅計画の今日的課題 高齢者 健康 省エネ
- 12 まとめと質疑

### 【評価方法】

講義への出席状況、小レポートの提出、期末試験の結果を総合評価する。

### 【テキスト】

スライド、OHP等の視覚資料を用い、できるだけ実例を示しながら講義を進める。講義のはじめに必要な資料をその都度配布する。

## 住宅政策論

渥美正子

### 【授業の概要】

日本における住宅問題の発生についての歴史的経緯と、戦後の住宅政策の特徴について考える。経済大国でありながら、先進諸国のなかで貧しいといわれるわが国の住宅事情の特徴と背景を探り、人間らしい住まいを実現するための住宅政策の理念について、西欧先進国との比較を交えて考察する。また、住まいの質的向上の原動力となる住教育の実情や、消費者問題について論じる。

### 【授業計画】

1. 住宅の社会性
2. 日本の住宅事情・東海圏の住宅事情
3. 住宅問題とは何か
4. 住宅政策の母国－イギリス
5. 日本における住宅政策のあゆみ
6. 戦後の3公体制
7. 住宅政策における市場主義
8. 居住の権利と住居法
9. 多様化する住宅供給
10. 高齢者の住宅政策
11. 消費者問題と欠陥住宅
12. 住教育の課題と展望

### 【評価方法】

出欠状況とレポート・試験によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

プリント配布。

### 【参考文献・資料】

現代社会とハウジング（巽和夫編 彰国社）  
変貌する住宅市場と住宅政策（伊豆宏編 東洋経済新報社）  
住宅貧乏物語（早川和男著 岩波新書）  
住教育－未来へのかけ橋（住環境教育研究会編 ドメス出版）

## 建築計画論Ⅱ（計画各論）

垂井洋蔵

### 【授業の概要】

現代の施設設計は、従来からの建築種別にとらわれない複雑な複合化、新しい要求や情報メディアの登場、社会構造の変化に直面している。こうした建築設計に関わるさまざまな外的条件の分析や、計画に先立つ建築企画の手法の理解とともに、建築計画上考慮すべき機能上の諸要求、法規、それらに対応する新しい計画上の試み等、施設計画上に必要な諸知識の体系的な修得を目的とする。

### 【授業計画】

以下の6テーマについて各2週にわたり講義する。

- 1 住居系施設  
新しい集住の形態と、集合住宅
- 2 教育系施設  
新しい教育方法論に基づく学校計画の試み
- 3 医療・社会福祉系施設  
病院、診療所計画の基本と、高齢化社会に対応する医療福祉施設計画
- 4 文化系施設  
新しいメディアと情報の共有、発信の場としての複合文化施設計画
- 5 商業系施設  
大規模複合施設とオフィス計画の今日的課題
- 6 施設計画の手法  
地域活性化施設の企画と、諸提案の実例

### 【評価方法】

講義への出席状況、小レポートの提出、期末試験の結果を総合評価する。

### 【テキスト】

講義のはじめに必要な資料をその都度配布する。

### 【参考文献・資料】

新建築学体系（彰国社）  
建築設計資料集成 コンパクト建築設計資料集成（丸善）  
その他講義中に参考図書を紹介する。

## 都市環境評価論

仁科浩二郎

### 【授業の概要】

環境に対する危機感が高まっているが、将来へ向けての対策を検討し、その効果を正しく予想するのは簡単ではない。そこでここではまず環境の概念を確認したあと、環境の評価に用いる様々の指標を理解することから始める。ダイオキシン毒性の表現、自然環境の放射線量、など、いくつかの例の紹介によって、環境の現況を実感し、初歩的な考察を試みる。放射線については、生活環境の中で測定を行う。

### 【授業計画】

環境の考え方（総論）	1回
地球温暖化と国際的状況	4回
ダイオキシン存在量の記述と毒性	4回
放射線の基礎概念と測定	4回

### 【評価方法】

毎回、提出する小レポートの内の主要な数回、および期末試験、それに出席状況をあわせて評価する。

### 【参考文献・資料】

図解雑学 ダイオキシン（左巻健男他 ナツメ社）  
放射線のABC（（社）日本アイソトープ協会）  
ホームページ <http://www2.aasa.ac.jp/~knishina/>



## 建築環境学Ⅰ（熱・空気）

齋藤基之

### 【授業の概要】

建築空間は人間の日常生活の場であり、その内部環境は健康・安全かつ快適なものであることが求められる。この講義では、建築や都市における熱・空気環境、およびこれらと人間とのかかわりに関する基本的事項を解説し、建築・都市のデザインに応用するための基礎知識を身につけるとともに、環境への配慮の重要性を理解することを目的とする。数式の使用等は必要最小限にとどめ、身のまわりの住生活における実例や実際の設計例を挙げながら解説する。

### 【授業計画】

- 屋外気候
- 太陽の動きと日射
- 湿気と結露
- 建築における熱の伝わり方
- 断熱・熱容量
- 室内気候・温熱環境評価
- シックハウス問題
- 室内空気汚染
- 換気・通風のしくみ
- 必要換気量
- 都市の熱環境と風環境

### 【評価方法】

単位認定試験、レポート、出席状況により総合的に評価する。

### 【テキスト】

建築環境工学（山田由紀子著 培風館）

## 建築史Ⅰ（西洋）

河辺泰宏

### 【授業の概要】

西洋建築の様式史を中心に、様々な時代の価値観の移り変わりや建築様式との関わりについて論じる。とくに、社会体制や建設技術の革新と建築造形との結びつきに注目する。

### 【授業計画】

- 1) 建築に託された人類のメッセージ  
古代エジプトにおけるピラミッド建設の意義
- 2) 人と神と王の建築  
古代メソポタミアのジグuratとエジプトの神殿建築
- 3) 民族と神々  
ギリシア神殿とベルシアの宮殿に見る民族の表現
- 4) 新しい建築空間の創造  
古代ローマ建築におけるアーチとオーダーの意味
- 5) ローマに生まれた神の館  
初期キリスト教時代とビザンティン帝国の教会堂建築
- 6) 世界の終末を越えて  
至福千年説とロマネスク建築の興隆
- 7) 地上の天国  
ゴシック建築の構造と表現
- 8) 人と神の対話方式  
マホメットの帝国とイスラム建築の特質
- 9) 再生という名の創造  
ルネサンス建築における科学と芸術の融合
- 10) 不安と成熟のマニエリスム  
16世紀イタリア芸術に見る原則性と非原則性
- 11) 建築のドラマツルギー  
反宗教改革から生まれたバロック建築の劇的性格
- 12) プロテスタンティズムの顔  
建築におけるビュールタニズムと新古典主義建築
- 13) 様式の消費  
19世紀リヴァイヴァリズムの時代

### 【評価方法】

レポートを課す。必要に応じて小テストを課す場合もある。

### 【テキスト】

西洋建築史図集（日本建築学会編 彰国社）

### 【参考文献・資料】

図説ローマ『永遠の都』都市と建築の2000年（河辺泰宏著 河出書房新社）

## 建築環境学Ⅱ（音・光）

奥宮正哉

### 【授業の概要】

住居や建築物の内部・周辺における日照・照明などの視環境や、音響・騒音などの音環境について。その性状や環境調整法・環境設計方について講義する。

### 【授業計画】

- 第1講 光環境（視覚）
- 第2講 光環境（照明の基本的な考え方1）
- 第3講 光環境（照明の基本的な考え方2）
- 第4講 光環境（昼光と電灯、照明計算）
- 第5講 光環境（色彩計画）
- 第6講 音環境（物理音響学の基礎と聴覚）
- 第7講 音環境（音の伝搬）
- 第8講 音環境（室内音響学、残響）
- 第9講 音環境（吸音と遮音）
- 第10講 音環境（室内音響の計画と設計）
- 第11講 音環境（騒音の測定と騒音対策）
- 第12講 音環境（振動）
- 第13講 単位認定試験

### 【評価方法】

単位認定試験の成績により評価する。

### 【テキスト】

環境工学教科書（環境工学教科書研究会編著 彰国社）

## 建築計画論Ⅲ（環境心理）

日色真帆

### 【授業の概要】

建築や都市における人間と環境との関係について、個人や集団の行動、環境の知覚や認知、それらの時間的変化などの視点から学ぶ。スケール、状況、利用者の違いを理解し、人間と環境との関係の質をたかめるデザインのあり方を考える。また、これらを学習する中で環境心理学の基礎的な諸理論と研究方法を習得する。

### 【授業計画】

- ・文化と空間：パーソナルスペースや人のテリトリーについて述べ、文化によるその差異を取り上げる。
- ・環境認知：環境認知やそれを支える空間認知の問題を取り上げ、その構造や発達に関する理論を解説する。
- ・Wayfinding：環境認知の典型として、人の動きと空間の認知を扱う。特にwayfinding（経路探索）における迷いや発見を切り口に理論や研究方法を紹介する。インターネットなどハイパーテキスト上の移動にもふれる。
- ・シークエンスと表記法：建築の内部空間やアプローチ、庭園などの例を取り上げ、人の行動や体験を記述し、分析し、デザインする手法を学ぶ。
- ・居住環境、多様な利用者：居住環境をとりあげ、人間環境系としてとらえる視点を示す。
- ・都市環境のデザインへ：都心と郊外という対照的な環境を取り上げ、総合的な見方を示す。その環境の質を向上する方法として、デザインの意味について述べる。

### 【評価方法】

数回のレポートと期末の試験によって行う。

### 【テキスト】

環境と人間（高橋鷹志・長澤泰・西出和彦編 朝倉書店）

### 【参考文献・資料】

建築・都市計画のための空間学事典（日本建築学会編 井上書店）  
人間環境学（日本建築学会編 朝倉書店）  
建築人間工学事典（日本建築学会編 彰国社）  
建築理論の創造（J. ラング著 鹿島出版会）  
人間-環境系のデザイン（日本建築学会編 彰国社）  
空間計画学（日本建築学会編 井上書店）  
環境行動のデータファイル（高橋鷹志他編 彰国社）



## ファシリティマネジメント論

吉田邦彦

### 【授業の概要】

施設とその環境を総合的に企画、管理、活用する経営活動であるファシリティマネジメント (FM: Facility Management) について、その基礎知識と固有技術の理解と修得を目指す。FMの主要な対象であるオフィスを取り上げ、具体的に論じる。

### 【授業計画】

以下の項目について講義形式で授業を進める。

1. オリエンテーション、FMの必要性和重要性
2. オフィスの歴史、日本のオフィス建築の歴史と形態的な変遷
3. オフィスプランニングの基本と基礎知識
4. オフィスの快適性—豊かな人間生活と仕事場を求めて
5. オフィスの室内環境
6. セキュリティの必要性和災害への対策
7. 欧米の情報化オフィスの諸相
8. オフィスの実例紹介
9. FMのための知識と技術
10. 施設評価の必要性和困難性、各種の評価手法
11. FMの目的と目標、FMの業務体系
12. 公共施設、教育施設などにおけるFM

### 【評価方法】

授業時間中の小レポートと、課題に対する期末のレポートとを総合して評価する。

### 【テキスト】

変化するオフィス (沖塩荘一郎他 丸善株式会社)  
また、授業時間毎に、必要に応じてレジュメ資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

総解説 ファシリティマネジメント (FM推進連絡協議会編 日本経済新聞社)

## 建築史II (日本・東洋)

溝口正人

### 【授業の概要】

建築史は、生活空間を構成する基本要素である建築の歴史的な変遷の考察を通して、建築や都市の社会的・文化的な意味について論ずる分野である。

本講義では、日本の建築や都市を主な対象として、その背景にある思想や造形理念、技術をふまえ、東アジアという地理的な視点、あるいは現代建築思潮という今日的な視野からの比較検討をも交えながら、建築の空間構成や造形の変遷について学ぶことにより、日本の建築観の特質について理解を深めることを目的とする。

### 【授業計画】

1. 4大文明圏の建築/世界からみた日本の建築
2. 「建築」の発生: 先史時代の日本建築
3. 源流/インド・中国の建築と都市
4. 古代/東アジアの造形理念と日本建築
5. 古代~中世1/宗教建築の変容
6. 古代~中世2/住居と都市の変容
7. 中世/和風空間の確立
8. 中世~近世/技術革新と空間デザイン
9. 近世1/生産と規格化
10. 近世2/社会相としての住居と都市
11. 近代の胎動/数寄屋建築とモダニズム
12. 文明開化と洋風建築/近世技術の開花

### 【評価方法】

単位認定試験、レポートを適宜課し、出席状況を加味して総合的に評価する。

### 【テキスト】

なし。適宜プリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

図解日本建築の構成 (山田幸一著 彰国社)  
日本建築史序説 (太田博太郎著 彰国社)  
建築の歴史 (藤井恵介・玉井哲雄著 中央公論社)  
日本建築史図集 (日本建築学会編 彰国社)  
東洋建築史図集 (日本建築学会編 彰国社)

## 都市防災論

太田 裕

### 【授業の概要】

近年の都市への人口集中にともなう、自然・人工災害から都市・人間を如何に守るかが、大きな課題となってきた。この問題の大局理解を主眼に前半では多様な災害について講述する。後半は被災から防災に至る一連の学理・計画論について、地震を事例とした系統講述を行う。トピックの1つとして東海地震を対象におく。モデル地区における、学生自身による調査の実施と分析を組み入れることで関連知識体得の促進と確実化を計る。

### 【授業計画】

- 第1講 都市被災・防災の一般枠組み
- 第2講 災害各論1—水・台風災害
- 第3講 災害各論2—土砂災害
- 第4講 災害各論3—火山災害
- 第5講 災害各論4—火災他、人工災害
- 第6講 地震災害—世界・日本の地震
- 第7講 地震災害—1995年阪神震災
- 第8講 地域レベルの防災計画
- 第9講 世帯レベルの防災計画
- 第10講 モデル地区調査・分析 (1)
- 第11講 モデル地区調査・分析 (2)
- 第12講 モデル地区調査・分析 (3)

### 【評価方法】

出席状況に加えて、モデル地区調査のレポートを重視して評価する。

### 【テキスト】

特になし。随時、プリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

地震防災と安全都市 (鹿島出版)  
都市の防災 (石井一郎 技術書院)  
都市防災 (吉井博明 講談社現代新書)  
住まいの安全学 (宇野英隆 講談社Blue Backs)

## 建築計画論IV (設計方法)

吉田邦彦

### 【授業の概要】

建築の設計対象の機能の複雑化、規模の拡大化、設計主体の多様化などに対応して、提案され論じられてきた種々の設計方法、設計手法についての理解と知識の修得を目的とする。

設計方法の考え方、設計プロセス、各種の設計手法、人間-環境系の計画理論などを取り上げ、設計行為の解明と実践との連携等について論じる。

### 【授業計画】

- 以下の項目について講義に演習を加えた形式で授業を進める。
- ・オリエンテーション: 建築計画と設計、設計方法研究の歴史
  - ・設計プロセス・発想のプロセスのモデル化、
  - ・アイディアと情報
  - ・設計ツール (機能図、チェックリスト、シミュレーションによるモデル分析など)
  - ・表現言語・パターンランゲージ
  - ・建築設計におけるコンピュータ利用
  - ・設計方法と設計主体
  - ・建築設計におけるコラボレーション

### 【評価方法】

授業時間中の提出物と、期末試験の結果を総合評価する。

### 【テキスト】

授業時間毎に、必要に応じてレジュメ資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

設計方法IV「設計方法論」(日本建築学会編 彰国社)  
人間-環境のデザイン (日本建築学会編 彰国社)



## 色彩計画論

高橋敏郎

### 【授業の概要】

空間デザインにおける重要な要素である色彩と、色彩を生み出す根源である光（自然光、人工光）について基礎的知識を修得する。重ねて、色彩が心理に及ぼす影響を学び、これらの知識を基盤として、室内、建築、環境等の色彩計画をいかに行うかについて学習する。実際に色彩計画を行ったデータを使用して、3D-CADなどを用いて色彩構成、照明シミュレーションやマッピングによる材料のテクスチャーと色彩の関係などについて検証する。

計画演習IV（CAD基礎）履修者（同時履修可）のみ受講可。

### 【授業計画】

以下の項目について講義形式で授業を行う。

1. 色彩計画の意義
2. 光から生まれる”色”  
光と光の創り出す色彩現象
3. 光源の種類と特徴
4. 照明と色彩  
光源の明るさと演色性。照明による色彩の演出
5. 色が見える仕組み  
眼と脳の構造。色の見えを決める要因。
6. 色の知覚関与する相互作用  
色の対比と同化、面積効果、視認性と誘目性
7. 色がもたらす心理効果
8. 色の表示方法と特徴
9. 配色と色彩調和  
色彩調和の考え方と調和の原則
10. 混色と色の再現  
混色の原理。色再現の方法
11. 12. 色彩計画  
CADによる3次元の室内色彩計画（CAD室にて授業）

テキストを中心に、OHCなどで学習する。随時プリント教材も配布する。

### 【評価方法】

期間中に数回の小テストを行う。この結果と、作品を合わせて評価する。

### 【テキスト】

カラーコーディネーションの基礎（東京商工会議所編）

## 都市景観論

清水裕二

### 【授業の概要】

都市景観は我々にとって非常に身近でありながら、容易な分析を拒む複雑な事象である。この授業では具体的な例をとりあげながら都市景観を読み解くための様々な視点を提示し、都市景観についての理解を深めると共に、景観を形成する活動としての都市デザインの手法を概観する。

主な授業内容は次の通り。

1. 都市論・都市景観論  
近代以降の都市論・都市景観論のなかから代表的なものをとりあげ、現代の都市を切り取る視点の多様さを認識する。
2. 都市景観の構造  
都市景観に潜む構造を抽出し、普段目にしていない都市とは異なる都市像を浮き彫りにする。
  - ・自然：景観を形成する最大の要素である地形と景観の関係性を明らかにする。
  - ・都市基盤（インフラストラクチャー）：インフラストラクチャーと景観の関係性から、現代都市の景観に影響を及ぼしている不可視の営みを捉える。
  - ・郊外：近代都市が生み出した都市周縁の景観と、そこから派生する社会的状況について考察する。
  - ・歴史：都市景観のなかに織り込まれた時間性をもとに現在の都市景観を再検討する。
  - ・法規制、建築・都市計画：都市の景観をコントロールしようとする様々な制度について見てゆく。
3. 景観の視点  
都市以外のフィールドから、都市景観を捉え直す
  - ・集落：都市の原型ともいえる伝統的集落を見てゆくことで現代都市の逆照射を試みる。
  - ・芸術：アースワーク、映画、写真、文学等の芸術において描かれた景観を分析する。

### 【授業計画】

講義を中心とし、いくつかのレポートを出す予定。

### 【評価方法】

出席状況、レポート及び試験により、総合的に評価を行う。

### 【テキスト】

特になし。

## 都市計画論

瀬口哲夫

### 【授業の概要】

都市計画論においては、現代の複雑な社会で生活して行く上での基本的な知識である都市問題を認識させると共に、都市のあり方を理解させる。その上で、都市計画理論や都市計画制度について解説し、都市計画（まちづくり）への市民参加のあり方などを講義する。授業では、具体的な都市や都市計画事例を取上げて、わかりやすく論じる。

### 【授業計画】

1. 都市の位置づけ
2. 現代都市の様相（1）
3. 現代都市の様相（2）
4. 現代都市の様相（3）
5. 都市計画理論（1）
6. 都市計画理論（2）
7. 都市と住まい/住宅団地開発
8. 都市と住まい/都心居住と再開発
9. 都市計画制度（1）
10. 都市計画制度（2）
11. まちづくりへの市民参加
12. まちづくりへの市民参加
13. 欧米の都市計画（1）
14. 欧米の都市計画（2）
15. 欧米の都市計画（3）

### 【評価方法】

出席状況（毎回、調査）とミニレポート、さらに単位認定試験によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

テキストは使用しない。適宜、資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

講義期間中に名古屋都市センター（金山駅前）の展示室や図書室を訪れることを希望する。

講義中で紹介する。

## 都市形成史

河辺泰宏

### 【授業の概要】

都市の形成される過程と都市造形との関わりについて論じ、歴史的都市の成立過程と産業革命以降の近代都市の変化を明らかにする。また、都市再生や町づくりの様々な試みを紹介し、都市のアイデンティティの確立や機能開発についても考える。

### 【授業計画】

- 1) 都市文明をささえるもの  
人口暴発と計画不能の巨大スラム都市の出現
- 2) 名古屋を読む  
人工都市名古屋の都市計画の歴史をたどる
- 3) 格子状都市の履歴  
古代文明から現代に至る格子状都市の特質を分析
- 4) 不整形都市～中世都市の営み  
自然に発展した不整形な都市の秩序について分析
- 5) 放射状都市の論理  
権力によってコントロールされた放射状直線街路
- 6) 水の都の物語  
日本と西洋における親水都市の歴史
- 7) 実験都市ハウステンボスの挑戦  
企業が経営する町
- 8) 近代都市計画の理論と実践  
産業革命以降の都市の変化と新しい都市計画理論
- 9) 都市と広場の形成史  
都市における広場の歴史と役割
- 10) 歴史的資産を活かした都市再生  
環境改善策のための都市財産の保存と活かし方
- 11) 景観コントロールの意味と手法  
景観論争とデザインコントロールの手法
- 12) 計画なき都市計画  
挫折した首都復興計画と都市開発理念の国際比較

### 【評価方法】

中間と期末のレポートによる。

### 【テキスト】

なし。プリント配布。



## 都市環境デザイン演習 I a・b

渥美正子

### 【授業の概要】

住まいを、“住む”“暮らす”側の視点に重点をおいて考えていく。住まいは、人間生活の最も大切な基地であり、住まいを考えるとすることは、すなわち、生活を考えることでもある。

近年、生活主体である家族のかたちやライフスタイルが多様化し、住生活も変容している。こうした現状を客観的に見つめ、新たにどのような変化や矛盾が生じているのかを把握し、問題解決に向けての方向を探る。

### 【授業計画】

日本の住生活や住様式に関する文献を講読し、ディスカッションを行うことにより、今日の住生活における問題点を探り出す。こうしたことを基にして、各自でテーマを設定し考察を深めていく。

#### (1) はじめに

- ・文献講読の分担決定
- ・レジュメの書き方

#### (2) 文献講読

報告者は、担当部分のレジュメを作成し、全員に配布し、要旨・意見を発表する。そのテーマについて、全員で討論する。

#### (3) テーマ設定と発表

各自で選択したテーマに基づいて、調査・資料収集を行い、発表・討論を行う。討論をふまえ、最後にレポートを提出する。

#### (4) 見学

住まいの地域性・伝統性を理解するため産直住宅の見学を行う。その他、新しいかたちの住まいの見学も行う。

### 【評価方法】

出席状況と研究発表、討論への参加状況、レポートの内容を総合して行う。

## 都市環境デザイン演習 I a・b

河辺泰宏

### 【授業の概要】

文献講読、資料調査、施設見学、都市観察などの演習を通じて、日欧の都市と建築を中心に造形様式と社会状況との関連について考える。

とくに、建築や都市の歴史、歴史的文化遺産の保存・再生、近現代の建築デザイン等について、フィールドワーク等を行いながら体験的に学ぶことを主な目的としている。

### 【授業計画】

主な演習課題およびフィールドワークとして下記のような内容を予定しているが、フィールドワークの対象はメンバーと相談の上で決定する。

文献講読や見学会、研修旅行等に当たっては、レポート担当者や実行委員を決めて、報告や準備を行う。また、演習の根幹をなす見学会やフィールドワークには、必ず参加することが義務づけられる。

なお、年間を通じて1～2回の国内研修旅行、3～4回のフィールドワークおよび見学会を催すので、参加費用(5～8万円程度)を各自準備する必要がある。さらに、年度末には海外研修旅行を行うことがあるが、これについては有志参加とする。

- 1) 論説文の書き方
- 2) フィールドワークの仕方
- 3) 都市の開発と保存をテーマとしたフィールドワーク  
(例)名古屋市内(四間道から白壁町まで)/妻籠  
高山/京都/長浜/有松 etc.
- 4) 日本の近代建築をテーマとしたフィールドワーク  
(例)明治村/神戸/半田/桑名 etc.
- 5) 日本の近代建築および西洋建築史に関する文献講読

### 【評価方法】

授業や見学会等への参加状況とレポート、課題発表の内容によって決める。

### 【テキスト】

図説ローマ『永遠の都』都市と建築の2000年(河辺泰宏著 河出書房新社)  
必要に応じてプリント等を配布。

## 都市環境デザイン演習 I a・b

太田 裕

### 【授業の概要】

当該授業は比較的小数の受講参加を想定しており、参加者が自力で問題解決することを前提として組み立てられている。学期の当初段階で受講者がもつ[基礎知見、意向]等について相互理解を深め、その結果として演習課題を選定する。演習課題は[異常自然現象と人間社会の共生]の大枠の中で多様に選定される。

この結果を踏まえ、前期は関連知見の増強に力点を置いて論文等の講読を主とする学習を行い、演習課題の自力推進の可能性を高める。後期はまず演習課題達成へのプログラム作成に始まり、体験的学習に進む。この流れの中で学習成果を報告書に帰結する手法を学習する。したがって、授業形態は必然セミナー形式となり、また受講者が率先かつ自力で課題達成に努める形を進めることとなる。

### 【授業計画】

#### 前期

1. 基礎知見習得
2. 関連論文(成書)読解
3. 小課題の体験的学習

#### 後期

1. 課題解決実行プログラム作成
2. 現地・実(資料)調査の実施
3. レポート作成の体験的学習

### 【テキスト】

特になし。随時、必要な専門書を指示する。

### 【参考文献・資料】

同上。

## 都市環境デザイン演習 I a・b

齋藤基之

### 【授業の概要】

地球環境問題の叫ばれる今日、建築の分野にもこれまで以上に環境に配慮した設計・技術が求められている。この演習では、文献講読、都市・建築の観察、調査・実験等を通じて、熱・空気・光・音環境といった室内の快適性を犠牲にすることなく、地球環境にもやさしい建築デザインのあり方について、様々な切り口から考えていく。また、その過程において、研究課題の設定や計画・実施・解析、プレゼンテーション能力を養う。

### 【授業計画】

1. 受講者各自の興味に合わせ、各個人もしくはグループ毎に研究テーマを設定する。
2. 設定した研究テーマの遂行に必要な基礎知識を、文献講読等により習得・整理する。
3. テーマの遂行に適切な調査方法(都市観察、アンケート調査、測定器を用いた実測調査・実験等)について検討し、実施計画をたてる。
4. 調査を実施し、結果の解析・整理を行う。
5. 研究成果についてプレゼンテーションを行い、受講者全員で討議する。
6. 討議内容を考慮し、研究内容の追加・修正を加えようとして、報告書等としてとりまとめる。

なお、この演習科目を通じ、年度末までには、卒業論文・設計へと発展する各個人の課題設定の絞り込みが行えることを目標とする。

### 【評価方法】

テーマへの取り組み状況、討議への参加状況、プレゼンテーション、報告書等の提出物、出席状況等により総合評価する。

### 【テキスト】

特になし



## 都市環境デザイン演習 I a・b

清水裕二

### 【授業の概要】

次のシークエンスに従って授業を進めていく。

#### 1. 課題の設定

建築や都市に関係するテーマであれば、特に限定はしない。建築や都市を通して現代社会の事象や問題について考察し、それらについてアクチュアルな提案を含んだ設計・研究を目指してほしい。(共通のテーマを設定する場合もある。)

#### 2. 調査・分析

自らが設定した課題について調査・分析を行う。  
フィールドワーク：テーマについて実際に現場へ向かい、自ら情報を収集する。  
文献調査：書籍、雑誌、論文等の文献、インターネット等から必要な情報を獲得する。  
分析：テーマに沿って収集した情報の整理・分析を行い、設計や立論へとつなげる。

#### 3. プレゼンテーション

調査・分析を基に、課題に対する解答、提案、結論を、他の人々にプレゼンテーションする。その際、テーマに沿って最も効果的なメディア（図面、模型、映像、小論文等）を各自選択する。

#### 4. 総合評価：前期、後期末に総合講評をおこなう。

前期はテーマ別に数人のグループをつくって共同で作業を行う。後期は各個人のテーマをより突き詰め、それぞれで作業を進めることとする。

### 【授業計画】

ゼミ期間中を通して以上 1→4 の流れで授業を進めて行く。

### 【評価方法】

プレゼンテーションと、その過程の発表、レポート等の提出物、出席状況等を評価の対象とする。

### 【テキスト】

特になし

## 都市環境デザイン演習 I a・b

日色真帆

### 【授業の概要】

自分たちの居住環境を形成している、室内、建築、都市というそれぞれスケールの異なる空間について、現実の体験や観察の記述、図面やその他の視覚的な表記法、模型、写真、創作的な物語、コンピュータシミュレーションなど、さまざまなメディアを利用して、解読し評価することを学習する。調査や実験の方法についても一連の作業の中で習得する。特に都市住居を見直す視点からアプローチする。

### 【授業計画】

演習の進め方は、受講者と議論の上具体的に決めることとするが、「目標をたて、調査や実験をし、プレゼンテーションをする」という一連の作業を、数セット行うこととする。大学院生や4年生の研究テーマと関連づけて行うこともある。

- ・イントロダクション：居住空間を解読する視点を概説する。様々な分析手法についても概説する。
- ・見学：対象とする地域について見学をし議論を深める。
- ・調査・実験：各自が関心をもった側面について、それぞれ調査・実験を行う。
- ・中間発表会：調査・実験の経過について発表をし講評を受ける。
- ・調査・実験の追加およびプレゼンテーション作業
- ・講評会
- ・プレゼンテーション追加作業：講評会での批評をもとにプレゼンテーションの追加作業を行う。

### 【評価方法】

プレゼンテーションと提出されたレポートによって行う。

### 【テキスト】

特になし。

## 都市環境デザイン演習 I a・b

垂井洋蔵

### 【授業の概要】

建築を設計するという事は、「意味に形を与える」ということであるといえる。形態や様々な記号の操作の前に、その建築が存在する場所の意味、さらにそこに企画しようとする建築の意味の本質、そしてそこにどのような場所と空間を生み出そうとするのかという明快な論理性を物としての建築の全体と部分が持つていなければならない。建築をデザインする上での基本となるこうした思考方法を建築を学び始めた学生諸君に様々な建築思潮、作品の分析、実際の制作行為を通して学んでもらうことを目的とする。

### 【授業計画】

- 1) 建築論、空間論に関する基本的文献の紹介と解説を行う。
- 2) 現代建築の作品をいくつか取り上げ、見学し、実際の体験と観察を通して、その解読と分析を試みる演習を行い、制作者の意図と建築空間の連関について学ぶ。
- 3) 小規模な設計課題にとりくみ、設計意図の明確化、コンセプトの建築形態への具体化とデザインを学ぶ。

以上の過程で、演習II、卒業論文、設計へと発展する各自のテーマが見出せるように指導したい。

### 【評価方法】

課題への取り組み、発表、成果を総合評価する。

### 【参考文献・資料】

参考文献として

人間と空間 (O.F.ボルノウ せりか書房)

かくれた次元 (E.ホール みすず書房)

その他いくつかの文献や論文を演習中に提示します。

## 都市環境デザイン演習 I a・b

吉田邦彦

### 【授業の概要】

建築設計に関わる下記の項目に関するテーマを取り上げ、調査・分析・検討する。

- ・建築の設計プロセス
  - ・建築設計におけるCAD・CGの機能や表現力の可能性
  - ・情報技術 (IT) 革命の建築 (住宅・オフィス・図書館など) への影響
  - ・建築 (大学キャンパスやオフィスなど) の評価
  - ・サステナブル・デザインの手法
- 検討結果をもとに今後の変化の方向あるいは望ましい将来のあり方や方法を考察・提案する。これらの一連の作業を通して、調査・分析・評価・表現のための技術を習得する。

### 【授業計画】

- (1) テーマ設定：各自が関心を持ったテーマについて発表、討論の上、設定する。内容や方法によっては、2～3名でグループを編成する。
- (2) 演習実施計画の作成と発表：取り上げたテーマについて、どのような観点、方法、スケジュールでアプローチするかをとりまとめた実施計画書を作成・発表し、討論する。
- (3) 調査・分析あるいは制作の実施：文献調査、現地調査、アンケート調査、ヒヤリング調査など適切な手法で調査し、結果の分析を行う。また、CAD・CG等による制作を通して、検討する。作業は、各人が自主的に行い、その経過を随時報告し、全員で討議する。
- (4) 発表及び講評：各グループ毎に調査・分析・制作の結果についてプレゼンテーションを行い、討議・講評を受ける。講評会での討議をもとに、追加・修正作業を行い、最終報告書のとりまとめを行う。

### 【評価方法】

成績評価は、出席状況、討論への参加状況、研究発表の仕方、報告書の内容などを総合して行う。

### 【テキスト】

特になし。必要に応じてプリント教材を配布する。



## 都市環境デザイン演習Ⅰ a・b

高橋敏郎

### 【授業の概要】

「コンセプトの無いデザイン」はありえない。私たちを取り巻く家具、室内調度品、室内、建築、都市すべてが何らかの意図を持ち関わり合い空間を構成している。この演習では、設定されたテーマあるいは自分の関心を持ったテーマについて基礎知識を習得し、また、作品を見ることから設計・デザインの方法論、デザインの手がかりを解説することによって独自のデザインの切り口を見つけようとするものである。特に室内の家具や調度、室内空間、室内気候と人間の関わり、建築内部と外部空間の関わり、都市と建築の関わりなどに着目し、資料収集、調査・観察、分析を行い、設計に結びつけてゆきたい。

### 【授業計画】

前期

1. 建築と室内の現代デザイン思潮、人間工学と家具、インテリア、空間についての基礎知識の習得。
2. 共通課題の設計（個人）、プレゼンテーションテクニックの習得。
3. 作品の発表と討論会。

後期

1. 共通課題の設計（個人）。共通課題に必要な基礎知識の習得
2. 卒業研究についての各自でテーマ設定の仕方について
3. 各自の設定したテーマについて資料収集・調査を行い、収集した情報を分析する
4. 分析結果を踏まえ、研究または設計計画書を作成する
5. 計画書の発表と討論会

### 【評価方法】

計画書、成果物、プレゼンテーションにより評価。

### 【テキスト】

特になし。必要に応じてプリント教材を配布する。

## 都市環境デザイン演習Ⅱ a・b

太田 裕

### 【授業の概要】

都市環境演習Ⅰ a・b（3年）の自然の発展を根底におき、問題発見・解決力の涵養に主眼をおく。演習課題は「異常自然現象—特に地震—と人間社会（都市）との共生」の大枠の中で、受講者が具備する基礎知見・関心等を勘案の上で多様に選定される。

前期は選定した課題を核とする周辺知見の増強を目標に関連論文・報告の理解に努め、演習課題の自力推進に向けた、基礎をあらためて構築する。この流れの中で、課題解決へのフローをデザインし、併行して課題解決力向上の一環として計算・データ処理に関わるプログラム作成能力の習熟に留意する。後期は課題解決の継続的実践が主体となり、成果を報告書に帰結することを目標におく。当然ながら、受講者が課題解決への主体となり、自ら模索し、創意工夫に努めることが強く望まれる。

### 【授業計画】

前期

1. 課題の選定
2. 関連知見の習得と整理
3. 課題解決技法の習熟

後期

1. 実（資料）の収集とデータベース化
2. 課題解決・実行処理プログラムの作成
3. 成果報告の作成

### 【テキスト】

随時、必要な文献・資料等を指示する。

### 【参考文献・資料】

同上

## 都市環境デザイン演習Ⅱ a・b

渥美正子

### 【授業の概要】

演習Ⅰを基に、さらに、それらを発展させていくことにより、論文としてまとめていく。まず、それぞれのテーマに関連する文献、論文の収集を行い、オリジナルな視点を設定する。居住者調査、ヒヤリング調査等、自らの足で動き現状を客観的に把握し、得られたデータを分析していくことにより、提言（含 平面プランの提案）に結び付けていく。

### 【授業計画】

次のようなことをふまえ、進めていく。

- (1) テーマの設定  
研究テーマを設定した目的・意義を明確にする。
- (2) 研究論文の書き方
- (3) 関連文献・論文の収集
- (4) 居住者調査等の方法  
調査対象の設定、調査票の作成、集計結果の分析
- (5) 全員による討論  
各人、個別にテーマを設定するが、全員での議論をもとに進めることを原則としている。したがって、他のメンバーの研究に対しても、全員で積極的に意見を出し合う。

### 【評価方法】

授業への出席状況、テーマへの取り組み状況、討論への積極性、研究発表の内容を総合して行う。

## 都市環境デザイン演習Ⅱ a・b

河辺泰宏

### 【授業の概要】

デザインと建築の歴史、建築と都市の造形、現代のデザイン状況等に関連したテーマを扱った文献のサーヴェイリポートとフィールドワークを中心とした演習を行う。

本年度の主な課題としては、とくに西洋建築史に関わる文献講読を考えている。

このほか、各個人の研究テーマを設定し、随時研究報告を行う。

### 【授業計画】

文献講読やフィールドワーク等にあたっては、持ち回りで担当を決めて準備・報告を行う。また、年度末の研究報告会は口頭試問として行うので、必ず参加しなければならない。

なお、3年生の演習Ⅰで研修旅行やフィールドワークを行うが、4年生も希望があればその都度、自主的に参加することができる。

### 【評価方法】

授業・見学会・調査活動等への参加状況とレポート、論文発表の内容と口頭試問の結果によって決める。

### 【テキスト】

必要に応じて参考資料を配布。



## 都市環境デザイン演習Ⅱ a・b

清水裕二

### 【授業の概要】

都市環境デザイン演習Ⅰのテーマ（建築や都市を通じた現代社会の事象や問題についての考察）をふまえ、それらを発展、深化させるかたちで卒業製作や卒業論文へとつなげることを目指す。

授業の進め方としては、都市環境デザイン演習Ⅰに準じる。

### 【授業計画】

基本的には都市環境デザイン演習Ⅰに準じる。

### 【評価方法】

最終成果物（卒業製作・卒業論文）と、その過程の発表、レポート等の提出物、出席状況等を評価の対象とする。

### 【テキスト】

特になし。

## 都市環境デザイン演習Ⅱ a・b

高橋敏郎

### 【授業の概要】

演習Ⅰで学んだ事項を基礎に、昨年度各自が設定したテーマについて作業をすすめ卒業設計、卒業論文に結びつけていく。具体的には資料収集、調査・観察、分析を行い研究レポートを提出、教員との議論、ゼミ全体での討議を経て計画書を作成する。これらの作業の中から設計・デザインの方法論、デザインの手がかりを解説することによって独自のデザインの切り口を見つけ卒業設計や卒業論文に結びつけてもらいたい。前期にはこれらの作業と平行して設計課題も行い設計に必要な知識、技術の習得をも目指す。

### 【授業計画】

前期

1. 各自のテーマの設定。資料収集、調査、観察を行いレポートを作成する。
2. 共通課題の設計（個人）、プレゼンテーションテクニックの習得。
3. 作品の発表と討論会。

後期

1. 作品の発表と討論会（第二回）。
2. 研究または設計計画書を作成する。
3. 補足の資料収集・調査を行い、収集した情報を分析する。
3. 分析結果を踏まえ、計画書を加筆、研究または設計へと展開する。
4. 論文または設計としてまとめる。
5. 研究または設計の発表と討論会。

### 【評価方法】

計画書、成果物、プレゼンテーションにより評価。

### 【テキスト】

特になし。必要に応じプリント教材を配布する。

### 【参考文献・資料】

同上

## 都市環境デザイン演習Ⅱ a・b

垂井洋蔵

### 【授業の概要】

原則的には昨年度各自が設定したテーマに基づいて、卒業設計・論文としてまとめる為の修正、テーマの絞込み、内容の深化をめざす。既存の類似作品の分析を通して、独自性のある視点を開発すると同時に、コンセプトの明確さ、計画的確信や空間・造型の論理性等、卒業設計をまとめる上で必要な見識を修得する。

### 【授業計画】

- 1) 昨年度演習Ⅰで各自が発表してきたテーマに関連した既存の作品や文献を提示します。
- 2) それとの比較の上で各自自分のテーマの絞込みと、新しい視点の設定を行う。
- 3) 各自のテーマを進める上で、どのような調査や資料が必要かを整理する。
- 4) 卒業設計又は卒業論文骨格を整理した予備的なレポートを提出して発表し全員で議論する。
- 5) 卒業設計あるいは論文としてまとめるための個別指導を行う。

### 【評価方法】

途中の発表と積極性、最終的な作品又は論文の内容で評価します。

### 【テキスト】

テーマごとに必要な文献や論文を提示します。

## 都市環境デザイン演習Ⅱ a・b

日色真帆

### 【授業の概要】

建築や都市空間のデザインに関連して、教員と議論の上、学生がそれぞれに選択したテーマについて分析、調査、実験、考察を加え、研究レポートを作成する。デザイン的な提案をまとめる場合もある。この演習を通して各自テーマを絞り込み、卒業研究へと結びつけてもらいたい。

### 【授業計画】

受講者と議論の上具体的にテーマを決めるが、教員が掲げている最近のテーマは以下のようなものである。

- ・街区内のヴォイド空間の調査と提案
- ・都市空間のオープンスペースについての研究
- ・デパートなど商業空間における wayfinding の研究
- ・空間の表記方法「スペースブロック」の開発
- ・出来事の表記方法「イベントピクトグラム」の開発
- ・場面のデザインの視点から見た各種デザインの比較
- ・映画や演劇における場面デザインの分析
- ・回遊式庭園の wayfinding の分析
- ・ハイパーテキストの wayfinding の分析
- ・建築空間の転用に関する研究
- ・立体的に複雑な建築空間のデザインについて
- ・空間の境界としての建具についての研究
- ・都市空間の緑化についての研究

### 【評価方法】

評価は、研究レポートとそのプレゼンテーションによって行う。

### 【テキスト】

特になし。



## 【授業の概要】

演習内容については、演習Ⅰを継続し、範囲を拡げるか、あるいは深く調査・検討する。今後の情報化・長寿化及び環境型社会などの動向への対応と問題点の解決方法についても検討する。

## 【授業計画】

演習の進め方は、演習Ⅰの方法を引き継ぐ。特定テーマについて、グループでの研究あるいは個人単位での研究を行う。研究論文としての形式、内容を重視した視点からの討議、講評を行う。

## 【評価方法】

成績評価は、出席状況、討論への参加状況、研究発表の仕方、報告書の内容などを総合して行う。

## 【テキスト】

特になし。必要に応じてプリント教材を配布する。



## 哲学概論

長滝祥司

### 【授業の概要】

西洋を中心とする哲学の概要をテーマにそって理解するとともに、哲学的思考法を学ぶことをめざす。哲学のトピックに親しみながら、現代社会の諸問題と哲学的な思索とを相互連関的にとらえ、論理的な思考力と表現力を養うことを目的とする。

### 【授業計画】

1. 哲学とはどんな学問か——哲学することについて
2. 心身問題とは何か——ギリシア哲学より
3. 大哲学者デカルトはどこで間違いを犯したのか——心身問題の先鋭化
4. 世界は数学の言葉で書かれているのか——二元論と自然科学的世界観
5. 身体にも心がある——身体の復権と生活世界
6. 眼前の世界を哲学的に考える——世界の存在と構造
7. コンピュータは心をもつのか——チューリングテストと中国語の部屋
8. コンピュータには何ができないか——世界の構造とフレーム問題
9. 心はマトリックスに操られているのか——心と脳の同一性をめぐって
10. 他人の心はロボットの心よりも暖かい——心をめぐり一番難しい問題

### 【評価方法】

平常点と論述形式を中心とするテスト。

### 【テキスト】

とくになし。

### 【参考文献・資料】

知覚とことば（長滝祥司 ナカニシヤ出版）

## 宗教学概論

川口高風

### 【授業の概要】

現代は情報化、国際化、少子化が進み、とりまく環境も大きく変化してきた。情報機器をはじめとする科学技術は目を見はるばかりに進展している。しかし、それに伴って人間性は失われていった。価値観が変わり、生きる指標を失ってしまったのが現代人ともいえよう。この混迷期の時代に、いかに生きるべきかの生き方が問われている。まさに人間の心の豊かさが求められた宗教の時代ともいえよう。

本講義では、最初に宗教に関する学説や本質を学び、その後、世界の諸宗教を概観する。次に私達の人生の先達ともいべき人々の著作をとりあげ、その解説を通して、先達の生き方や人間の真の生きがいを考えてみようとする。必要に応じて、ビデオによる視聴覚授業もとり入れる。

### 【授業計画】

- 1: はじめに
- 2: 宗教の学問的見方
- 3: 宗教教義の構成 (1)
- 4: 宗教教義の構成 (2)
- 5: 世界の諸宗教 (1)
- 6: 世界の諸宗教 (2)
- 7: 世界の諸宗教 (3)
- 8: 世界の諸宗教 (4)
- 9: 先達の著作の解説 (1)
- 10: 先達の著作の解説 (2)
- 11: 先達の著作の解説 (3)
- 12: 先達の著作の解説 (4)
- 13: まとめ

### 【評価方法】

学期末に行う論述式の試験による。

### 【テキスト】

著作などのプリントは当方で用意し配布する。

## 心理学概論

榎原國城

### 【授業の概要】

この授業では、個性の発揮や自己・他者理解のために、人間のパーソナリティ・発達・学習・動機づけなど、現代心理学の主なテーマを取り上げて解説し、考察していく。

心理学が人間の意識と行動を科学的に研究する学問であることを受講者が理解することをこの授業の目的とする。

### 【授業計画】

- 1 心理学について
- 2 パーソナリティ
  - (1) パーソナリティとは
  - (2) パーソナリティの理論
  - (3) パーソナリティの形成
  - (4) パーソナリティの測定
  - (5) 知能と創造性
- 3 人間の発達
  - (1) 発達とは
  - (2) 発達研究の方法
  - (3) 成熟と学習
  - (4) 発達段階
  - (5) 青年期の心理と行動
- 4 社会のなかの人間
  - (1) 対人認知
  - (2) 個人と集団
  - (3) 社会的態度講義によって授業を進める。

### 【評価方法】

期末定期試験の成績によって評価する。出席率も成績評価の際に勘案する。また、総授業回数の3分の1以上欠席した場合は定期試験受験資格を喪失したものとみなす。

### 【テキスト】

心理学を学ぶ 改訂版  
(神谷育見編著 2000 文教資料協会 定価 2,242円)

## 日本史

岩口和正

### 【授業の概要】

歴史社会の基礎的構造のひとつである夫と妻、親と子などの家族・親族関係は、時代の変化とともに大きく変貌してきました。そして、このような分野での変化こそが歴史社会の最も大きな変動要因のひとつとなってきたものです。そこで、日本史における家族や親族関係の特徴・変遷の意味について、政治制度や経済制度とのかかわりを中心に考えます。

### 【授業計画】

- 1 家族・親族等をめぐる今日の問題
- 2 婚姻の諸類型1 妻問婚の歴史的特徴
- 3 婚姻の諸類型2 婿取婚と嫁取婚
- 4 離婚法と姦通法の成立
- 5 日本における親族体系の特徴について
- 6 ウジ名と姓と名字
- 7 戸と戸籍
- 8 イエの成立と展開1 貴族社会とイエ
- 9 イエの成立と展開2 開発領主とイエ
- 10 イエの成立と展開3 家父長制の展開

### 【評価方法】

期末テストによって成績評価をおこないます。

### 【テキスト】

使用しません。

### 【参考文献・資料】

最初の講義で紹介しす



## 世界史

北村陽子

### 【授業の概要】

ヨーロッパの近代史は「福祉国家」を生み出し、その「国民」のための生存保障を重要課題とみなして取り組む過程である。本講義では、福祉国家の史的展開をたどることで、社会政策の視点から近代のヨーロッパ社会に対する理解を深めることを目的とする。

### 【授業計画】

1. はじめに
2. 夜警国家からの脱却
  - (1) 貧者の分類
  - (2) 工業化と大衆貧困
  - (3) 慈善事業の隆盛
3. 予防的な支援のはじまり
  - (1) 「公共の福祉」概念
  - (2) 抑圧から自立支援へ：生活改善運動
  - (3) 社会保険の制度化
4. 「社会的なもの」の登場
  - (1) 家族への介入
  - (2) 第一次世界大戦のインパクト
  - (3) 制度としての福祉＝社会国家誕生
5. おわりに

### 【評価方法】

定期試験と出席などで評価する。

### 【テキスト】

とくに定めない。

### 【参考文献・資料】

- 福祉国家（フランソワ・グザビエ・メリアン 石塚秀雄訳 白水社 2001.）
  - イギリス福祉国家の社会史（バット・セイン 深澤和子ほか監訳 ミネルヴァ書房 2000.）
  - 社会国家（ゲアハルト・A・リッター 木谷勤ほか訳 晃洋書房 1993.）
  - 家族に介入する社会（ジャック・ドズプロ 宇波彰訳 新曜社 1991.）
  - アメリカ社会福祉の歴史（ウォルター・I・トラットナー 古川孝順訳 川島書店 1978.）
- その他講義中に指示する。

## 地誌学

小笠原節夫

### 【授業の概要】

アメリカ合衆国・イギリスの風土と人々の生活についての理解を深める。

1. アメリカの自然と産業
2. アメリカの人口と農村・都市
3. イギリスの自然と産業
4. イギリスの人口と農村・都市

### 【授業計画】

テキストを用いての講義。数回の宿題を課す。

### 【評価方法】

試験（70）、出席状況（15）、宿題の提出状況（15）による。

### 【テキスト】

イギリスとアメリカ（安藤万寿男・山鹿誠次著 大明堂 2,060円）

## 地理学

小笠原節夫

### 【授業の概要】

この授業は日本と世界の人口・集落・都市の地理についての理解を深めることを目的としている。

1. 人口の分布と増減
2. 人口の移動
3. 人口の構造
4. 人口問題
5. 集落の立地と形態
6. 都市の構造と都市システム

### 【授業計画】

テキストとプリントを用いての講義。数回の宿題を課す。

### 【評価方法】

試験（70）、出席状況（15）、宿題の提出状況（15）による。

### 【テキスト】

人口地理学入門（小笠原節夫著 大明堂 2,000円）

## 老年社会学

西下彰俊

### 【授業の概要】

「古い」（エイジング）の光と陰を社会的に分析する！

これまで高齢者問題は老人福祉として論じられることが多かった。高齢者は社会学の客体として位置づけられてきたのである。しかし、すべての高齢者が介護の必要な福祉の対象になっているわけではない。我々の周り的高齢者を見ればそれは明らかである。本講では、社会の主体として的高齢者にも着目し、そうした高齢者が家族、友人、地域社会とどのような社会関係、コミュニケーション関係を形成しているのか、社会学の方法論を駆使しながら分析する。いわば、高齢者の光（プラス）と陰（マイナス）の両面にせまり、理解を深めることが目的である。さらに、老人問題を自らの老後の問題として、言い換えれば、エイジング（加齢＝老いつつある過程）を現在進行中のプロセスとして感得できる「柔らかいセンス」をお互いに養っていきたい。

### 【授業計画】

ハンドメイドのプリントを使用する。

1. 高齢者福祉
  - 在宅福祉 施設福祉
  - ゴールドプラン21 公的介護保険の概要
  - 公的介護保険の問題点
2. 老年社会学
  - 主要な社会学概念 友人ネットワーク
  - 家族ネットワーク ビデオ『二人だけで生きたかった』の鑑賞
  - 社会参加と生きがい 幸福感と自殺率
  - 新しい老後問題－タイプA型老人－

### 【評価方法】

テスト80点、平常点が20点の合計100点で評価を行う。

平常点は、出席点と授業態度の合計である。適宜、出席の有無を確認する。

### 【テキスト】

なし

### 【参考文献・資料】

授業中に指示する。



## 社会福祉学

伊藤葉子

### 【授業の概要】

現代社会において社会福祉を取り巻く状況はめまぐるしく変容している。本講では、社会福祉のニーズの多様化、高度化について様々な角度から検討を加える。

また、当事者の声を可能な限り反映させ、必要に応じて視覚教材も用いて展開する

### 【授業計画】

- 第1回 現代社会と社会福祉
- 第2回 社会福祉の歴史的展開Ⅰ
- 第3回 社会福祉の歴史的展開Ⅱ
- 第4回～11回  
社会福祉実践分野
- 第12回 まとめ
- 第13回 試験

### 【評価方法】

出席状況と試験により総合的に評価する。

### 【テキスト】

新・社会福祉概論（成清美治編 学文社）

### 【参考文献・資料】

出版社はどこのものでもよいので『福祉小六法』や用語集を持っておくことが望ましい。

## 人文地理

担当者未定

### 【授業の概要】

世界の国について、各国の歴史と文化の概要を学習するとともに、アジアの諸地域の人々が、どのように生活しているかについて、特徴的な事例を学習する。

世界の国と日本との歴史的な関係、現在における経済的な関係についての学習を通じて、認識を深める。

### 【授業計画】

1. 世界の国について、各国別に次の基本的事項について学習する。
  - (1) 気候と地形の概要
  - (2) 旧支配国（植民地）からの独立
  - (3) 宗教、言語等の文化の概要
  - (4) 民族構成、人口の動態
  - (5) 資源、産業、経済
  - (6) 政治形態、教育制度
  - (7) その他の特色
2. 日本との関係について、次の基本的事項について学習する。
  - (1) 日本との経済関係
  - (2) 人的な交流関係
  - (3) 第2次世界大戦下の日本との関係
3. 将来の日本との関係の展望

### 【評価方法】

授業時間中に指示する課題の提出により評価する。

### 【テキスト】

授業でプリントを配布する。  
中学又は高校で使用した地図帳。

### 【参考文献・資料】

東南アジアを知る事典（平凡社）  
アフリカを知る事典（平凡社）

## 自然地理

担当者未定

### 【授業の概要】

世界の自然環境と人間生活を「気候」と「地形」にしばって学習する。  
地球の環境としての気候についての基礎的な事項を理解するとともに、世界の諸地域の人々が、それぞれ異った気候条件の中で、どのように生活しているかについて、特徴的な事例を学習する。

地球上のさまざまな地形の基礎的な事項について理解するとともに、世界の諸地域の人々が、それぞれ異った地形条件の中で、どのように生活しているかについて、特徴的な事例を学習する。

### 【授業計画】

- 1 気候分野の学習
  - (1) ケッペンの気候区分  
計算式、雨温図の作成、気候区分の特徴、
  - (2) 気候を決定する要因  
地形、海岸・河川、緯度・日照、風
  - (3) 各気候区分の特徴と人間生活
- 2 地形分野の学習
  - (1) 山脈、河川、平原の成立と変化  
侵食作用（水・風）、火山活動、地震、
  - (2) 地形の特徴と人間生活  
地形を活用した人間生活
- 3 自然環境の保全と保護
  - (1) 自然環境の破壊の現状
  - (2) 自然環境との共生への知恵

### 【評価方法】

授業時間中で指示する課題により評価する。

### 【テキスト】

授業でプリントを配布する。  
中学又は高校で使用した地図帳を使用する。

### 【参考文献・資料】

必要な参考図書は授業中に紹介する。



## 建築構法

高田豊文

### 【授業の概要】

常時荷重や地震、風などの外力に対して建物が安全であるためには、適切な構造形態および構造材料を選択する必要がある。本講義では、力学基礎と建物構築法の考え方を理解することを目的として、木材・鋼材・コンクリートなどの構造材料および各種構造形式の特性を概説する。

### 【授業計画】

1. ガイダンス、東海地方の地震危険度
2. 力学基礎
3. 構造形式と建築構造材料
4. ラーメン構造
5. コア構造・チューブ構造
6. 壁式構造・スラブ構造
7. アーチ・シェル構造
8. ドーム構造
9. 平面トラス構造
10. 立体トラス構造
11. 折版構造・テンション構造
12. テント・エアドーム構造

### 【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

初めての建築構造デザイン (宮元健次著 学芸出版社)

## 建築構造Ⅱ (地盤と建物)

太田 裕

### 【授業の概要】

建築関連のうち、建築物(下部-上部構造)を支える「地盤」と「下部構造」(基礎構造とも呼称される)を中心に基本事項の習得に努める。都市環境デザインコースにおける最も基礎的な学習科目の一つであり、徹底学習が不可欠である。したがって、授業は「講義と演習(小テスト)」を交互に行う形で進められる。

### 【授業計画】

1. 序説-建築物を支えるもの-
  2. 外力-異常自然現象-
  3. 地盤-成り立ちと構成-
  4. 地盤-力学的性質-
  5. 基礎構造-定義と役割-
  6. 基礎構造-力学・物理学-
  7. 基礎構造-設計の基礎-
- (注) 演習(小テスト)を適宜実施する。

### 【テキスト】

わかりやすい建築構造設計2 基礎構造 (大成出版)

### 【参考文献・資料】

多々あり、講義の中で指示する。

## 建築構造Ⅰ (力と骨組)

小野徹郎

### 【授業の概要】

外力に対して、建物の安全性を確保することは、建築設計上重要である。建築構造学では、力とは何かから力の釣り合い、建物・外力のモデル化、基本的な静定構造物の応力の具体的な求め方を講義し、建築物の力学的な挙動を理解させる。

電卓と定規は持参して下さい。

### 【授業計画】

1. 概要、構造物の種類、モデル化、荷重
2. 力の考え方、力の釣り合い
3. 力の釣り合い、構造物の反力、応力(断面力)
4. 応力(断面力)
5. 静定ばり(1)
6. 静定ばり(2)
7. 静定トラス(1)
8. 静定トラス(2)
9. 静定ラーメン(1)
10. 静定ラーメン(2)
11. 断面の性質
12. 応力度とひずみ度
13. 応力度とひずみ度
14. 構造設計の基本

### 【評価方法】

単位認定試験の成績によって総合的に評価する

### 【テキスト】

図解でわかる構造力学 (高木任之著 日本実業出版)

### 【参考文献・資料】

初めての建築構造力学 (学芸出版社)  
建築構造力学1 (和泉正哲著 培風館)

## 建築材料

山田和夫

### 【授業の概要】

現代の建築構造物を代表する構造形式は、鉄筋コンクリート構造と鉄骨構造である。本授業では、これらの構造物を構成する素材、すなわちコンクリートおよび鉄鋼の製造方法と各種性質について述べるとともに、仕上げ材料として使用される各種の天然材料および人工材料の基本的特性に関する知識も習得できるように講義する。

### 【授業計画】

- 第1講 建築材料の分類と講義予定の説明
- 第2講 コンクリートの構成材料
- 第3講 コンクリートの製造方法
- 第4講 フレッシュコンクリートの性質
- 第5講 硬化コンクリートの強度性質
- 第6講 硬化コンクリートの変性性質
- 第7講 鉄鋼の種類と製造方法
- 第8講 鉄鋼の性質と製品
- 第9講 木材の性質と製品
- 第10講 粘土およびガラス製品
- 第11講 アスファルトおよびプラスチック製品
- 第12講 不燃材料および材料試験

### 【評価方法】

出席状況と定期試験の成績により総合的に評価する。

### 【テキスト】

建築材料<第3版> (嶋津孝之他著 森北出版)



## 建築材料実験

山田和夫

### 【授業の概要】

現代の建築構造物に使用されている主用構造材料は、鉄鋼およびコンクリートである。これらのうち、鋼については、建築技術者が材料の製造を担当することは殆どないため、専ら材料または構造物としての性能を評価するための実験が重要となるが、コンクリートについては、その製法と性質に関する実験が重要となることが多い。そのため本授業では、これらの点を十分に考慮して半期で修得すべき重要な実験項目を厳選した。

### 【授業計画】

- 第1講 各種実験方法および実験予定の説明
- 第2講 骨材試験の種類と試験方法の説明
- 第3講 骨材の密度、吸水率、単位容積質量試験
- 第4講 コンクリートの調合設計方法の説明
- 第5講 コンクリートの実施調合表の作成
- 第6講 コンクリートの混練および打設
- 第7講 コンクリート試験の種類と試験方法の説明
- 第8講 フレッシュコンクリートの試験
- 第9講 硬化コンクリートの引張および圧縮試験
- 第10講 鋼材試験の種類と試験方法の説明
- 第11講 鋼材の引張実験
- 第12講 レポートの講評

### 【評価方法】

出席状況とレポートの成績により総合的に評価する。

### 【テキスト】

構造材料実験法<第3版> (谷川恭雄他著 森北出版)

## 建築法規

山本正文

### 【授業の概要】

建築物の基本法である建築基準法を中心に建築士法、都市計画法、住宅の品質確保の促進等に関する法律について概要を理解するとともに、建築と法律の融合を目指して法律書が活用できるよう、より実践的な内容とする。

### 【授業計画】

1. 法についての基礎知識、我国における建築法規の変遷、建築士法
2. 都市計画法
- 3～5. 建築基準法 総則関係
- 6～8. 建築基準法 単体規定関係
- 9～13. 建築基準法 集団規定関係
14. 住宅の品質確保の促進等に関する法律
15. 期末試験

### 【評価方法】

授業では演習問題を多用する予定であるため、この結果と期末試験を中心にとし、さらに出席状況を加味する。

### 【テキスト】

基本建築関係法令集(法令編)平成16年版  
(国土交通省住宅局建築指導課監修 霞ヶ関出版社)  
図解でわかる 建築法規(高木任之著 日本実業出版社)

### 【参考文献・資料】

建築法規用教材 2004(日本建築学会編 丸善)  
新しい建築法規の手引き 平成16年版  
(日本建築技術者指導センター編 霞ヶ関出版社)

## 建築生産システム

鈴木直人

### 【授業の概要】

工業生産としての建築・商行為としての建築の実務に関する理解と知識の習得を目的とする。建築生産のプロセスについて概観したのち、建築施工計画・施工管理の現状と問題点を解説する。併せて、ビデオ・現場見学によって建築生産の実態に関する理解を深める。今後の方向として、建築生産の新しいシステムや生産情報に関する動きについて論じる。

### 【授業計画】

- 第1回 ガイダンス 工業生産としての建築生産
- 第2回 建築生産のプロセス・商行為としての建築生産
- 第3回 建築設計のプロセス
- 第4～6回 施工計画と施工管理の現状  
現場見学会
- 第7回 建築生産の問題点・建築生産の新しい動き
- 第8回 建築生産情報と将来展望
- 第9回 単位認定試験

現場見学、ビデオの関係で週1回2時限の時と、隔週1回4時限との組み合わせを考えています。

### 【評価方法】

出席状況と単位認定試験(レポートを含む)の成績による総合的評価

## 建築環境学実験

齋藤基之

### 【授業の概要】

室内や屋外等の熱・空気・光・音環境の定量的な測定・評価方法を学ぶことにより、建築や都市の環境、およびこれらと人間とのかかわりについて理解を深めることを目的とする。

なお、本科目受講に先立ち、建築環境学Ⅰ(熱・空気)およびⅡ(音・光)を履修しておくことが望ましい。

### 【授業計画】

測定器を用いた演習を行い、測定結果・考察をレポートにまとめる。提出されたレポートに基づき講評・解説を行う。

演習のキーワードは以下のとおり。

- ・温熱環境の測定と評価
  - 気温、湿度、風速、放射温度、着衣量、代謝量、PMV —
- ・空気環境の測定と評価
  - 二酸化炭素濃度、粉塵濃度、換気量 —
- ・光環境の測定と評価
  - 照度、昼光率、均斉度 —
- ・音環境の測定と評価
  - 音圧レベル、騒音レベル、等価騒音レベル —

### 【評価方法】

出席状況、提出レポートにより評価する。

### 【テキスト】

建築環境工学(山田由紀子著 培風館)



## 建築設備学

池畑紀久雄

### 【授業の概要】

近年における建築物は建築基準法の改正により大型化になり、高断熱、高気密になった結果、建築設備は高度な機能を要求されるようになった。そのため空調設備に代表されるように建築物はエネルギーの大量消費型となり、更にはシックビルシンδροムや地球温暖化等さまざまな問題を指摘されるようになった。そこでこの講座では、最新の建築設備について体系的に学ぶだけでなく、地球環境に貢献できる建築技術者の育成に貢献したいと考えています。

### 【授業計画】

パワーポイントによる講義を12駒開催 パワーポイントで作成したプリントを配布する。

1. 建築設備工学の概要
2. 建築設備と地球環境問題
3. 建築設備工学の基礎知識  
新・省エネルギーシステム
4. 空気調和設備  
空気線図  
熱源設備
5. 熱媒搬送設備
6. クリールームの空調設備
7. 給排水衛生設備
8. 防災、消火設備
9. 受変電・配電設備
10. 照明設備・動力設備
11. 情報通信・警報設備

### 【評価方法】

1. 出席回数、受講態度 50点
2. レポートの内容評価 50点  
試験による評価はいたしません。

### 【テキスト】

パワーポイントによる講義のためテキストは使いません。

### 【参考文献・資料】

建築設備工学 (田中俊六監修 井上書院)

## 空間設計Ⅱ (小規模施設)

日色真帆 小林 聡 高橋敏郎

### 【授業の概要】

空間設計Ⅰをふまえて、周辺環境も考慮した小規模な施設の設計を行う。現地調査、資料収集、事例研究などをふまえて、図面、模型、CAD、写真、スケッチ、文章など、さまざまな表現手段を使って、案をまとめあげるトレーニングを行う。プレゼンテーションの仕方についても学習する。

### 【授業計画】

- ・出された課題に対して、エスキースを作成し、教員の指導を受けながら案をまとめる。
- ・最終的に図面や模型で表現し、講評会でプレゼンテーションを行い講評を受ける。
- ・課題は2～3課題出される予定である。
- ・具体的な課題は、講義の中で説明する。
- ・グループ分けを行い、3名の教員で分担して指導する。

### 【評価方法】

提出された作品と、講評会におけるプレゼンテーションによって行う。

### 【テキスト】

特になし。

## 空間設計Ⅰ (設計基礎)

清水裕二 三輪律江 道家 洋

### 【授業の概要】

与えられた条件から導き出される建築的解答はひとつではない。この授業では、ある与条件からコンセプト(概念)を整理しつつ空間を構築してゆく訓練を行い、より複雑な建築を設計するための基礎体力を養うことを目標とする。

授業の進め方としては

1. 課題の提出：条件の提示。
2. コンセプト：与条件に対して自分はどうのような考え方で空間を構成してゆくのかを言葉やダイアグラムを用いて練る。
3. プレゼンテーション：スケッチ、図面・模型等によるプレゼンテーションを行う。
4. エスキース：議論を通じて案をリファインしてゆく。
5. 図面化：最終的な案を平・立・断面図、パース・模型等を用いて表現する。
6. 講評会：図面を用いての最終プレゼンテーションを行い、講評を受ける。  
という流れとなる。

### 【授業計画】

いくつかの課題を出題し、数週間製図作業とエスキース(2～4)を繰り返した後、課題を提出し、最後に講評会を行う。

### 【評価方法】

出席状況と提出された課題をもとに評価。

### 【テキスト】

特になし。

## 空間設計Ⅲ (中規模施設)

垂井洋蔵 笠嶋淑恵 鈴木千鶴

### 【授業の概要】

空間設計Ⅰ及びⅡでの成果をふまえ、提出された演習課題に従って、複雑な建築的諸要求を具体的なプロジェクトにまとめるためのトレーニングを行う。

- 1) より複雑な機能上の諸要求の建築的空間への計画的な合理性を持った翻訳
- 2) 周辺環境のもつ視覚的構成と論理的に対応する形態の発見と外部空間の規定
- 3) 建築空間と、それを成立させるための整合性をもった構造的システムの提案
- 4) 法的規制の把握
- 5) 魅力あるオリジナルな建築空間の造形とその表現を実際の設計課題を通して学ぶ。

### 【授業計画】

おおむね次のようなプロセスをふむ。各段階ごとに必ず成果を提出し批評を受ける。

- 1) 敷地や周辺環境の空間的特性から建築造形のイメージを得るためのスケッチと概念的造形モデルの作成
- 2) ヴォリューム検討の為のブロックモデルを造形モデルと関連させながら作成する
- 3) 建築モデル第一次案の作成と講評
- 4) 構造システムの検討
- 5) エスキースと講評により計画をまとめあげる。
- 6) 最終提案の完成と発表

### 【評価方法】

各段階ごとの提出作品と、最終案への成熟プロセス、講評会での発表の内容などを総合的に評価します。

### 【テキスト】

特になし



## 空間設計Ⅳ（複雑な施設）

清水裕二 宇野 享 鈴木えいじ

### 【授業の概要】

現代の建築は、スケールの大きさにかかわらず、従来のビルディング・タイプ（学校・美術館・庁舎等）では分類できないような新たなプログラムが要求される。この授業では、従来の建築計画をベースにしつつ、現代性のある提案を盛り込んだ課題について考察し、建築化するプロセスを学習する。

授業の進め方としては

1. 課題の提出：条件の提示。
  2. コンセプト：与条件に対して自分はどうのような考え方で空間を構成してゆくのかを言葉やダイアグラムを用いて練る。
  3. プレゼンテーション：スケッチ、図面・模型等によるプレゼンテーションを行う。
  4. エスキース：議論を通じて案をリファインしてゆく。
  5. 図面化：最終的な案を平・立・断面図、パース・模型等を用いて表現する。
  6. 講評会：図面を用いての最終プレゼンテーションを行い、講評を受ける。
- という流れとなる。

### 【授業計画】

いくつかの課題を出題し、数週間製図作業とエスキース（2～4）を繰り返した後、課題を提出し、最後に講評会を行う。

### 【評価方法】

出席状況と提出された課題をもとに評価。

### 【テキスト】

特になし

## 計画演習Ⅰ（図面表現）

高橋敏郎 渡辺 達 小林 聡

### 【授業の概要】

建築は設計者、施工者、その他多くの人々の共働によってつくられる。建築設計製図は、それら建築に携わる人々を結ぶコミュニケーション手段であり、基本言語であるといえよう。計画設計演習Ⅰでは、構想⇄平面⇄立体といったプロセスを通じて設計に必要な空間把握力や、図面から立体的な空間がイメージできる能力を修得するとともに、建築設計製図作成に必要な諸々の製図記号、表現方法を学び、設計意図の有効なプレゼンテーション技法を身につけることを目的とする。

1. 平面と立体：立体をいかにして平面上に表現するのか。正投影法、透視図法など、いくつかの図法を通じて学んでゆく。
2. 建築設計図面の基礎：製図記号などの基本的言語を身につけ、平面図、立面図、断面図など、建築設計図面の読み方、描き方を修得する。
3. 様々な図面表現：必要なことを過不足なしに伝える図面から、アピールする図面をめざし、プレゼンテーションの幅を広げる。

<受講上の注意>

- ・一級建築士受験資格の取得を目指している人は、必ず受講すること。
- ・基本的製図用具（三角スケール、三角定規、製図用シャープペンシル、テンプレート等）が必要。詳細は授業のガイダンスで説明する。学内での販売も行う予定。

### 【授業計画】

1. 製図法や図面表現に関する解説を行った後、課題を出題する。
2. 数週間製図作業を行い、課題を提出する。
3. 授業中作業する課題以外に、いくつか宿題を出す予定。

### 【評価方法】

出席状況と提出された課題、宿題をもとに評価を行う。

### 【テキスト】

建築設計演習 基礎編 建築デザインの製図法から簡単な設計まで  
（武者英二・永瀬克己 彰国社）  
コンパクト建築設計資料集（日本建築学会編 丸善）

## 空間設計Ⅴ（都市複合施設）

日色真帆 尾崎公俊

### 【授業の概要】

空間設計Ⅰ～Ⅳをふまえて、現実の建築設計に近い、より複雑で高度な課題に取り組む。コンセプトの立案から、資料の収集、案の創造性豊かな展開、細部にいたる修正と詰め、プレゼンテーションの工夫といった一連のプロセスを自力で展開することが要求される。課題としては、都市的環境における建築のあり方を探るものが出題される予定である。学生はこの科目で十分なトレーニングを積んだ上で、卒業時に制作する卒業設計に臨むことになる。

### 【授業計画】

- ・出された課題に対して、教員の指導を受けながら案をまとめる。
- ・最終的に図面や模型で表現し、講評会でプレゼンテーションを行い講評を受ける。
- ・具体的な課題は、講義の中で説明する。
- ・2名の教員で分担して指導する。

### 【評価方法】

提出された作品と、講評会におけるプレゼンテーションによって行う。

### 【テキスト】

特になし。

## 計画演習Ⅱ（都市観察）

齋藤基之

### 【授業の概要】

建築・都市空間は人間が滞在し生活する場である以上、そのデザインに際して、熱・空気・音・光といった環境要素の快適性や省資源・省エネルギー性にも配慮することが必要不可欠である。この演習科目では、実在の建築・都市空間を対象とした観察・調査・分析を行うことにより、環境に配慮した建築・都市のデザインセンスを養うことを目的とする。

なお、本科目受講に先立ち、建築環境学Ⅰ（熱・空気）を履修しておくことが望ましい。

### 【授業計画】

1. 提示されたテーマに基づき、各自もしくはグループごとに、調査対象とする建築物・都市構成要素等を設定する。
2. 設定した調査対象に自ら赴き、観察・調査を行うとともに、資料の収集を行う。
3. 調査結果をまとめ、受講者全員の前でプレゼンテーション（コンピュータ、スクリーン等を用いた口頭発表）を行う。また、プレゼンテーションの内容を受け、講師が講評・補足説明等を行う。
4. プレゼンテーションの際に受けた助言を参考に、追加調査・分析等を行い、レポートにまとめて提出する。

### 【評価方法】

プレゼンテーション・提出レポートの内容、出席状況により総合的に評価する。

### 【テキスト】

特になし



## 計画演習Ⅲ（調査実測）

清水裕二 高橋敏郎 岡島哲明 太田 忍

### 【授業の概要】

建築設計の作業の中で、図面や建築模型と実際の空間体験を結びつけるにはある程度の実験を必要とする。たとえば、スケール感。たとえば、構造の空間的な力の流れ。この授業では、手を動かし、ものをつくり、五感で体験することを通じて、机上での構想と実現される空間とを少しでも架橋することを試みる。詳細はまだ決定されていないが、「簡易シェルター」「構造と空間」「展示空間」などのテーマを設定し、簡便な材料を使用して製作を行う予定である。登録者は、日程、必要な道具、材料などを追って掲示するので、注意するように。（毎年、ギャラリー間主催の巡廻展の会場構成計画、及び施工を行っており、本年度も開催が決定された場合、例年通り展覧会場の計画・施工を授業内で行う予定である。）

### 【授業計画】

授業は集中講義とする（日程は追って掲示するが、土曜日に行われることが多いので、履修の際は注意すること）。

### 【評価方法】

作業の成果物及びその製作過程を記録したレポート等の提出物、授業態度等を評価の対象とする。

### 【テキスト】

特になし。

## CAD 応用

天野良則

### 【授業の概要】

計画演習Ⅳ（CAD基礎）で修得した技術をもとに、設計初期段階における造形力開発の為に3次元形態のモデリングやシュミレーション技法、作品のレンダリングやプレゼンテーション技法をコンピュータ上で学ぶ。建築デザインの表現能力を高める手段として、コンピュータ利用に習熟することを目指す。

### 【授業計画】

本演習では、VectorWorks、RenderWorksの他Photoshop、Illustrator、Shade等のプレゼンテーション用ソフトを使用する。演習課題をとおして、3次元モデリング、レンダリング、画像処理の技法を学び、最終的に作品としてまとめるための表現技法を学ぶ。

各演習課題にそって、講義時間内に演習の趣旨と、必要な操作上の解説を行います。

- 演習課題1 簡単な立体の組合せによるモデリング、レンダリングの基本操作
- 演習課題2 街並みのモデリング・ムービー作成
- 演習課題3 住宅のモデリング・レンダリング
- 演習課題4 過去の課題の再プレゼンテーション

【受講上の注意】

計画演習Ⅳ（CAD基礎）を受講していることを前提として演習を進めます。各課題は演習時間内に完成させることは難しいので、各自自習時間を利用して作業を進めることになります。

### 【評価方法】

演習への出席状況と、各課題の提出、課題作品の内容を総合評価します。課題を期限内に必ず提出することが評価の前提となります。

### 【テキスト】

演習時間内に資料を配布します。操作上のマニュアルはCAD室に備え付けます。

【定員】各40名（越えた場合はCAD基礎においてA、Bの者優先）

## CAD 基礎

垂井洋蔵

### 【授業の概要】

建築設計、デザイン、設計図の作成等の諸場面におけるCADシステムのもつハード、ソフト面の基礎的な概念を理解する。CADの持つ積極的側面、限界を正しく把握することによって、計画、デザインのプロセスにコンピュータを有効に利用する能力を開発することを目的とする。演習を通してCADシステム利用の基本的操作をマスターし、より高度な設計、プレゼンテーション手法としてのコンピュータ利用の為の基礎を修得する。

### 【授業計画】

- 1 CADシステムの概要。本学のシステム構成と、機器の説明及び演習の進め方の諸注意
- 2 実社会で使われているCADソフトウェア体系の概観と本演習で使用するソフトウェア（VectorWorks）の基本操作の解説と実習  
以下各演習課題に基づいて簡単なデザイン課題を完成させる。課題の各段階で必要な操作上の解説を行う。

演習課題1 簡単な建築的要素による造形。二次元図面の作成と三次元化によるデザイン上の評価。

演習課題2 建築図面のCADによる作図方法の演習。

演習課題3 演習課題1で行なった各自の作品を題材にして建築作品をコンピュータ上で設計する。すべての課題をプレゼンテーションして提出する。

### 【受講上の注意】

CAD教室の時間外使用を含め、施設使用上の諸注意を行うので第1回目の演習に必ず出席すること。

### 【評価方法】

演習への出席。各ステップごとの課題の提出。作品の内容を総合的に評価する。

### 【テキスト】

演習の各段階で解説資料を配布する。操作上のマニュアルはCAD教室に備え付ける。

## CAD 特別演習

天野良則

### 【授業の概要】

CAD基礎・CAD応用で修得した技術をもとに、コンピュータを利用したプレゼンテーション技術の上達を目指す。

### 【授業計画】

本演習では各CGアプリケーションの応用技術を演習課題をとおして学び、最終的に作品の表現力を高める事を目標としています。各演習課題にそって講義時間内に演習の趣旨と、必要な操作上の解説を行います。

※第1回目の授業で演習課題を発表します。

### 【受講上の注意】

CAD基礎・CAD応用を受講していることを前提とします。

### 【評価方法】

毎回複数のアプリケーションについて説明を行うため、出席状況を重視します。

課題は期限内に提出したもののみ評価します。

### 【テキスト】

授業内に配布します。

【定員】40名（越えた場合はCAD応用においてA、Bの者優先）



## 教職入門

梅村敏郎

### 【授業の概要】

本講義は、教員という職業がどのような意義を持っているのか、学校での教師の職務と役割がどのようなものであるかを、学生の被教育体験を生かしながら具体的に解説する。職務の個々の内容について、現在の中学高校の実体を踏まえて詳説する。その上で、今日の学校が抱えている問題解決の方途を、中教審、教課審の答申を学び、求められている教師像を明らかにすることによって教職につくかどうか、自らの適性を見極めて決定する情報と機会を提供したい。

### 【授業計画】

- 1 社会構造の変化と教育の役割の変化
- 2 偉大な教育者に学ぶ
- 3 日本における教員養成
- 4 日本の民主化と教育
- 5 現代社会と教育
- 6 まとめ

### 【評価方法】

筆答試験による。

### 【テキスト】

「教職入門」300円

### 【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

## 教師論

佐藤実芳

### 【授業の概要】

日本における明治維新以降の教員養成制度について、教員免許・資格、教員に求められていた資質等の歴史を学習する。

多様化と個性化、国際化、情報化、高学歴化等の現代社会の急激な社会変化の中において期待される教員像を求め、学生の被教育体験を交えて模索することによって、教職への理解を深め、目的意識をもって教職への道を歩む人材の育成を目指す。

### 【授業計画】

1. 日本における教員養成の制度  
(1) 教員養成の歴史と現在 (2) 教職課程の仕組 (3) 教員の採用
2. 教師について考える  
(1) 教科指導 (2) 生徒指導 (3) 教員の研修
3. 種々な教師に学ぶ

### 【評価方法】

レポート、受講態度などにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

## 教職入門

小栗正彦

### 【授業の概要】

本講義は、教員という職業がどのような意義を持っているのか、学校での教師の職務と役割がどのようなものであるかを、学生の被教育体験を生かしながら具体的に解説する。職務の個々の内容について、現在の中学高校の実体を踏まえて詳説する。その上で、今日の学校が抱えている問題解決の方途を、中教審、教課審の答申を学び、求められている教師像を明らかにすることによって教職につくかどうか、自らの適性を見極めて決定する情報と機会を提供したい。

### 【授業計画】

- 1 教師像の変遷
- 2 現代の理想的教師像
  - (1) 教科指導者としての教師
  - (2) 特別活動の指導者としての教師
  - (3) 教師とカウンセリング
  - (4) 学級経営者としての教師
  - (5) 教師と校務
  - (6) 共生社会における教師の仕事
- 3 家庭人としての教師
- 4 市民としての教師
- 5 子どもの未来を開く魅力ある人間としての教師
- 6 まとめ

### 【評価方法】

筆答試験による。

### 【テキスト】

「教職入門」300円

### 【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

## 教育原理

佐藤実芳

### 【授業の概要】

高等教育機関への高い進学率を誇っている日本では、教育といえば学校教育を思いうかべることが多いであろう。しかし、学校教育を受けるのは、人生の一時期にしかすぎない。しかも学校教育をめぐる様々な問題が生じている今日、学校とは何か、教育とは何か、そのあるべき姿を真剣に考える必要がある。本講義では、教育の本質と目的を中心に教育とは何かを考察していく。

### 【授業計画】

1. 教育とは何か
2. 人間と教育
3. 教育の本質
4. 教育の目的
5. 現代の教育

### 【評価方法】

試験、レポート、受講態度などにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

授業中に指示する。



## 教育原理

五島敦子

### 【授業の概要】

高等教育機関への高い進学率を誇っている日本では、教育といえば学校教育を思いつくことが多いであろう。しかし、学校教育を受けるのは、人生の一時期にしかすぎない。しかも学校教育をめぐる様々な問題が生じている今日、学校とは何か、教育とは何か、そのあるべき姿を真剣に考える必要がある。本講義では、教育の本質と目的を中心に教育とは何かを考察していく。

### 【授業計画】

1. 教育とは何か
  - (1) 教育をめぐる視点
  - (2) 学校の登場と近代学校の性格
2. 教育目的の歴史の変遷
  - (1) 日本における近代公教育の成立
  - (2) 教育勅語体制から戦時体制へ
  - (3) 大正新教育運動の意義
  - (4) 戦後新教育とその修正
  - (5) 高度経済成長と教育爆発
3. 現代日本の教育問題
  - (1) 家族像の変化と子どもの生活
  - (2) 情報化社会の子どものたち
4. これからの教育を考える
  - (1) ゆとりと新しい学力観
  - (2) 学校を改革する取り組み
  - (3) 教育改革の功罪

### 【評価方法】

定期試験、授業内小テスト、出席状況による総合評価

### 【テキスト】

やさしい教育原理 (田嶋一他 有斐閣アルマ)

### 【参考文献・資料】

窓ぎわのトットちゃん (黒柳徹子 講談社)  
教育改革の幻想 (荻谷剛彦 ちくま新書)

## 欧米教育文化史

渡辺かよ子

### 【授業の概要】

欧米教育文化史における「近代化」とは具体的に何を意味するのか、という点に焦点をあて、欧米教育・文化の全体的・構造的な変遷過程に着目しつつ、比較教育史的なアプローチを試みる。

### 【授業計画】

1. 欧米教育文化史の視点と課題
2. 中世後期の欧米教育文化とルネサンス、宗教改革
3. 近代教育文化の生誕と展開 (啓蒙思想と市民革命、産業革命)
4. 大学の誕生と展開
5. 西洋的教養と学校制度の確立

### 【評価方法】

レポート。

### 【テキスト】

教養の復権 (沼田裕之他 東信堂)

### 【参考文献・資料】

その都度指示する。

## 教育思想史

梅村敏郎

### 【授業の概要】

教育は、人間の本質的な営みの一つであって、既に古代から哲学者や思想家の考察の対象となってきた。これらの思想は、思想家たちが生きた時代や文化の主要な潮流や思想家自身の思考方法の特徴によって極めて多様な思想や理論が形成された。

この授業では、古代から現代まで各時代を代表するような偉大な教育思想を時代順に辿るのではなく、現代の教育についての基本的な考え方や主要な概念に直接的な影響を与え、そのため現代教育と直接的なつながりを持つと思われる17世紀のコメニウスを出発点として、それ以後今日に至るまで最も重要と考えられてきた教育者たちの思想を取り上げる。

その際、学生はそれらの思想についての他人の解釈や解説を聴くことも必要ではあるが、むしろそれらの思想と直接に対決することがより大切である。

専門的な研究者にとっては、それらの思想はそれが書かれた元の言語で読まれるべきであろうが、初歩の学生は先ずそれらの書物の良い日本語訳によって、これらの思想に直接触れることが必要である。

### 【授業計画】

- 1 教育思想史を勉強することの意義
- 2 教育思想史を17世紀から取り扱う理由
- 3 コメニウス
- 4 ルソー
- 5 ペスタロッチ
- 6 ヘルバルト
- 7 フレーベル
- 8 デューイ

### 【評価方法】

評価はレポートの提出、あるいは資料持ち込み自由の筆答試験による。

### 【テキスト】

特定のテキストは使用しない。

### 【参考文献・資料】

参考文献は授業中に適宜紹介する。

## 教育心理学 I

富安玲子

### 【授業の概要】

中学・高校生についての理解を深めるために乳幼児期から青年期までの発達の変遷を概観し、発達課題について考えると共に、障害のある幼児、児童、生徒への理解を通して発達の可能性について考えていく。その上で、教育を受ける側と教育する側との相互の人間関係の中で展開される「教育」の営みについて、学習のメカニズムや動機づけの理論を通して考え、心理学的知見を実践の中に生かしていくことを目的としたい。

### 【授業計画】

1. 教育の機能と教育心理学の位置づけ
2. 生涯発達の視点
3. 障害のある幼児、児童、生徒の理解と発達可能性
4. 発達段階と発達課題
5. 認知の発達を通しての人間理解
6. 学習の成立過程
7. 学習における知識の役割
8. 学習意欲を育てる

### 【評価方法】

期末試験によるが、授業への参加関与度を考慮する。

### 【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

### 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。



## 教育心理学 I

小池理穂

### 【授業の概要】

中学・高校生についての理解を深めるために乳幼児期から青年期までの発達  
の姿を概観し、発達課題について考えると共に、障害児への理解を通して発達の可  
能性について考えていく。その上で、教育を受ける側と教育する側との相互の人間  
関係の中で展開される「教育」の営みについて、学習のメカニズムや動機づけの  
理論を通して考え、心理学的知見を実践の中に生かしていくことを目的とする。

### 【授業計画】

1. 教育心理学を学ぶということ  
・教育の機能と教育心理学の位置づけ
2. 発達について考える  
・生涯発達の視点  
・障害の意味と発達可能性  
・発達段階と発達課題  
・認知の発達
3. 学習の過程を考える  
・学習の成立過程  
・学習における知識の役割  
・学習意欲を育てる  
外発的動機づけと内発的動機づけ/原因帰属をめぐって/知的好奇心の  
喚起/報酬の意味/目標のありかた

### 【評価方法】

筆記試験またはレポートに加えて、授業への参加関与度を考慮する。

### 【テキスト】

使用せず。

### 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

## 障害児の教育

加藤文子

### 【授業の概要】

障害児についての基本的理解をし、障害児の教育的環境、福祉施設の役割  
などの実情を理解する。また、就学指導の仕組みを理解し、特別支援教育の  
現状と課題を認識する。

### 【授業計画】

- 1 心身障害児の理解
- 2 心身障害児の種類と程度  
心身障害児とは  
学校教育で対象とする障害児と児童福祉施設で対象とする障害児  
視覚・聴覚・肢体不自由・知的障害・病弱・虚弱児等の程度と発生原因  
言語障害・情緒障害・重複障害児の発生原因と教育
- 3 心身障害児の早期教育、後期中等教育の重要性  
なぜ早期発見、早期教育が必要か  
社会自立に向けた後期中等教育の重要性
- 4 心身障害児の就学指導の仕組み
- 5 心身障害児（者）教育の歴史  
心身障害児（者）教育を開拓した人々  
心身障害児（者）教育の歴史の変遷
- 6 まとめ

### 【評価方法】

出席状況・授業態度・レポート・期末試験の成績により総合的に評価する

### 【テキスト】

テキストは使用せず。必要に応じて資料を配布する

## 教育心理学 II

富安玲子

### 【授業の概要】

人間を発達可能性のある存在として生涯発達の視点から考えながら、一人  
ひとりが自分の教育観・発達観の基礎づくりをすることを目的にしたい。自  
己意識の発達などのプロセスを辿りながら、教育的働きかけとの関わりを考  
え、今日の問題への理解を深めると共に、自分自身の自己形成のプロセスへ  
の関心も深め、自己理解を促進していくことも視野に置いて学んでいく。

### 【授業計画】

1. 発達の心理学を学ぶ/発達の心理学から学ぶ
2. 青年期の意味
3. 発達と教育
4. 「自分」の諸相
5. 「自分でない」世界の認識から
6. 第一「反抗」期の意味
7. 自我と他我
8. 他律的規範への順応
9. 第二の誕生
10. アイデンティティの確立
11. 生涯発達の視点と生き方
12. 自分探しの旅と人間関係

### 【評価方法】

期末試験によるが、授業への参加関与度を考慮する。

### 【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

### 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

## 教育制度

佐藤実芳

### 【授業の概要】

社会の変化にともなう学校の誕生や変化に基づき、社会において学校教育  
が果たしてきた役割について考えるとともに、学校教育制度の類型的比較及  
び学校教育制度の歴史の変遷から、学校教育制度の基本的な事項を理解する。  
さらに、学校経営や教育行政に関する規定がある教育法規を取り上げ、現在  
の日本の教育制度の特徴を考察していく。

### 【授業計画】

1. 教育制度の意義
2. 現代学校教育制度の起源
3. 学校教育制度の類型
4. 日本の学校教育制度
5. 教育法規
6. 外国の学校教育制度

### 【評価方法】

試験、受講態度などにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

授業中に指示する。



## 教育制度

五島敦子

### 【授業の概要】

社会の変化にともなう学校の誕生や変化に基づき、社会において学校教育が果たしてきた役割について考えるとともに、学校教育制度の典型的比較及び学校教育制度の歴史の変遷から、学校教育制度の基本的な事項を理解する。さらに、学校経営や教育行政に関する規定がある教育法規を取り上げ、現在の日本の教育制度の特徴を考察していく。

### 【授業計画】

1. 教育制度の概観
  - (1) 学校教育制度の類型
  - (2) 教育段階とその課題
2. 諸外国の教育制度
  - (1) 先進国
  - (2) 発展途上国
3. 教育を受ける権利
  - (1) 子どもの権利条約
  - (2) 日本国憲法・教育基本法
  - (3) 学校教育法
  - (4) 教育的弱者のための権利保障
4. 教育行政と学級経営
  - (1) 教育職員の服務と研修
  - (2) 教育委員会
  - (3) 学級経営と指導計画
  - (4) 教育評価

### 【評価方法】

定期試験、レポート、グループ・ワークによる総合評価

### 【テキスト】

やさしい教育原理 (田嶋一他 有斐閣アルマ)

### 【参考文献・資料】

世界の教育 (宮澤康人他 放送大学教育振興会)  
世界の教育改革 (佐藤三郎編 東信堂)

## 教育課程

羽場俊秀

### 【授業の概要】

特定の発達段階にいる子どもを対象として、各レベルの学校がその教育目的・目標を十分に達成するために、子どもにどの種の教科・教材をどのように学習させるか、またどの種の活動をどう体験させるかについての全体的な教育計画である教育課程 (カリキュラム) を学習する。

なお、各学校が教育課程を編成する場合に、広範な人間の文化領域のなかから、子どもが学習・体験すべき教育内容を選択し組織化する原理が何であるかという問題に焦点をあてて教育課程について考察する。

### 【授業計画】

1. 教育課程とは
  - (1) 教育課程の原理と理論
  - (2) 教育課程の構造と種類
  - (3) 教育課程の歴史の変遷
2. 諸外国の教育課程の概観
3. わが国の教育課程
  - (1) 戦前の教育課程の構造
  - (2) 戦後の教育課程の構造
  - (3) 現在の中学校の教育課程の改正の趣旨と構造
  - (4) 現在の高等学校の教育課程の改正の趣旨と構造
4. 総合的な学習の時間の設定の趣旨と具体的な展開
5. まとめ
  - (1) 教育課程研究と教師
  - (2) 望ましい教育課程の展開

### 【評価方法】

中間小テスト (レポート) 及び期末考査

### 【テキスト】

テキストとしては使用しない。授業中に参考文献を適宜紹介する。

### 【参考文献・資料】

なし

## 比較教育論

渡辺かよ子

### 【授業の概要】

進展する国際化・情報化の中にあつて、人間は次世代にどのような夢や願いを託すことができるのか。教育は、自らが社会問題であると共に、貧困や不平等など現代の社会問題に対する有力な解決方策でもある。本講では、日本を含む各国の教育と全世界的教育の状況の比較研究を通じて、日本の教育の特徴と現代教育の課題を明らかにしていく。

### 【授業計画】

1. 比較教育学の基礎理論
2. 社会発展論と教育
3. 近代化と各国の教育制度 (識字と就学)
4. 「発展途上」国と「先進」国の教育の実態
5. 近現代日本の教育制度の成立と特徴
6. 文化と教育、異文化交流としての教育
7. 人権としての教育
8. 比較教育と教育改革

### 【評価方法】

試験とレポート。

### 【テキスト】

使用せず。(資料配布)

### 【参考文献・資料】

比較国際教育学 (石附実編著 東信堂)  
世界の学校 (二宮皓編著 福村出版)  
多文化教育 (中島智子編著 明石書店)  
学歴社会 新しい文明病 (ドーア著 岩波書店)  
外国の教科書と日本 (吉沢柳子著 丸善ブックス)  
比較高等教育論 (アルトバック著 玉川大学出版部)  
被抑圧者の教育学 (フレイレ著 亜紀書房)  
情報消費型社会と知の構造 (中西新太郎 旬報社)  
国際歴史教科書対話 (近藤孝弘著 中公新書)  
教育の比較文化誌 (石附実著 玉川大学出版部)  
比較教育学の理論と方法 (シュリーバー編著 東信堂)

## 教育課程

小栗正彦

### 【授業の概要】

特定の発達段階にいる子どもを対象として、各レベルの学校がその教育目的・目標を十分に達成するために、子どもにどの種の教科・教材をどのように学習させるか、またどの種の活動をどう体験させるかについての全体的な教育計画である教育課程 (カリキュラム) を学習する。

なお、各学校が教育課程を編成する場合に、広範な人間の文化領域のなかから、子どもが学習・体験すべき教育内容を選択し組織化する原理が何であるかという問題に焦点をあてて教育課程について考察する。

### 【授業計画】

1. 教育課程とは
  - (1) 教育課程の原理と理論
  - (2) 教育課程の構造と種類
  - (3) 教育課程の歴史の変遷
2. 諸外国の教育課程の概観
3. わが国の教育課程
  - (1) 戦前の教育課程の構造
  - (2) 戦後の教育課程の構造
  - (3) 現在の中学校の教育課程の改正の趣旨と構造
  - (4) 現在の高等学校の教育課程の改正の趣旨と構造
4. 総合的な学習の時間の設定の趣旨と具体的な展開
5. まとめ
  - (1) 教育課程研究と教師
  - (2) 望ましい教育課程の展開

### 【評価方法】

中間小テスト (レポート) 及び期末考査

### 【テキスト】

教育課程概説 (資格教育センター編 300円)

### 【参考文献・資料】

中学校学習指導要領 (文部省)  
高等学校学習指導要領 (文部省)



## 社会科教育法 I

望月大海

### 【授業の概要】

小学校社会科の教育課程の概要を解説し、中学校社会科の教育課程の構造について理解を深める。日本と関係の深い国々について学習することによって日本の国土について理解を深める。新鮮なテーマを教材とする。

### 【授業計画】

1. アンケートによる学生の意識調査
2. 世界の人口問題と食糧・資源・エネルギー・雇用
3. 中国の「一人っ子政策」はどうなったか
4. 公職選挙法と参議院選挙
5. EUはどこへ行くか

### 【評価方法】

授業時間内に3回～4回の小テストを実施し、授業参加の積極性により評価を決める。

### 【テキスト】

中学校は、地理・歴史・公民に亘るので、教育作成のプリント、中学校教科書のコピーを用いる。

## 社会科教育法 II

望月大海

### 【授業の概要】

社会科教育法 I に同じ。

### 【授業計画】

1. 現代中国について
2. 解釈改憲と自衛隊
3. 商品と価格の決定
4. 国家財政と予算

### 【評価方法】

社会科教育法 I に同じ。

### 【テキスト】

ソールズベリーの「中国天安門激動の40年」(150分)(NHK・VTR)  
私たちの生活と財政の役割(平成15年度版公民資料 国税庁発行)  
教員作成のプリント等を用いる。

## 公民・社会科教育法 I

小林春治

### 【授業の概要】

中学校社会科の公民的分野を視野にいれて、高等学校学習指導要領(公民科)の構成とその目的を学習し、民主主義社会の担い手としてふさわしい資質の育成をめざす。「現代社会」の授業においては、中学校社会科の公民的分野を発展させて、現実的・具体的な問題を取り上げるとともに、高等学校教科書(現代社会)を使用して、学習指導案の作成、模擬授業の実施によって、具体的・実践的な指導を行う。

### 【授業計画】

1. 公民科設定の趣旨と基本理念に基づいて、「公民の概念」と「公民として資質」を育む公民教育について、中学校社会科の公民分野との関連にも留意し学習する。
2. 「総合的な学習」を視野にいれ、特に「現代社会」の新しい課題として平和教育、人権教育、環境教育を取り上げ具体例に基づいて考察する。
3. 「現代社会(公民科)」の年間指導計画と学習指導案の作成について学習する。
4. 各自が作成した学習指導案に基づいて模擬授業を実践し、授業の在り方を考察する。

### 【評価方法】

期末テスト、学習指導案、模擬授業の評価及び出席率を総合する。

### 【テキスト】

高等学校学習指導要領解説 公民編(文部省 実教出版 予価230円)  
現代社会(高等学校教科書 一橋出版 予価580円)

## 公民・社会科教育法 II

小林春治

### 【授業の概要】

「倫理」及び「政治・経済」の学習を通して、深い洞察力をそなえた民主的な行動と実践ができる人間の育成をめざす。「倫理」及び「政治・経済」の授業においては、特に今日的な問題を取り上げるとともに、高等学校教科書(倫理、政治・経済)を使用して、学習指導案の作成、模擬授業の実施によって、具体的・実践的な指導を行う。

### 【授業計画】

1. 学習指導要領が目指す高等学校公民科の「倫理」及び「政治・経済」の目標と内容について概説する。
2. 生涯学習にも深いかわりをもつ自己指導能力の育成を目的とする「倫理」と、現代における政治、経済、国際関係等の諸課題について公正な判断力を養うことを目標とする「政治・経済」について中学校公民分野との関連にも留意しつつ、具体例に基づいて考察する。
3. 「倫理」及び「政治・経済」の年間指導計画と学習指導案の作成について学習する。
4. 各自が作成した学習指導案に基づいて模擬授業を実践し、創造的な授業の在り方についても考察する。

### 【評価方法】

小テスト、学習指導案、模擬授業の評価及び出席率を総合する。

### 【テキスト】

政治・経済(高等学校教科書 教育出版 予価435円)  
倫理(高等学校教科書 教育出版 予価435円)



## 道徳指導法

加藤文子

### 【授業の概要】

道徳とはなにか、わが国の道徳教育の基盤、義務教育における道徳教育の在り方を探求する。その上で、今日の道徳教育に至るまでの歴史の変遷を学び、さらに道徳性の発達理論を考察する。また、道徳指導の実際についての具体例をとりあげ、その理解を深める。

### 【授業計画】

- 1 道徳と道徳教育
- 2 児童・生徒を生かす道徳教育
- 3 公教育における道徳教育の歴史  
・明治5年学制公布から明治23年教育勅語発布までの過程  
・戦後の道徳教育の変遷
- 4 道徳性の発達理論と学校道徳教育
- 5 学校における道徳教育の実際  
・道徳教育の目標  
・道徳教育の内容  
・「道徳の時間」の指導計画、指導案の作成  
・「道徳の時間」の指導の実際、VTR視聴  
・まとめ

### 【評価方法】

期末試験の成績に、毎時間の出席状況、授業中の態度、課したレポート内容を加味して総合的に評価する。

### 【テキスト】

講義資料を配布

## 特別活動指導法

不破民由

### 【授業の概要】

中学校・高等学校の特別活動の変遷とその具体的な活動として学級活動、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事についての指導法を考察する。そのなかで望ましい人間関係、基本的な生活習慣の形成を通して個人及び社会の一員としての在り方、生き方に関する指導の充実を図ることを学習目標とする。

### 【授業計画】

1. 自由度の高い特別活動の可能性
2. 特別活動の歴史の変遷
3. 学級活動
4. 生徒会活動
5. 学校行事  
(1) 儀式的行事 (2) 学芸的行事 (3) 健康安全・体育的行事  
(4) 遠足・集団宿泊的行事 (5) 勤労生産・奉仕的行事 等  
以上の内容の他に、各自のサークル、ゼミ、学園祭等の大学における活動を話題として取り入れる。

### 【評価方法】

教回のレポート

### 【テキスト】

どくとのマンボウ青春記(北杜夫 新潮文庫)

### 【参考文献・資料】

特別活動(高旗正人・倉田侃司編著 ミネルヴァ書房)  
教科外活動を創る(折出健二他編 労働旬報社)  
<教育>の誕生(フリップ・アリエス 中内敏夫・森田伸子訳 新評社、藤原書店)  
<子供>の誕生(フリップ・アリエス 杉山光信・杉山恵美子訳 みすず書房)  
教養主義の没落(竹内洋 中公新書)  
立身出世主義(竹内洋 NHKライブラリー)  
立志・苦学・出世(竹内洋 講談社現代新書)  
日本の近代12 学歴貴族の栄光と挫折(竹内洋 中央公論新書)  
近現代日本の教養論(渡辺かよ子 行路社)  
学級経営の歴史(志村廣明 三省堂)  
「勉強」時代の幕開け(江森一郎 平凡社)  
運動会と日本近代(吉見俊哉他編 青弓社)  
教育には何ができないか(広田照幸 春秋社)  
近代日本の公民教育(松野修 名古屋大学出版会)  
教育に関する私の方法叙説(不和de民由 新風舎)

他

## 学級経営

前田勝洋

### 【授業の概要】

学級崩壊、担任不信等学校を取り巻く教育環境が問題となっている今日の教育状況を正しく理解し、学級担任として、どのように生徒に接したらよいか、どのようにして生徒の信頼を回復するのか探求するとともに、楽しい、生き生きとした学級作りを具体的な事例から求めて行きたい。

### 【授業計画】

- 小学校、中学校の学級経営事例に学びながら、教師の資質向上を図る方策を探っていきたい。
- (1) 学級づくりと学級こわしの関係
  - (2) 生徒理解と学級担任の役割
  - (3) 共感的学級経営の実践
  - (4) 成就型教育観と参加型教育観
  - (5) 学級担任と言葉の問題
  - (6) カルテ(個人記録)と一人ひとりを生かす経営

以上のような視点を軸にしながら、互いに事例について意見交換を行うなど、担任教師としての資質を磨きたい。

### 【評価方法】

毎回の受講感想レポートと「事例に対する意見記述」を中心に行いたい。

### 【テキスト】

後日、必要に応じて採用し、活用する。

## 教育方法

霜田一敏

### 【授業の概要】

今日親も教員も子供の本当の姿が見えなくなり、確かな指導の手だてが見出せず苦悩している。この現状を打破するためには、子供理解を深め、子供の立場に立つて教材を開発し、教育方法を構築し、実践する力量が求められている。

テキストを中心に、ビデオ教材、学生同士の討議を加えた参加型授業形態で行い、教員としての教育的力量を培う教育方法を解明したい。

### 【授業計画】

1. 人間回復の学力と教師の在り方  
(1) 中学・高校における学力論と教師論の検討  
(2) 生徒の思考の発展を目指す授業方法  
(3) 生徒の自主的な学習を育てる学習指導法  
(4) 生徒の側に立った学習指導技術
2. 情報機器及び教材の活用方法  
(1) 情報機器の特色とその効果的な利用方法  
(2) 視覚教材の特色とその効果的な活用方法  
(3) メディアの進歩と新しいテラシーの育成方法
3. 学習者にとって個を生かす学習集団とは  
(1) 多様化した生徒への対応の仕方  
(2) 中学校における個を生かす学習集団  
(3) 高等学校における個を生かす学習集団

### 【評価方法】

学生の積極的な授業参加と毎時提出するミニレポート、期末に行う論文試験等によって評価する。

### 【テキスト】

子どもの側に立つ授業論(霜田一敏著 明治図書 2,370円)



## 生徒指導（進路指導を含む）

小栗正彦

### 【授業の概要】

生徒指導を管理監督、非行の防止といった消極的な視点からではなく、21世紀に生きる青少年の健全な育成を目指す。個人の尊厳と人格を尊重した生徒指導により生徒の生きる力を養う生徒指導の在り方を求める。

進路指導においては、その理念及び目的を具体的に学習する。

これらの学習をとおして、生徒指導にあたる教員の在り方及び人間観について具体的に指導する。

### 【授業計画】

#### 1. 生徒指導

現代社会における構造変化に注目し生徒指導を考える。

- (1) 社会集団の教育機能の低下と学校における生徒指導の役割
- (2) 青少年非行と矯正教育
- (3) 中学校における生徒指導の在り方と留意点
- (4) 高等学校における生徒指導の在り方と留意点

#### 2. 進路指導

進路指導の基本理念及びその目的を学習する。

- (1) 進路指導における教員の在り方と留意点
- (2) 進路に関する情報伝達と進路相談
- (3) 中学校における進路指導の在り方と留意点
- (4) 高等学校における進路指導の在り方と留意点

### 【評価方法】

期末試験の成績と、レポートの評価及び出席率を総合する。

### 【テキスト】

生徒指導論の試み (300円)

## カウンセリング

富安玲子

### 【授業の概要】

我々が人の話を傾聴するとき、その話を自分にとって都合のよいように切り取って聞いているか、反対に自分に都合の悪い部分を切り捨てて聞いているか、という事実がある。そうした事実を体験的に理解するために試行カウンセリングを行い、傾聴の際の学生が陥りやすいタイプを学ばせたい。従来、ロジャースのいう受容、共感、自己一致の中でも受容と共感に力点が過重に置かれすぎてきたように思われるので、自己一致の重要性を伝えていきたい。

### 【授業計画】

「教育相談」での学習を更に進めて、実習を取り入れながら、「聴く」ことの意味と「聴く」人である自分について考えていきたい。

1. 教育相談とカウンセリングを巡って
2. カウンセリングの歴史
3. カウンセリングの人間観
4. カウンセリングの理論
5. カウンセラーに必要な基本的態度・行動
6. 共感的理解のエクササイズ
7. 正確に「聴く」とは
8. カウンセリングの実例
9. 話しやすさの源は聴き上手：かかわり技法
10. 応答訓練
11. ロールプレイ
12. カウンセリングにおける諸問題

### 【評価方法】

期末試験とロールプレイ・レポートに、授業への出席・関与度を加えて評価する。

### 【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

### 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

## 教育相談（カウンセリングを含む）

富安玲子

### 【授業の概要】

教育相談の役割が認識されるようになった背景からその必要性を考え、教育相談への理解を深めて実践につなげていきたい。教育相談は生徒一人ひとりに関心をもつところから始まる。そこで生徒理解のあり方や不適応行動への対応について考えたい。また、傾聴の大切さを中心にして情報提供や助言の仕方なども含めた面接の進め方を学び、カウンセリングの基礎知識も併せて学んでいく。

### 【授業計画】

1. 今、なぜ「教育相談」「カウンセリング」か
2. 「自分」は他者との関係の中で育つ
3. 教師-生徒の相互影響過程
4. 生徒理解
5. 学校における教育相談
6. 教育相談の進め方
7. 相談とカウンセリング
8. 適応と不適応
9. 問題行動のとらえ方とその対応
10. 不登校を考える
11. いじめを考える
12. 非行を考える

### 【評価方法】

期末試験によるが、授業への参加関与度を考慮する。

### 【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

### 【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

## 総合演習

梅村敏郎 富安玲子 佐藤実芳 加藤文子 渡辺かよ子 小栗正彦

### 【授業の概要】

社会構造や家族構造の変化する現代社会において、青少年をとりまく現実的な課題について分析及び検討することにより、総合的な見地に立って未来に生きる中学生、高校生をどのように教育するか、その方法を探究し、総合的な指導力を備えた教員の育成をめざし、次の7テーマに別れて演習を行なう。(各テーマ20名以内)

- (1) いじめ問題 (梅村敏郎)
- (2) 福祉-障害のある人も健全な人も共に生きるコミュニティについて- (加藤文子)
- (3) 社会と子育て (佐藤実芳)
- (4) 高齢者福祉の実態と未来 (霜田一敏)
- (5) ジェンダーと教育 (富安玲子)
- (6) 生涯学習における学校 (渡辺かよ子)
- (7) みんなの学校問題 (小栗正彦)

### 【授業計画】

※印は後期日程 (於 星ヶ丘)

1. 全体、各テーマ別 8月6日 ※1月28日  
(1) 総合演習とは、これからのすすめ方  
(2) 各テーマの概要説明 (各担当者)  
(3) 希望テーマ提出、テーマ別編成  
(4) 各テーマ別に課題設定と学習法の指導
2. 8月27日 ※2月18日  
課題レポートの提出 (必要部数の印刷)
3. 各テーマ別 9月3日 ※2月25日  
(1) 課題レポートについて報告 (1人10~15分)  
(2) 質疑応答、問題点について討議
4. 各テーマ別 9月10日 ※3月4日  
(1) 問題点について分析検討  
(2) グループとして課題について整理、代表者の選出
5. 全体 9月17日 ※3月11日  
(1) グループ代表者の発表 (1名15~20分)  
(2) 担当教員の指導  
(3) 感想文の作成と提出

### 【評価方法】

レポートと感想文により評価



## 教育実習指導（介護体験事前指導を含む）

加藤文字

### 【授業の概要】

教育実習前の指導として、学校教育全般にわたる基本的理解並びに教育実習の意義、実習生としての望ましい態度・技能を習得する。また、介護体験実習にむけて個人の尊厳、社会連帯の理念に関する認識を深めさせる。

### 【授業計画】

1. 教育実習の意義と目的
  - ・前年度実習者からのアンケート結果
  - ・「先輩からの一言」
2. 教育実習の内容と方法
  - ・教育実習の領域
  - ・教育実習の方法
3. 教育実習記録
  - ・実習記録の意義
  - ・実習記録の方法
4. 授業研究
  - ・教材研究、教具の意義
  - ・学習理解を深めるための発問・板書の活用方法
5. 教育実習についての全般的諸注意並びに事後指導
6. 介護体験事前指導
  - ・社会福祉施設等の理解と社会連帯の理念
  - ・特別支援教育諸学校教育の理解
  - ・障害児（者）介護への心構え
7. 介護体験事後指導
8. まとめ、アンケート実施

### 【評価方法】

毎時間の授業態度、課したレポート内容、期末試験の結果（実習・体験評価を参考）により総合的に評価する。

### 【テキスト】

教育実習指導では使用せず、必要に応じて資料を配布。

介護体験事前指導では、介護体験ガイドブック「フィリア」（全国特殊学校長会編著 ジアーズ教育新社）使用。

## 教育実習Ⅱ

小栗正彦

### 【授業の概要】

教科に関する専門科目及び教職に関する専門科目で学習した成果を実践し、検証する機会である。

実習校での2週間の教育実習を通じて、教師という専門職としての自覚と誇りを高めるとともに、生徒から親愛と信頼の念をもって迎えられる実習生となるよう、努力と工夫をして3年間の成果を存分に発揮してほしい。

## 教育実習Ⅰ

加藤文字

### 【授業の概要】

教科に関する専門科目及び教職に関する専門科目で学習した成果を実践し、検証する機会である。

実習校での3週間の教育実習を通じて、教師という専門職としての自覚と誇りを高めるとともに、生徒から親愛と信頼の念をもって迎えられる実習生となるよう、努力と工夫をして3年間の成果を存分に発揮してほしい。

### 【授業計画】

実習校において、教師としての仕事を行う。

#### （1）学級担任として

朝の打合せ、STの諸連絡と生徒観察にはじまり、帰りの清掃指導にいたるまでの仕事内容を理解し、生徒指導にあたる。

また、道徳教育、総合的な学習の指導にあたるとともに学級事務を担当する。

#### （2）教科担任として

前半においては、指導教官の授業参観と授業案の作成及び教材の準備を行う。

後半においては、授業案にもとづいて授業を実施し、指導教官の指導と助言をえて、授業をより充実させるよう努める。

#### （3）特別活動として

学級活動、生徒会活動、学校行事、クラブ・部活動に積極的に参加する。

### 【評価方法】

実習校の評価（生徒指導、学習指導、実習態度）に基づいて評価する。

### 【テキスト】

「教育実習指導」の授業時に配付の『教育実習記録』を活用する。

## 生涯学習概論

羽場俊秀

### 【授業の概要】

現代社会は、情報化、高齢化、生命・健康、環境などの分野において様々な問題に直面している。また、価値観の多様化に対する寛容さが以前にもまして必要とされる時代になってきている。

このような状況下において、諸問題を解決し、人々が主体的に生活していくためには学校だけでなく、広く社会において絶えず学び続けることが大切である。生涯学習に広がりや深まりが求められるゆえんがそこにある。この講義では、生涯学習の原理、実践等について具体的な事例をもとに考察する。

### 【授業計画】

- 1-3. 生涯学習理念の成立と発展
- 4-7. 生涯学習実践の課題
- 8-11. 生涯学習と社会
- 12-13. 生涯学習と人間
- 14-15. 総括

### 【評価方法】

おもに期末試験（筆記）により評価するが、開講中にレポートを課した場合これを評価に加味する。

### 【テキスト】

テキストとしては使用しない。授業中に参考文献を適宜紹介する。

### 【参考文献・資料】

なし



## 【授業の概要】

日本の近代化の過程において、どのような教育経路により先進諸国の文明が導入されたかを考察する。中学校、高等学校の日常的な教科指導、特別教育活動等において、どのように国際理解教育を展開すべきかを考えてみたい。

## 【授業計画】

1. 日本の近代化の過程における外国文明の摂取について、次の視点から考察する。
  - (1) 海外留学生の派遣と帰国後の活躍
  - (2) 外国人教員の雇用とその教育への影響
  - (3) 技術伝習による日本の産業の近代化
2. 現代の学校教育における国際化について次の視点から考察する。
  - (1) 教科教育における国際理解教育
  - (2) 特別活動、学校教育における国際理解教育
  - (3) 海外留学生の派遣と海外からの留学生の受け入れ
  - (4) 外国人英語教員の雇用とその役割
3. 現在の日本の国際化の現状を分析し、真の意味での日本の国際化について、教育の視点から考察する。  
(授業において、皆さんの体験を踏まえて具体的な事例について、ともに考えて行きたい)

## 【評価方法】

授業中に課す「感想、意見」の提出及びレポートにより総合評価を行なう。

## 【テキスト】

国際理解教育論講義概要 (300円)

## 【参考文献・資料】

授業中にその都度紹介する。



## 学校経営と学校図書館

小栗正彦

### 【授業の概要】

学校教育における学校図書館の教育的意義を確認し、より効果的な学校図書館の活用を目指し、教職員のみでなく、生徒会及びPTAとの連携を視野に入れた望ましい学校図書館の組織と運営はいかにあるべきかを、次の点に視座をあてて、具体的な成功事例を紹介し学習する。

### 【授業計画】

1. 学校図書館の管理運営組織
  - (1) 生徒の利用時間の設定
  - (2) 生徒への図書等の貸し出し方法
  - (3) 長期休業期間中の開館状況
2. 魅力ある学校図書館について
  - (1) 生徒が親しみやすい雰囲気のある学校図書館
  - (2) 学校図書館の図書・資料等の整備拡充
  - (3) 生徒が利用しやすい学校図書館経営
3. 学校図書館と生徒会活動の連携
  - (1) 生徒会図書委員会の組織と活動
  - (2) 読書週間、読書コンクール、図書館だより
  - (3) 学校図書館の利用PR活動
4. 学校図書館の充実
  - (1) PTA組織を活用した寄贈図書等
  - (2) 地域社会への呼びかけによる寄贈図書等
  - (3) 関係機関への呼びかけによる寄贈図書等

### 【評価方法】

出席状況及び課題による。

### 【テキスト】

プリント配布。

## 学習指導と学校図書館

加納篤憲

### 【授業の概要】

学校図書館は、教育に必要な資料を生徒及び教員の利用に供することによって、

- (1) 学校の教育課程の展開に寄与するとともに、
- (2) 生徒の健全な教養を育成することを目的としている。

この授業では、(1)の目的を達成するために学校図書館はどのようなものでなければならないかを、蔵書構成や利用指導の現状と実践例、教科学習や総合学習における図書館利用の方法と実践例について学ぶ。

また、司書教諭の役割とこれからの学校教育に占める重要性について学習するとともに、利用指導の図書館実習を体験することによって、司書教諭の仕事への理解を深める。

### 【授業計画】

1. 教育課程と学校図書館
2. 学習活動を促進する学校図書館——実践例
3. 学校図書館の現状と問題点——蔵書冊数・蔵書構成・図書館利用
4. 各教科・科目の学習指導と図書館——実践例
5. 「総合学習」における図書館利用
6. 図書館利用における学級担任及び生徒図書委員の役割
7. 図書館実習——テーマ学習における司書教諭の指導について
8. 討論——中学・高校時代の経験を踏まえて、学校図書館及び司書教諭の望ましいあり方について考える。

### 【評価方法】

期末試験、レポートの成績と出席状況を総合して評価。

### 【テキスト】

自作プリント教材（付資料）

### 【参考文献・資料】

特になし

## 学校図書館メディアの構成

中村和夫

### 【授業の概要】

情報化の著しい進展と共に、従来の活字メディア中心の学校図書館は児童生徒の活字離れにより、大きく変容を迫られている。これからの学校図書館は、児童生徒が喜んで利用できるよう、そのニーズに応え、多様なメディアを取り入れなければならない。この点を中心にして、これからの学校図書館のメディア構成を考えてみたい。

### 【授業計画】

1. 児童生徒が喜んで利用するメディア構成
  - (1) 現在の学校図書館メディア構成の実態分析
  - (2) 児童会・生徒会図書委員会と学校図書館の資料選定
  - (3) 児童生徒の学校図書館に期待するものは何か
2. 教育課程にマッチしたメディア構成
  - (1) 教養中心から教科学習に必要な資料の収集へ
  - (2) 「総合学習の時間」の視点からのメディア構成
  - (3) 「情報」、「オーラル英語」等新しい教科科目の教材
3. 情報化時代にふさわしいメディアの特質の理解
  - (1) ビデオ、DVD、CD等の視聴覚的メディア
  - (2) CD-ROM、マイクロフィルム等の活字メディアに代わるもの
  - (3) Webサイトに代表されるネットワーク系メディアの活用と問題点
4. 学校図書館メディアの組織化
  - (1) 分類の意義と分類作業の基本
  - (2) 目録の種類と目録作業の基本、目録の機械化

### 【評価方法】

出席状況及びレポート等による。

### 【テキスト】

使用しない。

### 【参考文献・資料】

学校図書館メディアの構成（小田光宏編 樹村房）  
分類・目録法入門（木原通夫・志保田務 新改訂第3版 第一法規）

## 読書と豊かな人間性

梅田卓夫

### 【授業の概要】

現在、児童生徒の読書離れの傾向は拡大し、まったくと言っていいほど本を読まなくなってきた。

児童生徒の読書離れの要因と実態を解明するとともに、学校図書館が「読書と豊かな人間性」の視点に立って、どのような役割を果たすべきかを、具体的な事例を紹介するとともに、一方的な講義に終わることなく、受講者自身の体験も取り入れ、以下のような視座に立った参加型授業を展開する。

### 【授業計画】

1. 読書のよこび
  - (1) 人はどのようにして読書の楽しみと出会うのか
  - (2) 代表的な先人の読書経験から学ぶもの
  - (3) 受講者自身の学校図書館での本との出会い
2. 人間形成と読書
  - (1) 幼児期における読み聞かせの教育的意味
  - (2) 少年期・青年期の決定的・運命的な読書との出会い
  - (3) 読書における、内省、思索の意義
3. 学校教育における読書指導
  - (1) 教師による本の紹介、読み聞かせ
  - (2) 「十分間読書」「朝の黙読」等の実践例
4. 読書と仲間作り
  - (1) 家庭での読書についての親子の対話
  - (2) 友達同士の読書グループ、読書会
  - (3) 学区図書館を利用した共同研究
5. 読書の技術
  - (1) 情報化時代の読書のあり方
  - (2) 愛読書、好きな作家

### 【評価方法】

出席状況及びレポートによる。

### 【テキスト】

使用しない。



## 【授業の概要】

学校図書館の高度情報化は21世紀には避けて通れない状況である。現在の状況は必ずしも満足はできないが、学校図書館に将来関係すると思われる新しいメディアの運用についての基礎知識と技能は、今後学校図書館の仕事に携わる教員にとって必須だと言える。以上の観点から、次のテーマで実践的な学習を行ない、これからの情報化される学校図書館の効果的な活用を目標とする。

## 【授業計画】

1. 学校図書館と情報機器
  - (1) 学校図書館におけるコンピュータの役割と活用
  - (2) 学校図書館に設置する情報機器
2. 学校図書館とコンピュータとの関わり
  - (1) 図書検索とコンピュータ (OPAC)
  - (2) インターネットを使用する資料の収集
3. 学校図書館の情報メディアの活用
  - (1) 視覚メディアとしてのVTR等
  - (2) 聴覚メディアとしてのDVD、CD等
  - (3) 活字メディアに代わるCDRom、マイクロフィルム等

## 【評価方法】

出席状況及び試験による。

## 【テキスト】

使用しない。



## 生涯学習概論

古野有隣

### 【授業の概要】

生涯学習という言葉は最近かなり知名度が高くなってきているが、その意味や意義については必ずしも正確に理解されているとはかぎらない。

この講義では生涯学習の意味するところを、その理念の提唱時からの推移の説明をまじえて、理解を深めることをねらいとしたい。また、先の長い人生を持っている自分にとって生涯学習とは何なのかを考える契機となればとも思っている。

1. 生涯教育の理念～推移を含めて～  
ユネスコ以降わが国における推移  
生涯教育のめざすもの  
生涯教育と生涯学習の関係
2. 生涯教育と社会教育・学校教育との関係  
生涯教育と社会教育  
生涯教育と学校教育
3. 社会教育の内容・方法・形態  
行政社会教育の主要領域  
社会教育の内容・方法・形態
4. 生涯学習関連施設の現状と展望  
生涯学習関連施設の範囲  
社会教育施設の種類と現状
5. 生涯学習指導者  
生涯学習指導者の範囲  
生涯学習指導者の役割

### 【授業計画】

講義。

### 【評価方法】

テスト。

### 【テキスト】

資料集（予価500円）を開始時に頒布。

## 図書館情報学概論 I

村主朋英

### 【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。Iでは、図書館情報学における基本的な考え方および分野の特徴について概説する。

### 【授業計画】

1. 情報と知識の研究と実務に関わる分野  
図書館学/情報学/図書館情報学  
図書館情報学を学ぶための情報源/指定図書
2. 情報の概念  
概念・考え方・観点・立場  
定義の多様性と現象の多面性  
情報概念の歴史/情報・知識・データ  
定義の整理のための枠組み/構造的な理解  
認識・認知・ところ/人間・人・ヒト
3. 情報検索の過程

### 【評価方法】

定期試験

- 注1)「図書館情報学概論 I」の単位を取得済でない学生については、「同 II」の単位を認定しない。
- 注2)「図書館情報学概論 I」の最終日に夏休みレポート課題を提示する。採点は「同 II」の成績に組み込む。今年度「同 II」のみ履修予定の学生は、7月初旬までに問い合わせること。

### 【テキスト】

図書館情報学用語辞典（丸善 3,800円 税別定価）

## 図書館情報学概論 I

櫻木貴子

### 【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。Iでは、図書館情報学における基本的な考え方および分野の特徴について概説する。

### 【授業計画】

1. 情報と知識の研究と実務に関わる分野  
図書館学/情報学/図書館情報学  
図書館情報学を学ぶための情報源/指定図書
2. 情報の概念  
概念・考え方・観点・立場  
定義の多様性と現象の多面性  
情報概念の歴史/情報・知識・データ  
定義の整理のための枠組み/構造的な理解  
認識・認知・ところ/人間・人・ヒト
3. 情報検索の過程

### 【評価方法】

出席点、試験およびレポートにて評価を行う。

注「図書館情報学概論 I」の単位を取得済でない学生については、「同 II」の単位を認定しない。

### 【テキスト】

図書館情報学用語辞典（丸善 3,800円税別定価）および配布資料

## 図書館情報学概論 II

櫻木貴子

### 【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。IIでは、図書館・情報サービスの実際に関して、最低限知っておくべき事項を紹介し、今後の学習への指針を提供する。

### 【授業計画】

1. 情報の流通過程  
情報の流れと情報メディア/学術情報の流通過程
2. 図書館・情報サービスの世界  
構成要素と機能/情報システムとしての図書館
3. 協力と競合  
図書館ネットワーク/競合する情報サービス
4. 図書館員と情報専門職の世界
5. 図書館情報学の未来

### 【評価方法】

出席点、試験およびレポートにて評価を行う。

注「図書館情報学概論 I」の単位を取得済でない学生については、「同 II」の単位を認定しない。

### 【テキスト】

図書館情報学用語辞典（丸善 3,800円税別定価）および配布資料



## 図書館情報学概論Ⅱ

村主朋英

### 【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。Ⅱでは、図書館・情報サービスの実際に関して、最低限知っておくべき事項を紹介し、今後の学習への指針を提供する。

### 【授業計画】

1. 情報の流過程  
情報の流れと情報メディア/学術情報の流過程
2. 図書館・情報サービスの世界  
構成要素と機能/情報システムとしての図書館
3. 協力と競合  
図書館ネットワーク/競合する情報サービス
4. 図書館員と情報専門職の世界
5. 図書館情報学の未来

### 【評価方法】

定期試験と夏休みレポート

- 注1) 「図書館情報学概論Ⅰ」の単位を取得済でない学生については、「同Ⅱ」の単位を認定しない。
- 注2) 「図書館情報学概論Ⅰ」の最終日に夏休みレポート課題を提示する。採点は「同Ⅱ」の成績に組み込む。今年度「同Ⅱ」のみ履修予定の学生は、7月初旬までに問い合わせること。

### 【テキスト】

図書館情報学用語辞典(丸善 3,800円 税別定価)

## 情報サービス基礎論Ⅰ

松下 鈞

### 【授業の概要】

電子情報技術の急速な発展とグローバルな広がりを背景として、人と情報との関わりが変化してきた。社会はあらゆる面で急速な変化の様相を見せている。「情報サービス基礎論Ⅰ」では、社会の多様化と情報の多様化と膨大化及び情報流通の変化に直面する「図書館」のサービスについて、主として公共図書館のサービスを念頭において諸問題を概観する。

### 【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 図書館サービスの基本原則
3. 情報媒体と利用ニーズの多様性
4. 図書館設計に見る図書館サービス
5. こども向けのサービス
6. 青少年へのサービス
7. 老人むけのサービス
8. 働く人を支援するサービス
9. 行政サービス
10. 学術サービス
11. 多文化サービス
12. 図書館建築の動向
13. 学校、大学、企業図書館との連携
11. 電子情報サービスの進展状況
12. ホームページに見る日米公共図書館の比較
14. サービス業としての図書館
15. まとめ

講義を中心とし、課題小レポート、グループ研究発表を交える。受講に先立ち次のことをしておくこと。  
\* 「インターネット講習会」を受講しておくこと。  
\* 身近な公共図書館の施設やサービスを注意深く観察しておくこと。

### 【評価方法】

小レポート、期末レポート及びグループ研究と発表をもって評価する。授業への積極的な参加の姿勢を参考点として加味する。

### 【テキスト】

適宜、プリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

適宜、紹介する。

## 図書館経営論

山本 進

### 【授業の概要】

図書館の技術的な面—分類・目録等—資料組織とは別に図書館運営上の諸問題—司書の専門職制の問題、図書館の地域サービスと図書館計画、図書館の経営評価と見直し等、を図書館経営論として論述する。

### 【授業計画】

- |                                 |    |
|---------------------------------|----|
| 0. オリエンテーション・図書館の経営論の意義         | 1回 |
| 1. 図書館種別の経営上の問題点と管理原則           | 1回 |
| 2. 図書館学の五法則と図書館員の関わり            | 1回 |
| 3. 図書館の自由に関する宣言                 | 2回 |
| 4. 図書館員の倫理綱領                    | 2回 |
| 5. 図書館員と労働基準法解説                 | 1回 |
| 6. 図書館関係法規と図書館のサービス基準解説         | 1回 |
| 7. 図書館サービスの測定と評価(実例課題によるレポート提出) | 1回 |
| 8. 図書館計画の立案と実例解説                | 2回 |
| 9. 生涯学習と図書館及び利用者教育              | 2回 |
| ※講義の中から関心のある事項についてレポート提出        | 2回 |

### 【評価方法】

期末テスト実施—記述式、前期全体の講義の中から問題を2~3問と、提出されたレポートと記述試験の採点とを併せて評価する。

### 【テキスト】

講義シラバスを配付する。

## 情報サービス基礎論Ⅰ

逸村 裕

### 【授業の概要】

情報化社会は社会における産業構造の変化をもたらしている。「情報」を扱う産業は、急速に増大し、社会に大きな影響力を与えている。この科目では、図書館情報学の観点から現代社会における特徴的な情報産業の現状を概観し、「情報」を商品化するプロセスを考察するとともに、すべての職業において進展している「情報化」の持つ意味を検討する。また進路としての情報関連産業について論じる。さらに、情報産業の事例紹介を論じ、職業倫理と勤労観についても言及する。

### 【授業計画】

1. 情報化社会と情報産業
2. 産業と職業における情報とITの意味
3. 情報サービス事例1:メディア産業と通信
4. 情報サービス事例2:通信と出版産業
5. 情報サービス事例3:図書館情報
6. 情報サービス事例4:マルチメディアリソース
7. 情報サービス事例5:電子ジャーナル
8. 情報サービス事例6:電子ブック
9. 情報サービス事例7:情報分析・シンクタンク
10. 情報産業と大学
11. 情報化社会における知的所有権問題
12. 情報化社会と情報倫理
13. 情報産業における勤労観と職業倫理

講義中心に行なう。適宜、小テスト、レポートを課す。「インターネット講習会」を必ず受講しておくこと。

### 【評価方法】

小テスト、レポート、期末試験による総合評価。詳細は初回講義の際に説明する。

### 【テキスト】

使用せず。

### 【参考文献・資料】

図書館情報学辞典 第2版(丸善 2002)



## 情報サービス基礎論Ⅱ

松下 鈞

### 【授業の概要】

「情報サービス基礎論Ⅰ」の履修を前提とする。  
あなたが図書館員であると仮定し、図書館の現場で利用者からの期待に応えるさまざまな業務と施設を計画立案し、実施、評価するケーススタディなどを交え、より具体的に図書館サービスについての理解を深めることを目的とする。

### 【授業計画】

1. イントロダクション「サービス機関としての図書館」
2. 図書館予算と資料の購入計画
3. 資料の配置
4. 保存と廃棄
4. 開館時間と図書館員の労働環境
5. 弱者へのサービス
6. 情報電子化と情報弱者への対応
7. 住民パワーの活用
8. 情報広場としての図書館
9. 複合文化施設としての図書館
10. 地域文化の情報拠点
11. 知識情報のネットワーク
12. 図書館サービスの国際動向
13. レファレンスFAQとレファレンス協同DBの構築
14. 図書館建築プラン
15. まとめ「図書館学の五法則」

講義とケーススタディを主とし、グループ研究と発表を交えて展開する。

\*「情報サービス基礎論Ⅰ」の履修者に限る。

\*受講に先立ち、いくつかの図書館を視察し、蔵書、サービス、施設などについて批判的評価を試みる。また、仮に自分を図書館員であると仮定し、それらの問題点をどのように解決したらよいか、改革プランを考えておく。

### 【評価方法】

グループ研究の成果、小レポート、最終レポートによる。  
授業及びグループ研究への積極的な参加態度も評価の参考とする。

### 【テキスト】

適宜、プリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

適宜、指示する。

## 情報サービス基礎論Ⅱ

逸村 裕

### 【授業の概要】

図書館で行われる情報サービスには幅広いものがある。また、これらのサービスはその対象、館種、主題、規模ごとに多くの特徴を持つ。さらに今日、伝統的な図書館サービスに加え、情報通信技術の普及発展に伴う新たな対応を迫られている。

これら図書館情報サービスの紹介と評価の視点から講義を行なう。

1. この講義の対象と範囲
2. パブリック・サービス（奉仕・直接サービス）
  - A. 貸出閲覧
  - B. レファレンスサービス
  - C. 相互協力
  - D. 視聴覚資料
  - E. パブリックサービスの今後
3. テクニカル・サービス（資料組織・間接サービス）
  - A. 選書
  - B. 収書
  - C. 整理
  - D. 雑誌
  - E. テクニカルサービスの今後
4. 評価の視点から見た情報サービス
  - A. 蔵書
  - B. 人的サービス
  - C. 図書館アメニティ
  - D. コンソーシアム
  - E. その他のサービス

### 【授業計画】

講義中心に行なう。適宜、小テスト、レポートを課す。  
「インターネット講習会」を受講しておくこと

### 【評価方法】

小テスト、レポート、期末試験による総合評価。詳細は初回講義の際に説明する。

### 【テキスト】

大学図書館の21世紀（勁草書房 2004夏刊行予定）

### 【参考文献・資料】

図書館情報学辞典 第2版（丸善 2002）

## レファレンスサービス論

櫻木貴子

### 【授業の概要】

図書館における情報サービスの中核を成してきたレファレンスサービスに関して、レファレンスコレクションの構築、レファレンス質問からその回答にいたる一連のレファレンスプロセス、サービス組織のあり方、等について理解を深めることを主な目的として講義を進める。この科目は、「情報検索演習Ⅲ（情報と文献の探索）」と相互に補完するものとして扱う。

### 【授業計画】

1. 情報ニーズに応える情報サービス
2. レファレンスサービスから情報サービスへ
3. レファレンス機能に基づくレファレンス業務
4. レファレンスサービスのための情報源
5. レファレンス質問を起点とするレファレンスプロセス
6. 質問の受付から内容の確認へ
7. 質問内容の分析から探索の実行へ
8. 質問回答とレファレンスプロセスの終結
9. レファレンスサービスの組織と運営

### 【評価方法】

講義の最終日に試験を行う。出題形式等については、講義の最初に説明する。

### 【テキスト】

レファレンスサービス：図書館における情報サービス（長澤雅男著 丸善 1995）

### 【参考文献・資料】

講義において指示する。

## レファレンスサービス論

佐藤義則

### 【授業の概要】

図書館における情報サービスの中核を成してきたレファレンスサービスに関して、レファレンスコレクションの構築、レファレンス質問からその回答にいたる一連のレファレンスプロセス、サービス組織のあり方、等について理解を深めることを主な目的として講義を進める。この科目は、「情報検索演習Ⅲ（情報と文献の探索）」と相互に補完するものとして扱う。

### 【授業計画】

1. 情報ニーズに応える情報サービス
2. レファレンスサービスから情報サービスへ
3. レファレンス機能に基づくレファレンス業務
4. レファレンスサービスのための情報源
5. レファレンス質問を起点とするレファレンスプロセス
6. 質問の受付から内容の確認へ
7. 質問内容の分析から探索の実行へ
8. 質問回答とレファレンスプロセスの終結
9. レファレンスサービスの組織と運営

### 【評価方法】

講義の最終日に試験を行う。出題形式等については、講義の最初に説明する。

### 【テキスト】

レファレンスサービス：図書館における情報サービス（長澤雅男著 丸善 1995）

### 【参考文献・資料】

講義において指示する。



## 情報検索演習Ⅱ（学術情報の探索）

櫻木貴子

### 【授業の概要】

学術論文を対象として、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。テーマ検索の実習に基づき、検索過程の把握や検索ツールの利用、および検索結果に対する評価について理解する。

当科目は、情報検索演習Ⅰ（図書館情報学科の学生のみ）、図書館情報学概論Ⅰ、Ⅱの履修を前提条件とする。また、LAN講習会を必ず受講すること。

### 【授業計画】

1. 情報検索とは
2. 抄録・索引誌
3. CD-ROM検索
4. オンライン情報検索システム
  - 4.1 JOIS
  - 4.2 シソーラス
  - 4.3 DIALOG
5. テーマ検索

### 【評価方法】

平常点、小テストと、レポート作成の総合評価。

### 【テキスト】

使用せず（プリント配布）。

## 情報検索演習Ⅱ（学術情報の探索）

伊藤真理

### 【授業の概要】

学術論文を対象として、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。テーマ検索の実習に基づき、検索過程の把握や検索ツールの利用、および検索結果に対する評価について理解する。

当科目は、情報検索演習Ⅰ（図書館情報学科の学生のみ）、図書館情報学概論Ⅰ、Ⅱの履修を前提条件とする。また、LAN講習会を必ず受講すること。

### 【授業計画】

1. 情報検索とは
2. 抄録・索引誌
3. CD-ROM検索
4. オンライン情報検索システム
  - 4.1 JOIS
  - 4.2 シソーラス
  - 4.3 DIALOG
5. テーマ検索

### 【評価方法】

平常点、小テストと、レポート作成の総合評価。

### 【テキスト】

使用せず（プリント配布）。

## 情報検索演習Ⅱ（学術情報の探索）

松井美紀

### 【授業の概要】

学術論文を対象として、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。テーマ検索の実習に基づき、検索過程の把握や検索ツールの利用、および検索結果に対する評価について理解する。

当科目は、情報検索演習Ⅰ（図書館情報学科の学生のみ）、図書館情報学概論Ⅰ、Ⅱの履修を前提条件とする。また、LAN講習会を必ず受講すること。

### 【授業計画】

1. 情報検索とは
2. 抄録・索引誌
3. CD-ROM検索
4. オンライン情報検索システム
  - 4.1 JOIS
  - 4.2 シソーラス
  - 4.3 DIALOG
5. テーマ検索

### 【評価方法】

平常点、小テストと、レポート作成の総合評価。

### 【テキスト】

使用せず（プリント配布）。

## 情報検索演習Ⅲ（情報と文献の探索）

櫻木貴子

### 【授業の概要】

情報検索演習Ⅰ（1年次必修）および情報検索演習Ⅱ（2年次）を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。

本科目で扱う情報源は、情報提供機関（図書館を含む）において利用可能なものとし、特にレファレンス業務に必要な情報源探索技能を養うため、検索対象のメディア別に特徴、機能、検索に必要な技術の紹介、実習を伴う課題解決演習を行う。

演習には情報検索室の書誌データベースと本学図書館所蔵の印刷体二次資料を併用する。

### 【授業計画】

【演習予定の検索対象ファイル（データベースサービス）】

1. 雑誌記事（書誌情報）検索  
MAGAZINE PLUS (NICHIGAI ASSIST)、ISA (DIALOG)、  
JST Plus (J Dream)、大宅壮一文庫雑誌記事索引 CD-ROM版
2. 雑誌記事横断検索：DIALINDEX複数ファイル横断検索 (DIALOG)
3. シソーラスを利用した検索  
JST Plus (J Dream)、ERICファイル (DIALOG)、  
MEDLINE (DIALOG)
4. 引用関係を利用した検索：Social SciSearch (DIALOG)
5. 一次資料が入手可能なシステムの検索  
NACSIS-IR (NII)、OCLC ArticleFirst (OCLC FirstSearch)、  
PubMed (NLM/NCBI)
6. ネットワーク情報資源検索・アクセス：LISA (CSA-IDS)
7. 図書（所蔵/目次情報）検索  
Webcat (NII)、BOOKPLUS (NICHIGAI ASSIST)、WorldCat  
(OCLC FirstSearch)
8. 新聞記事（全文記事）検索：各種新聞ファイル（日経テレコン21）
9. 人物情報検索：人物情報横断検索 (G-Search)

### 【評価方法】

出席点、課題点、試験によって評価する。

### 【テキスト】

使用せず（配付資料）。

### 【参考文献・資料】

情報と文献の探索 第3版（長澤雅男著 東京 丸善 1994 337p）  
検索演習用例題集  
（上田修一・杉江典子著 東京 日外アソシエーツ 2001 47p）



# 情報メディア基礎論 I

櫻木貴子

## 【授業の概要】

情報流通における情報メディアの役割について論じる。各種メディアの生産から流通までを対象に、その過程での問題点について議論し、より効果的な情報流通のための情報メディアのあり方を検討する。

## 【授業計画】

- 1 情報流通と情報メディア
- 2 学術情報の流通モデル
- 3 情報メディアの特徴と問題点
  - (1) 図書  
出版流通過程と制度  
オンライン書店、オンデマンド出版
  - (2) 雑誌  
学術雑誌の機能、査読制度  
雑誌論文の構成  
抄録作成法、引用法、  
プレプリント、e-print  
レター、editorial comment
  - (3) 新聞  
新聞の流通制度  
新聞記事の構成
  - (4) 会議資料  
学会、会議録
  - (5) 特許資料  
特許制度  
パテントファミリー、引用特許
  - (6) 規格票  
規格制度、情報関連の標準化活動
  - (7) データベース  
情報検索システムの歴史  
検索技術、シソーラス
  - (8) インターネット  
ネットワーク情報資源の特徴  
WWWの評価  
Web citation、メタデータ  
ウェブ・アーカイビング
- 4 情報流通モデルの修正
- 5 電子環境下における情報メディア

## 【評価方法】

期末試験と出席回数によって評価する。

## 【テキスト】

なし。

## 【参考文献・資料】

必要に応じて資料を配布する。

# 情報メディア基礎論 I

菅野育子

## 【授業の概要】

情報流通における情報メディアの役割について論じる。各種メディアの生産から流通までを対象に、その過程での問題点について議論し、より効果的な情報流通のための情報メディアのあり方を検討する。

## 【授業計画】

- 1 情報流通と情報メディア
- 2 学術情報の流通モデル
- 3 情報メディアの特徴と問題点
  - (1) 図書  
出版流通過程と制度  
オンライン書店、オンデマンド出版
  - (2) 雑誌  
学術雑誌の機能、査読制度  
雑誌論文の構成  
抄録作成法、引用法、  
プレプリント、e-print  
レター、editorial comment
  - (3) 新聞  
新聞の流通制度  
新聞記事の構成
  - (4) 会議資料  
学会、会議録
  - (5) 特許資料  
特許制度  
パテントファミリー、引用特許
  - (6) 規格票  
規格制度、情報関連の標準化活動
  - (7) データベース  
情報検索システムの歴史  
検索技術、シソーラス
  - (8) インターネット  
ネットワーク情報資源の特徴  
WWWの評価  
Web citation、メタデータ  
ウェブ・アーカイビング
- 4 情報流通モデルの修正
- 5 電子環境下における情報メディア

## 【評価方法】

期末試験と出席回数によって評価する。

## 【テキスト】

なし。

## 【参考文献・資料】

必要に応じて資料を配布する。

# 情報メディア基礎論 II

櫻木貴子

## 【授業の概要】

情報流通における情報メディアの役割について論じる。各種メディアの生産から流通までを対象に、その過程での問題点について議論し、より効果的な情報流通のための情報メディアのあり方を検討する。

## 【授業計画】

- 1 情報流通と情報メディア
- 2 学術情報の流通モデル
- 3 情報メディアの特徴と問題点
  - (1) 図書  
出版流通過程と制度  
オンライン書店、オンデマンド出版
  - (2) 雑誌  
学術雑誌の機能、査読制度  
雑誌論文の構成  
抄録作成法、引用法、  
プレプリント、e-print  
レター、editorial comment
  - (3) 新聞  
新聞の流通制度  
新聞記事の構成
  - (4) 会議資料  
学会、会議録
  - (5) 特許資料  
特許制度  
パテントファミリー、引用特許
  - (6) 規格票  
規格制度、情報関連の標準化活動
  - (7) データベース  
情報検索システムの歴史  
検索技術、シソーラス
  - (8) インターネット  
ネットワーク情報資源の特徴  
WWWの評価  
Web citation、メタデータ  
ウェブ・アーカイビング
- 4 情報流通モデルの修正
- 5 電子環境下における情報メディア

## 【評価方法】

期末試験と出席回数によって評価する。

## 【テキスト】

なし。

## 【参考文献・資料】

必要に応じて資料を配布する。

# 情報メディア基礎論 II

菅野育子

## 【授業の概要】

情報流通における情報メディアの役割について論じる。各種メディアの生産から流通までを対象に、その過程での問題点について議論し、より効果的な情報流通のための情報メディアのあり方を検討する。

## 【授業計画】

- 1 情報流通と情報メディア
- 2 学術情報の流通モデル
- 3 情報メディアの特徴と問題点
  - (1) 図書  
出版流通過程と制度  
オンライン書店、オンデマンド出版
  - (2) 雑誌  
学術雑誌の機能、査読制度  
雑誌論文の構成  
抄録作成法、引用法、  
プレプリント、e-print  
レター、editorial comment
  - (3) 新聞  
新聞の流通制度  
新聞記事の構成
  - (4) 会議資料  
学会、会議録
  - (5) 特許資料  
特許制度  
パテントファミリー、引用特許
  - (6) 規格票  
規格制度、情報関連の標準化活動
  - (7) データベース  
情報検索システムの歴史  
検索技術、シソーラス
  - (8) インターネット  
ネットワーク情報資源の特徴  
WWWの評価  
Web citation、メタデータ  
ウェブ・アーカイビング
- 4 情報流通モデルの修正
- 5 電子環境下における情報メディア

## 【評価方法】

期末試験と出席回数によって評価する。

## 【テキスト】

なし。

## 【参考文献・資料】

必要に応じて資料を配布する。



## 情報メディア論Ⅳ（人文社会情報メディア）

櫻木貴子

### 【授業の概要】

人文・社会科学分野における情報メディアの特徴から、学問分野における学術情報の生産と利用について検討することを目的とする。

### 【授業計画】

- 1 学問分野と情報メディア
- 2 自然科学分野と人文・社会科学分野
- 3 人文・社会情報メディア
  - 3.1 美術分野
  - 3.2 音楽分野
  - 3.3 文学
  - 3.4 ビジネス分野
  - 3.5 法律分野
  - 3.6 心理学
  - 3.7 図書館情報学
- 4 情報メディアからみた情報の生産と利用

### 【評価方法】

レポートと出席回数によって評価する。

### 【テキスト】

使用せず。

### 【参考文献・資料】

必要に応じて資料を配布する。

## 情報メディア論Ⅳ（人文社会情報メディア）

菅野育子

### 【授業の概要】

人文・社会科学分野における情報メディアの特徴から、学問分野における学術情報の生産と利用について検討することを目的とする。

### 【授業計画】

- 1 学問分野と情報メディア
- 2 自然科学分野と人文・社会科学分野
- 3 人文・社会情報メディア
  - 3.1 美術分野
  - 3.2 音楽分野
  - 3.3 文学
  - 3.4 ビジネス分野
  - 3.5 法律分野
  - 3.6 心理学
  - 3.7 図書館情報学
- 4 情報メディアからみた情報の生産と利用

### 【評価方法】

レポートと出席回数によって評価する。

### 【テキスト】

使用せず。

### 【参考文献・資料】

必要に応じて資料を配布する。

## 情報メディア論Ⅴ（科学技術情報メディア）

櫻木貴子

### 【授業の概要】

自然科学領域における主要な一次情報源である学術雑誌を中心に解説します。学術雑誌と科学論文についての知識は、情報サービス専門家に欠かせない知識です。学術雑誌を理解するポイントは、図書館資料としての狭い枠組みでなく、研究活動と科学コミュニケーションのなかで、その役割や問題を知ることにあります。とくに、研究者による論文生産の視点から、学術雑誌について検討します。

1. 環境としての学術情報
2. 文献情報と文献調査
3. 学術雑誌の歴史と生態
4. 総合誌、レビュー誌、レター誌
5. 日本からの英文論文発表
6. 主要海外誌への日本からの発表傾向
7. 生物医学雑誌への統一投稿規程
8. オーサーシップからみた学術論文
9. 出版倫理と利害の衝突
10. ニュースメディアと学術雑誌
11. レフェリーシステム
12. 一流誌への発表
13. インパクトファクターの批判的吟味
14. 電子メディア（データベース、一次雑誌）の現在

### 【授業計画】

講義を中心に行う。教科書はできるだけ事前に読んでもらいたい。講義内容に関係する資料を随時配付する。

### 【評価方法】

期末レポート、小レポート（授業時間内）

### 【テキスト】

使用せず（配付資料）。

### 【参考文献・資料】

電子時代の学術雑誌（Lambert, J. 著 日本図書館協会）  
出版産業の起源と発達（Thompson, J.W. 著 出版同人）  
歴史としての学問（中山茂著 中央公論社）  
生命科学論文投稿ガイド（山崎茂明著 中外医学社）  
医学文献サーチガイド 第2版（山崎茂明著 日本医書出版協会）  
研究評価（根岸正光・山崎茂明著 丸善）

## 情報メディア論Ⅴ（科学技術情報メディア）

山崎茂明

### 【授業の概要】

自然科学領域における主要な一次情報源である学術雑誌を中心に解説します。学術雑誌と科学論文についての知識は、情報サービス専門家に欠かせない知識です。学術雑誌を理解するポイントは、図書館資料としての狭い枠組みでなく、研究活動と科学コミュニケーションのなかで、その役割や問題を知ることにあります。とくに、研究者による論文生産の視点から、学術雑誌について検討します。

1. 環境としての学術情報
2. 文献情報と文献調査
3. 学術雑誌の歴史と生態
4. 総合誌、レビュー誌、レター誌
5. 日本からの英文論文発表
6. 主要海外誌への日本からの発表傾向
7. 生物医学雑誌への統一投稿規程
8. オーサーシップからみた学術論文
9. 出版倫理と利害の衝突
10. ニュースメディアと学術雑誌
11. レフェリーシステム
12. 一流誌への発表
13. インパクトファクターの批判的吟味
14. 電子メディア（データベース、一次雑誌）の現在

### 【授業計画】

講義を中心に行う。教科書はできるだけ事前に読んでもらいたい。講義内容に関係する資料を随時配付する。

### 【評価方法】

期末レポート、小レポート（授業時間内）

### 【テキスト】

論文投稿のインフォマティクス（山崎茂明著 中外医学社）

### 【参考文献・資料】

電子時代の学術雑誌（Lambert, J. 著 日本図書館協会）  
出版産業の起源と発達（Thompson, J.W. 著 出版同人）  
歴史としての学問（中山茂著 中央公論社）  
生命科学論文投稿ガイド（山崎茂明著 中外医学社）  
医学文献サーチガイド 第2版（山崎茂明著 日本医書出版協会）  
研究評価（根岸正光・山崎茂明著 丸善）



## 資料組織論

伊藤真理

### 【授業の概要】

情報の組織化に関する理論と概念について理解することを目的とする。様々な情報資源を念頭において、資料組織業務の標準化と統一化の流れを把握し、目録の機能を理解することを目指す。

目録に関する用語と、英米目録規則、日本目録規則、主要な分類表および主題件名標目表を網羅する。

### 【授業計画】

- 第1回 情報の組織化
- 第2回 目録
- 第3回 書誌コントロール
- 第4回 書誌ユーティリティ
- 第5回 目録規則の標準化、統一
- 第6回 記述目録と主題目録
- 第7回 記述目録(1) AACR 2r, NCR
- 第8回 記述目録(2) アクセス・ポイントの選定; 標目形
- 第9回 記述目録(3) 典拠コントロール
- 第10回 主題目録(1) 概要
- 第11回 主題目録(2) 主要分類法
- 第12回 主題目録(3) 主要件名標目表
- 第13回 MARC
- 第14回 メタデータ

### 【評価方法】

平常点、試験

### 【テキスト】

初回時にテキスト配布。

## 資料組織演習

伊藤真理

### 【授業の概要】

資料組織論で学んだ理論について、演習を通してより深い理解と習得を目的とする。

講義内容は、記述目録法と主題目録法の2部から成り、オムニバス形式で授業を進める。

記述目録では、目録規則の適用について学ぶ。カード目録作成により、ISBDや記述目録の基本を理解し、オンライン目録の実習を通して、書誌ユーティリティを利用したオンライン目録作業について理解を深める。主題目録法では日本十進分類法、国際十進分類法、基本件名標目表などを取り上げる。主に図書資料を対象として、書誌レコードを作成する。

本科目の履修については、「資料組織論」の履修を条件とする。

### 【授業計画】

- ・目録作業の概要
- ・主題目録法
  - 分類: NDC
  - 主題件名標目表: BSH
- ・記述目録法
  - ISBD
  - カード目録
  - オンライン目録
  - アクセス・ポイント
  - 典拠コントロール

### 【評価方法】

出席、実習およびレポート提出

### 【テキスト】

「資料組織論」で配布したテキストを使用

## 資料組織演習

櫻木貴子

### 【授業の概要】

資料組織論で学んだ理論について、演習を通してより深い理解と習得を目的とする。

講義内容は、記述目録法と主題目録法の2部から成り、オムニバス形式で授業を進める。

記述目録では、目録規則の適用について学ぶ。カード目録作成により、ISBDや記述目録の基本を理解し、オンライン目録の実習を通して、書誌ユーティリティを利用したオンライン目録作業について理解を深める。主題目録法では日本十進分類法、国際十進分類法、基本件名標目表などを取り上げる。主に図書資料を対象として、書誌レコードを作成する。

本科目の履修については、「資料組織論」の履修を条件とする。

### 【授業計画】

- ・目録作業の概要
- ・主題目録法
  - 分類: NDC
  - 主題件名標目表: BSH
- ・記述目録法
  - ISBD
  - カード目録
  - オンライン目録
  - アクセス・ポイント
  - 典拠コントロール

### 【評価方法】

出席、実習およびレポート提出

### 【テキスト】

「資料組織論」で配布したテキストを使用

## 資料組織演習

岡澤和世 菅野育子

### 【授業の概要】

資料組織論で学んだ理論について、実習を通してより深い理解と習得することを目的とする。

講義内容は、記述目録法と主題目録法の2部から成り、オムニバス形式で授業を進める。主題目録法では日本十進分類法や基本件名標目表などを取り上げ、記述目録については、国際的な標準規則として認められている英米目録規則を用いる。主に図書資料を対象として、書誌レコードを作成する。

本科目の履修については、「資料組織論」の履修を条件とする。

### 【授業計画】

- ・目録作業の概要
- ・主題目録法
  - 分類: NDC
  - 主題件名標目表: BSH
- ・記述目録法
  - ISBD
  - アクセス・ポイント
  - 標目形
- ・MARCについて

### 【評価方法】

出席、実習およびレポート提出

### 【テキスト】

「資料組織論」で配布したテキストを使用



## 資料組織演習

田中敦司

### 【授業の概要】

資料組織論で学んだ理論について、演習を通してより深い理解と技術の習得を目的とする。

講義内容は、資料目録法と資料分類法を中心とし、それぞれについて実例に即して実習する形式とする。

資料目録法では、目録規則の適用について、NCRを中心に学ぶ。カード目録作成により、目録の基本を理解し、オンライン目録を通して、書誌ユーティリティを利用したオンライン目録作業について理解を深める。また、資料分類法では、日本十進分類法、基本件名表目録を取り上げる。主に図書資料を対象として、書誌レコードを作成する。

図書館の現場では、コピーカATALOGINGの機会が大半であるが、まったく修正せずに使用できるデータは限られている。利用のための資料組織ができることを目指して、演習を行う。

本科目の履修については、「資料組織論」の履修を条件とする。

### 【授業計画】

- ・目録作業の概要
- ・資料分類法  
分類：NDC  
主題件名標目表：BSH
- ・資料目録法  
カード目録  
オンライン目録  
ISBD  
アクセス・ポイント  
典拠コントロール

### 【評価方法】

出席状況、提出したレポート、最後に行う試験を総合して評価。

### 【テキスト】

「資料組織論」で配布したテキストを使用

### 【参考文献・資料】

資料組織演習 新訂版 (吉田憲一編著 日本図書館協会)

## 図書館学特殊Ⅲ (児童サービス論)

福永智子

### 【授業の概要】

図書館における児童サービスの理論と実際について、基礎的理解を図る。具体的には、日本の読書推進政策の現状を踏まえ、児童用資料の特性、利用者としての児童の特性、公立図書館・学校図書館における児童サービスおよび、図書館の周辺領域における児童へのサービスについても広くとりあげる。

### 【授業計画】

1. 公立図書館の児童サービス
  - (1) 児童サービスの法的基盤
  - (2) 児童図書館員の役割と専門性
  - (3) サービス対象としての児童：読書興味の発達段階
  - (4) 児童用資料の特性とコレクション構築の実際
  - (5) 児童サービスの企画と運営、施設・設備
  - (6) 周辺領域：子ども文庫活動、ブックスタート活動
2. 学校図書館と情報活用能力の育成
  - (7) 戦後教育改革と学校図書館の制度化
  - (8) 1997年の学校図書館法改正と「人」の問題
  - (9) 情報センター、学習センター、読書センター機能
  - (10) 学校図書館における図書館利用教育のガイドライン
3. 公立図書館と学校図書館の協力体制
  - (11) 異館種間ネットワーク構築の原理
  - (12) 地方自治体における先進事例の紹介
4. 試験 (13)

### 【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって、総合的に評価する。

### 【テキスト】

児童サービス論 (堀川照代編著 日本図書館協会)

### 【参考文献・資料】

児童サービス論 (佐藤涼子編 教育史料出版会)  
学校図書館論 補訂版 (塩見昇編 教育史料出版会)

## 情報学Ⅲ (図書館と情報検索の歴史)

村主朋英

### 【授業の概要】

図書館情報サービスと知識の組織化過程の発達を中心に、図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。<人類の情報環境の発達過程を概観する>というコンセプトを掲げ、とくに<情報・知識の伝達・継承のために人類がどのような活動を行ってきたか>という問題を軸に探求する。

具体的には、まず環境要因となるメディア技術 (情報・通信技術) の発達過程を概観し、つぎに情報流通の制度・機構 (情報サービス機関や情報専門職など)、および情報の蓄積・検索の技術・技法が整備されていった過程を詳述する。それらも、人類にとって一種の環境要因である。その上で、そうした環境要因と人間との関わりによって生ずる現象 (とくに情報の社会的蓄積・継承) を論ずる。

Ⅲでは、古代から中世までを対象とし、Ⅳに引き継ぐ。

### 【授業計画】

1. 古代文明のメディアと情報・知識
2. ギリシア・ローマにおける進展
3. 中世の学術と書物・図書館
4. 印刷革命

### 【評価方法】

定期試験 ※穴埋め・訂正問題、論述問題

### 【テキスト】

歴史のなかの科学コミュニケーション (勁草書房 税別定価3,800円)  
図書館情報学用語辞典 (丸善 税別定価3,800円)

## 情報学Ⅳ (図書館と情報検索の歴史)

村主朋英

### 【授業の概要】

図書館情報サービスと知識の組織化過程の発達を中心に、図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。Ⅳでは、Ⅲの知見を踏まえた上で、近・現代を対象とする。

### 【授業計画】

1. 印刷のもたらした近代  
学術情報流通システムの成立/新聞と雑誌/読書大衆
2. 図書館の世紀
3. 書誌とドキュメンテーション
4. 情報メディア技術の発達
5. 20世紀の情報流通システムと情報検索
6. 図書館学と情報学
7. 未来を求めて：Vannevar BushのMemex構想をもとに

### 【評価方法】

定期試験 ※穴埋め・訂正問題、論述問題

### 【テキスト】

歴史のなかの科学コミュニケーション (勁草書房 税別定価3,800円)  
図書館情報学用語辞典 (丸善 税別定価3,800円)



## 個人コミュニケーション論 I (認知心理学)

岩原昭彦

### 【授業の概要】

見る、聞く、話す、覚える、考えるなどの知的機能を総称して認知という。認知心理学では、人間を高次な情報処理体として見なし、情報の入力と出力との間に生じるさまざまな認知的過程を実験とシミュレーションにより理論化している。本講義では、人間の記憶活動と言語活動がどのように営まれているのかを明らかにするとともに、それらの活動を支える基盤が、脳の中でどのように組織化されているのかについても検討する。また、講義を通じて、我々が日常生活の中で体験する不思議な現象を認知心理学的に解明していきたい。

### 【授業計画】

1. サプリメンタル・パーセプション
2. 沈黙の手がかり
3. 意識できない知識
4. 健忘症患者の隠された能力
5. なぜ、ずっと覚えていられないのか
6. 記憶の混乱と偽りの記憶
7. 嫌な出来事が忘れられない
8. 言葉と心
9. 言葉の働き
10. 言葉が失われるとき
11. 言葉が意識を生む
12. 自己意識の起源にせまる

### 【評価方法】

期末試験と授業中に実施する実験・調査への参加回数。

### 【テキスト】

使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

### 【参考文献・資料】

適宜紹介する。

## 情報メディア論 I (マルチメディア)

松井美紀

### 【授業の概要】

現代社会ではあらゆる組織においてコンピュータ等情報機器が不可欠のツールとなっている。これら情報機器を使いこなすことにより、情報のより効果的な利用が可能となる。

この授業では、情報メディア・情報機器に関する基礎的なことを解説する。また、情報技術について図書館・情報サービスにおける導入・活用の実例を示しながら解説する。

情報技術活用のための基礎を身につけることを目標とする。

### 【授業計画】

- 1) ガイダンス：授業の目的、方法、授業計画について説明
- 2) メディアとは何か
- 3) 情報機器の発展経緯と種類、機能
- 4) 情報メディアの発展経緯と特性
- 5) 視聴覚メディアの種類と特性
- 6) コンピュータの基本的な仕組み
- 7) 図書館の機械化
- 8) データベースと情報検索
- 9) メディアの多様化と情報技術
- 10) インターネットについての基礎知識
- 11) インターネットによる情報発信
- 12) 電子情報と知的所有権

### 【評価方法】

- (1) 出席状況 (2) 定期試験 (またはレポート)
- 以上の結果により評価を行う。

### 【テキスト】

授業時に提示する。

## 情報メディア論 I (マルチメディア)

三和義秀

### 【授業の概要】

社会、教育現場における情報機器の発展経緯、種類、機能、ならびに情報メディアの発達と変化について論じながら、情報メディアの特性、視聴覚メディア、図形処理と画像処理を中心とするソフトウェア、インターネットとシミュレーションに係るツールの活用方法、情報メディアと情報通信(ネットワーク)技術やマルチメディアとの関係について考察する。また、技術的な側面として、インターネットでの情報の検索手法、ハイパーテキスト・システムの本質的問題、およびその設計・開発手法についても触れていく。

### 【授業計画】

- 1) ガイダンス：授業の目的、方法、授業計画について説明
- 2) メディアとは何か
- 3) 情報機器の発展経緯と種類、機能
- 4) 情報メディアの発展経緯と特性
- 5) 視聴覚メディアの種類と特性
- 6) 図形・画像処理とソフトウェア
- 7) 情報通信とメディア
- 8) マルチメディアと情報通信技術
- 9) ネットワーク技術とインターネット
- 10) 放送の高度化とマルチメディア
- 11) 通信の高度化とマルチメディア
- 12) インターネットとシミュレーション
- 13) インターネットでの情報の検索手法
- 14) ハイパーテキストの仕組みと本質的問題
- 15) ハイパーテキスト・システムの作成手法

### 【評価方法】

出席回数、レポート、および定期試験により評価を行う。

### 【テキスト】

授業時に提示する。



## 博物館概論

長谷川 銑治

### 【授業の概要】

博物館とは何か、発達の歴史をたどり、世界と日本の博物館を概観する。

### 【授業計画】

- ア はじめに…博物館学とは何かなど学習の基礎を説明する。
- イ 博物館の定義…ICOMの定義、博物館法の定義を中心に考えていく。
- ウ 博物館の始原…博物館の始原をたずねてみる。
- エ 博物館の萌芽…ルネサンス期からの博物館的な施設の形を探る。
- オ 近代博物館の出発Ⅰ…王権の誇示としての財宝の展示から考える。
- カ 近代博物館の出発Ⅱ…市民への公開がなされていく過程を考える。
- キ ヨーロッパの博物館…近世からの主要な博物館を例にとり、特徴をまとめると。
- ク アメリカの博物館…合衆国独立から現代までの特徴を探る。
- ケ 博物館の新しい波…企業博物館、エコ・ミュージアム、テーマ・パークなど新しい動きをひろってみる。
- コ 日本の博物館…日本の博物館の歴史を概観する。
  - ・幕末から明治期にかけての博物館の発展
  - ・国威の宣揚と博物館
  - ・通俗教育による教化と博物館
  - ・十五年戦争と博物館

### 【評価方法】

- ・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・出席率も重要な評価対象である。

### 【テキスト】

博物館学概説（長谷川 銑治 戸谷印刷）

## 博物館学各論Ⅰ

長谷川 銑治

### 【授業の概要】

博物館について、学芸員資格にかかわる基本的事項を学習する。

### 【授業計画】

- ア 博物館の機能…生涯学習のための施設の一つと定義されていることを念頭におき考える。
- イ 博物館の分類…分類わけをとおして、博物館の役割やあり方を考えていく。
- ウ 博物館の組織…公立博物館を例にとり、典型的な組織をみていく。
- エ 博物館の運営…名古屋市博物館を例にとり、運営の実際を知る。
- オ 学芸員考…学芸員の実態などに焦点をあて、「学芸員」はいかにあるべきかを考える。
- カ 予算など…博物館のマネジメントについて考える。
- キ 博物館の施設・設備…設置基準をもとに施設・設備についてみる。
- ク 博物館と情報…情報化社会の発展、情報技術の進歩と博物館のあり方を探ってみる。
- ケ 博物館の協力…大学・研究機関などの連携についても考える。
- コ 文化財の保護…わが国の文化財保護の現状と問題点について考察する。あわせて世界遺産についても考える。

### 【評価方法】

- ・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・出席率は重要な評価対象である。

### 【テキスト】

博物館学概説（長谷川 銑治 戸谷印刷）

## 博物館概論

早川 正一

### 【授業の概要】

「博物館概論」とは、愛知淑徳大学が文部省（現在の文科省）の認可のもとに、学芸員と呼ぶ博物館や美術館に不可欠な専門職員になるため、基礎知識をカリキュラムを通じて取得させる基幹の学科目である。したがって、この養成課程の当初に受講させるので真剣に取り組みないと脱落しかねない。充分な心構えが肝要である。

次のような単元のもとに講義を展開してゆく予定である。

### 【授業計画】

博物館や美術館の基本概念と必要性  
専門職員としての「学芸員」とは何か  
博物館と美術館の発達とその時代背景  
博物館と呼ぶ施設の機能と多様性  
博物館の分類と現代性  
博物館の日常的な組織と運営の局面への学芸員のかかわり方、そして館外活動への配慮  
博物館の相互協力と情報の活用

毎時間、入念にノートさせる。コピーは許さない。  
無用な欠席は不合格につながるので、注意されたい。

長谷川 銑治『博物館学論考』（1995）をはじめ、大学図書館に所蔵の関連文献を通読しておくこと。

### 【評価方法】

学期末の筆記試験をはじめ、毎時間の出席状況、受講態度などで総合評価する。資格認定のため厳格である。

### 【テキスト】

博物館学概説（長谷川 銑治 戸谷印刷）を参照することをすすめる。

## 博物館学各論Ⅰ

早川 正一

### 【授業の概要】

愛知淑徳大学の学芸員課程委員会が計画したカリキュラムに準拠し、前段階の「博物館概論」を修得した学生に受講させる。したがって、この講義も基幹をなす学科目であるから、年次計画を考慮し、真面目に受講しないと、資格取得につながらないので、注意が肝要である。

### 【授業計画】

次の単元を土台として講義を展開する予定である。  
博物館や美術館の展示と陳列構造  
博物館がとり扱う資料の収集と保存  
博物館と所属する学芸員のおこなう調査と研究  
博物館や美術館のおこなう普及活動と教育  
文化財の種類と保護にかかわる諸問題  
生涯学習の必要性と博物館の関連事業

毎時間、入念にノートさせる。コピーは許さない。  
無用な欠席は不合格につながるので、注意してほしい。

博物館学論考（長谷川 銑治 1995）をはじめ、大学図書館に所蔵の関連文献を通読しておくこと。

### 【評価方法】

本学の学長の名において資格を認定する以上、定期試験を厳格に実施し、出席状況や受講態度を含めて総合評価する。

### 【テキスト】

博物館学概説（長谷川 銑治 戸谷印刷）を参照することをすすめる。



## 博物館学各論Ⅱ

長谷川 鏑治

### 【授業の概要】

博物館資料とは何かの定義づけからはじめ、資料の取扱い方を含めて学習する。また、博物館の調査・研究についても考える。

### 【授業計画】

- ア 博物館の資料…「物」が博物館資料と位置づけられるのはどのようなことかを考える。
- イ 博物館資料の実際…資料について実技を含めて具体的に学ぶ。
  - 1 資料の収集
  - 2 資料の取扱い
    - ・掛軸
    - ・古文書 ・和装本
    - ・やきもの ・茶碗
    - ・瓦など
  - 3 資料の整理・保存
  - 4 資料の保全
- ウ 資料情報の管理…資料情報の管理についてその実際を探る。
- エ 調査・研究…博物館における調査と研究、成果の公表について考える。

### 【評価方法】

- ・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・出席率も重要な評価対象である。

### 【テキスト】

博物館学概説（長谷川 鏑治 戸谷印刷）

## 博物館学各論Ⅱ

川合 剛

### 【授業の概要】

博物館は「もの（物）」「ひと（人）」「ば（場）」の3つの要素で構成される。この授業では、そのうちの「もの」＝博物館資料に焦点をあて、博物館活動の中での役割を考える。博物館資料の定義、収集、整理分類、保管保存、調査研究そして実際の取扱い方について、基礎的な知識と技術を学ぶ。

### 【授業計画】

- 履修学生が、手を動かし、自分で考える「実技」の時間をできるだけ多くとる。
- (a) 博物館と博物館資料
- (b) 資料を記録する技術
  - 拓本・実測・写真など。
- (c) 資料を扱う技術
  - 掛け軸・卷子・和本・陶磁器・考古資料など。
- (d) 資料を保管・保存する技術
  - ドキュメンテーション・保存科学など。
- (e) 博物館と調査・研究

### 【評価方法】

実技を行う。出席および授業に臨む姿勢を重視する。あわせて、レポートなどの課題、(時間内の)小テストの結果も勘案する。

### 【テキスト】

博物館学概説（長谷川 鏑治 戸谷印刷）

### 【参考文献・資料】

随時プリントを配布し、参考文献・論文などを紹介する。

## 博物館学各論Ⅱ

秋元悦子

### 【授業の概要】

博物館の活動の基礎は「資料」にあり、それを有効活用することではじめて博物館と言えよう。本講座では、その収集・取り扱い・整理・保存・活用について具体的事例や実習を取り入れながら学んでいく。

### 【授業計画】

- 1. 博物館資料とは……「博物館資料」とは、何を指すか、理念およびその具体的種類を知る。
- 2. 資料収集……資料の収集に際しての、収集方針の重要性、収集方法の事例を学ぶ。
- 3. 資料の取り扱い……基本資料の取り扱いを実習し、習得するとともに、その構造を知り展示方法等も学ぶ。
  - やきもの、和装・卷子本、掛け軸その他で実習する。
- 4. 資料整理……資料の整理について、分類方法やその整理登録方法を考え、資料カードの作成を実習する。
- 5. 資料情報……整理された資料の情報、二次的資料の情報の管理運営について考える。
- 6. 資料保管……資料の保管に関しての、保存条件や方法、問題点などを学ぶ。
- 7. 資料活用……資料を活用した調査研究活動の実際とその意義を知る。
  - また、4年次の「博物館実習」に備えた情報や、館務実習の準備について説明する。

### 【評価方法】

出席、実習態度、レポートおよび小テストで評価する。

### 【テキスト】

博物館学概説（長谷川 鏑治 戸谷印刷）

必要に応じてプリントを配布し、ビデオ・スライド等も利用する。

## 博物館実習

長谷川 鏑治

### 【授業の概要】

学芸員の基本的な役割について、講義、展示演習、博物館見学、館務実習などを通して、実践的に学習する。

### 【授業計画】

- ア 展示論……展示についての学問的側面、実際の運びなどをみていく。
  - 1 展示とは
  - 2 展示のポイント
    - ・動線 ・視線 ・照明 ・温度 ・湿度
  - 3 展示の施設
  - 4 展示のプロセス
  - 5 展示と保全
- イ 普及・教育論……生涯学習が重要課題となっている現代社会にあって、博物館が果たす役割はどんなものかを探っていく。
- ウ 博物館見学……土・日曜日に展覧会や施設の見学に出かける。
- エ 館務実習……夏休み中に各博物館に依頼して館務実習を行う。
- オ 海外特別実習……夏休み中に希望者と海外の博物館に出かけ学習する。
- カ 県外実習……エ、オに参加できない者は、9月に県外へ見学に出かける。

### 【評価方法】

- ・実習はもちろん、学外での研修にはかならず参加し、それぞれレポートを提出する。
- ・その都度、提出させるレポートを中心に実習態度なども勘案して評価する。

### 【テキスト】

博物館学概論（長谷川 鏑治 戸谷印刷）



## 博物館実習

秋元悦子

### 【授業の概要】

学芸員資格を取得するにあたって、展示演習、博物館見学、博物館実習を中核に、具体的な学芸員活動を様々な観点から学習する。

### 【授業計画】

1. 展示とは……展示という手法について、その実際と未来像を考える。
2. 展示の実際……計画から、手法、条件などの展示の実際の概要を具体的な事例をふまえながら、学んでゆく。
3. 展示にかかわる事業……展示をとりまく、様々な事業（解説、広報、印刷物、講座など）の存在を知る。
4. 展示の実習……各自で模擬展示の計画書を作成し、展示方法やその活用法を実習する。
5. 展示と教育普及事業……展示を通じての生涯学習機関として、博物館の今後をになう役割と未来を探る。

授業以外に、

- 土曜日に、博物館の展示・施設見学を行う。
- 夏休み中に、各博物館に依頼し館務実習を行う。

### 【評価方法】

授業および学外での研修の出席・レポート、模擬展示の口頭発表およびその計画書で評価する。

### 【テキスト】

博物館学概論（長谷川銹治 戸谷印刷）

必要に応じてプリントを配布し、ビデオ・スライド等も利用する。

## 生涯学習概論

羽場俊秀

### 【授業の概要】

現代社会は、情報化、高齢化、生命・健康、環境などの分野において様々な問題に直面している。また、価値観の多様化に対する寛容さが以前にもまして必要とされる時代になってきている。

このような状況下において、諸問題を解決し、人々が主体的に生活していくためには学校だけでなく、広く社会において絶えず学び続けることが大切である。生涯学習に広がりや深まりが求められるゆえんがそこにある。この講義では、生涯学習の原理、実践等について具体的な事例をもとに考察する。

### 【授業計画】

- 1-3. 生涯学習理念の成立と発展
- 4-7. 生涯学習実践の課題
- 8-11. 生涯学習と社会
- 12-13. 生涯学習と人間
- 14-15. 総括

### 【評価方法】

おもに期末試験（筆記）により評価するが、開講中にレポートを課した場合はこれを評価に加味する。

### 【テキスト】

テキストとしては使用しない。授業中に参考文献を適宜紹介する。

### 【参考文献・資料】

なし

## 博物館実習

松村冬樹

### 【授業の概要】

「展示」は博物館における「顔」とも評されるが、最高の広報普及活動でもある。この授業では、さまざまな施設の見学を含め、「展示」の知識と実践を学ぶ。

### 【授業計画】

「展示」を疑似体験できるよう「実技」の時間をできるだけ多くとる。適宜、プリントを配付する。

- (a) 「展示」とは
- (b) 展示のプロセス
- (c) 展示の実際（仮想展覧会企画）
- (d) 展示と解説
- (e) 印刷物（ポスター、ピラ、図録）
- (f) まとめ

\*1 土曜日に近隣の博物館の展示見学、施設見学を行う（年5～6回程度）。

\*2 夏休み中に各博物館に依頼し、館務実習を行う。

\*3 夏休み中に海外博物館見学の研修を行う。

※ \*2、\*3に参加しなかった者は、県外博物館の見学を行う。

### 【評価方法】

出席状況は重視する。意欲や、館務実習では必要な社会常識も評価の対象とする。

### 【テキスト】

博物館学概説（長谷川銹治 戸谷印刷）

## 視聴覚教育メディア論

東浦信博

### 【授業の概要】

「学芸員のための」を前提としながらも幅広く視聴覚教育メディア全般の特性を検討し、最近のマルチメディアまでの各視聴覚教育メディアを論ずる。

### 【授業計画】

1. 視聴覚教育の意義と効果
2. 博物館と視聴覚教育メディア（手段としてのメディア、目的物としてのメディア）
3. 視聴覚教育メディア各論  
領域と種類  
録音メディア（レコード・テープ・CD等）  
映像メディア1（スライド・OHP等）  
映像メディア2（映画・ビデオ等）  
マルチメディアと情報ネットワーク  
講義中心であるが、OHP、ビデオを多用する。

### 【評価方法】

論述式定期試験（テキスト・ノート持込み可）。

### 【テキスト】

視聴覚メディアと教育（樹村房 ¥1,800+税）



## 教育学概論

渡辺かよ子

### 【授業の概要】

現代世界は多くの問題を抱えている。教育問題はこれらの問題の一つであると同時に、これらの社会問題の解決方法でもある。あるべき教育とは何か。これほどあるべき教育が語られるのになぜ教育問題は解決しないのか。本講義はこれらの問いへの答えを教育と社会の連関から考察していく。

### 【授業計画】

1. オリエンテーション：教育と教育学
2. 教育の歴史：近代以前と近代以後
3. 教育制度：各国の教育行政と学校制度
4. 教育内容と教育課程
5. 教育方法
6. 家庭教育としつけ：教育の比較文化
7. 社会教育と生涯学習
8. 総括：人権としての教育

### 【評価方法】

レポートと試験

### 【テキスト】

教育への問い（天野郁夫編 東京大学出版会）

## 美術史

角田美奈子

### 【授業の概要】

日本の美術の歴史にはたくさんの不思議があります。例えば、今、私たちが美術館で目にする「絵画」が、「日本画」と「洋画」に区別して紹介されていたりするのはどうしてでしょう。また、それはいつからのことでしょう。

このような不思議を手がかりに日本の美術の歴史をたどり、理解を深めるとともに、作品鑑賞を豊かにする視点や問題意識を育みます。

必要にあわせて東洋や西洋の美術の歴史も参照します。

### 【授業計画】

ワーク・シートを配布し、設問に答えるところから全体の授業をはじめ。

不思議を授業を通して発見する。

講義は、不思議の背景などを説明し、また新たな不思議を見出すはたらきかけとする。

解説プリント、ワーク・シート、感想・質問・要望などを記すフィードバック・シートを適宜配布する。

### 【評価方法】

ワーク・シートやフィードバック・シートを回収し、出欠の確認に代えるとともに、内容を評価する。

これらを使用しないときは、出欠を確認し、評価に反映させる。

授業で自分の考えや答えを発表してもらう。授業に参加する姿勢もあわせて評価する。

内容の評価には、回答の正しさを必ずしも求めない。取り組みの姿勢や理解の深さなども評価の対象とする。

### 【テキスト】

使用しない。

### 【参考文献・資料】

必要により、授業で紹介する。

## 民俗学

谷沢 明

### 【授業の概要】

なにげなくくりかえしている日々の暮らしの中に、古い生活の投影がある。現代人の物の見方、考え方の中にも、伝統的な生活文化が反映している。民俗学においては、日本人はいかなる文化をつくりあげて今日にいたったかを、民衆の立場にたち、民衆の生活の中から、社会・経済・儀礼・信仰などの伝承をとおして具体的にみつめていきたい。また、古いものが今日の暮らしの中にどのように残存しているか、新しく変わった部分はどこで、何が新しくさせていく力になったかも考えてみたい。

### 【授業計画】

1. 民俗学を学ぶ～方法論と調査研究法～
2. 稲作と日本文化～伝統的文化のとらえかた～
3. 農耕儀礼～田遊びを中心に～
4. 年中行事～正月行事を中心に～
5. 年中行事～盆行事を中心に～
6. 人生儀礼～人生の折りにあたって～
7. 暮らしの中の習俗～海に生きる人々～
8. 暮らしの中の習俗～山に生きる人々～
9. 庶民信仰を探る～絵馬に託された願い～
10. 庶民信仰を探る～庚申信仰～
11. 日本民俗学のあゆみ～柳田國男の役割～
12. 日本民俗学のあゆみ～宮本常一のまなざし～  
学外教育としてフィールドワークを行う。

### 【評価方法】

中間レポート及び授業内小テスト・試験による

### 【テキスト】

フィールドワークで探る民俗と地域文化

## 文化史

秋元悦子

### 【授業の概要】

本講義では、古来日本に多くの影響を与えてきた中国の古代文化について、理解を深めることを目的とする。文化を理解するためには、その環境の理解が不可欠であるため、自然地理の知識から学び、人間と自然環境の関係を考慮しながら進めたい。また、関連する考古資料・歴史文献・古地図等の様々な資料を知るとともに、その所在や利用法等も学ぶ。授業では、必要に応じて文献講読（漢文資料）や地図分析作業も行う。

### 【授業計画】

1. 中国および日本の自然地理と古代文化  
日本を含む基本的な自然地理について理解し、古代の自然を考察する。
2. 中国古代都市の立地と遺跡  
中国の古代都市は時代により様々な位置に置かれた。各都市の遺跡を確認しながら、その立地を考察する。
3. 文献にみる中国古代の様相  
歴史文献を通じて古代中国の各地域に関する思想を知る。『尚書』禹貢篇、『漢書』地理志等を講読。
4. 地図にみる中国古代の様相  
現代に伝わる古地図や近代地形図の残存状況を知り、内容を理解する。
5. 遺物にみる中国古代の様相  
近年の考古学的発掘による大量の遺物が知られるが、その研究状況を知る。
6. 現代科学にみる中国古代の様相  
現代の科学分析による歴史研究の状況と、その方法について知る。

### 【評価方法】

おもに期末試験（筆記）により評価する。（毎回出欠調査する。欠席回数が多い場合は受験資格を失う。）期中にレポートを提出させた場合は、これを成績評価に反映させる。

### 【テキスト】

テキストとしては使用しない。

### 【参考文献・資料】

世界の歴史と文化 中国（陳舜臣・尾崎秀樹監修 新潮社）



## 【授業の概要】

考古学は、遺跡・遺物をもとに人間の営んできた歴史を明らかにする学問である。その研究方法には、層位学や型式学、分類学などの科学的方法論がとられ、人文科学の中でもとりわけ自然科学との結びつきが強い学問でもある。そうした学問の基本を学び、考古学が明らかにしてきた日本の歴史の一面を把握する。特に、全国各地で行われている遺跡の発掘調査によって、知られるようになった最近の新しい遺構、遺物を紹介し、学際的な研究の進展を学ぶ。また遺跡調査への関心を高め、文化財の保護という現代的課題についても考える。現代に生きる我々がどういう社会を築くかを、歴史の中から学ぶ際に、考古学の果たす役割と受け継ぐべき文化遺産の重要性を認識する。

まず、考古学の研究法を学び、世界の考古学研究の発展過程を眺める。次に日本の旧石器時代から近世に至る、日本考古学の研究成果を把握する。なかでも原始・古代遺跡における最近の新発見や社会構造の捉え方の変化、中世から近世の城館や都市遺跡の発掘調査から判明してきた当時の生活様式などに理解を深める。また日本考古学の研究対象が近世・近代にまで広がっていることを認識するとともに、遺跡や遺物の文化財としての保存の必要性とその活用方法についても考える。

## 【授業計画】

各時代毎の解説の後、スライド・OHPなどにより視覚的に確認し、次の時代に進む。新聞記事等最近のニュースも逐次取り入れる。研究史から始め、日本の考古学研究の現在や遺跡保存の歩みなどを序章から第IV章までの5章にて構成し、13項の講義を行う。

## 【評価方法】

講義内容から出題するテスト。集中授業での欠席 1/3 を越えたものは受験資格を失う。

## 【テキスト】

印刷物をテキストとして配布する。



## ドイツ語 I

濱田義孝

### 【授業の概要】

ドイツ語の基礎を習得する。

ドイツ語は英語と同じく西ゲルマン語から出た言語で類似点も多いが、英語に比べてかなり保守的で、面倒な語形変化などがある。しかし一見やっかいそうな文法もいったん慣れてしまえば、かえって語句の関係が明確であり構文の把握も容易になる。

言葉は何よりもまず音声であるから、初めにドイツ語の発音に慣れること。そのためには教師（またはテープ）のドイツ語をよく聞いて、積極的に口を動かして真似ること。こうして繰り返し反復練習することによって、基本的なドイツ語の語句や言い回しになじみ、やさしい文を覚えていけば、週一回という短時間の学習でも、ドイツ語の基礎をマスターできるでしょう。

またドイツ語の学習を通してドイツやオーストリアの生活と文化に触れることもできる。

### 【授業計画】

テキストは全12課で、各課ともドイツ語の会話と基本的な文法事項、練習問題から構成されている。LL方式のパターン練習で基本構文や表現パターンを覚え、それをペアで行なう対話練習で実践し、段階的に表現能力を身に付けてゆく。

1 課を 2 回の授業で修了するくらいのゆっくりしたペースで進む。

### 【評価方法】

授業での平常点と期末試験の成績を総合して評価する。

### 【テキスト】

コミュニケーションのためのドイツ語（在間・田畑共著 第三書房）

## ドイツ語 II

濱田義孝

### 【授業の概要】

ドイツ語の基礎を習得する。

ドイツ語は英語と同じく西ゲルマン語から出た言語で類似点も多いが、英語に比べてかなり保守的で、面倒な語形変化などがある。しかし一見やっかいそうな文法もいったん慣れてしまえば、かえって語句の関係が明確であり構文の把握も容易になる。

言葉は何よりもまず音声であるから、初めにドイツ語の発音に慣れること。そのためには教師（またはテープ）のドイツ語をよく聞いて、積極的に口を動かして真似ること。こうして繰り返し反復練習することによって、基本的なドイツ語の語句や言い回しになじみ、やさしい文を覚えていけば、週一回という短時間の学習でも、ドイツ語の基礎をマスターできるでしょう。

またドイツ語の学習を通してドイツやオーストリアの生活と文化に触れることもできる。

### 【授業計画】

テキストは全12課で、各課ともドイツ語の会話と基本的な文法事項、練習問題から構成されている。LL方式のパターン練習で基本構文や表現パターンを覚え、それをペアで行なう対話練習で実践し、段階的に表現能力を身に付けてゆく。

1 課を 2 回の授業で修了するくらいのゆっくりしたペースで進む。

### 【評価方法】

授業での平常点と期末試験の成績を総合して評価する。

### 【テキスト】

コミュニケーションのためのドイツ語（在間・田畑共著 第三書房）

## ロシア語 I

杉本一直

### 【授業の概要】

みなさん、知っていますか？日本の大学のなかでロシア語を学ぶことができるところは本当に少ないんですよ。ということは、「ロシア語がわかる人」は日本ではとても希少価値があるのです！「芸術の国ロシア」の言葉を今すぐ学んでみませんか？

この授業では、初歩のロシア語を学びながらロシアの芸術や文化や街について楽しく紹介していきます。映画の鑑賞会もありますから、楽しみにしていてくださいね。

### 【授業計画】

初級のわかりやすい辞書を「テキスト」として授業を進めてきます。まず、例の不思議な形をしたキリル文字を覚え、発音を覚え、そのあとは辞書で遊び(?) ながら「使える単語」「使えるフレーズ」を集めていきます。たくさんたくさん集めたら、あれ、いつのまにかロシア語の達人！

辞書以外に補助教材として会話用プリントを配布します。学ぶ項目は以下のとおりです。

- キリル文字と発音
- 大きな声であいさつしよう
- 買い物に行ってみよう
- 乗り物に乗ろう
- おながすいたら...
- 自分について話してみよう
- 好きな音楽について
- 手紙を書こう（本当にロシアへ送るぞ!）

### 【評価方法】

定期試験の成績による。

### 【テキスト】

ロシア語ミニ辞典（白水社）

## ロシア語 II

杉本一直

### 【授業の概要】

ロシア語 I に引き続き、ロシア語の基礎を学びます。ロシア語 II では、基礎的な文法事項の習得に重点をおきます。

### 【授業計画】

毎回ひとつの重要な文法事項をクローズ・アップし、ひとつずつじっくり習得していきます。

取り上げる文法事項の主なもの以下の通り。

- 動詞の過去形
- 名詞の前置格
- 名詞の対格
- 名詞の生格
- 不完了体と完了体
- 関係代名詞と関係副詞

### 【評価方法】

定期試験の成績による。

### 【テキスト】

ロシア語ミニ辞典（白水社）



# 資本市場と証券投資（野村証券提供講座）

上原 衛

## 【授業の概要】

直接金融への期待が高まる現在、資本市場に求められる役割とは何か。金融ビッグバン以降、激変する日本の資本市場の全容と投資とリスク・リターンの方、株式投資・債券投資・分散投資・グローバル証券投資・分散投資の方法などを実務の観点から解説します。

## 【授業計画】

- (1) ガイダンス
  - (2) 経済情報の捉え方
  - (3) 経済成長と金融資本市場
  - (4) 証券投資のリスク・リターンについて
  - (5) 株式市場の役割と投資の基礎知識について
  - (6) 債券市場の役割と投資の基礎知識について
  - (7) 投資信託の役割とその仕組みについて
  - (8) ポートフォリオ・マネジメント
  - (9) 市場のグローバル化と証券投資について
  - (10) 資産運用とライフプランニング
  - (11) 資本市場における投資家心理について
  - (12) 個人投資家と証券ビジネスについて
- ※授業はオムニバス形式で毎回講師が来て行われる。

## 【評価方法】

期末試験の結果により評価する。

## 【テキスト】

必要に応じてそのつど関連資料を配布する。

## 【参考文献・資料】

証券投資の基礎（野村証券投資情報部編 丸善株式会社）  
日本の資本市場（氏家純一編 東洋経済新聞社）



## 英語海外セミナー

担当者未定

### 【授業の概要】

語学学習と異文化体験を目的とする、アメリカ北東部のウェスト・バージニア大学における海外英語研修プログラム。全学を対象に実施される。参加者は、キャンパス内の大学寮等に滞在し、約3週間の集中授業を受ける。週末のホームステイ、小旅行、現地学生および留学生との交流なども用意されている。出発前に行われる数回のオリエンテーションおよび事前事後のライティング課題なども含めて全てを修了すれば、本学の2単位が与えられる。

期間は2月中旬から3月中旬の約1ヶ月、定員は約30名。面接およびTOEICスコアにより選考を行う。

2003年度実施研修プログラムにおける1日(9:00~15:20)の学習内容は、以下の通り:

- 午前 少人数制英会話クラスと総合英語の授業
- 午後 アメリカ文化の授業とプロジェクト(音楽/芸術/ドラマ/ニュースレター作成などのプロジェクトから、各自が興味のある分野を選択し、英語による意見交換を行いながら仕上げていき、修了パーティーで発表する。)

### 【授業計画】

この研修は、ウェスト・バージニア大学が本学学生のために用意する特別プログラムである。(全期間の学習および生活面全ての指導は、現地教員およびプログラムスタッフが当たる。期間中、本学教職員は滞在しない。)

### 【評価方法】

ウェスト・バージニア大学授業担当者の評価および研修前後の課題から総合的に判断する。

### 【テキスト】

現地にて用意される。

### 【参考文献・資料】

オリエンテーションで指示する。

## 外国文化海外研修Ⅰ(中国)

馮 富榮

### 【授業の概要】

この授業では、言語実践を通して、言葉を知り、理解し、発信し、理解されることの楽しさを体験することができる。また南京師範大学に滞在して生活することで、中国に対する単なる傍観者・観察者ではなく、客観的な目をもった共感者になることを目指す。

1. 京師範大学において3週間の中国語研修を行う。

- ◎ 月曜～金曜の午前中は8:00～11:30まで中国語の授業。日本語のできない先生が中国語で授業するが、分かるのが不思議。内容は会話表現中心。
  - ◎ 午後は課外活動として南京市内見学(中山陵、南京博物館、玄武湖、夫子廟、南京大屠殺記念館など)を通して、南京の風俗、歴史を学び、日本語学科の学生との交流会などを通して中国人同世代の人の考え方や生活を学ぶ。
  - ◎ 夜は予習復習に追われる。みんな教室に集まって、黙々と勉強。
  - ◎ 土曜と日曜は言語実践の日。南京の街へ飛び出そう!
  - ◎ 風光明媚な「瘦西湖」で名高い揚州へ、庭園で知られている蘇州への一日旅行。
2. 言語文化論Ⅰの講義内容と呼応した5日間ほどの研修旅行。  
3. 定員は20名程度。  
4. 今年度の2月中旬から3月中旬にかけて実施する。  
5. 終了者に2単位を認定する。

### 【授業計画】

4月のガイダンスで研修の内容などを説明する。後期開講科目であるが、履修登録を必要とせず、参加したことによって単位が取得できる。9月下旬頃、参加募集を掲示に出し、10月中旬頃に参加者を決定する。その後、説明会を2回ほど、オリエンテーションを1回実施する。詳しくは掲示を見る。2月中旬に出発し、3月中旬に帰国する。費用は25万程度。

### 【評価方法】

引率は平常点で評価する。

### 【テキスト】

南京師範大学の研修授業の担当先生が決めるテキストを使用する。

## 米国 NPO インターンシッププログラム

榎田勝利

### 【授業の概要】

米国ワシントンD.C.にあるCivil Society Consulting Group(CSCG)との共同プログラムとして実施する。米国の民間非営利組織(NPO)でのインターンシップの体験を通して米国社会が抱える深刻な社会問題を理解し、その問題解決の方法を学ぶ。インターンシップの期間中は、一般の米国人の家庭でのホームステイをし、日常生活を体験する。インターンシップの受け入れ場所は、ワシントンD.C.および周辺地域で、学生の関心分野、英語力、専門的知識、経験等を考慮し、受け入れ団体を決める。実践の場を通して、異文化コミュニケーション能力と情報技術能力の向上を図り、学生の将来のキャリア形成の一助ともなる機会を提供する。

(活動可能な分野) 老人、児童・青少年、自然・環境、識字教育、障害者、家族、ホームレス、ジェンダー、文化・芸術、スポーツ、バイリンガル教育、外国人支援、国際交流・国際協力、博物館・美術館、図書館、その他。

(米国側協力団体) Civil Society Consulting Group(CSCG)

### 【授業計画】

(事前研修)・インターンシップの活動分野の決定・日米のNPO、ボランティア団体等の現状学習・日本のNPO、ボランティア団体ヘフィールドワーク・英会話のトレーニング・米国側ディレクターによる宿舎オリエンテーション

(現地プログラム)・オリエンテーション宿舎・基本的に月曜から金曜までの5日間のインターン・1日特別研修プログラム・インターンシップの体験報告書の作成と提出・評価会、修了式、さよならパーティ(事後研修)・フォローアップ研修、報告書作成

### 【評価方法】

現地での評価(受け入れ団体、ホストファミリー等と報告書)を考慮し全体評価を行う。

## 外国文化海外研修Ⅱ(韓国)

曹 述燮

### 【授業の概要】

本学の姉妹校の一つである韓国の大邱カトリック大学で、韓国の文化や言語などの研修を積む。本研修のために姉妹校からは少人数制の語学授業、陶磁器工芸・伝統音楽・伝統料理などの韓国文化に対する講義と実習、そして両校の学生交流、ホームステイなどの課外活動を含む特別のカリキュラムが編成されている。と同時に本研修には姉妹校での研修を前後して慶州市、独立記念館、ソウル市への旅行などのプログラムも企画されている。

本研修を通じて参加学生たちは、良好に組まれたカリキュラムから韓国に対する知識を習得すると同時に、多様な韓国・韓国人を直接体験し自ら触れあうことで新世紀のパートナーとしての韓国の理解を深める。

期間:

夏期休暇の8月中の3週間前後

内容:

1. 語学研修
  - a. 14日間、午前中、1日3時間(2コマ)授業
  - b. 現地教員による少人数制の授業で韓国語の発音、文法、文型、会話などの練習
  - c. 初級と中級のクラス編成予定で初心者への授業参加可
2. 韓国文化研修
  - a. 午後週1~2回
  - b. 専門家による講演・指導と質疑応答
  - c. 伝統文化実演の鑑賞(古典劇、音楽など)
  - d. 自己参加型の実習(工芸・料理、舞踊など)
3. その他の各種の課外活動

### 【授業計画】

本研修参加のための数回の事前研修と事後研修が予定されている。事後報告書をまとめる。

### 【評価方法】

現地教員およびプログラムスタッフ、そして引率教員による総合評価による。

### 【テキスト】

特になし



## 情報処理技術特殊Ⅰ

中野雅晴

### 【授業の概要】

基本情報技術者試験合格のための教育科目である。

情報技術全般の基礎知識を活用し、情報システム開発においてプログラムの設計・開発を行うとともに、将来高度な技術者を目指す者として、以下の知識・能力を身につける。

- 1) 情報技術全般に関する基本的な用語・内容の知識
- 2) 上位技術者の指導のもとにプログラム設計書を作成する能力
- 3) プログラミングに必要な論理的思考能力
- 4) プログラムのテスト手法を理解し実施する能力

### 【授業計画】

- ステップ1 コンピュータ科学基礎
- ステップ2 データベース技術
- ステップ3 コンピュータシステムの開発と運用
- ステップ4 ネットワーク技術
- ステップ5 情報と経営
- ステップ6 セキュリティと標準化

### 【評価方法】

出席状況・小テストなどで評価する。

### 【テキスト】

授業中に指示する。

## 情報処理技術特殊Ⅱ

中野雅晴

### 【授業の概要】

ソフトウェア開発技術者試験合格のための教育科目である。

情報システム開発のソフトウェア開発技術者として、外部仕様に基づいて内部設計・プログラム設計・プログラム開発を行い、高品質なソフトウェアを開発するための、以下の知識・能力を身につける。

- 1) ネットワーク、データベース、システム構成などの情報技術に関する全般的な知識と、上位技術者の指導のもとに情報システムの設計ができる能力
- 2) 内部設計書・プログラム設計書の作成能力
- 3) プログラミングに必要な高度の論理的思考能力
- 4) ネットワーク、データベースなどに関する実装技術と知識
- 5) プログラムのテスト手法を熟知し、単体テスト・結合テストの計画と管理が行え、テストの実施についてはプログラム開発要員を指導できる能力

### 【授業計画】

- ステップ1 コンピュータ科学基礎上級
- ステップ2 コンピュータシステム上級
- ステップ3 システムの開発と運用
- ステップ4 ネットワーク技術
- ステップ5 データベース技術
- ステップ6 セキュリティと標準化

### 【評価方法】

出席状況・小テストなどで評価する。

### 【テキスト】

授業中に指示する。

## 情報処理技術特殊Ⅲ

黒部晃一

### 【授業の概要】

「画像情報技能検定試験CG部門（CG検定）」の2級合格を目標として、その対策を会得する。2級問題は、3級レベルのCGに関する総合的な知識の他に、厳密な理論的知識をも要求されるので、VCによるCGプログラミングのサンプルを解説することでそれを理解する。

### 【授業計画】

- 配布するサブテキストに基づいて、講義方式で行う。
- 1. CG概論、CG検定試験2級対策
- 2. 各種CGツールの紹介、そのデモンストレーションと事例紹介
- 3. VisualC++によるGUIプログラミング
- 4. VisualC++によるインターフェースの設計
- 5. 平成15年度前期CG検定2級試験問題の検証と分析
- 6. 平成15年度前期CG検定2級試験問題の検証と分析
- 7. 平成15年度後期CG検定2級試験問題の検証と分析
- 8. 平成15年度後期CG検定2級試験問題の検証と分析
- 9. 平成14年度前期CG検定2級試験問題の検証と分析
- 10. 平成14年度後期CG検定2級試験問題の検証と分析
- 11. 演習
- 12. まとめ

### 【評価方法】

出席状況で評価

### 【テキスト】

技術編 CG標準テキストブック（画像情報教育振興協会）  
平成16年度版 CG検定2級問題集（画像情報教育振興協会）

### 【参考文献・資料】

- 入門コンピュータグラフィックス（画像情報教育振興協会）
- 基礎から学ぶVisualC++プログラミング（山岡祥 CQ出版社）

## 情報処理技術特殊Ⅳ

黒部晃一

### 【授業の概要】

「画像情報技能検定試験CG部門（CG検定）」の1級合格を目標として、その対策を会得する。1級問題は、CGプログラミングのスキルを要求されるので、自ら発案するテーマに基づいたプログラミングの実習を行う。

### 【授業計画】

- 前半は講義方式で、後半は主に実習形式で行う。
- 1. CG検定試験1級の概要と対策
- 2. VisualC++によるGUIプログラミング
- 3. 平成15年度CG検定1級試験問題（マークシート）の検証と分析
- 4. 平成15年度CG検定1級試験問題（記述式）の検証と分析
- 5. 平成15年度CG検定1級試験問題（二次試験）の検証と分析
- 6. 平成15年度CG検定1級試験問題（二次試験）の検証と分析
- 7. 平成15年度CG検定1級試験問題（三次試験）の検証と分析
- 8. 平成15年度CG検定1級試験問題（三次試験）の検証と分析
- 9. 自ら提議したテーマに基づいたプログラミング実習
- 10. 自ら提議したテーマに基づいたプログラミング実習
- 11. 自ら提議したテーマに基づいたプログラミング実習
- 12. 自ら提議したテーマに基づいたプログラミング実習、まとめ

### 【評価方法】

出席状況で評価

### 【テキスト】

技術編 CG標準テキストブック（画像情報教育振興協会）  
平成16年度版 CG検定1級問題集（画像情報教育振興協会）

### 【参考文献・資料】

- コンピュータグラフィックス理論と実践  
（J.D.Foley、A.v.Dam、S.K.Feiner F.Hughes オーム社）
- 基礎から学ぶVisualC++プログラミング（山岡祥 CQ出版社）



## スポーツ特殊講座（スクーバダイビング）

杉山 和

### 【授業の概要】

「海の中」の自然を体験し、より視野を広める、スクーバダイビングに必要な初級のライセンスを取得し、生涯スポーツの実践へつなげる。

### 【授業計画】

〔スクーバダイビング〕

#### 1. 期日

プール実習 平成16年9月6日（月）～11日（土）  
この期間中に時差をつけて3日間実施します。

海洋実習 平成16年9月14日（火）～9日17日（金）  
3泊4日

第1回説明会 平成16年5月19日（水）5限目

第2回説明会 平成16年7月17日（土）10：00～

#### 2. 場所

プール実習 ロコダイバーズ 室内プール（一社）

海洋実習 沖縄県 伊江島

#### 3. 諸経費

実習費 約50,000円（講習費、テキスト代、申請料）

用具代 約50,000円（重器材レンタル代、個人器材）

海洋実習費 約78,000円（交通費、宿泊費）

その他 約30,000円（ウェットスーツ希望者のみ）

#### 4. 定員 約20名

\*諸経費については、15年度のものでありますので変更になる場合があります。

\*説明会には必ず参加すること。

### 【評価方法】

1. 実習中の技術の上達度と、実習に対する取り組み方。
2. 実習期間中、欠席した場合は単位が認められません。

## スポーツ特殊講座（スケート）

松田秀子

### 【授業の概要】

スケートを通して、基礎的技術の向上と、知識の習得を目標とし、楽しさを学び生涯スポーツの実践へつなげる。

### 【授業計画】

〔スケート〕

#### 1. 期日

実習 平成17年2月2日（水）・3日（木）

4日（金）・7日（月）

8日（火）・9日（水）

計6日間 午前中のみ

#### 2. 説明会 平成17年1月12日（水）12：30～13：15

実習に必要な諸手続きを行ないますので、必ず参加すること。

#### 3. 場所 名古屋スポーツセンター（大須）

#### 4. 実習費 7,200円

#### 5. 定員 40名

### 【評価方法】

出席状況と実習中の技術の上達度により総合評価する。

## スポーツ特殊講座（ボウリング）

松田秀子

### 【授業の概要】

ボウリングを通して、基礎技術の向上と知識の習得を目標とし、生涯スポーツの実践へつなげる。

### 【授業計画】

〔ボウリング〕

#### 1. 期日

実習 平成16年9月8日（水）・9日（木）

10日（金）・13日（月）

14日（火）・15日（水）

計6日間 午前中のみ

#### 2. 説明会 平成16年7月7日（水）12：30～13：15

実習に必要な諸手続きを行ないますので、必ず参加すること。

#### 3. 場所 星ヶ丘ボウル

#### 4. 実習費 6,000円（15年度のものでありますので変更する場合があります。）

#### 5. 定員 40名

### 【評価方法】

出席状況と実習中の技術の上達度により総合評価する。

## ASU TOEIC I E

天野純子 太田晶子

### 【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。最高期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

### 【授業計画】

第1回 オリエンテーションおよび模擬演習

第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト

・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）

・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）

・演習（文法問題・Reading・リスニング）（30分）

・問題解説（25分）

第15回 模擬テスト

\*宿題 読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分

（合計 7時間×13回＝91時間）

リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分

（合計 7時間×13回＝91時間）

### 【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。



## ASU TOEIC I F

天野純子 太田晶子

### 【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。最高期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習  
第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト
- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
  - ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
  - ・演習（文法問題・Reading・リスニング）（30分）
  - ・問題解説（25分）
- 第15回 模擬テスト
- \*宿題 読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分  
（合計 7時間×13回＝91時間）
  - リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分  
（合計 7時間×13回＝91時間）

### 【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

## ASU TOEIC II F

STEPHENSON, Brett DUNKLEY, Daniel

### 【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。半期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習  
第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト
- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
  - ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
  - ・演習（リスニング・Reading）（30分）
  - ・問題解説（25分）
- 第15回 模擬テスト
- \*宿題 読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分  
（合計 7時間×13回＝91時間）
  - リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分  
（合計 7時間×13回＝91時間）

### 【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

## ASU TOEIC II E

STEPHENSON, Brett DUNKLEY, Daniel

### 【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。半期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

### 【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習  
第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト
- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
  - ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
  - ・演習（リスニング・Reading）（30分）
  - ・問題解説（25分）
- 第15回 模擬テスト
- \*宿題 読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分  
（合計 7時間×13回＝91時間）
  - リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分  
（合計 7時間×13回＝91時間）

### 【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

## 上級英語セミナー 2004A

WRINGER, Paul

### 【Course Content】

週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。  
4年間続けて履修できる。（1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。）

### 【Schedule】

Topics will be covered over a two to three week period and will include a variety of interesting and motivating themes selected mostly by the teacher.

First semester (AESa)  
Personal information  
Travel & vacations  
Strange phenomena  
Entertainment  
Crime & capital punishment  
Controversy

### 【Assessment】

Assessment will be continual and based on the following criteria:  
ATTENDANCE  
CLASS PARTICIPATION / EFFORT  
HOMEWORK AND ASSIGNMENTS  
END OF SEMESTER REPORTS  
TOEIC SCORES

### 【Textbooks】

To be announced.

「上級英語セミナー2004A」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。WRINGER, Paul先生（木曜日1限）、CURRAN, Beverley先生（金曜日5限）の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。



## 上級英語セミナー 2004A

CURRAN, Beverley

### 【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

### 【Schedule】

Each week, in my class, a different student will be responsible for selecting a topic and introducing a discussion about it in English. The other students will listen with attention and then continue the discussion through their own questions and comments. The goal in each class is to engage in animated discussion for 90 minutes, giving each student an opportunity to grow more comfortable and confident in initiating and continuing a conversation or discussion in English. Special guests will also be invited to the class to talk about themselves with the students in a relaxed and supportive atmosphere.

### 【Assessment】

Assessment will be based on participation and effort.

### 【Textbooks】

No text required.

「上級英語セミナー2004A」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。WRINGER, Paul先生(木曜日1限)、CURRAN, Beverley先生(金曜日5限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

## 上級英語セミナー 2004B

CURRAN, Beverley

### 【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

### 【Schedule】

In the second semester, discussions will continue, and students will be encouraged to take more responsibility for engaging in discussion and offering support to the speaker through a thoughtful consideration of the topic. Each week will be a chance to grow closer as a group of engaged language learners whose communal energy will motivate individual student growth in English ability and self-confidence. Special guests will also be invited to the class to talk to the students in English in a relaxed but lively atmosphere.

### 【Assessment】

Assessment will be based on participation and effort.

### 【Textbooks】

No text required.

「上級英語セミナー2004B」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。WRINGER, Paul先生(木曜日1限)、CURRAN, Beverley先生(金曜日5限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

## 上級英語セミナー 2004B

WRINGER, Paul

### 【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

### 【Schedule】

Topics will be covered over a two to three week period and will include a variety of interesting and motivating themes selected mostly by the teacher.

Second semester (AESb)  
The past  
Current events in the news  
Relationships  
Food & Health  
Fashion  
The world of work

### 【Assessment】

Assessment will be continual and based on the following criteria:

ATTENDANCE  
CLASS PARTICIPATION / EFFORT  
HOMEWORK AND ASSIGNMENTS  
END OF SEMESTER REPORTS  
TOEIC SCORES

### 【Textbooks】

To be announced.

「上級英語セミナー2004B」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。WRINGER, Paul先生(木曜日1限)、CURRAN, Beverley先生(金曜日5限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

## 上級英語セミナー 2004C

横山綾子

### 【授業の概要】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

習得した英語を使い、さらに通訳になるための訓練に進むと、今までの学習内容とは異なったものも要求される事に気がつくでしょう。それは言語の知識、訳出技術に加え論理的思考や外国人と心のcommunicationをしたいと思うか、未知の事柄や社会の問題を知りたいと思う好奇心があるか…等です。

さらに人に頼らず判断し、自分の考えを表現する自主性も大切です。このクラスではニュース記事とテープを使い、時事英語の知識と通訳に欠かせぬFIFO(First in First out)の技術を体得します。さらに自然で美しい日本語への訳し方、学習した時事問題を分かりやすい英語で話す練習もします。

Memoを取りspeedyな訳出も出来るようになって欲しいと思います。最終的には国際的な場面で社会の問題を話し合える知識と技術を身に付ける、そして国際交流に貢献して欲しいと希望します。

### 【授業計画】

第一回  
通訳一般概論 Sight translation  
第二～十回  
The Student Timesからの記事使用(テープ)  
Shadowing Sight translationメモ取  
逐次通訳演習  
同時通訳入門

### 【評価方法】

出席状況 平常の実技評価 Translation test

### 【テキスト】

The Student Times その他

「上級英語セミナー2004C」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。横山先生(水曜日3限)、Long, Jonathan E.B.先生(木曜日3限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。



## 上級英語セミナー 2004C

LONG, Jonathan E.B.

### 【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

In this course the students will use all four language skills to explore the similarities and differences between Japanese and North American cultures. The class activities will include some TOEFL test preparation.

### 【Schedule】

Not yet determined.

### 【Assessment】

This will be a combination of attendance, class participation and homework.

### 【Textbooks】

To be announced.

### 【Reference】

To be announced.

「上級英語セミナー2004C」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。横山先生(水曜日3限)、Long, Jonathan E.B.先生(木曜日3限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

## 上級英語セミナー 2004D

LONG, Jonathan E.B.

### 【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

In this course the students will use all four language skills to explore the similarities and differences between Japanese and North American cultures. The class activities will include some TOEFL test preparation.

### 【Schedule】

Not yet determined.

### 【Assessment】

This will be a combination of attendance, class participation and homework.

### 【Textbooks】

To be announced.

### 【Reference】

To be announced.

「上級英語セミナー2004D」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。横山先生(水曜日3限)、Long, Jonathan E.B.先生(木曜日3限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

## 上級英語セミナー 2004D

横山綾子

### 【授業の概要】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

習得した英語を使い、さらに通訳になるための訓練に進むと、今までの学習内容とは異なったものも要求される事気がつくでしょう。それは言語の知識、訳出技術に加え論理的思考や外国人と心のcommunicationをしたいと思うか、未知の事柄や社会の問題を知りたいと思う好奇心があるか…等です。

さらに人に頼らず判断し、自分の考えを表現する自主性も大切です。このクラスではニュース記事とテープを使い、時事英語の知識と通訳に欠かせぬFIFO(First in First out)の技術を体得します。さらに自然で美しい日本語への訳し方、学習した時事問題を分かりやすい英語で話す練習もします。

Memoを取りspeedyな訳出も出来るようになって欲しいと思います。最終的には国際的な場面で社会の問題を話し合える知識と技術を身に付ける、そして国際交流に貢献をして欲しいと希望します。

### 【授業計画】

第一回

通訳一般概論 Sight translation

第二～十回

The Student Timesからの記事使用(テープ)

Shadowing Sight translation メモ取り

逐次通訳演習

同時通訳入門

### 【評価方法】

出席状況 平常の実技評価 Translation test

### 【テキスト】

The Student Times その他

「上級英語セミナー2004D」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。横山先生(水曜日3限)、Long, Jonathan E.B.先生(木曜日3限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

## 上級英語セミナー 2004E

WOODMAN, Jo-Anne

### 【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

Good translation / interpretation / communication requires, among other things, an extensive knowledge of vocabulary, so this course will require students to demonstrate a vast improvement in their vocabulary - in both written and spoken forms.

Vocabulary lists / tests will be generated from:

a) teacher presented materials - (ie. CNN and BBC news broadcasts, as well as a wide gamut of newspaper articles)

b) student research - (students will be required to prepare one newspaper article for class discussion each week - this will include preparing an extensive vocabulary list as well as brief background and contextual information about the article)

c) TOEIC vocabulary text / materials

The course will deal with contemporary issues throughout the world, so emphasis will be placed on encouraging the students to improve their general knowledge of world affairs.

Inherent in this course will be the need for the students to "think on their feet", that is to say they will have to glean as much information as they can from class presentations and then ask questions and participate in discussions.

### 【Schedule】

The aim of this course is to discuss up-to-date issues, so the schedule will be determined by the current events of the week. However, students should expect to address social, economic, political, religious, environmental, medical and other such issues.

### 【Assessment】

Assessment will include the following components:

- 1) Vocabulary tests - 3 types
- 2) Preparation for (and participation in) class discussions
- 3) Listening comprehension activities
- 4) Attendance

「上級英語セミナー2004E」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。WOODMAN, Jo-Anne先生(水曜日4限)、横山先生(火曜日3限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。



## 上級英語セミナー 2004E

横山綾子

### 【授業の概要】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

習得した英語を使い、さらに通訳になるための訓練に進むと、今までの学習内容とは異なったものも要求される事に気がつくでしょう。それは言語の知識、訳出技術に加え論理的思考や外国人と心のcommunicationをしたいと思うか、未知の事柄や社会の問題を知りたいと思う好奇心があるか…等です。

さらに人に頼らず判断し、自分の考えを表現する自主性も大切です。このクラスではニュース記事とテープを使い、時事英語の知識と通訳に欠かせぬFIFO(First in First out)の技術を体得します。さらに自然で美しい日本語への訳し方、学習した時事問題を分かりやすい英語で話す練習もします。

Memoを取りspeedyな訳出も出来るようになって欲しいと思います。最終的には国際的な場面で社会の問題を話し合える知識と技術を身に付ける、そして国際交流に貢献をして欲しいと希望します。

### 【授業計画】

第一回

通訳一般概論 Sight translation

第二～十回

The Student Timesからの記事使用(テープ)

Shadowing Sight translation メモ取り

逐次通訳演習

同時通訳入門

### 【評価方法】

出席状況 平常の実技評価 Translation test

### 【テキスト】

The Student Times その他

「上級英語セミナー2004E」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。横山先生(火曜日3限)、WOODMAN, Jo-Anne先生(水曜日4限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

## 上級英語セミナー 2004F

横山綾子

### 【授業の概要】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

習得した英語を使い、さらに通訳になるための訓練に進むと、今までの学習内容とは異なったものも要求される事に気がつくでしょう。それは言語の知識、訳出技術に加え論理的思考や外国人と心のcommunicationをしたいと思うか、未知の事柄や社会の問題を知りたいと思う好奇心があるか…等です。

さらに人に頼らず判断し、自分の考えを表現する自主性も大切です。このクラスではニュース記事とテープを使い、時事英語の知識と通訳に欠かせぬFIFO(First in First out)の技術を体得します。さらに自然で美しい日本語への訳し方、学習した時事問題を分かりやすい英語で話す練習もします。

Memoを取りspeedyな訳出も出来るようになって欲しいと思います。最終的には国際的な場面で社会の問題を話し合える知識と技術を身に付ける、そして国際交流に貢献をして欲しいと希望します。

### 【授業計画】

第一回

通訳一般概論 Sight translation

第二～十回

The Student Timesからの記事使用(テープ)

Shadowing Sight translation メモ取り

逐次通訳演習

同時通訳入門

### 【評価方法】

出席状況 平常の実技評価 Translation test

### 【テキスト】

The Student Times その他

「上級英語セミナー2004F」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。横山先生(火曜日3限)、WOODMAN, Jo-Anne先生(水曜日4限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

## 上級英語セミナー 2004F

WOODMAN, Jo-Anne

### 【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

Good translation / interpretation / communication requires, among other things, an extensive knowledge of vocabulary, so this course will require students to demonstrate a vast improvement in their vocabulary in both written and spoken forms.

Vocabulary lists / tests will be generated from:

a) teacher presented materials (ie. CNN and BBC news broadcasts, as well as a wide gamut of newspaper articles)

b) student research (students will be required to prepare one newspaper article for class discussion each week - this will include preparing an extensive vocabulary list as well as brief background and contextual information about the article)

c) TOEIC vocabulary text / materials

The course will deal with contemporary issues throughout the world, so emphasis will be placed on encouraging the students to improve their general knowledge of world affairs.

Inherent in this course will be the need for the students to "think on their feet", that is to say they will have to glean as much information as they can from class presentations and then ask questions and participate in discussions.

### 【Schedule】

The aim of this course is to discuss up-to-date issues, so the schedule will be determined by the current events of the week. However, students should expect to address social, economic, political, religious, environmental, medical and other such issues.

### 【Assessment】

Assessment will include the following components:

- 1) Vocabulary tests - 3 types
- 2) Preparation for (and participation in) class discussions
- 3) Listening comprehension activities
- 4) Attendance

「上級英語セミナー2004F」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。WOODMAN, Jo-Anne先生(水曜日4限)、横山先生(火曜日3限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

## 中国語読解 1 A

大森信徳 河井昭乃 曹志偉

### 【授業の概要】

身近な実用読解文を多くとりあげた教材を通じて中国語の初級段階を総合的に学習し、中国語の文法面・表現面における全体像がつかめるような基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の2級に受かることを目標に定め、<中国漢語水平考試大綱>に規定された400~900前後の語彙力と70項目の文法力を身につける。このことで、中国語の平易な文面の読解が可能になると同時に、履修翌学期からHSK試験対策コースである<HSK基礎コースA><HSK基礎コースB>の履修が可能になる。

### 【授業計画】

- 1、オリエンテーション
- 2、母音、数字、挨拶
- 3、疑問文、形容詞述語文
- 4、子音、声調、曜日表現、
- 5、省略疑問文、疑問詞疑問文
- 6、音節、勧誘表現
- 7、動詞述語文、指示代名詞
- 8、我姓松本。自己紹介
- 9、介詞"和"、副詞"也""都"
- 10、我的家庭。所有・存在の"有"、名詞述語文
- 11、部分否定文、感嘆表現、変調と軽声
- 12、我們的大学。介詞"給""在"
- 13、名詞の修飾表現
- 14、我的一天。時の表現、方向補語
- 15、まとめ

### 【評価方法】

出席、平常点、期末試験。



## 中国語読解 1 B

大森信徳 河井昭乃 曹志偉

### 【授業の概要】

講義の内容等とカリキュラム上の位置づけは<中国語読解 1 A>と大同小異であるが、中国語学習に対して特別に関心を示す学生に対して週2回の受講を可能にするため設定された講義である。ただし、文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<中国語読解 1 A>と異なっている教材を使用する。このことで、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことで HSK の合格をより確実なものにすることを図る。

### 【授業計画】

読解に必要な、基礎的な表現や文法事項を、特に日本人の苦手な部分に重点を置いて、半期にわたって講義する。

- |      |              |
|------|--------------|
| 第一課  | 発音 (1)       |
| 第二課  | 発音 (2)       |
| 第三課  | 発音 (3)       |
| 第四課  | 発音 (4)       |
| 第五課  | 人称代名詞・“是”    |
| 第六課  | 指示代名詞・数詞・量詞  |
| 第七課  | 形容詞と形容詞述語文   |
| 第八課  | 動詞述語文        |
| 第九課  | “有”・年月日      |
| 第十課  | 場所・時間・数量     |
| 第十一課 | 前置詞 (介詞)・“了” |
| 第十二課 | 能願動詞         |

### 【評価方法】

出席、平常点、期末試験。

### 【テキスト】

愛知淑徳大学生のための中国語読解 1 B (中国語教育委員会編)

### 【参考文献・資料】

教場で指示する。

## 中国語会話 1 B

大森信徳 河井昭乃 曹志偉

### 【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは<中国語会話 1 A>と大同小異であるが、中国語学習に対して特別に関心を示す学生に対して週2回の受講を可能にするため設定された講義である。ただし、文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定などが<中国語会話 1 A>と異なっている教材を使用する。このことで、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことで HSK の合格をより確実なものにすることを図る。

### 【授業計画】

- 1、オリエンテーション
- 2、今天星期幾? 曜日と疑問詞利用の疑問文
- 3、我很高興。省略疑問文、形容詞述語文
- 4、我學習中文專業。能願動詞“能”
- 5、現在幾點? 時間表現、語氣助詞“了”
- 6、我的家庭。介詞“在”
- 7、談天氣。天氣表現、選択疑問文、感嘆文、
- 8、邀請。假定文、反復疑問文、部分否定文
- 9、中間テスト
- 10、我的大學。伝聞の表現
- 11、找手機。目的語位置換えの“把”、結果補語“到”
- 12、喜歡甚麼? 過去の経験表現「V+“過”」  
結果や程度表現「V+“得”」
- 13、幫我。能願動詞“會”
- 14、假期做甚麼? 結果補語“好”
- 15、まとめ

### 【評価方法】

出席、平常点、期末試験。

## 中国語会話 1 A

大森信徳 河井昭乃 曹志偉

### 【授業の概要】

分かりやすい実用会話文を多くとりあげた教材を通じて中国語の初級段階を総合的に学習し、中国語の音声面・表現面における全体像がつかめるような基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の2級に受かることを目標に定め、HSK試験センターより出された<中国漢語水平考試大綱>に規定された400~900前後の語彙力と70項目の文法力を身に付ける。このことで、一般的な挨拶・自己紹介などが可能になると同時に、履修翌学期からHSK試験対策コースである<HSK基礎コースA><HSK基礎コースB>の履修が可能になる。

### 【授業計画】

初めて中国語を学ぶ学生を対象に日常会話表現の習得を目指す。

- |      |          |
|------|----------|
| 第一課  | 発音 (1)   |
| 第二課  | 発音 (2)   |
| 第三課  | 発音 (3)   |
| 第四課  | 発音 (4)   |
| 第五課  | あいさつ表現   |
| 第六課  | 時間の表し方   |
| 第七課  | 年齢を言う    |
| 第八課  | 家庭を語る    |
| 第九課  | 自分の家を語る  |
| 第十課  | 学校について語る |
| 第十一課 | 趣味について語る |
| 第十二課 | 中国へ行く    |

### 【評価方法】

出席、平常点、期末試験。

### 【テキスト】

愛知淑徳大学生のための中国語会話 1 A・2 (中国語教育委員会編)

### 【参考文献・資料】

教場で指示する。

## 中国語読解 2

大森信徳 河井昭乃 曹志偉

### 【授業の概要】

読解学習を通じて中国語の全体像がつかめる基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の3級に受かることを目標に定め、<中国漢語水平考試大綱>に規定された900~1500前後の語彙力と140項目の文法力を身に付ける。HSK試験対策のためには<HSK基礎コースA>か、<HSK基礎コースB>と並行した履修が望ましく、基礎能力の深度を深めるためには<中国語会話 2>と並行した履修が望ましい。

### 【授業計画】

- 1、就要放暑假了。語氣助詞“了”、介詞“和”
- 2、伝聞の表現、能願動詞“想”“要”
- 3、暑假回家的一天。完了の表現、結果補語“到”
- 4、使役の表現“讓”
- 5、鈴木一家。能願動詞“會”“能”
- 6、過去の経験表現「V+“過”」
- 7、我家的照片。動作の進行・状態の持続などの表現「V+“着”」
- 8、介詞“離”、連動文
- 9、終於習慣了。感嘆表現 2
- 10、自己の意見表示
- 11、我做了一個夢。動作の進行表現の「“在”+V」、程度補語と可能補語
- 12、副詞用法の“地”
- 13、我太幸福了。目的語位置換えの“把”、比較の表現、受身文
- 14、春假的計畫。未完了の表現、許諾の表現
- 15、まとめ

### 【評価方法】

出席、平常点、期末試験。



## 中国語会話 2

大森信徳 河井昭乃 曹志偉

### 【授業の概要】

主として、身近で分かりやすい実用例文を多くとりあげた会話学習を通じて、中国語の音声面・文法面・表現面における全体像がつかめるような基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の3級に受かることを目標に定め、HSK試験センターより出された中国漢語水平考試大綱に規定された900～1500前後の語彙力と140項目の文法力を身につける。履修後は、旅先での中国語による買い物などが可能になる。

### 【授業計画】

中国語会話1をクリアした学生が、さらに深く生きた中国語を話せるようになることを目指す。学生が、中国に留学している気分で学習できるように配慮した。

- |      |           |
|------|-----------|
| 第一課  | 部屋を借りる    |
| 第二課  | 換金する      |
| 第三課  | 道を尋ねる     |
| 第四課  | 交通機関を利用する |
| 第五課  | 市場での買い物   |
| 第六課  | デパート      |
| 第七課  | ホテル       |
| 第八課  | 郵便局       |
| 第九課  | 電話        |
| 第十課  | 中国人宅に訪問する |
| 第十一課 | レストラン     |
| 第十二課 | スピーチの仕方   |

### 【評価方法】

出席、平常点、期末試験。

### 【テキスト】

愛知淑徳大学生のための中国語会話1A・2（中国語教育委員会編）

### 【参考文献・資料】

教場で指示する

## HSK 基礎コースA ※聴解中心

大森信徳 河井昭乃 曹志偉

### 【授業の概要】

履修後、HSK基礎試験の2級か3級に受かることを目標に定めた授業である。ねらいの試験で要求される400～1500前後の語彙量とその語彙量に相応する文法力を身につける。

### 【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。各課の文法のポイントは下記の通りである。

1. “了”や“过”の使い方など
2. “時点”の言い方や“时段”の言い方など
3. “小时”や“钟头”の使い方など
4. “方位词表”について
5. “多会儿”や“哪会儿”の使い方など
6. “该”や“应该”の使い方など
7. 介詞の“朝”、“向”と“往”の使い方
8. 比較表現について
9. “是字句”について
10. “愿意”や“想”の使い方など
11. “趋向补语”について
12. “复合趋向补语”である“下来”や“下去”などの意味について  
授業の予習としてホームページを利用することができる。

### 【評価方法】

出席、平常点、期末試験。

### 【テキスト】

HSK基礎A

## HSK 基礎コースB ※読解中心

大森信徳 河井昭乃 曹志偉

### 【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは<HSK基礎コースA>と大同小異であるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK基礎コースA>で用いる教材と異なっている教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

### 【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。各課の文法のポイントは下記の通りである。

1. “我”と“你”；“左右”と“前后”など
2. “是”；“语气助词”の“吗”と“呢”など
3. “了”；“形容词谓语句”など
4. “动词+过”と“形容词+过”；“在”など
5. “数量补语”；“头”と“面”など
6. “有字句”；结构助词“地”など
7. “量词的重叠”；“把字句”など
8. “从”と“离”；“一边～一边～”など
9. “都”と“一共”；“程度补语”など
10. “被字句”；“在・正・正在”など
11. “趋向补语”；“多么”など
12. “复合趋向补语”；“是～还是～”など

授業の予習としてホームページを利用することができる。

### 【評価方法】

出席、平常点、期末試験。

### 【テキスト】

HSK基礎B



下記の科目は、本年度開講しません。

## 中国語読解 3

### 【授業の概要】

読解中心のテキストを用い、更なる意欲で中国語の表現の学習に励み中国語文の読解力と理解力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初等試験の4級に受かることにねらいを定め、1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。HSK試験対策のためには<HSK初等コースA>か、<HSK初等コースB>と並行した履修が、中国語コミュニケーションの深度を深めるためには<中国語会話3>と並行した履修が望ましい。

## HSK 初等コースA ※聴解中心

### 【授業の概要】

履修後、HSK初等試験の4級に受かることを目標に定めた授業である。ねらいの試験で要求される1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法力をマスターしていく。

## 中国語読解 4

### 【授業の概要】

読解中心のテキストを用い、更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語の読解力と理解力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初・中等試験の5級に受かることにねらいを定め、2000～2500前後の語彙量とそれに相応する文法力を身につける。HSK試験対策のためには<HSK中等上級コースA>か、<HSK中等上級コースB>と並行した履修が、中国語コミュニケーションの深度を深めるためには<中国語会話4>と並行した履修が望ましい。

## HSK 中等上級コースA ※聴解中心

### 【授業の概要】

履修後、HSK初・中等試験の5級に受かることを目標に定めた授業である。ねらいの試験で要求される2000～2500前後の語彙量とそれに相応する文法力をマスターしていく。

## 中国語会話 3

### 【授業の概要】

第二外国語として一年間ほど中国語を学んできた学習者が、生活において日常的に取りあげられる話題を中心に構成された会話のテキストを用い更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語によるコミュニケーション能力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初等試験の4級に受かることにねらいを定め、1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。履修後は家族生活・大学生活などについて語る事ができる。

## HSK 初等コースB ※読解中心

### 【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは<HSK初等コースA>と大同小異であるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK初等コースA>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

## 中国語会話 4

### 【授業の概要】

1. 5年間ほど中国語を学んできた学習者が、生活において日常的に取りあげられる話題を中心に構成された会話のテキストを用い更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語によるコミュニケーション能力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初・中等試験の5級に受かることにねらいを定め、2000～2500前後の語彙量とそれに相応する文法力を身につける。履修後は趣味生活・地域社会などについて語る事ができる。

## HSK 中等上級コースB ※読解中心

### 【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは<HSK中等上級コースA>と大同小異であるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK初等コースA>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。



## 中国語作文 1

### 【授業の概要】

第二外国語として2年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、みずから平易な中国語文章が書けることにねらいをさだめる。さらに、HSK中等試験の6級または7級に受かることを目標にし、2500～3500前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。

## HSK 中等高級コース 1 B ※読解中心

### 【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは< HSK 中等高級コース 1 A >と大同小異であるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が< HSK 中等高級コース 1 A >で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

## 中国語作文 2

### 【授業の概要】

2. 5年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、中国語の一般的な文章が書けることにねらいを定める。さらに、HSK中等試験の7級または8級に受かることを目標にし、3500～4000前後の語彙量とそれに相応する文法項目を身につける。履修後は、友人・知人への略式手紙、中国官公署向けの書類作成、中国語による日記・メモの作成などが可能になる。

## HSK 中等高級コース 2 B ※読解中心

### 【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは< HSK 中等高級コース 2 A >と大同小異であるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が< HSK 中等高級コース 2 A >で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

## HSK 中等高級コース 1 A ※聴解中心

### 【授業の概要】

履修後、HSK中等試験の6級または7級に受かることを目標に定めた授業である。ねらいの試験で要求される2500～3500前後の語彙量とそれに相応する文法力をマスターしていく。

## 同時通訳入門 1

### 【授業の概要】

第二外国語として2年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、初歩的な同時通訳ができる実力を養成する。ねらいは、高度な中国語の運用能力を身につけ、実社会で中国語を使った仕事ができることに定める。さらに、HSK中等試験の6級または7級に受かることを目標にし、2500～3500前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。

## HSK 中等高級コース 2 A ※聴解中心

### 【授業の概要】

履修後、HSK中等試験の7級または8級に受かることを目標に定めた授業である。ねらいの試験で要求される3500～4000前後の語彙量とそれに相応する文法力をマスターしていく。

## 同時通訳入門 2

### 【授業の概要】

2. 5年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、平易な同時通訳ができる実力を養成する。ねらいは、高度な中国語の運用能力を身につけ、実社会で中国語を使った仕事ができることに定める。さらに、HSK中等試験の7級または8級に受かることを目標にし、3500～4000前後の語彙量とそれに相応する文法項目を身につける。HSK試験対策のためには< HSK 中等高級コース 2 A >か、< HSK 中等高級コース 2 B >と並行した履修が、中国語表現の深度を深めるためには< 中国語作文 2 >と並行した履修が望ましい。



## 研究技法 I (データ解析)

太田浩司

### 【授業の概要】

この講義では調査によって収集されたデータをSPSSという統計パッケージを利用して解析する手法を紹介する。扱う統計手法は記述統計、ピアソン積率相関、T-検定、分散分析、重回帰分析を予定している。特にデータ分析の結果の読み方と解釈の仕方に焦点を置く。講義の詳しい内容は最初の授業で知らせる。

### 【授業計画】

学期の最初に提示をする。

### 【評価方法】

出席、学期末データ分析ペーパー。

### 【テキスト】

未定

### 【参考文献・資料】

パソコンによるデータ解析 (新村秀一著 講談社ブルーバックス)

## 国際社会特別講義V (比較政治論)

西尾林太郎

### 【授業の概要】

東アジアにおける国際体系の変化と中国、韓国、日本の近代史は深く連動しながら展開した。この点を考慮しつつ、政治的近代化論を軸として、中・韓・日3国の近代史と現代の政治システムについて比較分析することを、本講義の目的とする。また、その結果をふまえて、「アジア的国家」と西欧近代国家との比較も試みたい。

### 【授業計画】

- 1 「沖繩」からみた近代日本〜プロローグに代えて〜
- 2 伝統的東アジアの国際秩序
- 3 科学官僚制と中国の近代化
- 4 両班 (ヤンパン) と李氏朝鮮の近代化
- 5 徳川幕藩体制と日本の近代化
- 6 アメリカの発展と太平洋進出
- 7 “アジア的国家”とは何か?
- 8 イギリス、ドイツ、フランスにおける政治的近代化
- 9 stateとnation
- 10 1950年代〜80年代における中国、韓国の政治と社会

### 【評価方法】

出席状況とレポートによる。

### 【テキスト】

特に定めない。随時、資料を配布する。

### 【参考文献・資料】

1. *Asian Power and Politics: The Cultural Dimensions of Authority* (Lucian W. Pye Harvard Univ. Press)
2. ステイトとネイション——近代国民国家と世界経済の政治経済学—— (佐々木隆生『経済学研究』VOL.47〜50、北海道大学経済学部、1997〜2000年、に連載)

## 地域社会特別講義IV (地域文化論)

谷沢 明

### 【授業の概要】

「風土・歴史・文化を生かした地域づくり」をテーマとした事例研究の講義をする。併せて、受講生によるプレゼンテーションも行なう。

### 【授業計画】

1. 北海道池田町：ワインによる地域づくり
2. 大分県大山村：「村おこし」の元祖
3. 長野県南木曾町：「町並み保存」の元祖・妻籠宿
4. 石川県金沢市：城下町の歴史を生かした景観形成
5. 山口県萩市：城下町の歴史を生かした景観形成
6. 北海道函館市：港町の歴史を生かした都市づくり
7. 長崎県長崎市：港町の歴史を生かした都市づくり
8. 北海道小樽市：小樽運河保存問題と都市景観保全
9. 福岡県柳川市：掘割を生かした環境形成
10. 滋賀県近江八幡市：八幡堀の保全とまちづくり
11. 岐阜県八幡町：水の恵みを生かした地域づくり
12. 受講生による課題の成果発表

### 【評価方法】

「風土・歴史・文化を生かした地域づくり」をテーマに、夫々が該当地を1箇所取材して事例研究を行い、その成果をパワーポイントで作成し、発表・提出する。成果物は、CDRで提出のこと。評価は成果物CDRとその発表、及び平生の授業態度で行なう。

### 【テキスト】

テキストは特に使用しないが、次の参考文献を使用する。

まちづくりの実践 (田村明 著 岩波新書)

町並みまちづくり物語 (西村幸夫 著 古今書店)

歴史的文化遺産の保存・活用とまちづくり (大河直躬編 学芸出版社)

都市の歴史とまちづくり (大河直躬編 学芸出版社)

新・町並み時代 (全国町並み保存連盟 学芸出版社)

インターネット等を利用して、各自が予習・復習を行なうこと。

## メディアプロデュース特別講義IV (教育メディア論)

大西 誠

### 【授業の概要】

デジタルメディア社会をむかえ、メディアの教育性が注目されている。いわゆる教材・教具から映像をベースにした番組やインターネットまで幅広いメディアの教育利用が求められている。メディアの成り立ちや歴史的發展とともにメディアの教育利用について理論と実習を通じて明らかにする。

### 【授業計画】

近年、市民が番組を制作する機会が多くなっている。取材 (ロケ) 映像とスタジオ映像とは、それぞれどのような特徴があり、どのように作られているのか。また、それらを効果的に組み合わせる市民に資する番組を制作するには、どうしたら良いか。基本的なモデルを教育番組に求める。

本講では、教育メディアの歴史と理論を学ぶとともに、情報化社会におけるメディアのあり方や教育とのかかわりを、実際に放送された教育・教養番組の内容を分析し、グループ・ワークで番組を試作する。

- ・教育番組の制作過程
- ・「日本賞」教育番組国際コンクール
- ・映像制作技術 (実習)
- ・インターネット交流  
など

### 【評価方法】

授業への参加度、期末の課題と作品で評価する。

### 【テキスト】

未定



## 都市環境デザイン特別講義II (建築保存再生論)

河辺泰宏

### 【授業の概要】

西洋と日本を中心に、都市と建築の歴史的遺産について理解を深めるとともに、それらの保存・修復・復原や都市資産としての利活用の方法について論じる。

### 【授業計画】

授業は主に講義形式で進めるが、テーマによって担当者を決め、報告会を行うことがある。

- 1) 破壊との闘い  
人類の蛮行と遺産保護への執念
- 2) 変りゆく保存の概念  
文化遺産保存活動の歴史とユネスコの世界遺産条約
- 3) 開発・建設の時代から維持・再生の時代へ  
建築におけるサステナビリティ
- 4) 文化財保存の論理  
日本における文化財保護の歴史
- 5) 文化財保存の事例研究  
日本・イタリア・トルコ・シリア etc.
- 6) 町並み保存の論理  
日本における町並み保存の歴史
- 7) 町並み保存事例研究  
ポーランド・妻籠・長浜・倉敷 etc.
- 8) 近代建築保存の論理  
近代建築および近代遺産の保存・再生の歴史
- 9) 近代建築保存・再生の技法  
保存・再生の基本理念と具体的方法
- 10) 近代建築保存・再生の事例研究  
神戸・横浜・大阪・京都 etc.

### 【評価方法】

授業や見学会への参加状況とレポート、課題発表の内容等によって決める。

### 【テキスト】

必要に応じてプリントを配布する。

## 主題講義II

垂井洋蔵 日色真帆

### 【授業の概要】

建築のデザインの前提として、我々は制作者として、現代という時間と空間、さらに建築の作り出す場所としての都市をどうとらえるのか、そして、作ることの意味について自らの立場を表明することができなければならない。建築の制作にかかわるさまざまなキーワードをもとに、建築とそれをとりまく事象との関連を、建築分野以外の制作にかかわる視点も参考にしながら考察する。

### 【授業計画】

数人の講師による集中講義の形式をとる。講義の前提となる、問題の提示、学生による発表の後、さまざまな分野の講師による講義を行い、最終的な討論と総括を行う。

詳細なテーマは別途決定次第発表する。

### 【評価方法】

研究発表とレポートによる。

### 【テキスト】

使用しない。

### 【参考文献・資料】

講義の初めに紹介する。

## 都市環境デザイン特別講義III (情報化建築論)

吉田邦彦

### 【授業の概要】

現在の都市・建築は、マルチメディア化とネットワーク化により著しく進展した情報化(高度情報化)によって、大きな変革が進みつつある。情報化の観点から、生活空間の変化の方向を探り、それらが今後の都市・建築のあり方およびそこの生活にどのような影響を与えるかを論じる。

### 【授業計画】

下記のテキストを各自が読解し、ディスカッション形式で理解が深まるように講義を進める。

### 【評価方法】

分担部分の発表内容・形式、討議への参加、および課題に対するレポートなどを総合して評価する。

### 【テキスト】

- (1) シティ・オブ・ビットー情報革命は都市・建築をどうかえるかー  
(ウィリアム・J・ミッチェル著 掛井秀一他訳 彰国社)
- (2) e-トピアー新しい都市創造の原理ー  
(ウィリアム・J・ミッチェル著 渡辺俊訳 丸善株式会社)

## 文化創造総論 (異文化理解と創造)

榎田勝利 島田修三 清水良典 皆川修吾

### 【授業の概要】

主体的かつ創造的な表現に必要な人間性や知的な奥行き、そして日本の伝統文化への造詣、また国際交流に必要な異文化理解や現状認識、それに実践的処理能力など、より高度な文化創造への素養や姿勢、加えて人間の感性や理性に働き掛ける心理的・社会的状態など文化創造の根元について学ぶ。

(オムニバス方式)  
(島田教授) 日本文化の伝統的特質を古典文学の表現を通して学び、日本人が歴史的に培った固有性およびグローバルな普遍性への志向を探る。  
(清水教授) 現代日本における多様化しグローバル化した文化状況を現代文学の表現を通して学び、日本固有の文化創造の可能性を考える。  
(皆川教授) 地球存続に必要なグローバル共生文化の涵養プロセスと共生文化の理念を軸とした異文化理解や現状認識の術を学ぶ。  
(榎田教授) 国際交流の実践に必要な素養や姿勢を学び、創造されつつあるグローバル市民社会の現状を検証し、発展的に将来像を探る。

### 【授業計画】

- 第1回 日本古典文学における伝統と文化の意識の発生
- 第2回 日本古典文学における中国文学の受容とその独自の再編
- 第3回 日本古典文学における文化的独創性の獲得
- 第4回 近代文学の文体について
- 第5回 言文一致運動期の文体模索について
- 第6回 現代文学の文体実験について
- 第7回 社会科学としての文化論：文化を分析概念として使う
- 第8回 国際社会の変容：価値体系の地球規模の共有化
- 第9回 国際秩序の制度化過程：歴史の視野とリアリズムを通しての現状認識
- 第10回 国際社会の変容とシビリアン・パワー
- 第11回 シビリアン・パワーとしてのNGO
- 第12回 シビリアン・パワーの現状と将来

### 【評価方法】

出席および各教員の講義ごとに1200字のレポートを課し、総合的に評価する

### 【テキスト】

授業中に適宜、プリントを配布する

### 【参考文献・資料】

各講義ごとに授業中に指示する



## 詩歌創作理論Ⅰ

荒川洋治

### 【授業の概要】

韻文作品を成立させる方法論や、その表現技術を支える修辞学等の創作に関わる基礎的な理論を取り上げ、どのように創作理論が実際の韻文テキストを構築していくか、という問題を創作のプロセスと関連させながら考えていく。

### 【授業計画】

現代詩前期（明治・大正・昭和）の詩論を読む。

- ・漢詩、和歌、俳諧の詩学
- ・岩野泡鳴の詩論
- ・萩原朔太郎の詩論
- ・西脇順三郎の詩論
- ・小野十三郎の詩論
- ・伊藤信吉の詩人論
- ・武者小路実篤と詩語

### 【評価方法】

出席状況とレポートによる。

### 【テキスト】

使用しない。

### 【参考文献・資料】

日本文学史（小西基一著 講談社学術文庫）  
伊藤信吉著作集第4巻（沖積舎）  
武者小路実篤詩集（角川文庫）  
詩を読む人のために（三好達治著 岩波文庫）  
詩とは何か（嶋岡農著 新潮選書）

## 散文創作理論Ⅰ

三木卓

### 【授業の概要】

近代・現代の代表的な作家における小説作法や小説観等の創作に関わる理論的な発言を検討しながら、それらが実際的小説作品の上にもどのような表現として反映されているか、という問題を解析的に考えていく。

### 【授業計画】

- 第1回 小説の創造について
- 第2～6回 近代小説の変遷
- 第7～11回 近代小説の諸理論
- 第12回 総括と議論

### 【評価方法】

皆出席を原則とする。出席ならびに、受講態度、議論に臨む姿勢、レポート内容等を総合的に評価する。

### 【テキスト】

開始時に指示する。

### 【参考文献・資料】

同上

## 詩歌創作理論Ⅱ

荒川洋治

### 【授業の概要】

韻文作品を成立させる方法論・技術論・修辞学に関する体系的理論のうち、主として現代詩に関する代表的なものを検討すると同時に、そうした創作理論と現代詩のテキストとの相互性を多角的に検証し、理論と実作の有機的な関係をとらえる。

### 【授業計画】

戦後の詩論を読む。

- ・小野十三郎の詩論
- ・田村隆一の詩論
- ・高見順「三人の詩について」
- ・粟津則雄の現代詩史

### 【評価方法】

出席状況とレポートによる。

### 【テキスト】

使用しない。

### 【参考文献・資料】

現代詩手帖（小野十三郎著 創元社）  
高見順全集第16巻（勁草書房）

## 散文創作理論Ⅱ

三木卓

### 【授業の概要】

リアリズム理論をはじめとする、近代・現代の体系的な小説創作理論を検討し、創作主体の姿勢・素材の選択・主題による素材の再構成・プロットの構想・登場人物の設定等の小説を成立させる諸問題との関係を考えていく。

### 【授業計画】

- 第1回 現代小説の諸問題
- 第2～6回 リアリズムの手法ならびに理論
- 第3～11回 脱リアリズムの手法ならびに理論
- 第12回 総括と議論

### 【評価方法】

皆出席を原則とする。出席ならびに、受講態度、議論に臨む姿勢、レポート内容等を総合的に評価する。

### 【テキスト】

開始時に指示する。

### 【参考文献・資料】

同上



## 映像創作理論 I

若松孝二

### 【授業の概要】

多くの創作表現ジャンルの中で、映画という動く映像表現の際立った特性を、その制作方法に関わる基礎的な理論および技術を通して考える。教材として、日本・外国映画の代表的な作品を用い、具体的な検討をしていく。

### 【授業計画】

映画製作のための作品分析と技法を学ぶ

1. 映画を作ることは？
2. 「寝盗られ宗介」鑑賞
3. 同作品の分析と技法の解明
4. 「エンドレスワルツ」鑑賞
5. 同作品の分析と技法の解明
6. 「キスより簡単」鑑賞
7. 同作品の分析と技法の解明
8. 「天使の恍惚」鑑賞
9. 同作品の分析と技法の解明
10. 「狂走情死考」
11. 同作品の分析と技法の解明
12. 映像の表現とカメラ位置について
13. シナリオの作成方法

### 【評価方法】

作品を分析したレポートで評価する

## 映像創作理論 II

若松孝二

### 【授業の概要】

映画の創作理論として、モンタージュ理論・リアリズム理論・フォトジェニー論等多くの歴史的成果が挙げられるが、これらをつぶさに検討しながら、現代映画が時代社会や、そこに生きる人間を映像化していく新たな理論の可能性について考えていく。

### 【授業計画】

映画とテレビの表現方法の相違、海外での製作、プロデューサーの役割について探究する。

1. テレビドラマ「ウェディング・ベル」の鑑賞と分析
2. 映画とテレビ製作との相違について
3. 「シンガポール・スリング」鑑賞
4. 海外での映画製作の実態について
5. 「愛のコリーダ」鑑賞
6. プロデューサーの役割について
7. 映画の予算の組み立て方
8. 俳優を指導する方法
9. シナリオの役割について

### 【評価方法】

作品を分析したレポートで評価する。

## ライフ・ライティング実作演習（随筆・自分史）

清水良典

### 【授業の概要】

3週間程度の限定された期間で、随筆あるいは自分史の実践的な創作を試み、ワークショップ作品として提出する。

### 【授業計画】

講義内で文章を書きながら、そのつど相互批評をしていくが、第10回までに各自のモチーフに従った作品（10～20枚程度）を執筆提出する。

- |         |                |
|---------|----------------|
| 第1回     | ライフ・ライティングとは何か |
| 第2・3回   | 「記憶」を書く        |
| 第4回     | 相互批評           |
| 第5～7回   | 文体づくりの試み       |
| 第8・9回   | 相互批評           |
| 第10～11回 | 提出作品の相互批評      |
| 第12回    | 全体講評           |

### 【評価方法】

集中講義形式なので、皆出席を原則とし、提出された作品の質によって評価する。

なお、優秀作品は、大学院ホームページ等で公開する。

### 【テキスト】

自分づくりの文章術（清水良典著 ちくま新書）

### 【参考文献・資料】

新作文宣言（梅田卓夫著 ちくま学芸文庫）

## フィクション実作演習 I（短篇小说）

清水良典

### 【授業の概要】

3週間程度の限定された期間で、短篇小说の実践的な創作を試み、ワークショップ作品として提出する。

### 【授業計画】

第10回までに、短篇小说（20～30枚程度）を提出する。

- |         |            |
|---------|------------|
| 第1回     | 短篇小说の特質    |
| 第2～6回   | 「描写」の練習    |
| 第7～9回   | 短篇小说の技術を読む |
| 第10～12回 | 相互批評と講評    |

### 【評価方法】

集中講義形式なので、皆出席を原則とし、提出された作品の質によって評価する。

なお、優秀作品は、大学院ホームページ等で公開する。

### 【テキスト】

戦後短篇小说再発見10 表現の冒険（講談社文芸文庫）

### 【参考文献・資料】

戦後短篇小说再発見1～18（講談社文芸文庫）



## フィクション実作演習Ⅱ(童話・ファンタジー)

酒井晶代

### 【授業の概要】

3週間程度の限定された期間で、童話あるいはファンタジーの実践的な創作を試み、ワークショップ作品として提出する

### 【授業計画】

400字詰原稿用紙10～20枚程度の短編を完成させることを目標とする。構想から完成に至る一連の作業を通して、童話・児童文学の特質を体験的に学ぶ場としたい。また、合評会をはじめとする受講者間の共同作業と交流を通して、作品の推敲や批評の方法も身に付けていきたい。

第1回 授業の進め方、全体計画について

第2回～作品の構想・執筆・推敲

第12回 完成作品の合評会

執筆段階をいくつかに分けて、課題を提出してもらう予定。授業は、各自の課題発表と相互批評を中心に進めていく。課題の執筆は自宅作業になる場合もあるので、注意すること。

### 【評価方法】

出席状況、発表内容や質疑応答の様子、課題などにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

未定。授業時に指示する。

### 【参考文献・資料】

未定。授業時に適宜指示する。

## 現代短歌実作演習

篠弘

### 【授業の概要】

3週間程度の限定された期間で、現代短歌の実践的な創作を試み、ワークショップ作品として提出する。

### 【授業計画】

定型詩としての短歌、その機能と魅力を理解するところから、表現の基本をつかむ。提出された短歌の添削と批評を実施し、現代短歌のレベルを目指した実作の指導をおこなう。

1. 定型のなりたち
2. 叙事と叙情
3. 心情の具象化
4. 写実の役割
5. 発想の単純化
6. 用語の選択
7. 比喩の活用
8. 個性の発見
9. 生活態度の反映
10. 連作の試み
11. 作品鑑賞の要点

### 【評価方法】

出席状況、授業内に提出された短歌、さらに題詠の成果等を総合的に評価する。

### 【テキスト】

生き方の表現(篠弘著 日本放送出版協会)

疾走する女性歌人(篠弘著 集英社新書)

## 現代詩実作演習

荒川洋治

### 【授業の概要】

3週間程度の限定された期間で、現代詩の実践的な創作を試み、ワークショップ作品として提出する。

### 【授業計画】

20編前後の「量的」詩作を試み、一冊の「詩集」を提示する。

- ・詩集の著者とは何か
- ・テーマについての考え方
- ・題名と配列
- ・割付と活字
- ・詩集の余白と美術
- ・詩集の形態と流通
- ・ことばはどこから、詩になるのか
- ・詩のつくり方と、こわし方
- ・発表と読者

### 【評価方法】

提出された作品で評価する。

### 【テキスト】

使用しない。

### 【参考文献・資料】

特になし。

## シナリオ実作演習

海上宏美

### 【授業の概要】

3週間程度の限定された期間で、シナリオの実践的な創作を試み、ワークショップ作品として提出する。

### 【授業計画】

抽象的な思考と具体的な手法を往還する発想法を練習する。

1. 主題を考える
2. 物語の語り手は誰なのかを考える
3. 叙情なのか叙事なのか語り口を考える
4. 物語の場面構成を考える
5. ジェンダーを考える
6. 台詞の役割と分量を考える
7. 始まりと終わりを考える

### 【評価方法】

出席状況と提出作品で評価する。

### 【テキスト】

使用しない。

### 【参考文献・資料】

適宜授業内で指示する。



## 創造表現特講Ⅰ（現代詩）

宮崎真素美

### 【授業の概要】

戦後から現在までの代表的な詩や詩論を主な手がかりとして、現代詩の変遷を検証するとともに、創作理論・主題・様式・修辞といった方法を多角的に検討し、詩は時代の問題をどのように作品化し得るか、あるいはどのように時代を超え得るかという創作方法について学ぶ。

### 【授業計画】

「荒地」派の詩と詩論をめぐる以下のような観点から、日本の戦後詩について考察する。

- 1 「荒地」派とは何か（1）
- 2 「荒地」派とは何か（2）
- 3 黒田三郎の詩と詩論（1）
- 4 黒田三郎の詩と詩論（2）
- 5 鮎川信夫の詩と詩論（1）
- 6 鮎川信夫の詩と詩論（2）
- 7 鮎川信夫の詩と詩論（3）
- 8 「荒地」派の周辺
- 9 「荒地」派の影響
- 10 「荒地」派をめぐる評価

### 【評価方法】

講義における発言内容、および学期末に課すレポートの双方によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

プリント配布。

## 創造表現特講Ⅲ（現代小説）

清水良典

### 【授業の概要】

戦後から現在までの代表的な創作や評論を主な手がかりとして、現代小説の変遷を検討するとともに、文学理論・主題・モチーフ・人物造型・文体といった方法を多角的に検討し、小説は時代の病理や問題をどのように作品化し得るか、あるいはどのように時代を超え得るかという創作方法について学ぶ。

### 【授業計画】

テキスト購読と講義を主としつつ、相互の討議と調査・報告を課す。

- 第1回 現代文学概論
  - 第2～4回 村上春樹を解説する
  - 第5～7回 高橋源一郎を解説する
  - 第8～10回 村上龍を解説する
  - 第11～12回 総括と討議
- なお、指定テキスト以外にも、現代文学関係の書籍を大量に読む必要がある。

### 【評価方法】

出席は皆出席を前提とする。受講態度ならびに討議の積極性、調査・報告の質等を総合的に考慮して評価する。

### 【テキスト】

- 羊をめぐる冒険（村上春樹著 講談社文庫）  
さようなら、ギャングたち（高橋源一郎著 講談社文芸文庫）  
トパーズ（村上龍著 角川文庫）  
上記以外は、指示する。

### 【参考文献・資料】

文学がどうした!?（清水良典著 毎日新聞社）

## 創造表現特講Ⅱ（現代短歌）

篠弘

### 【授業の概要】

戦後短歌から前衛短歌にいたる戦後短歌史を踏まえながら、主として1980年代以降の代表的歌人の作品を題材に、その創作理論・主題・修辞といった方法を多角的に検討し、現代をどのように作品化していくかという創作方法について学ぶ。

### 【授業計画】

- 第1回 近代短歌から現代へ
- 第2回 戦後短歌の運動
- 第3回 第二芸術論議
- 第4回 民衆詩としての短歌
- 第5回 前衛短歌の時代
- 第6回 女性歌人の興隆
- 第7回 リアリズムの変質
- 第8回 主題の獲得
- 第9回 喩的表現の拡大
- 第10回 美意識の深化
- 第11回 文体の確立
- 第12回 口語的発想
- 第13回 アイロニカルトーン
- 第14回 アニミズムの浸透
- 第15回 自然観の変容

### 【評価方法】

出席状況、授業内の数回の小レポート、学期末の課題レポート等を総合的に評価する。

### 【テキスト】

現代の短歌—100人の名歌集（篠弘編著 三省堂）

## 創造表現特講Ⅳ（童話）

酒井晶代

### 【授業の概要】

近現代の代表的な創作や児童文学論を主な手がかりとして、日本児童文学史を検証するとともに、主題・モチーフ・文体等の方法のみならず、広く社会史や文化史の視点から子ども観の変容を検討し、「子どもの文学」の創作方法とその独自性について学ぶ。

### 【授業計画】

近年刊行された児童文学関係の理論書から一冊を選び、演習形式で講読していく。児童文学研究は、作家・作品論のほか、読者論やメディア論といった社会・文化史的なアプローチなど、さまざまな文学理論の影響下でその幅を広げつつある。一方で、研究の深まりや多様化とともに、従来の「文学」の枠組みを解体する、より大きな視座の必要性も指摘されるようになってきた。理論書の講読を通して、児童文学をめぐる言説の最前線と現代的課題を考える場としたい。

- 第1回 授業の進め方、全体計画について
- 第2回 児童文学研究の現在
- 第3回～理論書の講読

授業は、レポーターが調査・分析したことをレジュメにより報告し、受講者全員で討議する演習形式で進めていく。報告のまとめとして小論文の提出を求めることがある。

### 【評価方法】

出席状況、発表内容や質疑応答の様子、課題などにより総合的に評価する。

### 【テキスト】

未定。授業時に指示する。

### 【参考文献・資料】

・研究=日本の児童文学<全5巻>（日本児童文学学会編 東京書籍）  
その他の参考文献は、授業時に適宜指示する。



## 創造表現特講V (アニメ・コミック)

とりいかずよし

### 【授業の概要】

手塚治虫作品とその影響下にある戦後漫画・コミックおよび宮崎駿などのアニメーション作品を主な題材として、広く社会史や文化史の視点も導入しながら、表象文化としてのアニメ・コミックの芸術的特質や機能を考察し、その可能性を生かした創作方法について学ぶ。

### 【授業計画】

実践的アニメ・コミックの習作

- A アニメ化するコミックとそうでないコミックとは？
- B 読者のピンポイント化するコミック界の現況

### 【評価方法】

感性、表現、創作、将来性等の巧拙

### 【テキスト】

その都度対応して作成

### 【参考文献・資料】

広範なコミック雑誌、単行本、アニメビデオ等  
※入手可能な成否を精査し検討

## 創造表現各論II (シナリオ論)

海上宏美

### 【授業の概要】

近現代の代表的なシナリオ作品を主な手がかりとして、放送史をはじめとするメディアの変遷も念頭に置きながら、主題・ストーリー・人物造型・台詞・場面構成などの方法を多角的に検討し、シナリオ表現の特質や創作に関する諸方法について学ぶ。

### 【授業計画】

言葉であるシナリオに基づいて表現された作品構造全体において、その基盤となるシナリオの言葉がどのような機能を担っているのかを、構造(主義)・話法・技術(史)などの面から探っていく。

- 1・メディアの変遷
- 2・観客の変遷
- 3・テキスト(シナリオ)の位置
- 4・話法と人称性の問題
- 5・大きな物語と小さな物語の違い
- 6・台詞における口語的表現と文語的表現の違い
- 7・描く対象(主題)の選択が意味するもの
- 8・表象されるジェンダーについて
- 9・物語と無意識

### 【評価方法】

出席状況とレポート提出で評価する。

### 【テキスト】

授業内で適宜指示する。

### 【参考文献・資料】

授業内で適宜指示する。

## 創造表現各論I (詩学)

宮崎真素美

### 【授業の概要】

近現代の詩作品を主な手がかりとして、「ことば」をめぐる哲学や現代思想の変遷も念頭に置きながら、詩の本質や詩的言語の規則・方法に関する批評的解説の方法について多角的かつ理論的に学ぶ。

### 【授業計画】

明治初期の詩作品に見られる伝統的古典詩歌に対する意識の錯綜を通して、その連続と切断のありよう、および詩学の確立への模索について、以下の観点から考察する。

- 1 『新体詩抄』の詩と思想(1)
- 2 『新体詩抄』の詩と思想(2)
- 3 『新体詩抄』の詩と思想(3)
- 4 近代詩と伝統歌謡(1)
- 5 近代詩と伝統歌謡(2)
- 6 近代詩と伝統歌謡(3)
- 7 『新体詩歌』の詩と思想(1)
- 8 『新体詩歌』の詩と思想(2)
- 9 『新体詩歌』の詩と思想(3)
- 10 鷗外の役割

### 【評価方法】

講義における発言内容、および学期末に課すレポートの双方によって総合的に評価する。

### 【テキスト】

プリント配布

## 創造表現各論III (舞台芸術論)

角田達朗

### 【授業の概要】

演劇の重要な構成要素である「舞台」の歴史的展開を主な手がかりとして、照明・音響・映像による舞台効果にも目配りしながら、演劇空間あるいは場面転換装置としての舞台の機能や特質とその解説方法について多角的かつ理論的に学ぶ。

### 【授業計画】

舞台芸術は生(ライブ)の芸術であり、生の上演に接することなしに舞台芸術への理解を深めることは不可能である。よって、この授業では鑑賞課題を2本設定し、鑑賞ノート提出を課すものとする。課題を鑑賞するまでは、舞台芸術の歴史について、芸能や演劇がいかんして誕生したか、上演において舞台が果たす役割はどのようなものかを概説する。鑑賞ノート提出以降は、レポートを編集したプリントをテキストとして使用し、上演への理解を深めて行く。

### 【評価方法】

鑑賞ノート・劇評

### 【テキスト】

使用しない。

### 【参考文献・資料】

授業内で適宜指示する。



## 国際交流研究 I (基礎)

榎田勝利

### 【授業の概要】

「非軍事的なあらゆる手段で途上国の人々を支援する試み」と定義されている国際協力の基礎的な理念、仕組みを検証するとともに、国際協力の新しいアプローチを作り出している背景要因を学ぶ。

### 【授業計画】

- 1 講義のねらいと評価の方法
- 2 国際協力の概念
- 3 国際協力の新しい潮流
- 4 国際協力のアクター I (国連、国際機関)
- 5 国際協力のアクター II (政府援助機関-JICA・OECD, USAID, AFD, CIDA, GTZ, DFID)
- 6 国際協力のアクター III (NGO, 欧米の NGO と日本の NGO)
- 7 国際協力の方法 I (政府開発援助-ODA)
- 8 国際協力の方法 II (地方自治体)
- 9 国際協力の方法 III (NGO, ボランティア)
- 10 開発課題と国際協力 (貧困、人口、食料、教育、保健、難民、ジェンダー、児童労働、少数民族、環境、都市スラム、開発と保存)
- 11 国際協力事業の評価
- 12 国際協力の果たす役割

### 【評価方法】

平常の出席・遅刻状況、毎回の講義の際の貢献度、最終課題レポートにて評価する。

### 【テキスト】

使用しない。毎回プリントを配付する。

### 【参考文献・資料】

国際協力 (下村・辻・稲田・深川著 有斐閣選書)  
国際協力 (功刀達郎編著 サイマル出版会)  
国際連合の基礎知識 (国際連合広報局 世界の動き社)  
政府開発援助 (ODA) 白書 (2001年版外務省・経済協力局発行)  
UNDP・人間開発報告書 (2002年版 国連開発計画編 国際協力出版会)  
国際協力用語集第2版 (国際開発ジャーナル社)  
ボランティア学のすすめ (内海成治編著 昭和堂)

## 国際文化研究 A I (言語系基礎)

中野弘三

### 【授業の概要】

英語学の研究対象や研究分野を概観し、新言語学に基づく英語学研究的現状と言語を科学的に分析する視点を学ぶ。

### 【授業計画】

<言語の構造>

1. 文の統語構造
2. 文の意味構造
3. 語の構造
4. 語の音声構造
5. 語の意味構造

<言語の機能>

6. 文の発話の機能
7. 文の構成要素の機能
8. 文の意味解釈
9. 文と談話
10. 談話標識の機能

### 【評価方法】

出席状況・平常点・課題などにより評価する。

### 【テキスト】

英語学セミナー (高橋勝忠・福田稔 松柏社)

### 【参考文献・資料】

*Linguistics: An Introduction to Language and Communication* (4th Edition 1995 A. Akmajian, R.A. Demers, A.K. Farmer, and R.M. Harnish / The MIT Press)  
*Syntactic Theory and the Structure of English: A Minimalist Approach* (1997 A. Radford / Cambridge University Press)  
*Morphology* (1993 F. Katamba / Macmillan Press)  
*An Introduction to Functional Grammar* (2nd Edition 1994 M.A.K. Halliday / Arnold)  
*Semantics* (2000 K. Kearns / Macmillan Press)  
*Pragmatics* (1996 G. Yule / Oxford University Press)

## 国際交流研究 II (発展)

皆川修吾

### 【授業の概要】

「国際秩序の統治」と定義されているグローバル・ガバナンスの概念の国際関係における有効性と限界について研究し、国際秩序が制度化されていくプロセスを経験的に学ぶ。

### 【授業計画】

- 第1講 国際システムの構造とプロセス
- 第2講 バランス・オブ・パワーの教訓
- 第3講 集団安全保障の挫折
- 第4講 冷戦
- 第5講 権力と国際法
- 第6講 国際連合の役割
- 第7講 相互依存の管理体制の必要性
- 第8講 1) 開発政策
- 第9講 2) 世界経済
- 第10講 3) 国際協力
- 第11講 グローバル・ガバナンスの構造
- 第12講 国際秩序制度化の今後の課題
- 第13講 単位認定試験

### 【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況との総合評価による。

### 【参考文献・資料】

現代国際関係学 (新藤栄一著 有斐閣)  
グローバル・ガバナンス：政府無き秩序の模索 (渡辺昭夫編著 東大出版)  
グローバル化とは何か (デヴィット・ヘルド編著 法律文化社)  
現代国際関係学 (新藤栄一著 有斐閣)  
国際紛争 (ジョセフ・ナイ著 有斐閣)  
地球政治の構想 (猪口孝著 NTT出版)  
グローバル・ポリティクス (小林誠・遠藤誠治編著 有信堂)

## 国際文化研究 A II (言語系発展)

大野清幸

### 【授業の概要】

英語や日本語などにおける特定の研究対象を選択し、新言語学における特定の理論に基づき、言語を科学的に分析する実際を学ぶ。

### 【授業計画】

- 第1講 PC実践教室において、授業計画指示など。必ず出席すること!
- 第2講 PC実践教室において、認知言語学など関連分野の本物情報を検索・探索する。
- 第3講 学術論文などを利用して、演習を行う。

### 【評価方法】

出席状況・平常点・課題などによる。  
授業においては、基本的に、学術論文を精読し、議論する。

学期末レポート：現代英語に関する研究題材を選び、

- (1) 先行研究を調査し、
- (2) 仮説をたて、
- (3) データを採集・整理し、
- (4) 理論の枠組みで分析し
- (5) 論文としてまとめ、提出する。

### 【テキスト】

学術論文。ただし、未定。演習を中心に行う。

※授業・課題などにおいて電子メールなどインターネットを利用しますので、インターネット利用を日常化しておいて下さい。  
理想的には、自宅においてインターネット環境を実現しておいて下さい。

### 【参考文献・資料】

認知文法論 (1995 山梨正明 ひつじ書房)  
認知言語学原理 (2000 山梨正明 ころしお出版)  
認知言語学論考 No.1 (2001 山梨正明編著 ひつじ書房)  
認知言語学論考 No.2 (2002 山梨正明編著 ひつじ書房)  
現代言語学の潮流 (2003 山梨正明編著 勁草書房)  
認知意味論：英語動詞の多義と構造 (1990 田中茂範 三友社出版)  
認知意味論 (1993 George Lakoff 著 池上嘉彦・河上誓作他訳 紀伊國屋書店)  
認知意味論の原理 (1994 中右実 大修館書店)  
認知意味論の方法：経験と動機の言語学 (1995 吉村公宏 人文書院)  
認知言語学の基礎 (1996 河上誓作編著 研究社出版)  
認知言語学の発展 (2000 坂原茂編 ひつじ書房)  
認知言語論 (2000 定延利之 大修館書店)  
認知意味論の展開：語源学から語用論まで (2000 Eve E. Sweetser 著 澤田治美訳 研究社出版)  
ことばの認知科学事典 (2001 辻幸夫編 大修館書店)  
認知意味論のしくみ (2002 榎山洋介 研究社)



## 国際文化研究 B I (文化系基礎)

平林美都子

### 【授業の概要】

20世紀に入って顕著になってきた異文化接触のコロニアリズムやポストコロニアリズムなどの諸問題を、様々な文化批評理論から系統的に学ぶ。

### 【授業計画】

Frantz Fanon, Homi Bhabha, Edward Said, Stuart Hallらの主要論文を読み、コロニアリズム、ポスト・コロニアリズム理論を理解する。

- 1 Frantz Fanon とコロニアリズム
- 2 Homi Bhabha
- 3 Edward Said とオリエンタリズム
- 4 ポスト・コロニアリズム

なお、英文原書の講読が中心のため、英語力が必要である。

### 【評価方法】

出席およびレポートによる。

### 【テキスト】

Patrick Williams and Laura Chrisman eds. *Colonial Discourse and Post-Colonial Theory* (Columbia University Press)

## 国際文化研究 B II (文化系発展)

杉本一直

### 【授業の概要】

ロシア亡命者の文学作品や芸術作品を講読・鑑賞し、「国文学」「伝統文化」という概念とは対極的ないわば「脱領域」的な表現様式、あるいはグローバルな普遍性を獲得しようとした亡命者たちの創作意識を考察する。

### 【授業計画】

英文による原典講読を中心とし、あわせて文学研究の方法論を学ぶ。原典講読のテキストとして、国外からアメリカへ移住した作家のなかでもっともアメリカの読者やアメリカ人作家に愛読された作家のひとり、ウラジーミル・ナボコフの代表作『ロリータ』を使用し、ヨーロッパ文化とアメリカ文化との相克を作品のなかに読み取っていく。また、サブテキストとして、ナボコフを含めた亡命作家たちの文学について論じた研究書や、20世紀アメリカ文学におけるコスモポリタニズムについて論じた研究書等を用い、現代アメリカ文学の根底に流れる形而上の本質、つまり脱領域的(extraterritorial)本質についての理解を促す。

- 第1回 概説
- 第2回～第4回 原典講読
- 第5回 サブテキスト解説
- 第6回～第8回 原典講読
- 第9回 サブテキスト解説
- 第10回～第13回 原典講読
- 第14回 サブテキスト解説
- 第15回 総論

### 【評価方法】

学期末レポートと平常点により評価する。

### 【テキスト】

Vladimir Nabokov "The Annotated Lolita" Random House Inc.

### 【参考文献・資料】

- 徹夜の塊／亡命文学論 (沼野充義著 作品社)
- 言語の都市 (トニー・タナー著 白水社)
- 脱領域の知性 (ジョージ・スタイナー著 河出書房新社)

## 国際交流特講 I

榎田勝利

### 【授業の概要】

国際協力の主要なアクターである国連・国際開発機関、政府開発援助(ODA)、非政府組織(NGO)の存在意義・役割・活動を研究するとともに、非営利組織の実践的なマネジメントを学ぶ。

### 【授業計画】

- 1 国際協力とは
- 2 国際協力の基本的な仕組み
- 3 国際協力活動の変遷(1) 1980年代まで  
・国連開発の十年  
・新国際経済秩序  
・ベナンチック・ヒューマン・ニーズ(BHN)  
・持続可能な開発の思想
- 4 国際協力の変遷(2) 1990年代～  
・人間の安全保障  
・21世紀の新開発戦略  
・包括的開発フレームワーク
- 5 開発課題への取組み(1)  
・人間の安全保障と貧困問題への取組み
- 6 開発課題への取組み(2)  
・持続可能な開発と地球環境問題への取組み
- 7 国際協力のあり方  
・オーナーシップとガバナンス
- 8 日本の援助政策(ODA)
- 9 欧米主要国の援助政策(ODA)  
・米国、イギリス、ドイツ、フランス
- 10 国連とNGO
- 11 日本のNGOと欧米のNGO
- 12 政府(ODA)とNGOとのパートナーシップ

### 【評価方法】

出席状況と最終の課題レポートにて評価する。

### 【テキスト】

使用しない。毎回プリントを配付する。

### 【参考文献・資料】

- 世界銀行・開発金融と環境・人権問題 (鷲見一夫著 有斐閣)
- ODA大綱の政治経済学・運用と援助理念 (下村・中川・斉藤著 有斐閣)
- 社会開発・経済成長から人間中心型発展へ (西川潤編 有斐閣選書)
- 日本のODAをどうするか (渡辺利夫・草野厚著 日本放送出版会)
- 人間開発戦略・共生への挑戦 (マブール・ハク著 日本評論社)
- 草の根環境会議・アメリカの新しい萌芽 (マークダウイ著 戸田清訳 日本経済評論社)
- 地球環境対策 (堀内行蔵編 有斐閣)
- ハンドブックNGO (馬橋憲男・斎藤千広著 明石書店)
- NGOとは何か (伊勢崎賢治著 藤原書店)、他